

2018年度

(平成30年度)

授 業 概 要

＜子ども運動教育学科＞

仙台大学 体育学部

予習・復習（授業時間外学修）について（注意）

文部科学省の定める「大学設置基準」においては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準とされています。

本学においては「講義」、「演習」の科目は一部科目を除き2単位（必要な総学修時間は90時間）としていますが、2時間の授業（90分を2時間と換算）を15回（合計30時間）実施していますので、残りの60時間分の予習・復習（授業時間外学修）を行なうことが必要となります。

また、「実験」、「実習」、「実技」の科目は一部科目を除き1単位（必要な総学修時間は45時間）としていますが、2時間の授業（90分を2時間と換算）を15回（合計30時間）実施していますので、残りの15時間分の予習・復習（授業時間外学修）を行なうことが必要となります。

履修計画を立てる際には、以上のような予習・復習の時間が必要であることを十分に考慮に入れてください。

< 目 次 >

1. 基礎科目

《教養基礎科目》

導入演習	2
情報処理	3
学習基礎教養演習	4
英語 A (含外国語コミュニケーション)	5
英語 B (含外国語コミュニケーション)	6

《教養展開科目》

(人文分野)

哲学入門	8
現代の思想	9
心理学概論	10
人の心と行動	11
ことばと人間 A	12
ことばと人間 B (鎌田クラス)	13
ことばと人間 B (菊地博クラス)	14

(社会分野)

社会学概論	16
社会構造と人間関係	17
消費経済とスポーツ	18
世界経済・日本経済とスポーツ	19
法学	20
歴史学入門	21
歴史と人間	22

(自然分野)

生物科学	24
エコロジー概論	25
教養数学	26

(教養演習)

体育系大学の基礎教養	28
仙台大学の専門教養演習 I	29
全学教養演習	30

《海外文化科目》

イングリッシュ・リーディング A	32
イングリッシュ・リーディング B	33
英会話 A	34
英会話 B	35
中国語 I	36
中国語 II	37
韓国語 I	38
韓国語 II	39

《人生設計科目》

キャリアプランニング I	42
キャリアプランニング II	43

2. 専門基礎科目

《講義》

スポーツ社会学	46
スポーツ心理学	47
スポーツバイオメカニクス	48
運動生理学	49
スポーツ指導の基礎 (含実習)	50
幼少年体育論	51
子どもの生活 I	52
子どもの生活 II	53
体育講義	54
幼児体育論	55
子どもと発育	56

《実技》

子どもとあそび	58
トレーニングの基礎	59
陸上競技	60
器械運動 (男子)	61
器械運動 (女子)	62
水泳	63

バレーボール	64	乳児保育	100
バスケットボール（児玉クラス）	65	社会的養護内容	101
バスケットボール（佐藤クラス）	66	相談援助	102
ハンドボール	67	教職論C	103
サッカー（黒澤クラス）	68	音楽表現Ⅰ	104
サッカー（吉井クラス）	69	音楽表現Ⅱ	105
ラグビー	70	絵画・造形表現Ⅰ	106
柔道	71	絵画・造形表現Ⅱ	107
剣道	72	運動・身体表現Ⅰ	108
ダンスⅠ	73	運動・身体表現Ⅱ	109
海浜実習	74	保育原理	110
スキーⅠ	75	スポーツコーチング概論	111
スケート	76	スポーツトレーナー概論	112
キャンプ	77	スポーツマネジメント概論	113

3. 発展科目

幼児体育指導論	80	レクリエーション実技Ⅰ	115
教育の基礎理論B	81	体操（含体づくり運動）	116
子どもの心理学Ⅰ	82	新体操	117
子どもの心理学Ⅱ	83	ボランティア活動実践A	118
社会福祉	84	ボランティア活動実践B	119
児童家庭福祉	85	海外短期研修A	120
家庭支援論	86	海外短期研修B	121
体育原理	87		
スポーツ医学概論	88		
運動障害救急法（含実習）	89		
運動学（含運動方法学）	90		
スポーツ栄養学	91		
スポーツ史	92		
衛生・公衆衛生学	93		

4. 応用科目

日本国憲法	96
教育の制度B	97
教育と社会	98
幼児理解の理論と方法	99

（教育相談、カウンセリング基礎を含む）

5. 資格関連科目

保育実習指導Ⅰ	124
---------	-----

6. 自由科目

レクリエーション実技Ⅱ	126
レジャー・レクリエーション論	127
スポーツマネジメント実習	128
アスレティックトレーニング論Ⅰ	129
トレーニング方法論	130
スポーツ医学A	131

1. 基礎科目

《教養基礎科目》

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	導入演習 Seminar of Introduction (P.A.)			担当教員	各担任
	開講内容	学年・学期	1・半期		
	履修の方法	必修	単位数	2	関連資格
授業の概要					
導入演習は大学生活をうまくスタートさせるための授業であり、学習や生活面で少しでも早く新しい環境に慣れるよう支援していきます。学生相互の交流を促し、授業の仕組み学習の仕方を説明し、仙台大生になっていくための意識化を図っていきます。					
授業の一般目標					
修学生活の設計を立て、コミュニケーションや学習スキルを身につけ、「高校生」から「大学生」へそして「仙台大生」としての意識を高めていくことができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	テーマに合った内容を理解し、具体的内容を説明できる。			
■	情意的領域	積極的に参加し、仲間と協力して行うことができる。			
■	技能表現的領域	修学生活の計画を作成でき、テーマごとの発表等の技術を身につけ、表現できる。			
授業計画(全体)					
実施内容により、個別学習、小グループでの演習、クラスでのディベート、クラス合同の授業など、異なった形態で行います。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 導入演習のねらい、本授業の流れ、時間割の作り方について説明する。 [授業外学習] 自らの大学生活について考えてみる。履修登録表を作成する。			⑨	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(3) [内容] 「教員と学生が共に作る大学」について、グループで話し合う。 [授業外学習] 授業の復習
②	[テーマ] 親睦 [内容] やや詳しい自己紹介、あるいはペアの相手をクラス全員に紹介するなど、新しい仲間とのコミュニケーションを図る。 [授業外学習] 新しい仲間と情報交換し、履修登録表を互いに確認してみる。			⑩	[テーマ] 体育大生とモラル(1) [内容] 体育大生とその他の学生との違い、体育大生のモラルについて考える。 [授業外学習] 事前に資料を読んでおくこと
③	[テーマ] 修学と生活の設計(1) [内容] 学習方法、生活の仕方などについて先輩の体験談を聞き、または話し合いながら、大学生活の見通しを立てる。 [授業外学習] 卒業までの計画や目標について考えてみる			⑪	[テーマ] 体育大生とモラル(2) [内容] 資料に基づきグループ内で意見を出し合いディスカッションする。 [授業外学習] 発表資料の作成など、発表準備をする。
④	[テーマ] 修学と生活の設計(2) [内容] 卒業までの計画・目標、前期の計画・目標を設計する。 [授業外学習] これまでの生活を振り返り、目標の確認をしてみる			⑫	[テーマ] 体育大生とモラル(3) [内容] プレゼンテーションの仕方、レジュメの作り方を説明し、グループで発表用資料を作成する。 [授業外学習] 発表資料の作成など、発表準備をする。
⑤	[テーマ] 大学と大学生Ⅰ [内容] 学科長の講話。仙台大学の歴史も紹介する。 [授業外学習] 仙台大学の歴史について自分でも調べておく			⑬	[テーマ] 体育大生とモラル(4) [内容] クラス内の発表会を行い、相互に評価する。 [授業外学習] 発表資料の作成など、発表準備をする。
⑥	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(0) [内容] 自学・自習支援システムの活用とスポーツテストの実施。 ※ スポーツテストは4週の期間のいずれかで実施 [授業外学習] 大学での学習に必要な基礎的事項について確認しておく			⑭	[テーマ] 体育大生とモラル(5) [内容] 学科ごとによる全体発表会を行い、相互に評価する。 [授業外学習] 発表資料の作成など、発表準備をする。
⑦	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(1) [内容] 「いまどきの大学・いまどきの大学生—ユニヴァーサル化」のテーマで、大学生であることの意味について考える。 [授業外学習] テキストに出てくる漢字や用語について事前に調べておく			⑮	[テーマ] 後期に向けて [内容] 前期を振り返り、夏休みの過ごし方について各自作成する。 [授業外学習] 演習の振り返りと自己評価
⑧	[テーマ] 大学と大学生Ⅱ(2) [内容] 「大学で身につけるべきこと—学士力」についてグループで話し合うなど、グループ活動を行う。 [授業外学習] テキスト等に出てくる漢字や用語について調べておく			⑯	[テーマ] まとめ [内容] これまでの演習内容をまとめ、必要に応じて内容を補足する。 [授業外学習] これまでの資料などに目を通しておく
成績評価方法(方針)					
出席を重視する。授業の受講態度、授業内レポート、宿題・授業外レポート、作業への取り組みや発表などを参考にして、総合的に成績評価を行う。成績評価のためには3分の2以上の出席が必要である。授業内レポート、宿題・授業外レポート等の返却を希望する者に対しては、各担任が解説を交えて返却する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					実施しない
授業内レポート		○	○	○	25%
授業外レポート		○	○	○	25%
演習・実技		○	○	○	25%
授業態度		○	○	○	25%
出席		◎	◎	◎	欠格条件
<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない ・大学設置基準で求められている時間の時間外学習を行うこと ・自己学習(時間外学習、ボランティア活動等)の成果や授業中のテーマに関する自らの考えについても積極的に発表することを期待する ・クラスの合同発表の場合は、実施教室等は掲示により周知する ・実施上の都合により、進行順や教材を変更する場合がある 					
関連科目	キャリアプランニングⅠ、情報処理、学習基礎演習				
教科書	オリエンテーション時に資料を配布			参考書	オリエンテーション時に資料を配布
連絡先	各担任の研究室				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	情報処理				担当教員	内野秀哲・相場徹
	Data Processing (L.)					
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	NSCA認定パーソナルトレーナー(体育学科) ストレングス&コンディショニングスペシャリスト(体育学科)
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						
コンピュータの基礎的利用方法に関する知識は、必須の素養として養成されるところであり、様々な課題や問題の解決手段としてITを活用することは、広い範囲で効果的となる。本講では、基礎知識の学習と基本操作の実習を通じて、意義と効用について解説する。						
授業の一般目標						
ICT関連の代表的ツールを活用し、適切に情報の受発信、保存、加工が行えるようになる。また、効率的な処理判断・手段の選択ができるようになる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	1. ICTに関する基本的な事柄が説明できる。2. 状況や対象に応じて処理機能を選択できる。				
□	情意的領域					
■	技能表現的領域	適切な手段で情報の獲得、保存・加工ができる。				
授業計画(全体)						
本講では主に「インターネット関連ツール」と、「日本語処理ツール」、「表計算ツール」、「プレゼンテーションツール」などのアプリケーションの操作実習と平行して、ICTの基礎理論についての概説を行なう。また、課題への取り組み時にはグループワークを採り入れ、対話力の向上とあわせて問題解決力の獲得を目指す。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 情報倫理について [内容] 情報倫理について説明 [授業外学習] オリエンテーション資料を事前によく読んでおくこと				⑨	[テーマ] 講義3:論理式と論理回路① [内容] データ処理の仕組みについて、音声データの処理を例(論理数学)に取り上げて解説を行う [授業外学習] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること
②	[テーマ] 情報処理の学習について [内容] 授業の進め方と履修方法等や、大学で情報処理と情報化を学ぶことについて概説する [授業外学習] 事前に学内情報端末利用者講習を受けておくこと				⑩	[テーマ] 実習3:表計算アプリケーション2 [内容] 教材アプリケーションにて、グラフ作成や表示の工夫などの応用操作を実習する [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと
③	[テーマ] ICTスキルの把握(履修前) [内容] ICTスキルについて、受講前の状況を各自で把握しておくための調査を行い、個々の目標設定についても検討する。 [授業外学習] 自己流にならないよう復習を継続すること				⑪	[テーマ] 講義4:論理式と論理回路② [内容] 論理回路を用いたクイズを検討課題として提示し、論理演算と論理回路について解説する [授業外学習] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること
④	[テーマ] 講義1:情報処理を考える [内容] 情報と情報伝達についての検討課題を提示し、「情報」について説明する [授業外学習] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること				⑫	[テーマ] 実習4:プレゼンテーションツール [内容] フォームを用いたコンテンツ作成によってプレゼンテーションツールの操作実習を行う [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと
⑤	[テーマ] 実習1:ワードプロセッサ [内容] フォームを用いたコンテンツ作成によって、ワードプロセッサの操作実習を行う [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと				⑬	[テーマ] タイピングのまとめ [内容] 前半で大学生と関係の深いICT関連の社会的現象を紹介(展望を試みる)し、後半で最終の擬似タイピング試験を実施する [授業外学習] 自己流にならないよう復習を継続すること
⑥	[テーマ] 講義2:情報について [内容] 情報処理の根幹領域にある「サイバネティクス」について紹介し、「情報」についてその量と単位を中心に説明する [授業外学習] 提示された資料や例題などを整理し、理解を深めること				⑭	[テーマ] 講義のまとめ [内容] 講義部門のまとめとして、筆記課題を実施する [授業外学習] これまでの提示資料や例題などを整理し、理解を深めておくこと
⑦	[テーマ] 実習2:表計算アプリケーション1 [内容] 教材アプリケーションにて、情報入力や計算処理などの基本操作を実習する [授業外学習] 時間内に完成できない場合は、期限内に完成させておくこと				⑮	[テーマ] 実習のまとめ [内容] 操作実習部門のまとめとして実技課題を実施する [授業外学習] これまでの提示資料や例題などを整理し、理解を深めておくこと
⑧	[テーマ] タイピング2 [内容] 前半でキーボード・マウスなどの入力デバイスについて解説し、後半は目標設定のための擬似タイピング試験を実施する [授業外学習] 自己流にならないよう復習を継続すること				⑯	[テーマ] テスト(課題提出) [内容] 全ての課題の期限日として提出を受け付ける [授業外学習]
成績評価方法(方針)						
講義部門と実習部門の最終課題(テスト)によって成績を評価する。授業内外のレポートや出席状況などは単位認定のための必要条件とする(不足がある場合には評価対象としない)。レポート等はコラボレーションウェア上で共有し、相互評価を行う。また、これら履修状況や試験の判定についても通知する。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験					対象としない	<ul style="list-style-type: none"> 本講義は、2名の担当教員の2クラス同時開講(交互実施)で実施する 初回の情報倫理の受講は施設の利用条件となるので必須 講義部門、実習部門のどちらか一方で2回以上欠席すると欠格となるので要注意 いかなる事情があっても、欠席した分は補講で補うこと(期限あり) 履修期間中のメールチェック、USBメモリの用意等を怠らないこと 大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行なうこと ※能動的学習環境の支援を意図するコラボレーションウェアの活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。
授業内レポート		◎		◎	100%	
授業外レポート				○	欠格条件	
演習・実技					加減点要素	
授業態度					加減点要素	
出席					欠格条件	
関連科目						
教科書	使用しない(プリント教材を使用)				参考書	必要に応じて授業内で提示
連絡先	4体1F 内野研究室 オフィスアワー 火曜14:20-15:50					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	学習基礎教養演習			担当教員	各担当教員	
	Introduction to Academic Writing					
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数			2
授業の概要						
<p>学習において母語の能力はもつとも重要な要素である。その能力は、大学入学以前にすでに形成されており、大学ではそれを前提として教育が行われるはずであるが、多くの学生にこの能力のさらなる醸成が求められていることは、否定できない事実である。そこで、この授業では、大学教育で日本語を使用する際、もつとも重要な枠組みであるパラグラフの考え方を学び、パラグラフを構成できるようにする。</p>						
授業の一般目標						
<p>1. 語彙力を上げることができる(日本語力と語彙は強い相関がある)。2. 格の正しい文を書けるようになる。3. ひとつのパラグラフを構成できるようになる。4. パラグラフを積み重ねて、ひとつの主題あるいは主張に収れんする文章(小論文やレポートなど)を書けるようになる。5. 文献検索、引用を適切に付記できる。6. 完成したレポートをプレゼンテーションし、相互にディスカッションできる。</p>						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	パラグラフ構造を理解するとともに、ある主題について分節化の重要性を理解できる。					
■ 情意的領域	適切な日本語を用いて課題に熱心に取り組むことができる。					
■ 技能表現的領域	日本語の文章として適切なパラグラフを書くことができる。					
授業計画(全体)						
<p>1. 毎回、個々の学生に課題が与えられる。2. 自分以外の学生の解答を、学生同士で閲覧して気づいたこと(評価、コメント)を書く。3. 他の学生が自分の解答について記述した点を参考にしながら、当該の授業で学んだこと、あるいは気づいたことを改めて記入する。4. 教員はそれを回収し、添削、評価を加えた上で、次の授業の際に返却する。5. 語彙の訓練は随時行う。</p>						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	<p>[テーマ] この授業の目的の説明、日本語能力試験および破格の文の添削 [内容] 自分の日本語能力を知るために試験を行う(40分)。後半では、破格の文章を添削し、格の正しさにたいする意識を養う。 [授業外学習] 配布されたプリントを読む。</p>			⑨	<p>[テーマ] 800字程度の小論文を完成する(3)小論文の完成と評価 [内容] 小論文を完成させ、学生同士で評価する。 [授業外学習] 次回の目標規定文を考えてくる。</p>	
②	<p>[テーマ] パラグラフの構造(1)。ひらがな文を漢字かな混じり文へ変換 [内容] パラグラフの基本構造を理解し、パラグラフを書く。句読点、段落落きのすべてひらがなで書かれた文を漢字かな混じり文にする。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす。</p>			⑩	<p>[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(1)目標規定文 [内容] 学生個人の関心にしがたって目標規定文を考える(教員が適切と認めるもの)。それに至るための展開を構想する。 [授業外学習] 目標規定文の問題点を明確にする。</p>	
③	<p>[テーマ] パラグラフの構造(2) [内容] パラグラフにおけるトピック、サポート、コンクルーディングセンテンスの再確認し、パラグラフ・アウトラインを作成する。 [授業外学習] パラグラフ・アウトラインにかんする課題をこなす。</p>			⑪	<p>[テーマ] 2000字程度のレポートの準備(2)パラグラフアウトライン [内容] 各パラグラフのトピック・センテンスを考え、パラグラフ・アウトラインを構想する。参考資料とその引用について考える。 [授業外学習] 論文の引用注にかんする課題をこなす。</p>	
④	<p>[テーマ] 分類のパラグラフを書く [内容] パラグラフの代表的なタイプについて以下3回にわたって学習する。今回は、パラグラフの基本である分類を考える。 [授業外学習] 分類にかんする課題をこなす。</p>			⑫	<p>[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(3)パラグラフ展開(1) [内容] アウトラインにしたがってパラグラフを書く。その際、アウトラインの変更を余儀なくされる場合もありうることを考えて説明する。 [授業外学習] 語彙力にかんする課題をこなす。</p>	
⑤	<p>[テーマ] 比較・対照のパラグラフを書く [内容] 比較・対照のパラグラフのどちらかを書く。その際、特にトピック・センテンスを何にするかが重要となることを説明する。 [授業外学習] 比較・対照にかんする課題をこなす。</p>			⑬	<p>[テーマ] 2000字程度のレポートへの準備(4)パラグラフ展開(2) [内容] アウトラインにしたがってパラグラフを書く。 [授業外学習] パラグラフ・アウトラインの課題を復習する。</p>	
⑥	<p>[テーマ] 原因・結果のパラグラフを書く [内容] 原因・結果のパラグラフは使用頻度が高いので、とくに習熟する必要があることを念頭において説明する。 [授業外学習] 原因・結果にかんする課題をこなす。</p>			⑭	<p>[テーマ] 2000字程度のレポートの完成(5)完成し文集を作る [内容] 最終的にレポートを完成し、それを文集としてまとめる。 [授業外学習] 他の学生のレポートを読んでくる。</p>	
⑦	<p>[テーマ] 800字程度の小論文のための準備(1)目標規定文の理解と展開 [内容] 全学生が同じ主題について目標規定文を作成し、それに到達するためのパラグラフ展開を考え、パラグラフアウトラインを書く。 [授業外学習] パラグラフ展開にかんする課題をこなす。</p>			⑮	<p>[テーマ] レポートを発表し、ディスカッションの上、評価する [内容] レポートの要約を発表し、他の学生はそのレポートについてコメントを加え、それに対して著者も応答する。 [授業外学習] 自身のレポートに対するコメントに回答できるよう準備する。</p>	
⑧	<p>[テーマ] 800字程度の小論文のための準備(2)パラグラフを書く [内容] 前回の構成にしたがって、パラグラフ完成させる。その際、書く上で、目標規定文、アウトラインの修正はありうる。 [授業外学習] 小論文の構成にかんする課題をこなす。</p>			⑯	<p>[テーマ] [内容] [授業外学習]</p>	
成績評価方法(方針)						
<p>毎回練習を反復する授業なので、授業態度も評価対象となる。その上で、課題にたいする取り組みの姿勢もまた重要である。言うまでもなく、課題にたいする解答、レポートの出来不出来がもつとも成績に関係する。レポートの原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には各担当教員の研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。</p>						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	
定期試験	—	—	—	—	評価対象外	
授業内レポート	○	○	◎	○	20%	
授業外レポート	○	◎	○	○	30%	
演習・実技	—	—	—	—	評価対象外	
授業態度	◎	○	○	○	50%	
出席	—	—	—	—	欠格条件	
履修上の注意(受講学生に望むこと)	<p>1. 3分の1以上休んだ場合には、単位は認定されない(欠席の場合は必ず「欠席届」を提出すること)。 2. パラグラフ・ライティングは、授業のレポート、卒論等を書くとき必要となるので、積極的にこの授業に臨んでほしい。 3. 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。</p>					
関連科目	特定の関連科目はないが、ここで学ぶことは、あらゆる科目の基礎となると言う意味で、すべての科目に関連していると言える。					
教科書	プリントを配布する			参考書	授業中に指示する	
連絡先	各担当教員					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		英語A(含む外国語コミュニケーション) English A (including Foreign Language Communication)		担当教員	鎌田・菊地博・Parangi・(志子田)
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	関連資格	教員免許
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて、英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。この科目は「Grammar(文法)」・「Intensive Reading(精読)」・「Speed Reading(速読)」・「Writing(作文)」・「Listening(聞き取り)」・「Speaking(会話)」・「語学学習システム」の7分野で構成される。受講生はその日に取り組み分野を選択する。それぞれの分野では習熟度に応じた教材・課題が用意されている。学生は自分の能力に合わせて教材・課題を選択することになる。取り組んだ課題は採点され、その分野の獲得ポイントとして認められる。					
授業の一般目標					
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 TOEIC400点を到達目標とする。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
学生の主体性を重視し、自分が向上したい技能を自らその都度選択する形式で授業が進むことになる。各分野ごとに教材が用意されているので、自分の興味・能力・目的に合った教材を選び、それを解く。なお、授業時間内に複数の分野に取り組むことが可能である。取り組んだ「課題」で獲得したポイントは、その分野の入力専用コンピュータに自分で入力する。それぞれの分野で獲得したポイントの合計は毎週ランキング表として掲示される。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容	回	授業テーマとその内容		
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 英語Aの授業の受講方法について説明する。 (後期の英語Bの受講方法も基本的に同じなので併せて説明する) [授業外学習] 受講方法について理解すること	⑨	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む		
②	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む	⑩	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む		
③	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む	⑪	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む		
④	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む	⑫	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む		
⑤	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む	⑬	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む		
⑥	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む	⑭	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む		
⑦	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む	⑮	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む		
⑧	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む	⑯	[テーマ] ポイント確認日 [内容] これまでに取得したそれぞれの分野ごとのポイント及び合計ポイントを確認する		
成績評価方法(方針)					
授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar」・「Intensive Reading」・「Speed Reading」・「Listening」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、単位を修得できる。ポイント数に応じて成績が決定される。600ポイント以上:「秀」、599～400ポイント:「優」、300～399ポイント:「良」、200～299ポイント:「可」、200ポイント未満:「不可」。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標		履修上の注意(受講生に望むこと)			
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	1. 大学設置基準で求められている時間の授業外学修を行なうこと。 2. 教員は基本的に学生の学習を支援する役割に徹することになる。学習に主体的に取り組むのは学生自身であることを常に認識すること。 3. 学生各自には、受講方法についての自由が与えられている。一方その結果については自分で責任を取ることが求められている。計画的に授業を受けるように。 4. 取り組んでいる「課題」でわからないことがあれば、教員に積極的に質問すること。 5. 獲得したポイントをコンピュータに入力しなかった場合やミスをした場合は加算されないで、入力にはくれぐれも注意すること。
定期試験				80%	
授業内課題	◎			20%	
授業外課題	○				
演習・実技					
授業態度					
出席				欠格条件	
関連科目	英語B(含む外国語コミュニケーション)				
教科書	特に指定しない		参考書	特に指定しない	
連絡先	鎌田研究室A棟512、菊池研究室A棟515、パラング研究室A棟511				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		英語B(含む外国語コミュニケーション) English B (including Foreign Language Communication)		担当教員	鎌田・菊地博・Parangi・(志子田)
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	関連資格	教員免許
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
英語Aと同様に、英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上を目指す。併せて、英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上を目指す。					
授業の一般目標					
英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。 英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。 TOEIC400点を到達目標とする。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	英語の4技能(「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」)の総合的能力の向上。英語でのコミュニケーションの基本的能力の向上。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
学生の主体性を重視し、自分が向上したい技能を自らその都度選択する形式で授業が進むことになる。各分野ごとに教材が用意されているので、自分の興味・能力・目的に合った教材を選び、それを解く。なお、授業時間内に複数の分野に取り組むことが可能である。取り組んだ「課題」で獲得したポイントは、その分野の入力専用コンピュータに自分で入力する。それぞれの分野で獲得したポイントの合計は毎週ランキング表として掲示される。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む			⑨	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む
②	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む			⑩	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む
③	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む			⑪	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む
④	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む			⑫	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む
⑤	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む			⑬	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む
⑥	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む			⑭	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む
⑦	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む			⑮	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む
⑧	[テーマ] 英語4技能の向上 [内容] 4技能の中で自分が向上したい技能を選択し、上記7分野の中からやりたい分野を選び、課題に取り組む。 [授業外学習] 「語学学習システム」の課題に取り組む			⑯	[テーマ] ポイント確認日 [内容] これまでに取得したそれぞれの分野ごとのポイント及び合計ポイントを確認する [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
授業期間内での合計ポイントが200を超え、「Grammar」・「Intensive Reading」・「Speed Reading」・「Listening」の4分野でそれぞれ10ポイントを超えれば、単位を修得できる。ポイント数に応じて成績が決定される。600ポイント以上:「秀」、599～400ポイント:「優」、300～399ポイント:「良」、200～299ポイント:「可」、200ポイント未満:「不可」。なお、出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内課題	◎				80%
授業外課題	○				20%
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
関連科目	英語A(含む外国語コミュニケーション)				
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
連絡先	鎌田研究室A棟512、菊池研究室A棟515、パラング研究室A棟511				

《教養展開科目》

(人文分野)

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		哲学入門 Introduction to Philosophy			担当教員	小松恵一
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要						
現代に生きる人間が考えるべきテーマが扱われる。日常的に遭遇する諸問題に対処する際に、役に立つであろう道具を提供したい。だから、現実にある具体的な問題を取り上げて、まず始めに、何が問題なのか、つまり問題の意味を理解する。さらにそれを前提として、さまざまな考え方の筋道が可能であることをみずから発見できるようにしたい。						
授業の一般目標						
1. 考えることに慣れ、それが実はおもしろいものなのだとことを発見する。2. 陳腐な常識に囚われず、自由な発想でものを考える。3. いろいろな考え方の可能性を見出す。4. そのさまざまな考え方を見比べてうえで、自らの考え方の方向を見出す。5. 以上の前提として、日本語でものを考える、概念的な思考ができるように訓練する。						
授業の到達目標						
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	さまざまな考え方を理解できる。				
<input type="checkbox"/>	情意的領域					
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	自分の考えを表現できる。				
授業計画(全体)						
考える際に概念を用いるが、概念の使用に慣れるために、哲学的発想についてまず説明し、その後、とくに人間と人間の間をめぐらる問題(たとえば、社会に生きることと個人、大人であることの意味、権威主義の問題、コミュニケーションの構造)、さらに、その応用として、体罰をめぐらる問題、インフォームド・コンセントという概念の重要性、日本社会とこれからの人間のあり方などを扱う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 哲学とは何か [内容] 「・・・とは何か」という問いの位相を考える。さらに、問題を考えるとはどういうことなのか。概念と概念の関係を問うことによって、それを確認する。 [授業外学習]各自関心のある「・・・とは何か」という問いを考察してみる				⑨	[テーマ] 社会の中の権威主義 [内容] 縦社会、同調(圧力)などの日本社会を特徴づけるとされる概念を説明し、それらが有意味であるかどうかを考える。 [授業外学習]授業外レポートを書く。
②	[テーマ] 問いと答えの論理—理解すること [内容] 「理解」というあり方は、どのような構造を持つのかを、「問いと答え」の論理から学ぶ。 [授業外学習]自分で考えた問いと答えについて、その前提を抜き出す				⑩	[テーマ] インフォームド・コンセント1 [内容] パターンリズムの問題点、インフォームド・コンセントという考え方の由来。もともとは医療の概念である。 [授業外学習]この概念の市民社会における重要性を整理する
③	[テーマ] 「自己」、「私」とは何か [内容] 「私」や「自己」は関係としてはじめて存在しうることを理解する。とくに「他者」との関係の [授業外学習]返却された授業内レポートを振り返る。				⑪	[テーマ] インフォームド・コンセント2 [内容] しかし、この概念は、市民社会においても基本的である。political correctnessと posttruthについても言及する。 [授業外学習]返却された授業外レポートを振り返る。
④	[テーマ] 「言葉」、「言語」のあり方とコミュニケーション [内容] ことばの機能、ことばの意味について、ヴィットゲンシュタインの考え方を説明する。そこからコミュニケーションについて、その身体性を理解する。 [授業外学習]具体的コミュニケーションを構造化してみる。(1h)				⑫	[テーマ] 人間集団の類型 [内容] 人間が作るさまざまな規模の集団が形成される根拠により、集団を類型化する [授業外学習]具体的な集団について、どの類型に当てはまるか考える
⑤	[テーマ] コミュニケーションの前提条件 [内容] コミュニケーションが成立するための前提条件を、アーレントとハーバーマスを参考に取り出す。理想的対話状況と非対等的な人間関係。 [授業外学習]返却された授業内レポートを振り返る。				⑬	[テーマ] 国家という集団 [内容] 国家という人間集団形成の理由とその構造について。さまざまな国家の成り立ちから考える。 [授業外学習]日本の場合、それはどのような集団であるか予習する
⑥	[テーマ] 「子供」と「大人」 [内容] 「大人」であることの意味について、カントの考え方を「啓蒙とは何か」に基づいて紹介する。 [授業外学習]各自の身の回りの生活の場面で大人であるような行為の例を考える				⑭	[テーマ] 国家と個人の関係 [内容] この関係について、二三の学説を紹介する。とくに、問題としての日本という国家の場合、この関係はどうなっているか。 [授業外学習]自分の身の回りから発想して、国家との結びつきを見出す
⑦	[テーマ] 権威主義の人間と大衆社会 [内容] アドルフ・ヒトラーによる権威主義の人間の研究を解説する。Fスケールを紹介する。 [授業外学習]自分のなかにある権威主義を検討してみる				⑮	[テーマ] 国家と国家の関係とナショナリズム [内容] 国家は別の国家と関係する。近年はグローバル化の動向が不可避的であるが、それと同時にナショナリズムも勃興している。 [授業外学習]試験の準備をする
⑧	[テーマ] 権威主義の権力関係 [内容] 前回と関係させて、近代社会における権力のあり方をフーコーに基づいて解説する。 [授業外学習]具体例を挙げ、その構造を取り出す				⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)						
最後の筆記試験、40%。授業内レポート、30%。授業外レポート、30%とする。レポートについては、授業内で解説しながら返却する。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	授業に出席すること。 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行う。	
定期試験	◎		◎	40%		
授業内レポート	◎		◎	30%		
授業外レポート	◎		◎	30%		
演習・実技						
授業態度						
出席						
関連科目						
教科書		教科書はとくにない。			参考書	参考書は授業内で指示する。
連絡先		小松恵一研究室A棟506、オフィスアワー水曜日4限				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	現代の思想 Introduction to Modern Thoughts			担当教員	小松恵一	
	開講内容	学年・学期	1・2・3・半期			授業方法
	履修の方法	選択必修	単位数	2	関連資格	健康福祉学科の場合、介護福祉士
授業の概要						
「人間とは何か」という問いは、つまりわれわれの存在をテーマとし、それをもっとも根本から考えてみようとする問いである。現代社会に生きるわれわれ人間が直面している具体的な問題を取り上げ、その問いに接近しよう。						
授業の一般目標						
ある程度抽象的な概念を使って「考える」ということが重要である。その際、各自の体験、発想が概念的思考と無縁ではなく、かえって、それが基盤になってはじめて、各自の体験の意味が明らかとなることを理解する。より具体的には、自分に関係ある問題として、自分の言葉で問題のありかを表現し、自分の意見を表明できるようになることが目標である。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	ある程度哲学的な言説を理解できるようになる。				
□	情意的領域					
■	技能表現的領域	自分の問題として取り扱われる諸問題を自分の言葉で表現できる				
授業計画(全体)						
1回目から6回目までは、人間にかんする基礎的な理解に資するテーマを扱う。 6回目から9回目までは、「生命倫理学」のいくつかのトピックを扱う。 10回目以降は「人間とは何か」あるいは「人間の尊厳」に関わる個々の問題の解明。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 生物あるいは動物としての人間 [内容] 自然の一部としての人間の根本的存在様態について考える。生命としての人間は何をしているのか。 [授業外学習]各自のなかに生命または動物としての在り方を見出す。			⑨	[テーマ] 遺伝子操作の問題 [内容] 遺伝子レベルで生命に介入することが可能となっている。それがはらむ問題点。 [授業外学習]自分の問題として遺伝子操作を考えてみる。	
②	[テーマ] 人間の定義について [内容] 「人間とは何か」という問いにたいする形式的答えとその問題点。定義とは、規定することであると同時に排除も意味し得る。 [授業外学習]ある一つの人間の定義がはらむ問題点を指摘する。			⑩	[テーマ] 差別の一般理論 [内容] 差別が生じてくる背景、条件についての一般的理論。 [授業外学習]身の回りにおける差別の事例を見出す。	
③	[テーマ] 「人格」の概念 [内容] おもにカントの考え方に即して「人格」概念の条件を考察する。とくに、道徳と自由の関係について。 [授業外学習]ある個別的行为を想定し、そこでの道徳と自由の関係を指摘する。			⑪	[テーマ] 優生学とナチ [内容] ヒトラー第三帝国が行った、優生学に基づく安楽死あるいは生命の抹殺から弱者の権利について。 [授業外学習]日本での優生学の適用の例を調べる。	
④	[テーマ] 宇宙における人間の位置 [内容] 哲学的人間学、とくにプレスナーとゲーレンの基本的考え方を概説する。動物との違いについて考える。 [授業外学習]自らの中に授業で述べられた思想の例を見出す。			⑫	[テーマ] LGBTという存在 [内容] 性的マイノリティを多数者(マジョリティー)はどのように考えるべきなのか。異質なものの排除が持つ問題。 [授業外学習]自分が、または周りがLGBTである場合、自分の態度を考える。	
⑤	[テーマ] ハイデガーの現存在 [内容] 現存在とは各自のことであるが、その存在の在り方をハイデガーの考え方に基づいて概説する。 [授業外学習]自分と動物のかかわりについてシンガーを引証して書いてみる。			⑬	[テーマ] ヘイトスピーチ [内容] とくにインターネット上で繰り返される罵詈雑言は、民族的マイノリティに向けられている。共生の問題。 [授業外学習]授業以外のヘイトスピーチの例を挙げ、その虚偽を指摘する。	
⑥	[テーマ] 動物の権利 [内容] しかし、最近では人間の特異性に対する反論も多い。おもにシンガーに基づいて、「動物解放論」について概説する。 [授業外学習]自己の死を見据えたとき、それが生き方に与える影響を考える。			⑭	[テーマ] 宗教が引き起こす対立と寛容 [内容] テロリズムが問題となっている。ある信念、ある信仰をもつことと、他者に対する寛容の思想。 [授業外学習]日本における宗教が引き起こした事件を指摘しその背景を書く。	
⑦	[テーマ] 尊厳死の問題 [内容] 尊厳死をめぐる事件をととして、人間の死について具体的に考察する。 [授業外学習]自分の問題として尊厳死をどう考えるか書いてみる。			⑮	[テーマ] まとめ [内容] 異なる人間同士が共存する可能性はどこにあるか。 [授業外学習]授業の概要を書き、試験の準備をする。	
⑧	[テーマ] 脳死の問題 [内容] 脳死と臓器移植にかかわる倫理について考察する。 [授業外学習]自分の問題となったとき臓器移植に対する態度を記してみる。			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
最後の筆記試験、60%。授業のなかで書いてもらう授業内レポート、40%。授業内レポートについては、授業内で講評し返却する。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験		◎		◎	60%	出席する。 ノートをとる。 質問する。 私語はダメ。 大学設置基準で求められている授業時間外学修を行う。 試験およびレポートについては返却する。
授業内レポート		◎		◎	40%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度						
出席						
関連科目						
教科書	教科書はない。			参考書	参考書はその都度指示する	
連絡先	小松恵一研究室A506(オフィス・アワー、水曜日4限)					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		心理学概論 Introduction to Psychology (L.)			担当教員	平田 忠
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要						
心理学は人の行動について研究する学問です。心理学では、なぜ人はある行動をするのか、どのような条件の下でどのような行動をするのかなど、人の行動の法則性について調べます。この科目では、現代心理学の主な領域をとりあげ、それぞれの領域で人間の行動にはどのような法則性や特徴があるのかについて解説をします。						
授業の一般目標						
授業で紹介される、いろいろな種類の人の行動について、どのような法則性があるのかについて理解を深めるとともに、それを基礎として、自分自身の行動について、また自分の周りにいる人々の行動について、さらに自分と周りの人との関係について分析的客観的に考える態度を身につけることが目標です。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	さまざまな人の行動の法則性を理解する。				
■	情意的領域	人の行動を客観的に考える態度を身につける。				
■	技能表現的領域	自分の考えを言葉を用いて適切に表現できる。				
授業計画(全体)						
心理学の中の五つの領域－感覚・知覚、学習・記憶、動機づけ、人格、社会心理－をとりあげます。これまでの各領域における研究で人の行動についてどのようなことが分かっているのかについて解説をします。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 初めに [内容] 授業の内容、進め方についての説明、心理学とはどのような学問か [授業外学習]心理学では何を研究するのかを考えてみる			⑨	[テーマ] 動機づけ② [内容] 私たちの社会性と関わりを持つ、行動の原因について考える [授業外学習]自分の行動を振り返り、その理由を考えてみる	
②	[テーマ] 感覚と知覚① [内容] 自分自身と周囲の世界について知る働きとその仕組みについて考える [授業外学習]各感覚をなくしたら、どの程度を想像してみる			⑩	[テーマ] 動機づけ③ [内容] 葛藤(複数の動機の競合)と葛藤状態における反応について考える [授業外学習]過去の葛藤場面を考えてみる	
③	[テーマ] 感覚と知覚② [内容] 物理世界と知覚世界の違いを通して、私たちの知覚の特徴について考える [授業外学習]身の回りで経験する錯覚について考えてみる			⑪	[テーマ] 人格① [内容] 個性とは何か、その人らしさとは何かについて考える [授業外学習]自分の性格的特徴は何かを考えてみる	
④	[テーマ] 感覚と知覚③ [内容] 文字や顔を例にして、いろいろな刺激をまとめるとしてとらえるという知覚の特徴について考える [授業外学習]「犬を見て、犬だとわかる」ことを考えてみる			⑫	[テーマ] 人格② [内容] 人格はどのように形成されるのか(遺伝の要因と環境の要因)について考える [授業外学習]自分と両親兄弟の性格を比較してみる	
⑤	[テーマ] 学習と記憶① [内容] 学習とはどのような働きか、そしてそれが私たちの生活にどのように関わっているかを考える [授業外学習]出生後の行動の変化について考えてみる			⑬	[テーマ] 人格③ [内容] 精神的な面での個人差を調べる方法(心理検査)について紹介する [授業外学習]精神的特徴の測定について考えてみる	
⑥	[テーマ] 学習と記憶② [内容] 代表的な学習－条件づけ、記銘学習、観察学習－について考える [授業外学習]条件づけの例を身の回りで探してみる			⑭	[テーマ] 社会心理① [内容] 他の人についての印象はどのように形成されるかについて考える [授業外学習]周囲の人に対する自分の印象を整理してみる	
⑦	[テーマ] 学習と記憶③ [内容] 学習を支える記憶の仕組みとその働きについて考える [授業外学習]完全な記憶喪失の状態について想像してみる			⑮	[テーマ] 社会心理② [内容] 私たちはどのような人を好きになり、どのような人を友だちとして選ぶのかについて考える [授業外学習]友人との出会いから現在までを考えてみる	
⑧	[テーマ] 動機づけ① [内容] 私たちが生命を維持するために必要な、行動の原因について考える [授業外学習]死なないために必要なことを考えてみる			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
レポートを3回課し、その評価(評価割合30%×3)と授業態度(評価割合10%)によって成績を決定します。レポートは評価・添削をして返却すると同時に、出題の意図や評価の観点等について説明します。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> 単に話を聞くだけでなく、授業でとりあげる事柄を自分に当てはめて、自分の行動、他の人の行動について考えましょう。 授業中、授業に無関係のことをしてはいけません。(減点の対象) 授業中、授業の妨げになることはしてはいけません。(減点の対象) 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。 	
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート	◎	◎	◎	90%		
演習・実技						
授業態度		◎		10%		
出席						
関連科目	なし					
教科書	使用しません			参考書	授業の中で指示します。	
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	人の心と行動 Human Mind and Behavior(L.)			担当教員	平田 忠
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	2	
授業の概要					
<p>私たちが毎日している行動にはいろいろなものがありますが、この授業では「衣」に関わる行動をとりあげます。私たちは日常いろいろなものを身につけて生活しています。いつ、どこで、どのようなものを身につけるかの選択と決定をわたしたちはどのように行っているのでしょうか。そこにはどのような意図や動機が関係しているのでしょうか。このような「衣」にかかわるさまざまなことについて考えてもらいます。</p>					
授業の一般目標					
<p>「衣」に関わる選択と決定、動機と意図について理解するとともに、「衣」を通して自分自身の精神的な特徴と行動の傾向、同時に自分の周囲にいる他の人たちの精神的な特徴と行動傾向について意識して考える態度を身につけることが目標になります。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	「衣」に関わる人の行動の法則性を理解する			
■	情意的領域	人の行動を客観的・分析的に考える態度を身につける			
■	技能表現的領域	自分の考えを言葉を用いて適切に表現できる。			
授業計画(全体)					
「衣」に関わるさまざまな話題(装い、化粧、流行、身体イメージなど)について解説をします。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ] 初めに [内容] 授業の内容と進め方についての説明、「衣」を考える視点について [授業外学習] 自分の「衣」をよく観察してみよう</p>			⑨	<p>[テーマ] 流行② [内容] 私たちはなぜ流行を追うのかについて考える [授業外学習] 流行に対する自分の態度を振り返ってみる</p>
②	<p>[テーマ] 着衣の動機 [内容] 人はなぜ服を着るのか、また人はいつ頃から服を着るようになったかについて考える [授業外学習] 服を着ることの意味について考えてみる</p>			⑩	<p>[テーマ] 流行③ [内容] 流行における個人差、流行採用と人格との関係について考える [授業外学習] 自分の性格と流行との関係について考えてみる</p>
③	<p>[テーマ] 装い① [内容] 装いが持つ情報伝達という機能について考える [授業外学習] 装いで自分が伝えたいことについて考えてみる</p>			⑪	<p>テーマ] 化粧① [内容] 顔の働きと顔の管理について考える [授業外学習] 顔に注目することについて考えてみる</p>
④	<p>[テーマ] 装い② [内容] 装いによって私たちの対人関係と対人行動はどのように変わるかについて考える [授業外学習] なぜ私たちは着飾るのかを考えてみる</p>			⑫	<p>テーマ] 化粧② [内容] 髪型を含む化粧の機能と精神的な効果について考える [授業外学習] 自分の性格と化粧・髪型との関係を考えてみる</p>
⑤	<p>[テーマ] 「衣」の購買① [内容] 数え切れない選択肢の中から、私たちはどのようにして特定の商品を選ぶのか、その過程について考える [授業外学習] 自分の購入の決断過程を考えてみる</p>			⑬	<p>テーマ] 身体と被服① [内容] 三種類の身体(客観的な身体特徴、主観的イメージ、理想とするイメージ)の関係について考える [授業外学習] 自分の身体についての好き嫌いを考えてみる</p>
⑥	<p>[テーマ] 「衣」の購買② [内容] 個人の購買に関する態度を合理性と情緒性という二つの面から考える [授業外学習] 商品のどのような特性を重視するかを考えてみる</p>			⑭	<p>テーマ] 身体と被服② [内容] 被服による身体イメージの操作について考える [授業外学習] 被服によるイメージ操作の工夫を考えてみる</p>
⑦	<p>[テーマ] 「衣」の購買③ [内容] 購買に伴う危険性とブランドの影響について考える [授業外学習] 買った後の後悔経験を振り返ってみる</p>			⑮	<p>テーマ] 被服における逸脱 意図的に、標準的なもの、社会的に望ましい形とは異なる装いを選ぶことについて考える [授業外学習] 講義の内容を総合して自分の装いを考えてみる</p>
⑧	<p>[テーマ] 流行① [内容] 流行とはどのような現象なのかについて考える [授業外学習] 今年流行したこと・ものを思い出してみる</p>			⑯	<p>[テーマ] [内容] [授業外学習]</p>
成績評価方法(方針)					
<p>レポートを3回課し、その評価(評価割合30%×3)と授業態度(評価割合10%)によって成績を決定します。 レポートは評価・添削をして返却すると同時に、出題の意図や評価の観点等について説明します。</p>					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験					<ul style="list-style-type: none"> 単に話を聞くだけでなく、授業でとりあげる事柄を自分に当てはめて、自分の行動、他の人の行動について考えましよう。 授業中、授業に無関係のことはしてはいけません。(減点の対象) 授業中、授業の妨げになることはしてはいけません。(減点の対象) 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
授業内レポート					
授業外レポート	◎	◎	◎	90%	
演習・実技					
授業態度		◎		10%	
出席					
関連科目	なし				
教科書	使用しません			参考書	授業の中で指示します。
連絡先	研究室はA棟502、相談・質問のための時間帯は火曜日と水曜日の昼休みです				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	ことばと人間A Language and Human Being A			担当教員	青沼一民
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
この授業では、「私たちにとってことばとは何か」を主題とし、ことばの成立、その理解について解説する。					
授業の一般目標					
ことばについて理解することにより、日常的な言語表現に気をくばり、よりの確な表現ができるようになる。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	表現に対する意識を高める。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
本授業は、毎回一つのトピックについて考察し、回を重ねるたびにことばについての多面的な理解ができるよう構成されている。なお、毎回授業の初めに前回の授業内容のふり返しを行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の説明 [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う			⑨	[テーマ] 「比喩的表現について(2)」 [内容] 比喩的表現の有効性について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
②	[テーマ] 「ことばとは人間にとってなにか」 [内容] 我々にとってことばとは何かを考える。 [授業外学習] 配布資料のより次週の予習を行う			⑩	[テーマ] 「比喩的表現について(3)」 [内容] 具体例をもとに比喩的表現の有効性について再度考える [授業外学習] これまでの授業内容を復習する
③	[テーマ] 「ことばが意味をもつためには(1)」 [内容] ある表現が成立するための条件について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う			⑪	[テーマ] 振り返り(テスト含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
④	[テーマ] 「ことばが意味をもつためには(2)」 [内容] ある表現が成立するための条件について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う			⑫	[テーマ] 「わかるとは(1)」 [内容] 「わかる」とはどのようなことなのかについて考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
⑤	[テーマ] 「概念について(1)」 [内容] ことばと概念の関係について考える [授業外学習] これまでの授業内容を復習する			⑬	[テーマ] 「わかるとは(2)」 [内容] 前回に続き「わかる」とはどのようなことなのかについて考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う
⑥	[テーマ] 振り返り(テスト含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う			⑭	[テーマ] 「わかるとは(3)」 [内容] 前回に続き「わかる」とはどのようなことなのかについて考える [授業外学習] これまでの授業内容を復習する
⑦	[テーマ] 「概念について(2)」 [内容] 概念の形成について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う			⑮	[テーマ] 振り返り(テスト含む) [内容] 前回までの授業内容について復習する [授業外学習]
⑧	[テーマ] 「比喩的表現について(1)」 [内容] 比喩的表現の構造について考える [授業外学習] 配布資料により次週の予習を行う			⑯	[テーマ] 最終試験 [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
授業内レポートおよびテストの結果で評価する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			80%
授業内レポート		◎			20%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
*学則通り全授業の2/3以上の出席が必要。 *授業環境を著しく乱す行為が再度に亘った場合は受講停止とする。					
関連科目					
教科書	特に使わない			参考書	必要に応じて指示する
連絡先	A棟3階研究室(313)				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		ことばと人間 B Language and Human Being B			担当教員	鎌田 幸雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要						
人間にとって「ことば」とは如何なるものであるのかについて、言語学的観点からの概説を試みる。言語学にはその研究目標により様々な立場があるが、本講義では、特に一つの立場に偏ることなく、言語学全般に関する基本的概念をわかりやすく解説する。言語が誰にとっても身近で重要なものであることを認識する機会としたい。						
授業の一般目標						
言語学全般に関する基本的概念を理解する。 身近な言語表現を言語学的立場から分析することができる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	言語学全般に関する基本的概念を理解する。				
■	情意的領域	身近な言語表現を言語学的立場から分析することができる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
特定のテキストは使用せず、毎回テーマに沿ったプリントを配布する。講義全体の流れを説明すると、前半では「ことば」の内部構造について「音声」「語」「文」「意味」の4つの側面に分けて考察する。後半では、「ことば」と「社会」との関係について様々な観点から検討する。最後にそれまでの講義内容を前提とし、日本語の歴史について概観する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] ことばの様々な研究法 [内容] ことばを研究する際の代表的な研究方法について概説する。 [授業外学習] 講義の内容を復習する			⑨	[テーマ] ことばと社会(2) 言語の多様性 [内容] 言語接触、ピジンとクレオール、多言語社会とその類型、多言語社会とその歴史的起源、単一言語社会等 [授業外学習] 講義の内容を復習する	
②	[テーマ] ことばの構造(1) 言語音の構造 [内容] ことばの音声的構造を概説する。音声器官、音素、異音、音声学と音韻論の立場の違い等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する			⑩	[テーマ] ことばと社会(3) 公用語とは何か [内容] 書きことばと話しことば、方言と標準語、国家と標準語、言語教育、国際語等 [授業外学習] 講義の内容を復習する	
③	[テーマ] ことばの構造(2) 語の構造 [内容] ことばの重要な単位である「語」について、形態論的分析法を概説する。語類、形態素、語形成、語形変化、文法範疇等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する			⑪	[テーマ] ことばと社会(4) 英語史概観 [内容] 被征服言語/征服言語としての英語、英国の階級社会と英語、米国フェミニズム運動と英語等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する	
④	[テーマ] ことばの構造(3) 文の構造 [内容] 文の構造の分析法について概説する。階層構造、直接構成素、句構造、語順、類型論等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する			⑫	[テーマ] ことばの不思議 [内容] 同名のドキュメンタリーを鑑賞し、その感想を提出する。 [授業外学習] ことばとは何かを考える	
⑤	[テーマ] ことばの構造(4) 意味の構造 [内容] ことばの意味的側面についてその分析法を概説する。意味の意味、意味の場、意味の関係等。 [授業外学習] 講義の内容を復習する			⑬	[テーマ] 日本語の歴史(1) 日本語の起源・系統 [内容] 日本語の起源・系統についての諸説を概観する。同祖論と重層論等 [授業外学習] 講義の内容を復習する	
⑥	[テーマ] ことばとその外部(1) 固有名について [内容] 言語とその外部の接点にあたる「固有名」について考える。人名:人名の多様性、英米人の人名等 [授業外学習] 講義の内容を復習する			⑭	[テーマ] 日本語の歴史(2) 上代から近世まで [内容] 上代から近世までの日本語の歴史を概観する。日本語の表記の歴史、借用語・翻訳語等 [授業外学習] 講義の内容を復習する	
⑦	[テーマ] ことばとその外部(2) 固有名について [内容] 言語とその外部の接点にあたる「固有名」について考える。地名:地名の命名法、英米の地名等 [授業外学習] 講義の内容を復習する			⑮	[テーマ] 日本語の歴史(3) 明治維新以降 [内容] 明治維新以降の日本語の歴史を概観する。言文一致運動、植民地の言語政策、戦後の言語政策等 [授業外学習] 講義の内容を復習する	
⑧	[テーマ] ことばと社会(1) 言語の社会的機能 [内容] 文化としての言語、言語の恣意性、サピア・ウォーフの仮説、アイデンティティとしての言語、言語と民族等 [授業外学習] 講義の内容を復習する			⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
期末試験(80%)と出席を含む積極的授業参加(20%)にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。期末試験の返却を希望する者に対しては、解説を交えて返却する。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・大学設置基準で求められている時間の時間外学修を行うこと なお、この講義の目的は、普段何気なく無意識的に使用している「ことば」について、一歩下がった位置から客観的・意識的に考察することによって、「ことば」の重要性や奥の深さについて考える機会を与えることにあります。この講義を受講することによってある特定の言語(例えば英語や日本語)の技能が向上するものと誤解しないようしてください。
定期試験		◎	◎		80%	
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度			◎		20%	
出席						
関連科目	ことばと人間 A					
教科書	特に指定しない			参考書	講義の際にその都度紹介します	
連絡先	鎌田研究室A棟512					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	ことばと人間B Language and human B			担当教員	菊地 博/ジェリー パランギ
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	2	
授業の概要					
In this class, students think about what sports and health are for human being. For this purpose, this class will examine current topics of sports and health to lead students to the deeper understanding of sports and health. In the later lessons, students make presentations about sports and health for human being. All lessons are given in English.					
授業の一般目標					
Students can acquire current knowledges of sports and health. In addition, students can make a brief summary of their opinions in English. Students also can make some presentations about sports and health.					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	To acquire current knowledges of sports and health for human being.				
■ 情意的領域	To make summaries, write reports and make presentations voluntarily.				
■ 技能表現的領域	To write summaries and explain about sports and health. To write reports and make presentations about sports and health for human being.				
授業計画(全体)					
One topic is treated per a class. Students make a summary of, and write a report of it. Then students make a presentation about sports and health for human being. Through this learning, students are expected to deepen their understanding of sports and health for human being.					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] Orientation(Kikuchi) [内容] Explanation of the classes [授業外学習] Read the next topic before class.			⑨	[テーマ] Word list and explanations (Parangi) [内容] Proof reading of English scripts and feedback regarding over presentation content and continuity. [授業外学習] Students must prepare word lists for their presentations. Rehearsal
②	[テーマ] Vitamin D and our health.(Kikuchi) [内容] Vitamin D helps our bodies in many ways. The latest discovery is how it helps people with breast cancer. V.D also helps other suffering people. [授業外学習] Read the next topic before class			⑩	[テーマ] 1st presentations (Parangi) [内容] Devising questions from presentations [授業外学習] Decide a new topic of research and prepare a pacing plan for next
③	[テーマ] Age and abilities [内容] French man set a record in the 105-year-old category for his one-hour ride. We should do some excise on a daily basis to stay healthy. [授業外学習] Read the next topic before class.			⑪	[テーマ] Research new topic (Parangi) [内容] Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations [授業外学習] Prepare power point slides, English scripts for presentations.
④	[テーマ] Sports can change the society.(Kikuchi) [内容] Young women train to wrestle in conservative Indian state. Wrestling will improve things for women in patriarchal culture. [授業外学習] Read the next topic before class.			⑫	[テーマ] Researching Topic (Parangi) [内容] Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations [授業外学習] Prepare power point slides, English scripts for presentations.
⑤	[テーマ] Running in cold weather improves performance.(Kikuchi) [内容] The runners don't let cold temperatures and snow keep them from running outdoors. Running in cold weather has more benefits than one in hot. [授業外学習] Read the next topic before class.			⑬	[テーマ] 1st presentations (Parangi) [内容] Devising questions from presentations. Introduction of new topic for next lesson [授業外学習] Find a current affairs article that is sports relevant to prepare.
⑥	[テーマ] Demonstration Power point presentation(Parangi) [内容] An introduction of Traditional Maori culture & games used for eye-hand coordination, balance, strength and rhythm [授業外学習] Develop a pacing plan for first power point presentation			⑭	[テーマ] Current Affairs sports (Parangi) [内容] Paper cutouts of current sports affairs around the world, presentation and discussion [授業外学習] Research a current sports event to report back to the group.
⑦	[テーマ] Researching Topic (Parangi) [内容] Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations [授業外学習] Prepare power point slides, English scripts for presentations.			⑮	[テーマ] Group presentations of current affairs sports events (Parangi) [内容] Students present their article with a picture and give a summary of what the news is about. Students devise questions related to the article. [授業外学習] Prepare another article for presentation
⑧	[テーマ] Researching Topic (Parangi) [内容] Discussion & feedback regarding topic. Students are expected to further research topics & include English scripts for presentations [授業外学習] Prepare power point slides, English scripts for presentations.			⑯	[テーマ] Group presentations of current affairs sports events (Parangi) [内容] Students present their article with a picture and give a summary of what the news is about. Students devise questions related to the article. [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
Students who submit their report must have comments and returned to them.					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート	◎			◎	40%
授業外レポート					
演習・実技	◎	◎		◎	30%
授業態度			◎		30%
出席			◎		
関連科目	Language and human A				
教科書				参考書	Dictionaries
連絡先	菊地研究室 A515				

(社会分野)

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		社会学概論 Introduction to Sociology (L.)			担当教員	三谷高史
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	介護福祉士・社会福祉士
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要						
社会における様々な物事を読み解く「道具」としての社会学について解説する。我々が社会生活を営む上で「当たり前」と感じている社会的通念や制度は、本当に「当たり前」のものなのだろうか？その「当たり前」を疑うために、過去の偉人たちが残した概念を解説し、物事の本質を見抜く目を養う。						
授業の一般目標						
社会における「当たり前」を疑う能力を身につける。「当たり前」を疑う能力を身につけることで、現在生きている社会が抱えている諸問題を自分自身と関連付けながら、より鮮明に理解できるようになる。						
授業の到達目標						
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	社会学的な諸概念を理解する				
<input checked="" type="checkbox"/>	情意的領域	社会における「当たり前」を疑う態度を身につける				
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
毎時間1つずつ、社会で「当たり前」と思われている通念を提示し、それを疑うための社会学的概念を解説する。毎回穴埋め式のプリントを配布するので、その穴を埋め、メモ欄に重要事項を書き取る形で講義を受けてほしい。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ]オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などの説明 [授業外学習]社会問題に关する新聞・雑誌記事を探し、読む			⑨	[テーマ] 中間試験 [内容] 選択式・記述式の試験を行なう [授業外学習]事前に中間試験に向けて講義内容を復習する	
②	[テーマ] 社会学的方法論 [内容] 社会学が、社会を分析するためにどのような研究方法を採用してきたかを解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする			⑩	[テーマ] ジェンダーとスポーツ文化 [内容] ジェンダーとセクシュアリティ概念について解説し、スポーツ文化とのかかわりについて解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする	
③	[テーマ] 社会的役割取得① [内容] 人間の社会的役割取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする			⑪	[テーマ] 家族と社会学 [内容] 近代家族の特徴について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする	
④	[テーマ] 社会的役割取得② [内容] 人間が「社会」に束縛されて生活していることを検証する実験を行う [授業外学習]本日の講義について復習をする			⑫	[テーマ] 学校と社会学 [内容] 学校という空間の持つ特徴について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする	
⑤	[テーマ] アイデンティティ① [内容] アイデンティティ概念について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする			⑬	[テーマ] スポーツと社会学 [内容] スポーツ社会学の知見について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする	
⑥	[テーマ] アイデンティティ② [内容] 映像資料(映画)を用いて、アイデンティティの危機について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする			⑭	[テーマ] メディアと社会学 [内容] メディアとコミュニケーションについて解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする	
⑦	[テーマ] 社会への適応 [内容] 社会規範の取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする			⑮	[テーマ] 現代と社会学 [内容] 現代社会(後期近代社会)がもつ特徴や問題について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする	
⑧	[テーマ] 社会からの逸脱 [内容] 社会からの逸脱行為の類型、構造について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする			⑯	[テーマ] 期末レポート [内容] 授業内容への関心度を問うレポートを作成してもらう [授業外学習]講義内容を復習し、期末レポートを作成する	
成績評価方法(方針)						
中間試験(50%) + 期末レポート(50%)で総合的に評価する。中間試験の成績が合格ライン(50点中30点)に届いていない者については、追加レポートを課す場合がある。追加・期末レポートに关して、提出前の相談、提出後のコメントや返却を希望する学生に対しては対応する。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	大学設置基準で定められている時間の授業時間外修学を行なうこと。2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、カンニング同様の不正行為とみなし、本講義の成績は「不可」とする。 熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為(私語など)は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。	
定期試験	○	○		50%		
授業内レポート						
授業外レポート	○	○	○	50%		
演習・実技						
授業態度				欠格条件		
出席				欠格条件		
関連科目	社会構造と人間関係、社会調査法 I					
教科書	特に指定せず、毎回自作のレジユメを配布する。参考文献はその都度提示する。			参考書	倉沢進他[編著]『社会学入門』放送大学教育振興会、2001 奥村隆[編著]『社会学になにができるか』八千代出版、1997	
連絡先	tk-mitani@sendai-u.ac.jp					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	社会構造と人間関係 Social Structure and Human Relationship (L.)			担当教員	三谷高史
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	2	
授業の概要					
<p>社会における様々な物事を読み解く「道具」としての社会学について解説する。我々が社会生活を営む上で「当たり前」と感じている社会的通念や制度は、本当に「当たり前」のものなのだろうか？その「当たり前」を疑うために、過去の偉人たちが残した概念を解説し、物事の本質を見抜く目を養う。後半は、ほぼ全ての人が経験する学校という社会的空間、さらに運動部活動に焦点を当てる。</p>					
授業の一般目標					
<p>社会における「当たり前」を疑う能力を身につける。「当たり前」を疑う能力を身につけることで、現在生きている社会が抱えている諸問題をより鮮明に理解できるようになる。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	社会学的な諸概念を理解する			
■	情意的領域	社会における「当たり前」を疑う態度を身につける			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
<p>毎時間1つずつ、社会で「当たり前」と思われている通念を提示し、それを疑うための社会的概念を解説する。後半は学校運動部活動について歴史や現状を社会科学的に解説する。毎回穴埋め式のプリントを配布するので、その穴を埋め、メモ欄に重要事項を書き取る形で講義を受けてほしい。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ]オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などの説明 [授業外学習]学校運動部活動にかんする新聞・雑誌記事を探し、読む</p>			⑨	<p>[テーマ] 中間試験 [内容] 選択式・記述式の試験を行なう [授業外学習]事前に中間試験に向けて講義内容を復習する</p>
②	<p>[テーマ] 社会学的方法論 [内容] 社会学が、社会を分析するためにどのような研究方法を採用してきたかを解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする</p>			⑩	<p>[テーマ] 学校の社会学① [内容] 学校の持つ集中性・秩序性・文化性について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする</p>
③	<p>[テーマ] 社会的役割取得① [内容] 人間の社会的役割取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする</p>			⑪	<p>[テーマ] 学校の社会学② [内容] 学校におけるリスクの問題について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする</p>
④	<p>[テーマ] 社会的役割取得② [内容] 人間が「社会」に束縛されて生活していることを検証する実験を行う [授業外学習]本日の講義について復習をする</p>			⑫	<p>[テーマ] 運動部活動の教育社会学① [内容] 運動部活動の歴史と制度的位置づけについて解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする</p>
⑤	<p>[テーマ] アイデンティティ① [内容] アイデンティティ概念について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする</p>			⑬	<p>[テーマ] 運動部活動の教育社会学② [内容] 運動部活動における教師の超勤問題について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする</p>
⑥	<p>[テーマ] アイデンティティ② [内容] 映像資料(映画)を用いて、アイデンティティの危機について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする</p>			⑭	<p>[テーマ] 運動部活動の教育社会学③ [内容] 運動部活動における「体罰」、「事故」の問題について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする</p>
⑦	<p>[テーマ] 社会への適応 [内容] 社会規範の取得について解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする</p>			⑮	<p>[テーマ] 運動部活動の教育社会学④ [内容] 運動部活動の存在意義を「生徒自治」の側面から解説する [授業外学習]本日の講義について復習をする</p>
⑧	<p>[テーマ] 社会からの逸脱 [内容] 社会からの逸脱行為の類型、構造について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする</p>			⑯	<p>[テーマ] 期末レポート [内容] 授業内容への関心度を問うレポートを作成してもらう [授業外学習]講義内容を復習し、期末レポートを作成する</p>
成績評価方法(方針)					
<p>中間試験(50%)＋期末レポート(50%)で総合的に評価する。中間試験の成績が合格ライン(50点中30点)に届いていない者については、追加レポートを課す場合がある。追加・期末レポートにかんして、提出前の相談、提出後のコメントや返却を希望する学生に対しては対応する。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。</p>					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	○	○		50%	<p>大学設置基準で定められている時間の授業時間外修学を行なうこと。2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、カンニング同様の不正行為とみなし、本講義の成績は「不可」とする。 熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為(私語など)は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。</p>
授業内レポート					
授業外レポート	○	○	○	50%	
演習・実技					
授業態度				欠格条件	
出席				欠格条件	
関連科目	社会学概論、社会調査法 I				
教科書	特に指定しない。毎回の講義ではレジュメを配布し、参考文献はその都度提示する。			参考書	倉沢進他[編著]『社会学入門』放送大学教育振興会、2001 神谷拓『運動部活動の教育学入門』大修館書店、2015
連絡先	tk-mitani@sendai-u.ac.jp				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	消費経済とスポーツ Economy of Consuming and Sport			担当教員	高成田 享
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
消費の視点からみた経済及びスポーツを学ぶ。					
授業の一般目標					
消費と経済及びスポーツを学ぶことで、体育系大学で学んだ人間が社会に参画する際に役立つ知識や考え方を身に付ける。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	消費あるいは消費者とは何か、それがスポーツとどうかかわるかを理解する				
■ 情意的領域	自分が消費する意味や楽しみをほかの人に伝える方法や工夫を学ぶ。				
■ 技能表現的領域	作文及び自分の意見のプレゼンテーションする能力を高める。				
授業計画(全体)					
消費の視点から経済の歴史やスポーツの歴史を学び、現代社会における消費の意味を理解する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 授業の概要 [内容] 消費経済とは何かを学ぶ。 [授業外学習] 自分の生活のなかで、どんな分野に消費しているか調べる			⑨	[テーマ] クレジット社会 [内容] 消費の欲望を拡大させるための道具としてのクレジットの歴史と意味。 [授業外学習] クレジットで購入したことがあるか考える
②	[テーマ] 消費の歴史 [内容] 生きるための消費から楽しむための消費が拡大する人類の歴史。 [授業外学習] 自分それぞれの消費についてその目的を考える			⑩	[テーマ] 貯蓄と投資 [内容] 貯蓄にはどんな種類があるのか、投資はどう違うのか。個人貯蓄や投資の経済的な意味を学ぶ [授業外学習] どんな貯蓄や投資があるか調べる
③	[テーマ] 万国博からショッピングモールへ [内容] 消費の欲望をかきたてるための場の意味を、万国博、デパート、ショッピングモールなどの歴史をたどりながら考える。 [授業外学習] 万国博について調べる			⑪	[テーマ] 消費税 [内容] 消費税の仕組みと財政及び国際比較。 [授業外学習] 日本の財政を調べる
④	[テーマ] 大衆消費社会とは [内容] 大量生産・大量消費社会の成立とその意味 [授業外学習] 自分の購入したものが大量製品されたものかどうか考える			⑫	[テーマ] 消費経済と国家経済 [内容] 消費のマクロ経済的な意味 [授業外学習] マクロ経済の意味を調べる
⑤	[テーマ] 広告の功罪 [内容] 広告は消費に役立つが、不要なものを買ってしまうこともある。広告の功罪を考える。 [授業外学習] 自分の生活で広告で購入したものがあるかどうか考える			⑬	[テーマ] 消費社会を超えて [内容] 消費が環境に与える影響、物質的な幸せと精神的な幸せなど、消費社会がもたらした課題を考える。 [授業外学習] 人間の価値観について考える
⑥	[テーマ] 記号としての消費 [内容] ステータスシンボルとしてのブランド商品の歴史と現在。 [授業外学習] ブランドとは何かを考える			⑭	[テーマ] まとめと小論文の書き方 [内容] これまでの授業のまとめと小論文の書き方。 [授業外学習]
⑦	[テーマ] 消費するスポーツ(上) [内容] スポーツが消費社会に組み込まれる歴史をたどる。 [授業外学習] 自分の生活の中でスポーツに関係する消費がどれだけあるか考える			⑮	[テーマ] 小論文 [内容] これまでの授業を踏まえて小論文書く。 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 消費するスポーツ(下) [内容] スポーツが消費社会に組み込まれた現状を考察 [授業外学習] 同上			⑯	[テーマ] 予備 [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
出席状況と授業の終わりに書くレポート、最後の授業で書く小論文などで判定。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	私語厳禁。私語で退席を命じた学生には単位を与えません。
定期試験				30%	
授業内レポート	◎	◎	◎	60%	
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度	○	○	○	10%	
出席	○	○	○		
関連科目					
教科書				参考書	
連絡先 toru@takanarita.com					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		世界経済・日本経済とスポーツ World & Japanese Economy and Sports			担当教員	遠藤保雄
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要						
スポーツビジネスは年々拡大している。そのビジネスは世界経済・日本経済の動向と深く結びついている。世界や日本のスポーツ経済を概観しつつスポーツビジネスや経済が世界経済・日本経済とどう結びついているかを学び、これを通じ世界経済・日本経済の見方やその経済のシステム、経済理論などを学ぶ。						
授業の一般目標						
スポーツビジネス、スポーツ経済という場合に、先ず、ビジネスとは、経済とは何かを学び、スポーツが世界経済や日本経済とどう結びついているかを考察し、これを通じ、スポーツを先行する本学の学生に取り、世界経済、日本経済の味方について理解を深める。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	スポーツについては、これを行う上での基礎的な技術・ルールを学ぶだけでなく、競技として観客に楽しんでもらうビジネスとなっていること、そこから金銭のやり取りが行われ経済活動に発展していることの認識を深める。				
■	情意的領域	スポーツは、やるもの、見るものなど多様な形で国民の生活に結びついており、これにより国民生活を豊かにするという価値を持っていることに理解を深める。				
■	技能表現的領域	スポーツ経済を考える上での基本的な用語・理論について、基礎的な経済学的な基礎面についての理解を深める。				
授業計画(全体)						
本授業は、毎回、指定のテーマについて考察し、講義ノートを活用し理解を深めさせる。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 国際経済・日本経済の現状とスポーツ [内容] 国際経済・日本経済の現状とそこにおけるスポーツの位置づけを考察する。 [授業外学習] GDPに着目し国際経済・日本経済の規模を調べる			⑨	[テーマ] 第二次大戦後の国際経済と近代スポーツの発展・成熟 [内容] 第二次大戦後の国際経済の発展と、するスポーツ、見せるスポーツ、スポーツ支援産業に着目しスポーツ経済の動向を考察する [授業外学習] 第二次大戦後の現代史を予習しておくこと	
②	[テーマ] 資本主義の成立と近代スポーツ [内容] 英国における産業革命とこれに続く欧米での工業化による資本主義の成立の下での近代スポーツの確立を概観し近代スポーツとは何かを考察する。 [授業外学習] 欧米で生まれた近代スポーツの種目を調べる			⑩	[テーマ] 日本での資本主義の成立・発展と近代スポーツの移入・定着・発展 [内容] 我が国資本主義の成立と近代スポーツの欧米から移入以降、戦後の経済復興、高度経済成長、安定経済成長を経た日本経済とスポーツの動向を概観する。 [授業外学習] 明治期から現代までの経済史を学習すること	
③	[テーマ] 資本主義経済の考察① [内容] 資本主義経済成立前の経済と比較しつつ資本主義経済の特徴を概説し、その経済を学ぶ上でのミクロ経済学とマクロ経済学の2つについて概説する。 [授業外学習] 資本主義経済とは何かをあらかじめ調べてく			⑪	[テーマ] 日本経済の発展とスポーツ [内容] 90年代初めの日本経済のバブル崩壊とその後の失われた20年を経てアベノミクスの登場までの経済動向とこれに伴い変化するスポーツ経済の動向を概観する。 [授業外学習] 失われた20年とは何を意味するか調べる	
④	[テーマ] 資本主義経済の考察② [内容] ミクロ経済学①モノ・サービスの生産・交換・消費、それに伴う需要・供給関係の形成と価格・数量の決定、企業の生産・コスト・利潤最大化の追求と生産投資行動 [授業外学習] 生活の中でモノ・サービス、その取引につき観察しておくこと			⑫	[テーマ] 直面する日本経済の課題とスポーツの果たす役割① [内容] 経済のソフト化とスポーツの雇用効果、情報化社会におけるスポーツ経済の効果、経済のグローバル化の下でのスポーツの発展について考察する。 [授業外学習] 経済のソフト化、情報化、グローバル化を調べてる	
⑤	[テーマ] 資本主義経済の考察③ [内容] ミクロ経済学②市場機能と価格メカニズム、資源配分の効率性、所得分配、市場の失敗、独占と寡占 [授業外学習] 需要曲線と供給曲線はどのように決まるか予習しておくこと			⑬	[テーマ] 直面する日本経済の課題とスポーツの果たす役割② [内容] 少子高齢化社会におけるスポーツの役割、地方活性化に果たすスポーツの経済効果、食品経済とスポーツにつき考察する [授業外学習] 高齢化、地方経済の低迷、食と健康に関し調べておくこと	
⑥	[テーマ] 資本主義経済の考察④ [内容] マクロ経済学① GDPとその3面等価、経済のフローとストック、有効需要、財市場と貨幣市場の関係、マクロ経済を構成する家計・企業・政府の行動 [授業外学習] GDPを構成する要素を調べておくこと			⑭	[テーマ] 世界経済の発展とオリンピック① [内容] 近代オリンピック誕生から第二次大戦を経て、第二次大戦後の世界経済の発展・変化を概観し、合わせて平和の祭典オリンピックの各時代における経済的意義を考察する [授業外学習] 近代オリンピックの歴史を予習すること	
⑦	[テーマ] 資本主義経済の考察⑤ [内容] マクロ経済学②経済成長と景気変動、完全雇用と失業、インフレとデフレ、財政政策、金融政策、国際経済(貿易、比較優位、国際収支と円高・円安) [授業外学習] マクロ経済学の構成要素を予習しておくこと			⑮	[テーマ] 2020年東京オリンピック・パラリンピックの政治経済学 [内容] 2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催を巡る政治経済学について論じる。 [授業外学習] 東京オリンピック・パラリンピックの招致の理由を調べておくこと	
⑧	[テーマ] 産業革命以降の国際経済の発展とスポーツ [内容] 英国での産業革命以降、第二次大戦に至る国際経済の動向と近代スポーツの発展・変化を考察する [授業外学習] 英国の産業革命以降の近代史を予習しておくこと			⑯	[テーマ] 最終試験 [内容] クラスでの講義ノートをベースに出題する。 [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
試験結果に基づき評価する。暗記ではなく、思考力を重視した評価を行う。特に、①起承転結の論理構造、②実務への応用思考等を基準に評価する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。定期試験の原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	学期通り全授業の三分の二以上の出席が必要。 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
定期試験		◎	○	○	90%	
授業内レポート		◎	○	○	10%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度		◎	○	○		
出席					欠格条件	
関連科目						
教科書				参考書		
				スポーツの経済学(マイケル・A・リース) スポーツ産業論(原田宗彦)		
連絡先						
遠藤 ys-endo@sendai-u.ac.jp						

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	法学 Jurisprudence			担当教員	加藤英俊
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
テキストを用いて、特に、民法総則、親族・相続、不法行為法等を、そして、行政に関する基本的な事項を扱う。日本国憲法は別途科目が設けられているので、この科目では扱わない。					
授業の一般目標					
日常生活での行為がもつ法的意味を理解し、社会的事象を法学的な観点から考えることができるようになる。そして、法学の自己学習ができるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	基本的な法律用語の意味と使用法を理解し、適切に応用できるようになる。			
■	情意的領域	法的観点から社会問題を考え、意見を述べるができるようになる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
シラバスで挙げた項目についてテキストの内容を理解することを中心に講義を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 授業の進め方、成績の評価方法について説明する。 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑨	[テーマ] 使用者責任と国家賠償責任 [内容] 使用者責任と国家賠償責任の異同 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
②	[テーマ] 親族関係と法 [内容] 親等図、戸籍の今昔から見る親族関係 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑩	[テーマ] 土地工作物責任、営造物責任、動物占有者責任 [内容] 各事項の概説と、特に、土地工作物責任と映像物責任の異同 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
③	[テーマ] 婚姻と離婚(1) [内容] 婚姻の成立、無効・取消 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑪	[テーマ] 契約を結ぶことができるのは [内容] 権利能力、意思能力、行為能力の基本的な事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
④	[テーマ] 婚姻と離婚(2) [内容] 夫婦の権利義務、離婚、財産分与等 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑫	[テーマ] 制限行為能力者 [内容] 未成年者、成年後見制度 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘、または、テストの予告
⑤	[テーマ] 親子関係、私的扶養 [内容] 親子関係で現れる法的諸事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑬	[テーマ] 予備、または、中間審査 [内容] 進捗が遅れているときは講義を行う。 [授業外学習]
⑥	[テーマ] 遺言と法定相続 [内容] 遺言と相続の基本的な事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑭	[テーマ] お役所とお役所の仕事 [内容] 行政主体と行政庁、行政処分と行政指導の基本的な事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘
⑦	[テーマ] 損害の賠償 [内容] 不法行為と債務不履行による損害の賠償請求の基本事項 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑮	[テーマ] お役所の処分を争う [内容] 行政救済の基本事項 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 不法行為 [内容] 不法行為概念の概説と事例、責任能力 [授業外学習] 次回のテキスト箇所の指摘			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
成績の評価は、基本的に、筆記試験で行う。中間審査を行った場合には評価の際に考慮する。欠席日数については学生便覧「試験細則」による。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	授業には必ずテキストを携行すること。 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
定期試験	◎			100%	
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					
関連科目					
教科書	谷口・松原編著、基礎からわかる法学(成文堂)			参考書	
連絡先	非常勤なので教育企画室に問い合わせをすること。				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		歴史学入門 Introduction to History			担当教員	伊達 宗弘
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要						
それぞれの時代に大きな役割を果たした先人の「生き様」を紹介し、困難や危機に直面した時のヒントになる講座とする。聖徳太子、中大兄皇子、菅原道真、平清盛、足利尊氏、武田信玄、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、伊達政宗、宮本武蔵、吉田松陰、大久保利通、板垣退助らの果たした歴史的な役割を分かりやすく解説する。						
授業の一般目標						
国際化や情報化が進めば進むほど次代を担う人たちにとって最も大切なのは、日本の素晴らしい歴史や文化をしっかりと認識することである。それがあって初めて堂々と生きることが出来、また世界に伍していくことが出来るのではないだろうか。日本人として知っておきたい教養としての歴史と文化を、先人の「生き様」から学び、力強く生きていく上においてのヒントになる情報を提供する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	日本の素晴らしい歴史や文化を、ごく自然に語る事が出来るようになる。				
■	情意的領域	身の周りのものを優しい気持ちで見ることが出来、いつも高い志を持って生きることが実践出来るようになる。				
■	技能表現的領域	言葉づかい、身のこなし方にも教養が感じられる人材になることを目指す。				
授業計画(全体)						
歴史や文化を立体的に組み立て交差させ、楽しみながら知識を得た興味も持てる講座とする。そのためパワーポイントやDVDを駆使して、分かりやすく工夫された講座形式とする。資料としては生涯手元において役立つようなオリジナルな資料集を作成し配布する。講座はその都度完結した物語風に構成する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ]私の履歴書 [内容] 大学受験に失敗し父が交通事故に遭遇するなど、失敗と挫折の連続の中で自分の目標を実現するために歩んだ半生を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説。			⑨	[テーマ] 豊臣秀吉の天下統一 [内容] 一介の農民から天下統一をした秀吉の人心収攬術と、人々に夢を与えた秀吉のエピソードを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	
②	[テーマ]旧石器時代から飛鳥時代 [内容] 旧石器時代から縄文・弥生・古墳・飛鳥時代を紹介し、特に日本の国のかたちを整えた聖徳太子の果たした歴史的な役割を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説			⑩	[テーマ]道を起こし教を布く・徳川家康 [内容] 今の日本のかたちを整えた江戸時代の礎を築いた徳川家康、隣国の強敵武田信玄を生涯私淑した覇者の哲学を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	
③	[テーマ]大化の改新と大宝律令の制定 [内容]聖徳太子の意思を継承した中大兄皇子らによって行われた大化の改新や大宝律令制定など日本の国のかたちが整っていく過程を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説			⑪	[テーマ] 伊達政宗と仙台藩の国づくり [内容] 秀吉からは領地を取り上げられ、家康からは約束を反故にされても挫けず、大穀倉地帯の礎を築いた政宗の夢と国づくりを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	
④	[テーマ] 奈良の都と京の都 [内容] 天平文化を花開かせた奈良時代、遣唐使が廃止されたことによって創り出された国風文化、武家の勃興してきた平安時代を紹介。 [授業外学習]四字熟語の解説			⑫	[テーマ]『五輪書』に見る宮本武蔵の生き様 [内容] 宮本武蔵の『五輪書』や『独行吟』を紹介し、社会人として生きていくうえにおいてのヒントを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	
⑤	[テーマ] 平安時代の光と影 [内容] 武士が勃興し平清盛が初めて武家政権を打ち立て、貿易によって巨利を得ようとした清盛の壮大な構想と平家没落までを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説			⑬	多彩な人材を育てた吉田松陰 [内容] 新しい時代を築く有為な人材を短期間のうちに多数育てた吉田松陰の生き様について紹介し、生きていく上でのヒントを提供。 [授業外学習]四字熟語の解説	
⑥	[テーマ]鎌倉幕府の成立と南北朝の騒乱 [内容] 鎌倉幕府の成立から滅亡、建武の中興、武士の信望に応じて立ち上がった足利尊氏、乱世におけるリーダーの条件を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説			⑭	[テーマ] 日本の近代化に殉じた大久保利通 [内容] 国づくりのため西郷隆盛と決別し、日本の近代化のため危機を顧みず奔走した大久保利通の政治家としての見識を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	
⑦	[テーマ] 応仁の乱と戦国乱世 [内容]100年にわたる戦国乱世を生きた武将の名言を紹介し、その中で地を拓き水を治めるのに腐心した武田信玄の国づくりを紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説			⑮	[テーマ] 自由民権運動の旗手・板垣退助 国民中心の国家を創るため全国各地で自由民権運動を展開し、国会開設、政党政治実現に奔走した板垣退助の治績を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説	
⑧	[テーマ] 織田信長、天下統一への道 [内容] 卓抜な発想と精悍な行動力で、古い因習を打破し新しい時代を創り上げようと天下統一を目指した織田信長の生き様を紹介。 [授業外学習] 四字熟語の解説			⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
毎回提出するレポート、出席日数、テスト等から総合的に判断する。出席日数2/3以下は対象外。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	1 生きていくうえでの必要な常識や、危機に直面した時の対処などについて役立つ情報を提供するので可能な限り受講すること。 2 就職活動を念頭に役立つ具体的な情報も提供するのでしっかりと受講し、講座の内容を簡潔に取りまとめるレポートを毎回提出してもらおうので、この機会を最大限活用し文章を書く実践の場にして欲しい。 3 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
定期試験					30%	
授業内レポート		○	○	○	70%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度						
出席					欠格条件	
関連科目						
教科書	手作り教科書(34ページ)と四字熟語集(20ページ)を配布			参考書	必要に応じて授業で指示する。	
連絡先	図書館専用電話 0224-55-2052					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	歴史と人間			担当教員	伊達 宗弘
	Individual Elements in History				
開講内容	学年・学期	1・2・3半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
通史としての日本史と、時代を大きくかえて行くために大きな役割を果たした先人の生き様、また名言や四字熟語等を通して、これからの激動の時代、先行き不透明な時代を逞しく生きていく上でのヒントになる情報を提供する。					
授業の一般目標					
日本は世界に冠たる歴史や文化を築いてきた国である。次代を担う人たちにとって一番大切なのは、そのような日本の素晴らしい歴史や文化をしっかりと認識することである。これがあつてはじめて堂々と生きることが出来、また世界に伍していくことができるのではないだろうか。社会に出て実際に役立つ実学としての歴史を学ぶ。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	日本の歴史や文化の素晴らしさを、ごく自然に語れるようにする。			
■	情意的領域	身の周りのものを優しい気持ちで見ることが出来、いつも高い目標をもって生きることを実践できる人材となることを目指す。			
■	技能表現的領域	言葉の使い方、身のこなし方にも教養が感じられるような人材になることを目指す。			
授業計画(全体)					
歴史や文化を立体的に組み立て交差させ、楽しみながら知識を得、また興味を持てる講座とする。そのためパワーポイントやDVDを駆使して、分かりやすく工夫された講座形式とする。資料としては生涯手元に置いて役立つようなオリジナルな資料集を作成し配布する。講座はその都度完結された物語風に構成する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 私の履歴書 [内容] 自分自身の失敗と挫折の半生を振り返り、生きて行くうえで何が大切であるかを考えるヒントを提供。 [授業外学習]四字熟語とことわざの解説			⑨	[テーマ] 豊臣秀吉、賤ヶ岳合戦の秘策 [内容] 短期間で天下統一を果たした秀吉の智謀と策略、秀吉の人心収攬術などを通して、今に通じる人心掌握術の妙に迫る。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
②	[テーマ] 聖徳太子、理想国家実現の夢 [内容] 天皇を中心とした中央集権国家建設づくりに腐心した、聖徳太子の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説			⑩	[テーマ] 失敗を糧とした覇者の哲学 [内容] 我慢に我慢を重ね天下人となった徳川家康、覇者の哲学を通して今を生きる人にとって何が大切かを考える。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
③	聖徳太子の意思を敬称、大化の改新 [内容] 複雑な権力闘争の中、聖徳太子の意思を継承した天智天皇らが国のかたちを整えていく過程を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説			⑪	[テーマ] 伊達政宗の国づくり 年齢差を乗り越え、秀吉や家康と堂々と渡り合い、領地没収・約束反故の苦境の中で大靱倉地帯の礎を築いた政宗の国づくりを紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
④	[テーマ] 天平文化、国風文化花開く [内容] 聖武天皇によって花開いた天平文化、菅原道真の遣唐使廃止建言によって花開いた国風文化を紹介する。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説			⑫	[テーマ] 兵法の道は人の道 [内容] 剣一筋に生きてきた武蔵が、剣の道を通して会得した人の道の哲学書『五輪書』等を通して生きていくうえで何が大切かを学ぶ。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑤	[テーマ] 初めての武家政権を築いた平清盛 [内容] 貴族の衰退、武士の勃興の中で貿易立国で豊かな国づくりをしようと壮大な夢の実現に腐心した平清盛と、その生きた時代を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説			⑬	[テーマ] 志のある者よ、立ち上がれー吉田松陰ー [内容] 幕末から明治にかけて新しい時代を築く多彩な人材を育てた吉田松陰を紹介し、自ら考え実践する大切さを学ぶ。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑥	[テーマ] 乱世を制するリーダーの条件 [内容] 尊敬する後醍醐天皇と決別し、武士中心の幕府を創るため腐心した足利尊氏の苦悩の決断、歴史に果たした役割を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説			⑭	[テーマ] 日本の近代化に殉じた大久保利通 [内容] 盟友西郷隆盛と決別し郷里鹿児島の人々の怨嗟にもめげず、命がけて新しい国づくりに命を捧げた大久保利通の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑦	[テーマ] 水を治め地を開く [内容] 戦国時代末期、人の力を信じ、金山開発、河川改修などで甲斐の国を強国に変えていった武田信玄の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説			⑮	[テーマ] 板垣死すとも、自由は死せず [内容] 身の危険を顧みず自由民権運動の旗手として、命がけて全国遊説し議会開設の原動力となった板垣退助の考え方を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説
⑧	[テーマ] 肉を切らせ骨を絶つ [内容] 卓抜な人物鑑定能力と斬新な発想で新しい時代を築くため力を注いだ織田信長の生き様を紹介。 [授業外学習]四字熟語とことわざ解説			⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
受講生が毎回提出するレポートと出席日数、テスト結果から総合的に判断する。出席回数は2/3以下は対象外とする。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					30%
授業内レポート		○	○	○	70%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
関連科目					
教科書	手作り教科書(34ページ)と四字熟語集(20ページ)を配布			参考書	必要に応じて授業で指示する。
連絡先	図書館専用電話0224-55-2052				

(自然分野)

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	生物科学 Biological Science (L.)			担当教員	宋戸 勇	
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
医学や体育学の基礎領域のひとつとして、生物科学の知識を修得することは必須条件である。生物学から生命科学へと学問領域が展開されていく中で、体育科学や健康科学の科学的な内容把握への一助となるよう細胞学や生理学などの基礎知識を学ぶ。						
授業の一般目標						
高等学校では選択科目として位置づけられていることから、履修してこない学生も多く、専門領域への取り組みが円滑に出来るようにしたい。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	細胞の構造や機能、細胞内小器官の連携形態と生理学や栄養学の基本となる呼吸、タンパク質の構造・機能について理解する。					
■ 情意的領域	構造や機能の連携などについてじっくり理解する。					
■ 技能表現的領域	暗記の学問ではなく、しっかり理解し、表現できる習慣を養う。					
授業計画(全体)						
選択科目ではあるが、最大80人規模のクラスとなるため、パワーポイントやビデオなどの映像も活用しながら、生物の体内で起こる自然現象をしっかりとらえ、理解できるようにする。最後は論述試験を行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 生物学から生物科学までの成り立ちに関する歴史的展開 [授業外学習] 配布資料と内容の照合確認			⑨	[テーマ] タンパク質の分解と酵素の働き [内容] 生体内でのタンパク質分解過程とそれに関わる酵素について展開する。 [授業外学習] 総合理解	
②	[テーマ] 生命の起源と歴史的研究 [内容] 地球の誕生と地球型生命の起源について展開する。 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料からの総合理解			⑩	[テーマ] エネルギー産生機構とATPの役割 [内容] 呼吸とATPの関わりについて展開する。 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料の照合と総合理解	
③	[テーマ] 原核細胞と真核細胞 [内容] 細胞内に存在する小器官の形態・機能について展開する。 [授業外学習] パワーポイントによる映像と資料からの総合理解			⑪	[テーマ] 呼吸とエネルギー獲得 [内容] 栄養素の分解とエネルギー産生機構について理解する。 [授業外学習] 配布資料の理解	
④	[テーマ] 細胞とその内部構造 [内容] 真核細胞内の小器官の構造と働きについて展開する [授業外学習] 映像内容と配布資料の確認			⑫	[テーマ] 生体における神経伝達機構 [内容] 神経細胞(ニューロン)と神経伝達機構の仕組みについて展開する [授業外学習] 映像内容の理解と配布資料の内容把握	
⑤	[テーマ] 細胞内小器官の生理的機能とそれらの連携 [内容] タンパク質合成のからくり、分泌物生産の過程と小器官の連携について展開する。 [授業外学習] 配布資料の総合理解			⑬	[テーマ] ヒトの発生 [内容] ヒトの発生過程と生理機構について展開する。 [授業外学習] 映像内容の理解	
⑥	[テーマ] 遺伝子とその働き [内容] 遺伝子の構造と遺伝子本体の核酸について紹介する。 [授業外学習] 配布資料と映像の照合と総合理解			⑭	[テーマ] ヒトの酵素変異と代謝異常 [内容] 酵素の構造変異とそれに伴う生体異常と代謝異常について展開する。 [授業外学習] 配布資料の理解	
⑦	[テーマ] 遺伝子とタンパク質(1) [内容] DNA・RNAとタンパク質合成のからくりについて展開する。 [授業外学習] 映像内容と配布資料の照合と総合理解			⑮	[テーマ] ヒトの染色体異常 [内容] 染色体が起こす遺伝的疾患、突然変異による異状疾患について展開する。 [授業外学習] 配布資料の理解	
⑧	[テーマ] 遺伝子とタンパク質(2) [内容] タンパク質合成のからくりとそれに関与する遺伝子の働きについて展開する。 [授業外学習] 総合理解			⑯	[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
定期試験の評価を70%、授業内レポートを20%とし、授業態度は10%で評価する。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。難解なところもあると思うので、しっかり理解を深めて欲しい。
定期試験		◎	◎	◎	70%	
授業内レポート		○	○	○	20%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度				△	10%	
出席					欠格条件	
関連科目						
教科書	特になし。配布資料提供。			参考書	生物学、生物科学、といったタイトルの教科書は参考になる。	
連絡先	非常勤講師なので連絡は教育企画室を通して行うこと。					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	エコロジー概論				担当教員	宍戸 勇
	Guidance of Ecology(L.)					
開講内容	学年・学期	1・2・3・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
<p>自然の中で起こる諸々の現象に対して、どのような理解力が必要となるであろうか。例えば生物個体と環境との関係や、群れを形成したときの環境との関係、生物相互の関係などを理解することにより、生態学的な考え方、研究方法を身につけていく。特に、体育系大学生は自然と触れ合う機会が多いので、最近頻出する環境破壊などの問題や、環境利用に係る分析力を醸成する。</p>						
授業の一般目標						
この講義を受けることにより、生態学的思考方法が身につく。幅の広い学問であるので自然に対する分析力が養われる。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	Ecologicalな研究方法とはどんなものか。個々の生物か、群れを成す生物か、それぞれに環境とのかかわりや生物相互の関係を理解する。					
■ 情意的領域	映像による理解を深める。					
■ 技能表現的領域	映像を利用しながら自然を理解し、幅広い見方、解釈方法を身につけ、分析できる能力を養う。					
授業計画(全体)						
<p>選択科目であるが、アウトドアでの活動の機会が多い学生諸君に、自然界で起こる現象や生物同士の相互関係などを映像を通じて理解し、生態学的な考え方を身につけたい。特に、講義内容として扱う観察内容の違いや研究対象の違いを理解しながら、多面的に適切な分析ができるようにしたい。</p>						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ] ガイダンス [内容] エコロジーとはどんな学問か。体育系大学生にとってなぜ必要か。 [授業外学習] 配布資料により内容の確認をする。</p>				⑨	<p>[テーマ] 個体群生態学という研究領域について(2) [内容] 個体群としての環境との関わりについて分析し、理解する。 [授業外学習] 映像内容と配布資料の照合と総理解。</p>
②	<p>[テーマ] 環境要因と生物の関係 [内容] 無機的環境と生物の関係を理解する。 [授業外学習] パワーポイントと資料の照合</p>				⑩	<p>[テーマ] 群集生態学という研究領域について(1) [内容] 同種個体群や異種個体群が地域で群れるときの環境との関わりについて理解する。 [授業外学習] 前回の資料に基づき、個体や個体群との比較</p>
③	<p>[テーマ] 有機的環境とは何か。 [内容] 生物相互の関係について理解する。 [授業外学習] パワーポイント・ビデオからテーマとの関係を把握。</p>				⑪	<p>[テーマ] 群集生態学という研究領域について(2) [内容] 生物群集における種間関係、特に食物連鎖関係について理解する。 [授業外学習] パワーポイントやビデオ映像と照合する。</p>
④	<p>[テーマ] 生物の世界における制限要因 [内容] 生物の生活に影響する環境とその反応 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料との照合</p>				⑫	<p>[テーマ] 群集生態学という研究領域について(3) [内容] 生物群集における種間関係、特に共生関係について理解する。 [授業外学習] 個体や個体群における環境との関係を比較する。</p>
⑤	<p>[テーマ] 生理的最適域と生態的最適域 [内容] 制限要因と生物の条件選択能力について理解する [授業外学習] パワーポイントと配布資料の確認作業。</p>				⑬	<p>[テーマ] 群集生態学という研究領域について(4) [内容] 生態系における生物群集の働きと作用・反作用・相互作用の理解をする。 [授業外学習] 配布資料の内容理解。</p>
⑥	<p>[テーマ] 個体生態学という研究領域について [内容] ビデオ映像から生物個体の環境に対する反応を理解する。 [授業外学習] 映像と配布資料との照合と総理解。</p>				⑭	<p>[テーマ] 栄養段階とエネルギーの流れ 生態系の中での生態的地位とエネルギーの流れについて理解する。 [授業外学習] 配布資料の理解</p>
⑦	<p>[テーマ] 適応現象とは [内容] 環境に対する個々の生物の反応と適応能力について理解する。 [授業外学習] パワーポイントと映像内容からの総理解。</p>				⑮	<p>[テーマ] 生態系と人間について [内容] 生物群集の構造変化と人間との関わり、環境破壊、環境保全と人間の関わりについて理解する。 [授業外学習] ビデオ映像と配布資料との総理解。</p>
⑧	<p>[テーマ] 個体群生態学という研究領域について(1) [内容] 個体の集まりと環境への対応について理解する。 [授業外学習] 個体との比較を前回配布資料等から比較する。</p>				⑯	<p>[テーマ] テスト [内容] [授業外学習]</p>
成績評価方法(方針)						
定期試験内容70%、授業内レポート20%、授業態度10%として評価する。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 授業態度10%、提出物20%とし、定期試験は70%合わせて100%としている。</p>
定期試験		◎	◎	◎	70%	
授業内レポート		○	○	○	20%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度		△		△	10%	
出席					欠格条件	
関連科目						
教科書	特になし。配布資料とパワーポイントをしっかり理解すること。				参考書	高等学校時代の教科書は参考になる。
連絡先	非常勤なので教育企画室に問い合わせをすること。					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	教養数学 Basic Mathematics			担当教員	大内悦夫
開講内容	学年・学期	1・2・半期	授業方法	講義・演習	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	2	
授業の概要					
算数・中学数学の基礎・応用事項及び高校の数学の既習事項の確認・演習を行う。また卒論等に活用できる統計学の基礎を学習する。					
授業の一般目標					
問題の解法をとおして、数学的な考え方を学び、また解法を発表することにより自分の考えをしっかりとしたものにする。小学校、中学校の学習支援をする学生の育成、また、卒論等に活用できる統計学の基礎を習得する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	特徴的な数学的な考え方を体得する。				
■ 情意的領域	他の人の意見を自分のものと対比しながら聞き、自分の考えをまとめる。				
■ 技能表現的領域	自分の考えが発表できる。				
授業計画(全体)					
講義及び演習形式で様々な問題の解法を研究する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方、成績評価の方法等の説明 [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑨	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 整式・因数分解 [授業外学習] 本日の講義内容の復習
②	[テーマ] 小学校算数の指導内容の研究 [内容] 整数の計算ができる。分数、小数の計算で、おちいりやすい間違いを研究する [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑩	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 方程式・関数 [授業外学習] 本日の講義内容の復習
③	[テーマ] 小学校算数の指導内容の研究 [内容] 図形・割合 [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑪	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 順列 [授業外学習] 本日の講義内容の復習
④	[テーマ] 小学校算数の指導内容の研究 [内容] 文章題 [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑫	[テーマ] 高校数学の指導内容の研究 [内容] 組み合わせ [授業外学習] 本日の講義内容の復習
⑤	[テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 正負の数、文字式 [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑬	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 正規分布・偏差値 [授業外学習] 本日の講義内容の復習
⑥	[テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 方程式 [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑭	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 相関係数 [授業外学習] 本日の講義内容の復習
⑦	[テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 関数 [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑮	[テーマ] 統計の基礎 [内容] 検定 [授業外学習] 本日の講義内容の復習
⑧	[テーマ] 中学校数学の指導内容の研究 [内容] 図形 [授業外学習] 本日の講義内容の復習			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 既習内容の確認 [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
講義時数の2/3以上の出席を要する。下記の割合で評価をする。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			60%
授業内レポート		○			10%
授業外レポート		△			5%
演習・実技		○			20%
授業態度				△	5%
出席					欠格事項
柔軟な思考ができるように努力する。出席については規定通りとする。授業内外のレポートについては点検し、次の授業に於いてその内容を検討する。大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。					
関連科目	特になし				
教科書	なし			参考書	なし
連絡先	大内研究室(A303)				

(教養演習)

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	体育系大学の基礎教養				担当教員	全専任教員
	Liberal Arts for Sport-oriented Students					
開講内容	学年・学期	1年・半期	授業方法	講義	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						
体育系大学とは何を学ぶ大学かについて、仙台大学の場合を取り上げ、仙台大学の「Admission」、「Curriculum」、「Diploma」の3つの方針を踏まえ、教育課程編成の考え方、教育内容、保健体育教員免許およびその他の取得資格と社会的実践との関係を俯瞰しながら、講義する。						
授業の一般目標						
体育系大学としての仙台大学の教育分野・内容、所属する学科領域の位置付け等を俯瞰することにより、その後の各専門課程における履修科目の設置目的・相互関係等が理解できるようになるため、個々の科目の学習が全体—他の科目—との関わりの中で行えるようになる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	所属する学科のみならず、他学科の専門領域に関する知識をも習得する。				
■	情意的領域	所属する学科における専門領域の学習に対する意欲を高める。				
■	技能表現的領域	卒業後、所属する学科・コースで学んだ専門知識をどのように社会に還元するかを学ぶ。				
授業計画(全体)						
全専任教員が本授業の趣旨について共通理解と認識を持ち、各学科・コースの責任者によって作成された教材を用いて、「授業の概要」に掲げた目的に沿って各回の授業を行う。各回の担当者は、その回の授業内容に適した教員が行う(そのため、回ごとに担当教員が変わることになる)。						
授業テーマとその内容						
<ul style="list-style-type: none"> * 第1回 オリエンテーション、カリキュラムの体系:本科目設定の狙い、授業の展開、仙台大学のカリキュラムの理念・特徴等について説明する。 * 第2～4回 「学士力」養成と本学カリキュラムの関連について説明する。各回の内容は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> 第2回 学士力(1):導入演習、情報処理、スポーツ心理学、スポーツ社会学 第3回 学士力(2):学習基礎教養演習、運動生理学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ指導の基礎、トレーニングの基礎 第4回 学士力(3):英語、基盤科目の活きた事例 * 第5回 教員養成 * 第6～13回 各学科・コースについて説明する。各回の内容は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> 第6回 コーチング・コース 第7回 トレーナー・コース 第8回 マネジメント・コース 第9回 健康福祉学科 第10回 運動栄養学科 第11回 スポーツ情報マスメディア学科 第12回 現代武道学科 第13回 子ども運動教育学科 * 第14回 英語の必要性 * 第15回 レポート作成・総評 						
成績評価方法(方針)						
授業態度(70%)、およびレポート(30%)で評価する。レポートのフィードバックを希望する学生は、各クラス担任に相談すること。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> * 2/3以上の出席が必要(欠席した場合は必ず「欠席届」を出すこと)。 * 学部・学科・コース等の教育方針・内容を学ぶ貴重な授業であるので、積極的に授業に参加することを望む。 * 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。 	
成績評価方法						
定期試験	—	—	—	評価対象外		
授業内レポート	○	○	◎	30%		
授業外レポート	—	—	—	評価対象外		
演習・実技	—	—	—	評価対象外		
授業態度	◎	○	○	70%		
出席	—	—	—	欠格条件		
関連科目	導入演習、学習基礎教養演習、仙台大学の専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、キャリアプランニングⅡ、各種専門科目、卒業論文					
教科書	特に指定しない			参考書	必要に応じて指示する	
連絡先	クラス担任、各授業担当者					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	仙台大学の専門教養演習 I Sports & Cultural Context I			担当教員	全専任教員
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	必修	単位数	2	
授業の概要					
所属する部活動または指定されたグループ毎に受講クラスを設定する。この受講クラスに於いて、人文・社会・自然科学分野のトピックス等を題材に取り上げ、この3科学分野の各種の教養知識を学ぶ。または各受講クラスに於いて、大学における既習事項等を応用した活動等を実施することにより、より実践的な教養知識を身につける。					
授業の一般目標					
体育系大学における専門教育と教養教育の融合という新しい視点で設計された本学独自の演習科目であるという特長を理解し、ポートフォリオ学習等の取り組みを通じて、仙台大学の教育理念に沿った4年間の専門領域の学習効果を、基本的な教養に裏打ちされた知識として、応用的に実践できる力を体得する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	各受講クラスにおいて、3科学分野の関連性を理解し、専門知識と教養知識を融合して考えることができる。				
■ 情意的領域	体育大学で学ぶことの意義について認識を深め、教養知識を応用した実践的活動を行うことができる。				
■ 技能表現的領域	ポートフォリオ学習方式を体得し、既習事項等を応用した活動等を実施することができる。				
授業計画(全体)					
全専任教員が担当する。それぞれの受講クラスに於いて3科学領域の各種のトピックを、教養知識という切り口から整理し、演習方式の授業で学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。または、各受講クラスにおいて活動等を学生に提供し、ポートフォリオにより自立学習を促す。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] クラスを編成し、各クラスの授業内容について説明する。 [授業外学習]自身の所属するクラスを事前に確認する。			⑨	[テーマ] 各競技・種目の経済学(社会科学3) [内容] 各競技・種目の経済効果および経済政策を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の用具売上高や観客動員数等を調べる。
②	[テーマ] 仙台大学の教養教育体系 [内容] 導入演習および体育系大学の基礎教養で学んだ教育体系を再確認し、専門教養演習に必要な基礎知識を体系化する。 [授業外学習]導入演習と体育系大学の基礎教養を復習する。			⑩	[テーマ] 各競技・種目の社会科学体系 [内容] 社会学、経営学、経済学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の社会科学体系を明らかにする。 [授業外学習]社会学、経営学、経済学の各側面を復習する。
③	[テーマ] 各競技・種目の歴史学(人文科学1) [内容] 各競技・種目の歴史を調べ、成り立ちを明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の歴史を調べる。			⑪	[テーマ] 各競技・種目の物理学(自然科学1) [内容] 各競技・種目のプレーにおける空気抵抗、摩擦、速度等の物理的側面を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目のプレーにおける速度等を計測する。
④	[テーマ] 各競技・種目の文学(人文科学2) [内容]各競技・種目が文学作品においてどのように描かれ、いかなる価値観にもとづいて表現されているかを明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目が登場する文学作品を調べる。			⑫	[テーマ] 各競技・種目の生理学(自然科学2) [内容] 各競技・種目のプレーにおける身体機能、身体への負荷等の生理的側面を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目のプレーにおける身体への負荷等を計測する。
⑤	[テーマ] 各競技・種目の心理学(人文科学3) [内容] 各競技・種目の実施者、観戦者、支援者の心理を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の心理的側面について調べる。			⑬	[テーマ] 各競技・種目の栄養学(自然科学3) [内容] 各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量、必要栄養素、サプリメント等の栄養的側面を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目のプレーにおけるカロリー消費量等を計測する。
⑥	[テーマ]各競技・種目の人文科学体系 [内容] 歴史学、文学、心理学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の人文科学体系を明らかにする。 [授業外学習]歴史学、文学、心理学の各側面を復習する。			⑭	[テーマ] 各競技・種目の自然科学体系 [内容] 生理学、物理学、栄養学の各側面を総合的に考え、各競技・種目の自然科学体系を明らかにする。 [授業外学習]生理学、物理学、栄養学の各側面を復習する。
⑦	[テーマ] 各競技・種目の社会学(社会科学1) [内容] 各競技・種目の社会的立場づけ、趨勢(競技人口等)、社会的意義を明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の競技人口等の基礎統計を調べる。			⑮	[テーマ] 各競技・種目の専門教養体系 [内容] 人文科学、社会科学、自然科学の体系を総合し、各競技・種目の専門教養体系を明確化する。 [授業外学習]全15回の授業内容を総括する。
⑧	[テーマ] 各競技・種目の経営学(社会科学2) [内容] 各競技・種目のマネジメントについて、チームマネジメントと大会(公式戦)マネジメントの両側面から明らかにする。 [授業外学習]各競技・種目の組織構造・財政状況等を調べる。			⑯	[テーマ] レポートおよびポートフォリオの提出 [内容] 所定の学修成果をレポートおよびポートフォリオによって考查し、仙台大学の専門教養演習Ⅱ・Ⅲに向けた課題を明確化する。 [授業外学習]今後の課題として挙げられた諸点について調べる。
成績評価方法(方針)					
原則として、レポート、ポートフォリオ作成、実技等の成果をもって認定する。レポート、ポートフォリオ成果、実技等の課題のフィードバックを希望する者に対して、担当教員が個別に対応し、解説を交えてフィードバックする。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	1. 各受講クラスの担当教員の指示に従い、レポート、ポートフォリオ成果、実技等の課題を確実にクリアすること。 2. 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
定期試験	—	—	—	評価対象外	
授業内レポート	◎	○	○	60%	
授業外レポート	○	◎	○	20%	
演習・実技	○	○	◎	20%	
授業態度	—	—	—	評価対象外	
出席	—	—	—	欠格事項	
関連科目	導入演習、体育系大学の基礎教養、各専門科目、卒業論文				
教科書	特に指定しない。			参考書	特に指定しない。
連絡先	各受講クラス担当教員				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	全学教養演習			担当教員	久能和夫・福田伸雄他	
	Sophomore Seminar					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	必修	単位数			2
授業の概要						
各教員の提案するテーマに沿った演習を行います。上限人数は原則として、12名となります。少人数で「演習」を体験することができるが、この授業の特徴となります。学生の皆さんは、各教員の提示した主題の中から自分の興味関心のあるテーマを選んでいただきます。						
授業の一般目標						
学生の皆さんは、教員の提示する、あるテーマに沿った課題について、ディスカッション、体験、ロールプレイング、レポート作成等を通して、ある具体的なテーマについて考えを深め、レポート作成、プレゼンテーション等の方法で自己の考えをまとめていきます。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	あるテーマについての知識を深め、理解する。				
■	情意的領域	課題に熱心に取り組む。				
■	技能表現的領域	あるテーマについてのレポートが作成でき、発表ができる。				
授業計画(全体)						
1. 毎回、個々の学生に課題が与えられる。2. あるテーマに沿った体験実習やロールプレイング等を行う。3. 2の学びについて、学生同士のディスカッション、レポート作成、プレゼンテーション等を行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] この授業の目的の説明、授業内容オリエンテーション [内容] 授業テーマの説明、授業の進め方についてオリエンテーションを行う。 [授業外学習] 授業の目的、テーマについて復習しておくこと。			⑨	[テーマ] 演習⑥ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	
②	[テーマ] 主題の設定 [内容] 教員の提示するテーマにそって、自分の主題を設定する。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。			⑩	[テーマ] 演習⑦ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	
③	[テーマ] 授業計画の設定 [内容] 教員の提示するテーマにそって、授業計画を設定する。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。			⑪	[テーマ] 演習⑧ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	
④	[テーマ] 演習① [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。			⑫	[テーマ] 演習⑨ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	
⑤	[テーマ] 演習② [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。			⑬	[テーマ] 演習⑩ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	
⑥	[テーマ] 演習③ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。			⑭	[テーマ] 演習⑪ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。	
⑦	[テーマ] 演習④ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。			⑮	[テーマ] レポートを発表し、ディスカッションの上、評価する [内容] レポートの要約を発表し、他の学生はそのレポートについてコメントを加え、それに対して教員がコメントする。 [授業外学習] 自分のレポート内容、プレゼン内容の振り返りを行うこと。	
⑧	[テーマ] 演習⑤ [内容] あるテーマにそった、演習、体験実習、資料収集、レポートの作成を行う。 [授業外学習] 学習した内容をノートにまとめておくこと。			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
毎回演習を行う授業なので、出席も評価対象となる。その上で、課題に対する取り組みの姿勢もまた重要である。言うまでもなく、課題に対する取り組み方やレポートの出来不出来、プレゼンテーション等がもっとも成績に関係する。 なお、レポートについてはコメントをつけたうえで返却する。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験						1. 上にも述べたように出来るだけ休まないこと。出席を重視する科目である。
授業内レポート						2. 3分の1以上休んだ場合には、単位は認定されない。
授業外レポート						3. この科目は卒業必修科目のため、単位修得できなければ、卒業することができない。特に4年生は、この科目の成績が「放棄」の場合は即、留年確定のため、くれぐれも注意すること。
演習・実技	◎	◎	◎	◎	100%	4. この科目は各担当教員にクラス分け後、履修登録することになるので、履修登録だけでは、授業に参加することができない。クラス分けの方法について4月配布のオリエンテーション資料に書いてあるので、よく読んでおくこと。
授業態度						5. 大学設置基準で定められている時間の授業時間外学習を行うこと。
出席					欠格条件	
関連科目	特定の関連科目はないが、ここで学ぶことは、あらゆる科目の基礎となると言う意味で、すべての科目に関連していると言える。					
教科書	プリント・資料を配布する			参考書	授業中に指示する	
連絡先						

《海外文化科目》

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		イングリッシュ・リーディングA English Reading A			担当教員	鎌田 幸雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
今日、様々な場面で膨大な量の英語情報が流通しており、それに対応する能力が要請されている。この科目はそれらの英語情報の中から各自が関心のある事柄に関する英文を「独力」で読むことが出来るための基本的な事柄を学ぶことが目標となる。50～150行程度の文章を数多く精読することにより、ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかんでもらいたい。						
授業の一般目標						
英語辞書の正しい使用法を身につける。 英文読解に必要な基本的知識を習得する。 英語の歌詞の内容を理解しながら聴くことができる。						
授業の到達目標						
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	英語辞書の正しい使用法を身につける。英文読解に必要な基本的知識を習得する。英語の歌詞の内容を理解しながら聴くことができる。				
<input type="checkbox"/>	情意的領域					
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
授業は、輪読形式で進めてゆく予定である。最初は一文ごとに順に割り当て、授業時間内に受講生全員に必ず1回は当たるようにする。次第に割当ての範囲を増やして、段落ごと、課題ごとに予め担当者を決めて、発表してもらう予定である。随時英語のポピュラー音楽やTOEIC等の問題、英字新聞等の記事も教材として使用する予定である。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の説明 [授業外学習] 次回の課題の予習をする			⑨	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Weight Training!' Song: Prince 'Wherever U Go, Whatever U Do' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	
②	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Cultural Differences Don't Matter' Song: John Lennon 'Stand by Me' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習			⑩	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Feel-Good fashion' Song: Keb' Mo' 'Closer' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	
③	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Sports Nutrition' Song: Jackson 5 'I'll be There' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習			⑪	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Sports Psychology' Song: Lauryn Hill (feat. Bob Marley) 'Turn Your Lights Down low' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	
④	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Women's Soccer!' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習			⑫	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Johnny Depp: A modern-Day gentle pirate' Song: Nat "King" Cole 'Smile' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	
⑤	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Ryo ishikawa: Japan's Golf Superstar' Song: Bob Dylan 'Blowing in the Wind' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習			⑬	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'A Green Light for Graffiti' Song: The Velvet Underground 'I'm Set Free' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	
⑥	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Best friends Forever' Song: R. Flack & D. Hathaway 'You've Got a Friend' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習			⑭	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Germany's Turkish Delight' Song: Sam Cooke 'A Change Is Gonna Come' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	
⑦	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Sportsmanship!' Song: Michael Jackson 'Heal the World' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習			⑮	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'A Night to Remember' Song: Louis Armstrong 'What A Wonderful World' [授業外学習] 今回の課題の復習と期末試験の準備	
⑧	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Ai Miyazato: Swinging towards Far Horizons' Song: Aretha Franklin 'Do Right Woman, Do Right Man' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習			⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 期末試験を受験する [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
期末試験(70%)、出席を含む積極的な授業参加(30%)にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。期末試験の返却を希望する者に対しては、解説を交えて返却する。						
成績評価方法(詳細)						
到達目標				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	1. 大学設置基準で定められている時間の授業外学修を行なうこと 2. 基本的な文法事項を予め再確認し、復習しておくこと。 3. 英文の読解力を向上させるためには当然の事ながら、週一回の90分の授業だけでは不十分です。教材は前の週に配布するので、事前に予習し解らないところをはっきりさせておくことが求められます。 4. 辞書は必ず持参すること。 5. 定員20名以下。	
定期試験	◎			70%		
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度	◎			30%		
出席				欠格条件		
関連科目	イングリッシュ・リーディング B					
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定はしないが、簡単な英文法書を再読しておくことが望まれる	
連絡先	A棟5階研究室(512) オフィスアワー:火曜日10:20～11:50					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	イングリッシュ・リーディングB English Reading B			担当教員	鎌田 幸雄	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
この科目は、「イングリッシュ・リーディングA」と同様に、様々な場面で流通している英語情報の中から、各自が関心のある事柄に関する英文を「独力」で読むことができるための基本的な事柄を学ぶことが目標となる。50～150行程度の文章を数多く精読することにより、ディスコースレベルでの文章読解のコツをつかんでもらいたい。						
授業の一般目標						
英語辞書の正しい使用法を身につける。 英文読解に必要な基本的知識を習得する。 英語の歌詞の内容を理解しながら聴くことができる。						
授業の到達目標						
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	英語辞書の正しい使用法を身につける。英文読解に必要な基本的知識を習得する。英語の歌詞の内容を理解しながら聴くことができる。				
<input type="checkbox"/>	情意的領域					
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
授業は、輪読形式で進めてゆく予定である。最初は一文ごとに順に割り当て、授業時間内に受講生全員に必ず1回は当たるようにする。次第に割当ての範囲を増やして、段落ごと、課題ごとに予め担当者を決めて、発表してもらう予定である。随時英語のポピュラー音楽やTOEIC等の問題、英字新聞等の記事も教材として使用する予定である。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の説明 [授業外学習] 次回の課題の予習をする			⑨	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'The Beatles Taking Over the World' Song: John Lennon 'Stand by Me' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	
②	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] [内容] 課題文 'The Beatles Taking Over the World' Song: The Beatles 'In My Life' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習			⑩	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Bangkok: More Than Meets the Eye' Song: Stevie Wonder 'Living For The City' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	
③	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Organic Farms Seek Willing Workers' Song: Bruno Mars 'Just the way you are' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習			⑪	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Singapore Cool' Song: Amy Winehouse 'Love is a Losing Game' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	
④	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Guest Workers: A Complex Issue' Song: Donny Hathaway 'Someday We'll All Be Free' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習			⑫	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Zhang Ziyi: Memoirs of an Asian Beauty' Song: Keb' Mo' 'I'll be Your Water' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	
⑤	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'The World's Worst Weed' Song: Marvin Gaye & Tammi Terrell 'Ain't No Mountain High Enough' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習			⑬	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Thailand's J-Trend' Song: John Lennon & Yoko Ono 'Happy Xmas (War Is Over)' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	
⑥	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Sports Supplements' Song: Eric Clapton 'Tears in Heaven' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習			⑭	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Chinese New Year Food: A Celebration of Life' Song: Bob Marley 'Redemption Song' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習	
⑦	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'How Many Guns Are Enough?' Song: Chuck Berry 'Johnny B. Goode' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習			⑮	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'The Paralympic Games & Special Olympic World Games' Song: John Lennon 'Imagine' [授業外学習] 今回の課題の復習と期末試験の準備	
⑧	[テーマ] 英語読解力の養成 [内容] 課題文 'Dressing Like a Hippie' Song: Otis Redding 'Try a Little Tenderness' [授業外学習] 今回の課題の復習と次回の課題の予習			⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 期末試験を受験する [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
期末試験(70%)、出席を含む積極的な授業参加(30%)にもとづき、総合的に評価する。出席回数が2/3以下の場合は成績評価の対象外とする。期末試験の返却を希望する者に対しては、解説を交えて返却する。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験		◎			70%	1. 大学設置基準で定められている時間の授業外学習を行なうこと 2. 基本的な文法事項を予め再確認し、復習しておくこと。 3. 英文の読解力を向上させるためには当然の事ながら、週一回の90分の授業だけでは不十分です。教材は前の週に配布するので、事前に予習し解らないところをはっきりさせておくことが求められます。 4. 辞書は必ず持参すること。 5. 定員20名以下。
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度		◎			30%	
出席					欠格条件	
関連科目	イングリッシュ・リーディング A					
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定はしないが、簡単な英文法書を再読しておくことが望まれる	
連絡先	A棟5階研究室(512) オフィスアワー:火曜日10:20～11:50					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	英会話A English Conversation A			担当教員	ジェリー・パラング
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
This English Conversation class is a communicative based course that aims to prepare young adults to interact successfully with native and non-native speakers of English. Students will be expected to give regular presentations on related topics to the text and sports when applicable.					
授業の一般目標					
This course will review and refine students previous knowledge in English Conversation. Students will be engaged in various language skill building activities. Students will be challenged with individual/pair oral presentations and discussions on current issues and sports related topics.					
授業の到達目標					
■	認知的領域	Memorable and practical social language in conversation models with an emphasis on cultural fluency. Intensive vocabulary development and a dynamic approach to grammar with high-frequency words, collocations and expressions. Pronunciation, rhythm and intonation.			
■	情意的領域	The goal of this course is to develop a greater interest in and confidence through the use of English and the cultural connection of the language, whilst developing the skills needed to become more autonomous learners of English.			
■	技能表現的領域	Speaking, Reading comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate			
授業計画(全体)					
Top Notch 1 (3rd Ed) with MyEnglishLab which is an online study requirement of this course and a new theme for every unit focussing on "English for today's world." The course will expose students to multi-level integrated skills. Students are highly encouraged to be positive and engaging in communicative activities.					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] Introduction of the class & grading. [内容] Description of the class, semester schedule outline + self introduction preparation and key English instructions [授業外学習] Memorize self-introductions and key English phrases			⑨	[テーマ] Unit 3 - The Extended Family [内容] Report news about relationships [授業外学習] Memorize key vocabulary
②	[テーマ] Unit 1 - Getting Acquainted [内容] Meeting someone for the first time [授業外学習] Conversation model presentation			⑩	[テーマ] Unit 3 - The Extended Family [内容] Describe extended families [授業外学習] Introduce your family preparation
③	[テーマ] Unit 1 - Getting Acquainted [内容] Identify and describe people [授業外学習] Conversation model presentation			⑪	[テーマ] Unit 3 - The Extended Family [内容] Compare people [授業外学習] MyEnglishLab online study
④	[テーマ] Unit 1 - Getting Acquainted [内容] Provide personal information and introduce someone to the group [授業外学習] Grammar + conversation model presentation			⑫	[テーマ] Unit 3 - The Extended Family [内容] Discuss family cultural traditions [授業外学習] Textbook assignment + MyEnglishLab online study
⑤	[テーマ] Unit 2 - Going Out [内容] Accept or decline an invitation [授業外学習] Conversation model presentation			⑬	Unit 4 - Foods and Restaurants [内容] Ask for a restaurant recommendation [授業外学習] Memorize key vocabulary
⑥	[テーマ] Unit 2 - Going Out [内容] Express locations and give directions [授業外学習] Unit 1+2 review - MyEnglishLab - online study			⑭	[テーマ] Unit 4 - Foods and Restaurants [内容] Order from a menu + speak to a server [授業外学習] Memorize key vocabulary and phrases
⑦	[テーマ] Unit 2 - Going Out [内容] Make plans to see an event + talk about musical tastes [授業外学習] Study for Unit 1&2 test			⑮	[テーマ] Unit 4 - Foods and Restaurants [内容] Discuss food and health [授業外学習] Unit 3 & 4 review ; study for test
⑧	[テーマ] Unit 1&2 Test [内容] Test [授業外学習] Reading Unit 3 preview			⑯	[テーマ] Test Unit 3 & 4 [内容] Test Unit 3 & 4 [授業外学習] None
成績評価方法(方針)					
Participation/ attitude 35%, Presentations 35%, Tests 30%					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと) Students serious about improving their English abilities and committed to the 1st & 2nd Semesters should apply for this course. In principle, new students will not be accepted in the 2nd Semester without special approval from Jerry. Students should attend 2/3 of all classes & score above 60% in their final score to qualify for credit. Instantaneous feedback after oral tests and feedback after written tests will also be employed. Progress reports will be given in "one on one," interviews, as well as extra advice for improvements.
成績評価方法				30%	
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技				35%	
授業態度				35%	
出席					
関連科目					
教科書	Top Notch 1 (3rd Ed) with ActiveBook and MyEnglishLab			参考書	English-Japanese dictionary
連絡先	LC棟2階 G201研究室 Jerry's contact email: j-parangi@sendai-u.ac.jp				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	英会話B English Conversation B			担当教員	ジェリー・パランギ
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
This English Conversation class is a communicative based course that aims to prepare young adults to interact successfully with native and non-native speakers of English. Students will be expected to give regular presentations on related topics to the text and sports when applicable.					
授業の一般目標					
This course will review and refine students previous knowledge in English Conversation. Students will be engaged in various language skill building activities. Students will be challenged with individual/pair oral presentations and discussions on current issues and sports related topics.					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	Memorable and practical social language in conversation models with an emphasis on cultural fluency. Intensive vocabulary development and a dynamic approach to grammar with high-frequency words, collocations and expressions. Pronunciation, rhythm and intonation.				
■ 情意的領域	The goal of this course is to develop a greater interest in and confidence through the use of English and the cultural connection of the language, whilst developing the skills needed to become more autonomous learners of English.				
■ 技能表現的領域	Speaking, Reading Comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate				
授業計画(全体)					
Top Notch 1 (3rd Edition) with MyEnglishLab which is an online study requirement of this course and a new theme for every unit focussing on "English for today's world." The course will expose students to multi-level integrated skills. Students are highly encouraged to be positive in attitude and communicative activities.					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] Review of class grading. [内容] Briefing of second semester syllabus. Pair discussion about summer vacation. Start Unit 6 preview [授業外学習] Study key vocabulary			⑨	[テーマ] Unit 9 - Taking transport [内容] Discuss schedules and buy tickets. [授業外学習] Study for Unit 7 short test + Unit 9 conversation model
②	[テーマ] Unit 6 - Staying in Shape [内容] Review last class + Plan an activity with someone [授業外学習] Memorize conversational model presentation			⑩	[テーマ] Unit 9 - Taking Transport [内容] Unit 7 short test + Unit 9 - Discuss schedules and buying tickets [授業外学習] Memorize key vocabulary
③	[テーマ] Unit 6 - Staying in Shape [内容] Talk about habitual activities and plans [授業外学習] Memorize conversational model presentation			⑪	[テーマ] Unit 9 - Taking Transport [内容] Unit 7 Test handback and advice. Understand airport announcements. [授業外学習] Memorize conversation model for presentation
④	[テーマ] Unit 6 - Staying in Shape [内容] Discuss fitness and eating habits + describe your routines [授業外学習] Reading comprehension + Unit 6 review			⑫	[テーマ] Unit 9 - Taking Transport [内容] Book travel services [授業外学習] Memorize conversation model for presentation
⑤	[テーマ] Unit 7 - On Vacation [内容] Greet someone arriving from a trip [授業外学習] Study for Unit 6 short test			⑬	[テーマ] Unit 9 - Taking Transport [内容] Describe transportation problems [授業外学習] Unit 9 review + study for final test
⑥	[テーマ] Unit 7 - On Vacation [内容] Administer Unit 6 short test + continue with Unit 7 conversation model [授業外学習] Memorize conversation model for presentation			⑭	[テーマ] Final test [内容] Administer the final test [授業外学習] None
⑦	[テーマ] Unit 7 - On Vacation [内容] Unit 6 test handback + advice. Continue with Unit 7 Ask about someones vacation [授業外学習] Memorize conversation model for presentation			⑮	[テーマ] Test handback with feedback [内容] Test handback with class feedback + individual feedback of overall progress in class. Sports related media study [授業外学習] Complete comprehension questions from the media study
⑧	[テーマ] Unit 7 - On vacation [内容] Discuss vacation preferences + describe vacation experiences [授業外学習] Unit 7 review			⑯	[テーマ] Complete the media study [内容] Complete the media study + check answers for comprehension [授業外学習] None
成績評価方法(方針)					
Homework/online study 10%, Participation/ attitude 30%, Presentations 30%, Tests 30%					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験				30%	This is a continuation course from the first semester. In principle, new students will not be admitted into the 2nd semester. Students are required to attend 2/3 of all class without prior approval from Jerry. To achieve full credit in the course students must achieve an average of at least 60% on their overall marks. Instantaneous feedback will be given for oral presentations, while test feedback will be employed for the class with common mistakes highlighted and advice give for improvement. Progress reports will be give in "one on one," interviews as well as extra advice for improvements.
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技				35%	
授業態度				35%	
出席					
関連科目					
教科書	Top Notch 1 (3rd Ed) with ActiveBook and MyEnglishLab			参考書	English-Japanese dictionary
連絡先	LC棟2階 G201研究室 Contact email: j-parangi@sendai-u.ac.jp				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	中国語 I Chinese I			担当教員	馬 佳濛
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
中国語の発音練習と基礎的文法の学習を通じて、基本的な表現能力を身につける。中国語のピンインの発音から文法の説明と共に会話の練習まで進めていく。また、授業を通して中国の文化や国情についても紹介する。					
授業の一般目標					
中国語の発音体系、特に声調をしっかりと理解し、正確に発音できるようにする;中国語で簡単な自己紹介及び常用表現を身につける;中国の文化や社会に対する理解を深める。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	中国の文化及び国情に対する理解を深める。				
■ 情意的領域	日本と中国の友好関係を発展させる意欲を持つようになる。				
■ 技能表現的領域	ピンインを正確に発音できる。中国語で簡単な挨拶やコミュニケーションができるようになる。				
授業計画(全体)					
基本的にはテキストに沿って進み、実際の進度は学生の学習進度によって調整する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、中国の文化、中国語の特徴などを紹介する [授業外学習] シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] 第6課 何がありますか [内容] 動詞、助数詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
②	[テーマ] ピンインの学習 [内容] 単母音の発音練習、声調の発音特徴、声調の発音練習 [授業外学習] 声調の抑揚に富む早口を正しく発音できる			⑩	[テーマ] 第7課 ホテルにチェックイン [内容] 完了を表す語、選択疑問文、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
③	[テーマ] ピンインの学習 [内容] 子音の発音練習、簡単な挨拶文を勉強する [授業外学習] 中国語での挨拶を身につける			⑪	[テーマ] 第8課 何時に行きますか [内容] 経験を表す語、時をあらわす語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
④	[テーマ] 第1課 自己紹介 [内容] 自己紹介の言い方、人称代名詞 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑫	[テーマ] 第9課 タクシーに乗る [内容] 前置詞、時間の長さを表す語、目的語をもつ動詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
⑤	[テーマ] 第2課 これは何ですか [内容] 指示代名詞(1)、否定表現、疑問詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑬	[テーマ] 第10課 試着と支払い [内容] 助動詞、前置詞、動詞の重ね用法、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
⑥	[テーマ] 第3課 これはいかがですか [内容] 指示代名詞(2)、形容詞述語文、疑問詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑭	[テーマ] まとめ [内容] 単語、文法、リスニング、ヒアリング [授業外学習] テストに備えて復習する
⑦	[テーマ] 第4課 買い物 [内容] 数詞、助詞、数量を表す語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑮	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習] テストに備えて復習する
⑧	[テーマ] 第5課 どこにありますか [内容] 場所指示代名詞、動詞、助動詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
講義時間内に指名し、その発音、回答の内容で評価する平常点と、最終講義日に行う筆記試験(ヒアリングを含む)の成績で評価する。提出された課題はコメントを付したうえで返却する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> 必ず教科書を準備すること。 予習・復習をしっかりとすること。 授業中に、積極的かつ意欲的に参加し、授業外でも学習した知識は恥ずかしくならず積極的に取組むこと。 授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
定期試験	○		◎	60%	
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度	○	○	◎	40%	
出席	○			減点・欠格条件	
関連科目	中国語 II (後期)				
教科書	《最新版》1年生のコミュニケーション中国語 塚元慶一 監修 劉穎 著			参考書	しっかり初級中国語 石田友美・桑野弘美・島田亜実・鈴木ひろみ 著
連絡先	馬研究室(第五体育館2F 研究室23)				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	中国語Ⅱ Chinese II			担当教員	馬 佳濛
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
中国語の発音練習と基礎的文法の学習を通じて、基本的な表現能力を身につける。文法と会話の学習を中心に授業を進めて行く。また、授業を通して中国の文化や国情についても紹介する。					
授業の一般目標					
中国語の発音体系、特に声調をしっかりと理解し、正確に発音できるようにする;中国語で簡単な自己紹介及び常用表現を身につける;中国の文化や社会に対する理解を深める。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	中国の文化及び国情に対する理解を深める。				
■ 情意的領域	日本と中国の友好関係を発展させる意欲を持つようになる。				
■ 技能表現的領域	ピンインを正確に発音できるようになる;中国語で自己紹介及び簡単な日常会話ができるようになる				
授業計画(全体)					
基本的にはテキストに沿って進み、実際の進度は学生の学習進度によって調整する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標とやり方の説明、成績評価の方法 [授業外学習] 前期で学習した内容を復習する			⑨	[テーマ] 第8課 友達に電話する [内容] 方向補語、使役文、謙語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
②	[テーマ] 第1課 北京に到着 [内容] 連動文、動詞句主語、数詞、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑩	[テーマ] 第9課 郵便局 [内容] “如果…的话, 就…”、前置詞“把”、方向補語“到”、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
③	[テーマ] 第2課 道を尋ねる [内容] 疑問詞“怎么”、動詞+“了”、反復疑問文、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑪	[テーマ] 第10課 医者に行く [内容] “有一点儿”、助動詞“要”、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
④	[テーマ] 第3課 買い物 [内容] 動詞+“一点儿”、比較表現、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑫	[テーマ] 第11課 家庭訪問 [内容] 助動詞“用”、進行形、“就是”、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
⑤	[テーマ] 第4課 バスに乗る [内容] 名詞修飾詞、副詞、結果補語、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑬	[テーマ] 第12課 謝恩会 [内容] “就要…了”、変化を表す語、“有了”、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する
⑥	[テーマ] 第5課 新しい友達 [内容] 様態補語、2つの“了”、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑭	[テーマ] まとめ [内容] 単語、文法、リスニング、ヒアリング [授業外学習] テストに備えて復習する
⑦	[テーマ] 第6課 外食 [内容] 助詞“过”、主述述語文、動詞“喜欢”、“多”、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑮	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習] テストに備えて復習する
⑧	[テーマ] 第7課 約束 [内容] 動詞“听说”、“可…了”、助動詞“打算”、会話 [授業外学習] テキストの練習問題をもとに復習する			⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業の達成度、理解度を確かめるため期末試験を行う [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
講義時間内に指名し、その発音、回答の内容で評価する平常点と、最終講義日に行う筆記試験(ヒアリングを含む)の成績で評価する。提出された課題はコメントを付したうえで返却する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		○		◎	60%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度		○	○	◎	40%
出席		○			減点・欠格条件
<ul style="list-style-type: none"> 必ず教科書を準備すること。 予習・復習をしっかりとこと。 授業中に、積極的かつ意欲的に参加し、授業外でも学習した知識は恥ずかしくなく積極的に取り組むこと。 授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。 大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行なうこと。 					
関連科目	中国語Ⅰ(前期)				
教科書	《最新版》2年生のコミュニケーション中国語 塚元慶一 監修 劉穎 著			参考書	本気で学ぶ中国語 趙玲華 著
連絡先	馬研究室(第五体育館2F 研究室23)				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	韓国語 I Korean I			担当教員	金 賢植
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。ハングル文字のしくみから読み・書き、韓国語を学ぶとき最も苦手とする発音の練習、日常生活に必要な基礎的な表現について講義する。また、言葉と関連して、韓国のスポーツ事情・文化・歴史などについても紹介しながら授業を進めていく。					
授業の一般目標					
テキストをもとに、「聞く・読む」基礎的な能力を学習し、「話す・聞く」能力の習得を目指して学習することを目標とする。なお、スポーツ事情・文化・歴史に接することにより、韓国に関心を持ち、異文化の理解を深める。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	韓国語の文字(ハングル)を読める。韓国語の特徴が理解できる。			
■	情意的領域	韓国語の背景や韓国の文化に触れ、外国語習得や異文化交流に更なる関心を持つ。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
韓国語を初めて学ぶ学生を対象し、発音、文字、ならびに簡単な日常会話をわかりやすく説明する。テキストに沿ってゆっくり進み、全部で15回の講義項目を行い、2年次の韓国語Ⅱへ進む基礎的な語学力を身につける。文字と発音の段階から、あいさつなど基礎的な会話の要素もくわえ、知識と応用のバランスに配慮した授業を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介、韓国紹介、韓国語の簡単な挨拶紹介 [授業外学習] 韓国・韓国語に関して興味のあることを調べる			⑨	[テーマ] 予定や持ち物の有無② [内容] ある、いる、ありません、いませんの表現の練習、教科書6課の練習問題 [授業外学習] 教科書6課を読んでおく
②	[テーマ] 韓国語文字(ハングル)の仕組と発音 [内容] 基本母音字母と合成母音字母① [授業外学習] 教科書1課を読んでおく			⑩	[テーマ] 質問の仕方① [内容] それは何ですか、質問に関する表現の習得、教科書7課の単語 [授業外学習] 教科書7課を読んでおく
③	[テーマ] 韓国語文字(ハングル)の仕組と発音 [内容] 基本母音字母と合成母音字母② [授業外学習] 教科書2課を読んでおく			⑪	[テーマ] 質問の仕方② [内容] 韓国語を用いて、職業、趣味などを質問できるように練習、教科書7課の練習問題 [授業外学習] 教科書7課を読んでおく
④	[テーマ] 韓国語文字(ハングル)の仕組と発音 [内容] 合成母音字母、自分の名前をハングルで書いてみよう [授業外学習] 教科書3課を読んでおく			⑫	[テーマ] 助詞と疑問詞のまとめ [内容] 韓国語の助詞について日本語と比較しながら学習 [授業外学習] 教科書7課を読んでおく
⑤	[テーマ] 韓国語文字(ハングル)の仕組と発音 [内容] 韓国の食べ物の名前、教室でよく使う言葉 [授業外学習] 教科書4課を読んでおく			⑬	[テーマ] うちとけた表現 [内容] 「です・ます」体の作り方学習 [授業外学習] 教科書8課を読んでおく
⑥	[テーマ] 自己紹介、かじこまった丁寧体① [内容] 「私は～です。～といます。」の練習 [授業外学習] 教科書5課を読んでおく			⑭	[テーマ] 家族の呼び名 [内容] 家族の呼び名、家族構成を韓国語で言えるように練習、 [授業外学習] 教科書8課を読んでおく
⑦	[テーマ] 自己紹介、かじこまった丁寧体② [内容] 「私は～です。～といます。」の練習 [授業外学習] 教科書5課を読んでおく			⑮	[テーマ] 総括 [内容] 1-8課まで学習した内容の総括、会話の練習 [授業外学習] 最終回のテストに備えて復習をする
⑧	[テーマ] 予定や持ち物の有無① [内容] ある、いる、ありません、いませんの表現学習、教科書6課の単語 [授業外学習] 教科書6課を読んでおく			⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学習] テストの準備をしておく
成績評価方法(方針)					
試験は、期末試験(評価割合80%)、授業内課題を評価する(評価割合20%)。→提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象になる。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと) 私語・スマートフォン(タブレット)使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。 * 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
定期試験	◎	◎		80%	
授業内レポート			○	20%	
授業外レポート				無し	
演習・実技				評価対象外	
授業態度				減点アリ	
出席				欠格条件	
関連科目	韓国語Ⅱ				
教科書	『新チャレンジ韓国語』、白水社、金順玉著			参考書	『もっとチャレンジ韓国語』、白水社、金順玉著
連絡先	hs-kim@sendai-u.ac.jp (オフィスアワー:水曜日14:20~16:00)				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	韓国語Ⅱ Korean Ⅱ			担当教員	金 賢植
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
韓国語Ⅰで学んだ内容をベースにして、日常会話を学習し、単語・文法は、会話を行いながら韓国人がよく使うパターン学習を練習する。また、基礎的な文章を応用して、あいさつ、買い物、道を尋ね、案内などの日常会話を学ぶ。韓国人とのコミュニケーションができるように、ペアを組んで発表するなど会話中心の授業を行う。					
授業の一般目標					
実用的な会話場面を提示し、毎回生徒同士がペアを組んで練習することで、自然な基礎会話能力を身に付ける。学生の興味・関心があるテーマ(スポーツ、旅行)を取り上げ、比較することで韓国と日本の文化をより深く理解できる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	韓国人と日本人の会話スタイルの類似点・相違点が理解できる。				
■ 情意的領域	韓国の文化について触れることによって、異文化交流に関心を持ち、広い世界観を確立する。				
■ 技能表現的領域	韓国語で日常会話ができる。				
授業計画(全体)					
韓国語Ⅰで学んだ例文を応用しながら、実用的な日常会話ができるように、学生同士あるいはグループで練習を行う。会話を中心に楽しく韓国語の会話を身につけるように授業を行う。(学生の学習の進度によって、授業計画を若干変更する場合があります。)					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 韓国語Ⅰの復習 [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介 [授業外学習] 韓国語Ⅰで学んだ内容の復習			⑨	[テーマ] 動作の進行や状態表現 [内容] 「～しています」という表現を学び、動作の進行や状態表現の練習、教科書11課の練習 [授業外学習] 教科書11課を読んでおく
②	[テーマ] 韓国語Ⅰの復習 [内容] 韓国語Ⅰで学んだ基本的表現の復習、基礎的な韓国語の表現を復習 [授業外学習] 教科書9課を読んでおく			⑩	[テーマ] ～くださいの表現とお金の教え方 [内容] 買い物や誰かにお願いする際に使う表現の習得と練習、教科書11課 [授業外学習] 文末表現、動作の進行や状態表現の復習する
③	[テーマ] 動詞、形容詞 [内容] 好き、嫌いの表現、動詞の否定 練習、教科書9課の単語の学習 [授業外学習] 教科書9課を読んでおく			⑪	[テーマ] 年齢に関する表現 [内容] 年齢の教え方、これまで9課から11課まで学んだ表現を用いて会話の練習 [授業外学習] 教科書12課を読んでおく
④	[テーマ] 目的表現、変則用言 [内容] 動詞の変則用言、目的を表す表現の練習、 [授業外学習] 教科書10課を読んでおく			⑫	[テーマ] 比較表現と二つの文章をつなぐ表現 [内容] 「～より、～が」のような比較表現、「～て、～です」「～けれど ～です」のような二つの内容をつなぐ表現の習得 [授業外学習] 教科書12課を読んでおく
⑤	[テーマ] 過去形の作り方 [内容] 動詞の過去形の作り方、「何をしましたか」のやり取り練習、教科書10課の単語の学習 [授業外学習] 会話練習のために、教科書9、10課を読んでおく			⑬	[テーマ] ペアで覚える形容詞 [内容] 日常生活でよく使われる形容詞を用いて会話の練習、教科書12課 [授業外学習] 教科書13課を読んでおく
⑥	[テーマ] 会話練習 [内容] 教科書9課、10課で学んだ表現と動詞を用いて会話の練習 [授業外学習] 会話練習のために、教科書9、10課を読んでおく			⑭	[テーマ] 動詞の可能表現 [内容] 「～することができる」の可能表現の練習、教科書13課の単語 [授業外学習] 教科書13課を読んでおく
⑦	[テーマ] 覚えたら便利な動詞 [内容] 身近な動詞を用いて会話の練習、教科書10課 [授業外学習] 教科書11課を読んでおく			⑮	[テーマ] よく使われる副詞、総括 [内容] 副詞を用いた会話の練習、教科書13課、9課から13課までの総括 [授業外学習] 最終回のテストに備えて復習をする
⑧	[テーマ] 文末表現 [内容] 「明日何をするつもりですか。」を用いてよく使われる文末表現の学習、教科書11課の単語の学習 [授業外学習] 教科書11課を読んでおく			⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学習] テストの準備をしておく
成績評価方法(方針)					
試験は、期末試験(評価割合80%)、授業内課題を評価する(評価割合20%)。→提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象になる。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと) 私語・スマートフォン(タブレット)使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。 * 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
定期試験	◎	◎		80%	
授業内レポート			○	20%	
授業外レポート				無し	
演習・実技				評価対象外	
授業態度				減点アリ	
出席				欠格条件	
関連科目	韓国語Ⅰ				
教科書	『もっとチャレンジ韓国語』白水社 金順玉著			参考書	『新チャレンジ韓国語』、白水社 金順玉著
連絡先	hs-kim@sendai-u.ac.jp (オフィスアワー:水曜日14:20~16:00)				

《人生設計科目》

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	キャリアプランニング I Career Planning I (L.)			担当教員	クラス担任教員、キャリアプランニング運営担当教員
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
この授業では、学生生活(授業、日常、部活その他)での目的意識(なぜ、今ここにいて、これを行っているのか)を吟味することを通じ、大学生生活の充実を図ります。また、1年生からの人生設計(キャリアプランニング)の意識化を行います。					
授業の一般目標					
ライフステージの一段階として大学生活を考え、学生生活の目標を自分なりにさだめることができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	改めて入学時の目標や夢を再確認する。今後の大学生活と進路とを結びつけて考えられる。希望の職業以外の職業にもある程度の知識を持つ。			
■	情意的領域	職業や進路を話しあうことができる仲間を持つ。			
■	技能表現的領域	コース選択や科目履修を主体的に計画できる。			
授業計画(全体)					
実施内容により、個別学習、小グループでの演習、クラスでのディベート、クラス合同の授業など、異なった形態をとります。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(全クラス合同) [内容] キャリア・プランニングの考え方について説明し、本授業の流れについて説明します。 [授業外学習] 自らの将来の希望や見通しを考える。			⑨	[テーマ] いろいろな職業と必要な知識・技能・資格2(クラス単位) [内容] グループごとに調べた職業について、クラス内で発表します。 [授業外学習] 発表準備。
②	[テーマ] 講話①(全クラス合同) [内容] 外部講師をお招きし、大学生活で心掛ける点についての講話をして頂きます。 [授業外学習] 普段の生活態度を問い直す。			⑩	[テーマ] 他者からみた自分・自分からみた他者(クラス単位) [内容] 仲間からどのように見られているかを互いに検討することを通じ、人間関係における自分のポジションや役割を考えます。 [授業外学習] 他者にどう接するべきかを考える。
③	[テーマ] 講話②(全クラス合同) [内容] 外部講師をお招きし、大学生活で心掛ける点についての講話をして頂きます。 [授業外学習] 普段の生活態度を問い直してみよう。			⑪	[テーマ] 社会が求める「スキル」「能力」とは(クラス単位) [内容] 行政や産業界から求められる様々な能力のうち、「社会人基礎力」をとりあげ、自己評価を行います。 [授業外学習] 自分の「強み」「弱み」の活かし方を考える。
④	[テーマ] 導入演習、夏休みの反省、後期の目標(クラス単位) [内容] 本学進学当時の目的について改めて思い返し、夏休みの反省も踏まえ、後期の大学生活の目標を考えます。 [授業外学習] 進学当時からのことを改めて振り返る。			⑫	[テーマ] 「夢」を描こう(クラス単位) [内容] 10年後の自分を想像したり、10年前の夢を思い出したりしながら、自分の夢について語りあってみよう。 [授業外学習] 改めて自分の将来の姿を考える。
⑤	[テーマ] 「はたらく」とはどういうことか(クラス単位) [内容] 「はたらく」ということを深く考えると難しい面があります。改めて自分なりに考えてみます。 [授業外学習] はたらく意味を自分なりに考える。			⑬	[テーマ] 来年度の目標を書こう(クラス単位) [内容] 2年生を見据えて、来年どんなことに挑戦したいか、またそのためにどのような取り組みが必要かを検討してみよう。 [授業外学習] 改めて自分の将来の姿を考える。
⑥	[テーマ] 教師になるには?(クラス単位) [内容] 入学生の過半が希望する教師という職業について、その現状と超えるべきハードル、日程について確認します。 [授業外学習] 教師になるまでの道のりについて調べる。			⑭	[テーマ] 就職内定の4年生・卒業生の話を聞こう(全クラス合同) [内容] 就職の内定を得た4年生や卒業生をお呼びし、進路決定方法、準備方法、現段階でやるべきことなどの講話をしてもらいます。 [授業外学習] 自分なりの就職に向けたスケジュールを考える。
⑦	[テーマ] 体育・スポーツ系の仕事とは?(クラス単位) [内容] 教師以外の体育・スポーツに関わる仕事、業界と関連資格などを調べ、自分の志望を再度確認します。 [授業外学習] 興味のある職業について考える。			⑮	[テーマ] 自分の方がらと適職について考えよう(全クラス合同) [内容] 職業興味検査を行い、自己採点と自己分析をしよう。 [授業外学習] 職業興味検査の結果をよく検討する。
⑧	[テーマ] いろいろな職業と必要な知識・技能・資格1(クラス単位) [内容] スポーツ系以外で世の中にはどんな職業があるのか、またそれらに関連する資格、知識、技能とは? グループごとに調べます。 [授業外学習] グループ学習。			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。評定の材料は出席状況および授業参加の態度です。なお、成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート	◎	◎	◎		30%
授業外レポート	△	△	△		20%
演習・実技	△	△	△		20%
授業態度	◎	◎	◎		30%
出席					
関連科目	キャリアプランニングⅡ・キャリアプランニングⅢ				
教科書	「キャリアプランニングⅠ演習資料」 (オリエンテーション時に配布します)			参考書	
連絡先	クラス担任教員				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	キャリアプランニングⅡ Career Planning Ⅱ (S.)			担当教員	キャリアプランニング運営担当教員
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数	2	
授業の概要					
本科目は、キャリアプランニングⅠで学んだことを活かしながら、将来の進路について各々が考えるきっかけやヒントを得るための科目である。講義形式での学びやインターンシップ実習(職業体験学習)の機会を通じて、将来への視圏を拡大するとともに、来たるべき社会人生活のありかたを実践的に理解する機会として欲しい。					
授業の一般目標					
「自分と社会人生活・進路選択」をメインテーマに、様々な学びの機会を通じて自分自身を自覚的に捉え、今後の進路について具体的に考えることができるようになることを目標とする。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	職業について、より深い具体的知識を備える。また、職場の人間関係や「やりがい」について自分なりに意見を持てる。				
■ 情意的領域	職業選択に当たり、自分なりの動機をより強くする。				
■ 技能表現的領域	社会人らしい考え方、話し方をすることができる。				
授業計画(全体)					
下記の内容を集中講義の形で実施する。期日等については、後日掲示する。 なお、本科目は実習か講義かのコースを選択でき、また実習はさらに幾つかのプランに分かれる。詳細は第1回・第2回のガイダンスで周知するが、事前に夏休み期間の予定を確認すること(実習・講義共に夏季休暇期間の実施がメインとなるため)。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 第1回オリエンテーション [内容] 本科目の基本的な流れとコース説明、履修の仕方を概説する。 [授業外学習] 自らの将来の希望や見通しについて考える。			⑨	[テーマ] 社会を知る① [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学習] 社会で求められる能力を調べておく。
②	[テーマ] 第2回オリエンテーション [内容] コースごとの詳細な説明を行い、コース選択を実施する。 [授業外学習] 第1回オリエンテーションの内容を見直す。			⑩	[テーマ] 社会を知る② [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学習] 社会で求められる人格を調べておく。
③	[テーマ] 第3回オリエンテーション [内容] コースごとに分かれ、それぞれの今後の進め方を概説する。 [授業外学習] 第2回オリエンテーションの内容を見直す。			⑪	[テーマ] コミュニケーション能力① [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学習] 自分のコミュニケーション能力を検討する。
④	[テーマ] 将来の進路を考える① [内容] 講義コース:講話 実習コース:実習先開拓 [授業外学習の指示等] 自分なりに自己分析の方針を考える。			⑫	[テーマ] コミュニケーション能力① [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学習] 自身のコミュニケーション力を再検討する。
⑤	[テーマ] 将来の進路を考える② [内容] 講義コース:講話 実習コース:実習先開拓 [授業外学習] わからない職業は自分なりに調べておく。			⑬	[テーマ] キャリアデザイン① [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学習] 将来の夢や希望を再確認する。
⑥	[テーマ] 将来の進路を考える③ [内容] 講義コース:講話 実習コース:実習先開拓 [授業外学習] 分析結果から見た自分像について考える。			⑭	[テーマ] キャリアデザイン② [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:実習 [授業外学習] 将来に向かってやるべきことを確認する。
⑦	[テーマ] 社会人基礎力① [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:事前指導 [授業外学習] 一般的マナーや礼儀を調べておく。			⑮	[テーマ] まとめ [内容] これまでのまとめ [授業外学習] 提出物などに漏れがないか確認する。
⑧	[テーマ] 社会人基礎力② [内容] 講義コース:集中講義 実習コース:事後指導 [授業外学習] 社会的マナーや礼儀を調べておく。			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
キャリアプランニング科目は「認定」・「不可」・「放棄」の3種類により評定を行います。評定の主材料は出席状況および授業もしくは実習参加の態度です。なお、成績評価のためには3分の2以上の出席が必要です。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	作業、議論、調査などを通じ、上記のことがらに迫りますので、積極的に参加してください。なお、大学設置基準で求められている時間の時間外学習を行うこと。
定期試験	—	—	—	—	
授業内レポート	○	○	○	20%	
授業外レポート	○	○	○	20%	
演習・実技	◎	◎	◎	30%	
授業態度	◎	◎	◎	30%	
出席					
関連科目	キャリアプランニングⅠ・キャリアプランニングⅢ				
教科書				参考書	
連絡先	キャリアプランニング運営担当教員(オリエンテーション時に告知する)				

2. 專門基礎科目

《講義》

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	スポーツ社会学 Sociology of Sport (L)			担当教員	荒牧 亜衣
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
スポーツと社会との関係から、近代スポーツの特徴および現代スポーツの特徴やその意義、役割を概説する。また望ましいスポーツ振興のあり方や方法について具体的に解説する。					
授業の一般目標					
スポーツを社会現象として捉え、社会との関係からスポーツの特徴やあり方が理解できるようになる。さらにわが国のスポーツ文化の特徴や今後の望ましいあり方について思考できる能力を身につける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	わが国のスポーツの現状や望ましいスポーツのあり方について説明できる。			
■	情意的領域	スポーツ指導やスポーツ集団の運営に関心をもち、意欲的に取組むことができる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
テキストに沿って、その内容および関連事項について解説する。また内容の理解のための確認テストを授業内において行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] スポーツ社会学とは [内容] 本授業の計画及び授業の進め方等について説明する。 [授業外学習] 自分とスポーツの関係について発表できるようにしておくこと			⑨	[テーマ] スポーツ参与とスポーツ的社会化(2) [内容] スポーツへの社会化とスポーツ・ドロップアウト、バーンアウトについて解説する。 [授業外学習]バーンアウトの原因について考えておくこと
②	[テーマ] 現代スポーツの特徴と「スポーツの危機」 [内容] 現代スポーツの特徴を解説するとともに、スポーツをめぐる諸問題について特にオリンピック競技大会を中心に説明する。 [授業外学習] スポーツにおける諸問題について発表できるようにしておく			⑩	[テーマ] スポーツ参与とスポーツ的社会化(3) [内容] 日本人のスポーツ参与の実態と生涯スポーツの課題について解説する。 [授業外学習] 日本人のスポーツ参加のデータを調べておくこと
③	[テーマ] スポーツと社会(1) [内容] 近代スポーツの誕生とその社会的背景について解説する。 [授業外学習] イギリス近代社会の特徴について理解しておくこと			⑪	[テーマ] スポーツ集団(1) [内容] わが国のスポーツ集団の特徴とその背景について解説する。 [授業外学習] 大学スポーツの歴史について調べておくこと
④	[テーマ] スポーツと社会(2) [内容] 現代社会におけるスポーツの意義や役割について解説する。 [授業外学習] 現代社会とはどのような特徴を持つのかを理解しておくこと			⑫	[テーマ] スポーツと政治・経済(1) [内容] オリンピック競技大会を事例に、スポーツと政治との関係について解説する。 [授業外学習]1936年ベルリン大会について調べておくこと
⑤	[テーマ] スポーツと文化(1) [内容] スポーツの文化的性格について解説する。 [授業外学習] 文化とは何かを調べておくこと			⑬	[テーマ] スポーツと政治・経済(2) [内容] スポーツにおけるナショナリズムについて、オリンピック競技大会を事例に解説する。 [授業外学習] ナショナリズムとは何かについて調べておくこと
⑥	[テーマ] スポーツと文化(2) [内容] ホイジンガ、カイヨワの議論を参考にプレイとは何かについて解説する。 [授業外学習] ホイジンガやカイヨワという学者について調べておくこと			⑭	[テーマ] スポーツと政治・経済(3) [内容] 箱根駅伝を事例として、スポーツとテレビメディアの関係について解説する。 [授業外学習] 箱根駅伝の歴史について調べておくこと
⑦	[テーマ] スポーツと文化(3) [内容] スポーツ文化の構成要素とスポーツ観について解説する。 [授業外学習] 自らのスポーツ観について発表できるようにしておくこと			⑮	[テーマ] スポーツと政治・経済(4) [内容] スポーツにおける商業主義について解説する。 [授業外学習] 商業主義とは何かについて調べておくこと
⑧	[テーマ] スポーツ参与とスポーツ的社会化(1) [内容] スポーツ参与およびスポーツ的社会的概念について解説する。 [授業外学習] 自らのスポーツ経験について発表できるようにしておくこと			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 授業の理解度・到達度を確認するための期末試験を行う。 [授業外学習] テキストを熟読し、復習しておくこと
成績評価方法(方針)					
期末試験の成績(60%)、授業内課題及び確認テストの成績(40%)、以上の結果を総合して成績評価を行う。提出されたレポートは授業において解説し、内容についてフィードバックを行う。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			60%
授業内レポート		◎			40%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度			○		加点あり
出席					欠格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・テキストに沿って授業を行うので、必ず下記テキストを準備し、予習をしておくこと。 ・受講は静粛を旨とし、質問に対しては積極的に発言すること。 ・授業計画は進捗状況等に応じて変更することがある。 ・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。 					
関連科目	体育原理(1年)、スポーツ経営学(1年)、地域スポーツ戦略論(2年)、スポーツ史(3年)、社会学概論、社会構造と人間				
教科書	丸山富雄編著『現代スポーツ論』中央法規出版			参考書	
連絡先	荒牧亜衣(A棟510) ai-aramaki@sendai-u.ac.jp				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	スポーツ心理学 Sport Psychology (L.)			担当教員	栗木一博/菊地直子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
メンタルトレーニングの実践などスポーツに取り組む多くの人の中で心理学の重要性に対する認識が高まってきている。本講義ではスポーツの場面に存在する様々な問題を心理学的に解説する。さらに、それを競技力の向上やスポーツの指導のために応用する方法について解説する。					
授業の一般目標					
スポーツ心理学の基礎的な事項を学習し、競技力の向上やスポーツ指導の場面に存在する様々な問題を心理学的に把握できる。さらに、自分自身の競技生活やスポーツの指導場面にこれらの知識を当てはめて考えることができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツ心理学の基礎的な事項についての説明ができる。スポーツ場面に存在する問題を心理学的に捉えることができる。			
■	情意的領域	スポーツ場面の問題点に対して主体的に興味を持ち、心理学的に焦点を当てて考えることができる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
スポーツ心理学の基礎的な知識に関する解説を行なう。それらが実際のスポーツ場面で応用できるように自分自身のスポーツ経験に照らし合わせて考える時間や具体的な事例の提示を行なう。学習内容の振り返りのために小レポートを実施し、理解度到達度を確認する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目的および概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方について解説する。 [授業外学習]シラバスを熟読すること。			⑨	[テーマ] スポーツとこころの健康 [内容] メンタルヘルスに関する問題やその重要性について解説する。それとともに、スポーツと発達についても触れる。 [授業外学習]コミュニケーションということばの意味について調べる。
②	[テーマ] スポーツにおける心理アセスメント [内容] 心理テストを利用して心理的なアセスメントを行なうとともに、その利用方法について解説する。 [授業外学習]どのような心理テストがあるのかを調べておく。			⑩	[テーマ] スポーツ選手のアイデンティティ [内容] スポーツの低年齢化や高度化に伴い、スポーツ選手のアイデンティティがどのように形成されていくのか解説する。 [授業外学習]「自我同一性」ということばについて調べておく。
③	[テーマ] スポーツにおける動機づけ理論① [内容] 認知、情動、欲求の各側面から今日までの動機づけ理論について解説する。 [授業外学習]「やる気」とはどのようなものか発表できるように準備する。			⑪	[テーマ] ストレスの概念と生体の反応及びアセスメント [内容] ストレスの概念・定義及び各因子について解説するとともに、その評価方法についても解説する。 [授業外学習]自分のストレスについてまとめておく。
④	[テーマ] スポーツにおける動機づけ理論② [内容] 原因帰属理論、内発的動機づけ理論などについて解説する。スポーツ場面における動機づけ理論の応用について解説する。 [授業外学習]前回学習した動機づけ理論の基礎について確認をする。			⑫	[テーマ]スポーツ選手の性格 [内容]スポーツ選手の生きている現実的・心理的世界を探索し、理解させる。 [授業外学習]自分のストレスを評価してみる。
⑤	[テーマ] スポーツにおける目標設定 [内容] 動機づけを高める手法としての目標設定について解説する。 [授業外学習]自分の目標をワークシートに表現できるように整理する。			⑬	[テーマ]スポーツカウンセリング① [内容] スポーツに関与するうちに起こるスポーツ障害、およびストレスについて解説する。 [授業外学習]スポーツ選手の育つ環境的側面について復習しておく。
⑥	[テーマ] スポーツにおける集中力① [内容] 「注意」の性質について解説する。スポーツにおける「集中力」の性質について解説する。 [授業外学習]「集中力」ということばの意味について調べておく。			⑭	[テーマ] スポーツカウンセリング② [内容]熱中度の高いスポーツアスリートのスポーツにおける滞りとその背景、症状について解説する。 [授業外学習]スポーツ障害とアスリートの背景について復習する。
⑦	[テーマ] スポーツにおける集中力② [内容] 情報処理モデルを用いて注意集中について解説する。集中力のコントロールのための方法について解説する。 [授業外学習]前回学習した「集中力」について確認する。			⑮	[テーマ]スポーツカウンセリング③ [内容] スポーツ選手のこころの健康と競技について、示唆し、考えさせる。 [授業外学習]スランプやプラトーについて調べる。
⑧	[テーマ] スポーツとリーダーシップ [内容] 特性論、類型論、機能論、状況適合論からリーダーシップ理論について解説する。また、グループダイナミクスについて解説する。 [授業外学習]望ましいリーダー像について説明できるようにしておく。			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度を測定するための試験を実施する。 [授業外学習]テストの準備をしておく。
成績評価方法(方針)					
試験は、期末試験を一回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合40%)を課す。そしてこれらの結果を総合して成績評価を行なう。出席は評価割合に加え、欠格条件となる。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			60%
授業内レポート		○	◎		40%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。					
関連科目					
教科書				参考書	
連絡先	栗木研究室(E棟2階:内線336)、菊地研究室(第4体育館1階:内線429)				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		スポーツバイオメカニクス Sport Biomechanics (L.)			担当教員	宮西 智久
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	関連資格	教員免許状・健康運動指導士・同実践指導者、アスレチックトレーナー、レクレーション・コーディネーター、NSCA-CPT、CSCS、JPSUスポーツトレーナー
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						
スポーツバイオメカニクスは、「スポーツ運動において、力学的な力(外力と内力)が身体とその運動に及ぼす影響を研究する科学」である。本講義では、スポーツの運動を題材にしてスポーツバイオメカニクスの基盤となる力学(ニュートン力学)の基礎的事項を中心に学習する。具体的には、運動を記述するキネマティクス(運動学)、運動の原因に迫るキネティクス(運動力学)を中心に、さらに流体力学、筋収縮の力学について学ぶ。						
授業の一般目標						
スポーツバイオメカニクスとは何かを理解し、体育・スポーツの技術指導やトレーニング現場で直面する問題を解決するにあたって、スポーツバイオメカニクスの知識や知見を活用・応用することができる。すなわち、身近なスポーツの運動について、パフォーマンスの向上と傷害予防の観点から合理的な運動や安全な運動とは何かを科学的に理解し説明することができるようになる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	スポーツバイオメカニクスで用いるキー概念や専門語の意味について理解し、スポーツの運動現象について論理的に説明することができる。				
■	情意的領域	スポーツの運動における実践的主観を客観化することによって興味や関心を深める。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
本講義は大きく6つのパートから構成されている。パートⅠ:スポーツバイオメカニクス序説(1回)、パートⅡ:キネマティクス(並進運動のキネマティクス2回、回転運動のキネマティクス2回)、パートⅢ:キネティクス(並進運動のキネティクス3回、回転運動のキネティクス3回)、パートⅣ:仕事・エネルギー・パワー(1回)、パートⅤ:流体力学(1回)、パートⅥ:筋収縮の力学(2回)。本講は、これらのパートについて順に系統だって進められる。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] スポーツバイオメカニクス序説 [内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション(授業概要、目標、評価他)を行った後、スポーツバイオメカニクスの歴史をひも解き、定義、目的、現代的意義を述べる。 [授業外学習] 教科書(1章)の予習と復習			⑨	[テーマ] 回転運動のキネティクスⅠ [内容] 力のモーメント(トルク)、回転運動の発生、力のモーメント計算 [授業外学習] 教科書(6章)の予習と復習	
②	[テーマ] 力学と数学の基礎 / 並進運動のキネマティクスⅠ [内容] 力学モデル、運動の形態(並進/回転/一般)の種類(等速/等加速度/加速度)、スカラー量とベクトル量、ベクトルの加算・減算、三角関数、行列、微分・積分、SI単位 [授業外学習] 教科書(2, 3章)の予習と復習			⑩	[テーマ] 回転運動のキネティクスⅡ [内容] つり合い、てこの原理、重心とその測定法、重心の性質、姿勢の安定、慣性モーメント、平行軸の定理 [授業外学習] 教科書(6章)の予習と復習	
③	[テーマ] 並進運動のキネマティクスⅡ [内容] 位置、速度、加速度、加速度の正負、加速度と力の関係、等速度運動と等加速度運動、放物運動 [授業外学習] 教科書(3章)の予習と復習			⑪	[テーマ] 回転運動のキネティクスⅢ [内容] ニュートンの運動の三法則の回転編、回転の運動方程式、角運動量と角力積、角運動量保存の法則 [授業外学習] 教科書(6章)の予習と復習	
④	[テーマ] 回転運動のキネマティクスⅠ [内容] 角度、角速度、角加速度、角加速度の正負、角加速度と力のモーメントの関係 [授業外学習] 教科書(4章)の予習と復習			⑫	[テーマ] 仕事・エネルギー・パワー [内容] 仕事と力、仕事と力学的エネルギー、衝突と力学的エネルギーの保存、仕事とパワー、パワーと力学的エネルギー、エネルギーの変換、力学的効率 [授業外学習] 教科書(7章)の予習と復習	
⑤	[テーマ] 回転運動のキネマティクスⅡ [内容] 回転運動変量の方向、角速度と速度の関係、等速円運動と等角加速度運動 [授業外学習] 教科書(4章)の予習と復習			⑬	[テーマ] 流体力学:空気や水による力 [内容] 物質の三態、アルキメデスの原理、浮力と浮心、層流と乱流、流体力(抗力・揚力)、ベルヌーイの定理、マグヌス効果 [授業外学習] 教科書(8章)の予習と復習	
⑥	[テーマ] 並進運動のキネティクスⅠ [内容] 力、力の三要素、ニュートンの運動の三法則の並進編、ダランベールの原理 [授業外学習] 教科書(5章)の予習と復習			⑭	[テーマ] 筋収縮の力学Ⅰ [内容] 筋の種類と構造・機能、骨格筋の力発揮特性(力-長さ関係、力-速度関係、力-パワー関係)、筋収縮モデル [授業外学習] 教科書(9章)の予習と復習	
⑦	[テーマ] 並進運動のキネティクスⅡ [内容] いろいろな力(万有引力と重力、垂直抗力と摩擦力、外力と内力)、運動量と力積、運動量保存の法則 [授業外学習] 教科書(5章)の予習と復習			⑮	[テーマ] 筋収縮の力学Ⅱ [内容] 身体外部の物体へ発揮する力、関節モーメントの発生、筋張力計算、筋張力発揮増大に関わる要因 [授業外学習] 教科書(9章)の予習と復習	
⑧	[テーマ] 並進運動のキネティクスⅢ [内容] フリーボディダイアグラム、並進の運動方程式、加速度と力・速度・変位の関係 [授業外学習] 教科書(5章)の予習と復習			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 選択問題(マークシート方式) [授業外学習] 教科書、ノート等を復習し試験に万全を期すこと。	
成績評価方法(方針)						
定期試験、授業外レポート等に基づき評価する(解答掲出)。試験や提出されたレポートは解説をしながら返却する。受講態度が悪い学生は減点対象とする。詳細は第1回目の講義において伝える。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	受講条件: 1. 教科書を必ず持参すること。教科書を持参しない者は欠席とします。 2. 学生証を忘れた者は欠席とします。 3. 学期末定期試験の受験資格者は総授業時数の2/3以上の出席率(率参照)を満たした者です。授業の公欠はありません。受験資格者は最終講義後に掲示板にて発表します。試験は学期に基づき実施します。 4. 指定座席に座ること。 5. スマホや携帯電話の電源を切り、手に持たないこと。 6. 講義に集中し静聴すること。静聴できない学生は周囲に多大な迷惑を掛けるだけでなく、講義の進行に大変支障を来しますので受講しないで下さい。なお、受講態度(私語、飲食、居眠り他)が悪い学生は減点するだけでなく、退室させる場合があります。 7. 高校までの物理学(力学)や数学で学習した知識で理解できる内容です。教科書の予習に加え、中学・高校時の物理学・数学の教科書を復習し講義に臨んで下さい。なお、ノート、筆記用具はもちろんのこと、計算問題がありますので電卓(関数電卓推奨)を持参下さい。 8. 大学設置基準で定められている時間の授業時間外学習を行なうこと。 9. その他重要事項は第1回目の講義において伝えますので、必ず出席すること。
定期試験		○			75%	
授業内レポート					-	
授業外レポート		○			25%	
演習・実技					-	
授業態度			○		減点対象	
出席					欠格条件	
関連科目	スポーツ技術観察論(2年)、スポーツコーチング実習(3年)、ストレングス&コンディショニング実習(3年)、卒業論文(4年)					
教科書	スポーツバイオメカニクス(宮西編, 化学同人)			参考書	スポーツ技術のバイオメカニクス(J.Hay著, BookHouse HD) スポーツバイオメカニクス20講(阿江・藤井著, 朝倉書店)	
連絡先	管理研究棟4F404号室【オフィスアワー:木曜日16:00~17:30】					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		運動生理学 Exercise Physiology (L)			担当教員	内丸 仁
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	JPSUスポーツトレーナー
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						
運動生理学では生理学や解剖学を基礎として、活動(運動時)状態における人体の働きについて、生理学的な機能あるいは構造学的変化について体系的に講義を行う。						
授業の一般目標						
運動時の筋・神経・呼吸・循環系の生理学的な機能および働きあるいは構造学的変化について学ぶ。また、競技力向上のためのトレーニング、ウォームアップおよびクールダウンの重要性、疲労、健康に及ぼす運動の効果についても理解する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	活動(運動時)の人体の生理学的な応答・適応について理解する。				
■	情意的領域	実際の活動(運動およびトレーニング)において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解して取り組むことが出来るようになる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
各回の授業テーマについて、PowerPointを用いた講義が中心となる。また、各授業毎に小テストを実施・提出させることで、理解度・到達度を確認する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 運動生理学とは？ [内容] 運動生理学の授業の進め方と生理学、運動生理学およびスポーツ生理学についての説明 [授業外学習] シラバスをよく読んでおくこと			⑨	[テーマ] 運動と呼吸循環Ⅱ [内容] 心臓および血管の循環系による血液運搬、運動時の血圧の変化、および運動や姿勢変化による循環系への影響について説明する。 [授業外学習] P90～100をよく読んでおくこと	
②	[テーマ] 運動と骨格筋Ⅰ [内容] 筋の分類と運動を起こす骨格筋の微細構造、筋収縮のメカニズムについて説明する [授業外学習] P1～6をよく読んでおくこと			⑩	[テーマ] 運動と呼吸循環Ⅲ [内容] 運動における呼吸循環応答、酸素摂取量、酸素借および酸素負債について説明する [授業外学習] P101～108をよく読んでおくこと	
③	[テーマ] 運動と骨格筋Ⅱ [内容] 筋収縮におけるATPの役割と無酸素的および有酸素的エネルギー供給機構と筋線維組成について説明する [授業外学習] P6～12をよく読んでおくこと			⑪	[テーマ] 運動と呼吸循環Ⅳ [内容] 運動トレーニングにおける呼吸循環系の適応について説明する [授業外学習] P109～117をよく読んでおくこと	
④	[テーマ] 運動と骨格筋Ⅲ [内容] 筋力発揮特性について説明する [授業外学習] P13～18をよく読んでおくこと			⑫	[テーマ] 運動と免疫 [内容] 運動における免疫系の変化やトレーニングによる免疫機能の適応について説明する [授業外学習] P76～83をよく読んでおくこと	
⑤	[テーマ] 運動と骨格筋Ⅳ [内容] 骨格筋の適応と変化、筋力トレーニングの効果について説明する。 [授業外学習] P19～28をよく読んでおくこと			⑬	[テーマ] 運動と外部(高温、高地、水中他)環境と水分摂取・体温調節 [内容] 暑熱、寒冷、高地、水中といった異なる環境下での運動時の生理学的な応答について体温調節や水分摂取について説明する [授業外学習] P154～162をよく読んでおくこと	
⑥	[テーマ] 運動と神経 [内容] 神経の名称と働き、および運動に関連する神経機構、運動単位および反応と反射について説明する [授業外学習] P29～57をよく読んでおくこと			⑭	[テーマ] 体力と体力特性とトレーニング [内容] 体力の定義とスポーツ選手を中心としたの体力特性について、体力維持・増進のためのトレーニングについて説明する [授業外学習] P134～153をよく読んでおくこと	
⑦	[テーマ] 運動と内分泌系とストレス [内容] 運動時に体内で分泌されるホルモンの名称と働き、運動によるストレスの変化やトレーニングによるストレスへの適応について説明する [授業外学習] P58～75をよく読んでおくこと			⑮	[テーマ] 運動と健康および加齢 [内容] 健康に及ぼす運動の効果、加齢に伴う健康の問題点やその予防方法としての運動について説明する [授業外学習] P121～133をよく読んでおくこと	
⑧	[テーマ] 運動と呼吸循環Ⅰ [内容] 運動時の呼吸の調整と肺換気のマニクス、ガス交換および無酸素性作業閾値について説明する [授業外学習] P84～90をよく読んでおくこと			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確認するためにテストを実施する。 [授業外学習] これまでの復習をすること	
成績評価方法(方針)						
筆記テスト(持込不可)を1回実施する(評価割合70%)。また、授業内に実施するクイズ(評価割合30%)および出席状況や授業態度(減点あり)を含めた成績評価を行う。なお、授業態度が授業進行上において悪いと判断した場合には減点の対象とする。出席が2/3(10回)未満の学生は失格条件となる。提出されたクイズは解説しながら返却する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。 ・教科書とノート必ず持参すること。 ・講義中に私語などで他の学生の迷惑になる、あるいは授業に支障をきたすと判断した場合には退出してもらう。授業中の私語や携帯電話の使用は厳禁とする(減点あり)。 ・予習・復習を行うこと。 ・授業計画は授業の進行状況により多少前後および内容を変更することがある。
定期試験		◎			70%	
授業内レポート		◎	○		30%	
授業外レポート					評価対象外	
演習・実技					評価対象外	
授業態度			○		減点あり	
出席			○		減点あり	
関連科目	スポーツ医学概論					
教科書	スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識 村岡功編著 市村出版			参考書	運動生理学 石河利寛、杉浦正輝共著 建邦社 はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ3 スポーツ生理学 富樫健二編 化学同人	
連絡先	研究室:C棟2F オフィスアワー:月曜日 16:00～17:00					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	スポーツ指導の基礎(含実習)			担当教員	阿部 肇・武石健哉
	Fundamentals of Sports Coaching				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
<p>スポーツ指導者の実際的な機能と役割は多岐に渡り、選手の競技力向上を目的とした助言や介助的行為のみならず、スポーツ組織におけるマネジメント的側面での責務も大きい。本講義では、指導者の機能と役割とは何かに始まり、トレーニング構成の諸原則、ならびに種々のマネジメント的側面からみた組織論について学習する。</p>					
授業の一般目標					
<p>スポーツ指導におけるコーチ(指導者)の実際的な職務を知り、求められる能力を理解できるようなる。そして、実践の場における指導上の様々な具体的な方法論を身に付ける。そこには、組織運営上のマネジメント側面やトレーニング計画を立案、実行する選手育成の内容も含まれる。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	コーチの役割と、その実務における具体的な方法論を説明できる。			
■	情意的領域	指導に関する理論的な思考を持つことができる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
<p>本講義では、先ず指導者の実際的な機能と役割とは何かについて、トレーニングや試合場面での選手への助言や介助的行為といった狭義なものから、スポーツ組織におけるマネジメントといったより広義な側面まで概説する。その後、指導者として選手に提供するトレーニング内容をいかに構成(デザイン)していくべきかについて、より詳細に講義を進める。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容		回	授業テーマとその内容	
①	<p>[テーマ] 講義ガイダンス(阿部) [内容] 担当教員の紹介、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法 [授業外学習]シラバスを熟読すること</p>		⑨	<p>[テーマ] トレーニング課題と手段、方法の関係(阿部) [内容] トレーニングにおける「手段-方法-課題」の対応関係を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと</p>	
②	<p>[テーマ] スポーツ(競技)集団の構造と指導者(武石) [内容] 競技集団にはどのような構造があり、そこでの指導者の関わりを説明する [授業外学習]資料を基に予習しておくこと</p>		⑩	<p>[テーマ] トレーニング構成の一般原理(阿部) [[内容] トレーニング計画を立案する際の一般原理を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと</p>	
③	<p>[テーマ] 発達過程におけるコーチ・選手関係の変化(武石) [内容] 選手の発達に伴うコーチと選手の関係のあり方を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと</p>		⑪	<p>[テーマ] トレーニング構成の基本単位(阿部) [内容] トレーニングを構成する、課業、ミクロ、メゾ、マクロの基本単位を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと</p>	
④	<p>[テーマ] 指導者の機能と役割(武石) [内容] 指導者にはどのような機能があり役割を果たしているか説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと</p>		⑫	<p>[テーマ] トレーニング構成の計画立案(阿部) [内容] トレーニング構成の具体的な計画の立案について説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと</p>	
⑤	<p>[テーマ] 組織における6つの基本構造ブロック(武石) [内容] 競技組織(集団)における基本的な構造について説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと</p>		⑬	<p>[テーマ] トレーニング構成の実際①(ミクロ周期)(阿部) [内容] ミクロ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと</p>	
⑥	<p>[テーマ] 組織の内部影響力としての基本的引力(武石) [内容] 組織の構造変化に伴う目標や理念による諸引力の存在を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと</p>		⑭	<p>[テーマ] トレーニング構成の実際②(メゾ周期)(阿部) [内容] メゾ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと</p>	
⑦	<p>[テーマ] 組織の基本類型(阿部) [内容] 様々なタイプの組織の基本的な構造を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと</p>		⑮	<p>[テーマ] トレーニング構成の実際③(マクロ周期)(阿部) [内容] マクロ周期におけるトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと</p>	
⑧	<p>[テーマ] 組織のライフサイクル・モデル(阿部) [内容] 組織構造が諸引力(目標、理念)に導かれ変化する様を説明する [授業外学習]資料を基に復習しておくこと</p>		⑯	<p>[テーマ] テスト(阿部) [内容] 授業の理解度、到達度を確かめるテストを行う [授業外学習]テストに備えて復習しておくこと</p>	
成績評価方法(方針)					
<p>試験は、期末試験を1回実施する(評価割合80%)。また、授業内レポートを課す(評価割合20%)。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象となる。出席は欠格条件とする。提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。</p>					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行うこと。私語、遅刻等の授業進行の妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。20分以上の遅刻は欠席とみなす。2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない(欠格条件)。授業計画は授業の進み方により前後する場合がある。</p>
定期試験	◎			80%	
授業内レポート		◎		20%	
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度				減点あり	
出席				欠格条件	
関連科目	無し				
教科書	無し(プリント資料を配布する)			参考書	
連絡先	研究室:阿部 肇 A棟4階406 オフィスアワー 火曜 10:00-12:30 / 武石健哉 4体1階425				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	幼少年体育論			担当教員	早川 公康
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
幼少年における体育・運動の理論および、その実践活用の考え方を学ぶ。					
授業の一般目標					
幼少年における体育・運動の理論および、その実践活用の考え方について説明できる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	幼少年における体育・運動の理論および、その実践活用の考え方について説明できる				
■ 情意的領域	幼少年における体育・運動の理論および、その実践活用の考え方について関心を持つ				
■ 技能表現的領域	幼少年における体育・運動の実践について基本的な対応ができる				
授業計画(全体)					
テキストまたは資料等を用いた座学での理論学習および学外での実践活用学習等を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員の紹介、授業予定・概要説明 [授業外学習]該当テキストページ等の予習・復習			⑨	[テーマ] 中間のまとめ [内容] 前半の内容を振り返り、要点を確認する。 [授業外学習]該当テキストページ等の予習・復習
②	[テーマ] 幼少年の身体 [内容] 幼少年の身体について [授業外学習]該当テキストページ等の予習・復習			⑩	[テーマ] 幼少年期の日常動作の発達 [内容] 幼少年期の日常動作の発達について [授業外学習]該当テキストページ等の予習・復習
③	[テーマ] 幼少年体育指導に期待されること [内容] 幼少年体育指導に期待されることについて [授業外学習]該当テキストページ等の予習・復習			⑪	[テーマ] 実技・基本の遊び [内容] 実技・基本の遊びについて [授業外学習]該当テキストページ等の予習・復習
④	[テーマ] 子どもの生活と健康 [内容] 子どもの生活と健康について [授業外学習]該当テキストページ等の予習・復習			⑫	[テーマ]幼少年体育の指導者に関すること① [内容] 幼少年体育の指導者に関すること① [授業外学習]該当テキストページ等の予習・復習
⑤	[テーマ] 幼少年期のからだの発達 [内容] 幼少年期のからだの発達について [授業外学習]該当テキストページ等の予習・復習			⑬	[テーマ]幼少年体育の指導者に関すること② [内容] 幼少年体育の指導者に関すること② [授業外学習]該当テキストページ等の予習・復習
⑥	[テーマ] 幼少年期のスポーツ・運動 [内容] 幼少年期のスポーツ・運動について [授業外学習]該当テキストページ等の予習・復習			⑭	[テーマ]幼少年体育のまとめ① [内容]幼少年体育のまとめとして、ディスカッション等を行い、ふりかえる [授業外学習]該当テキストページ等の予習・復習
⑦	[テーマ] 幼少年期のこころの発達、その特徴 [内容] 幼少年期のこころの発達、その特徴について [授業外学習]該当テキストページ等の予習・復習			⑮	[テーマ]幼少年体育のまとめ② [内容]幼少年体育のまとめとして、ディスカッション等を行い、ふりかえる [授業外学習]該当テキストページ等の予習・復習
⑧	[テーマ] 配慮が必要な子どもの指導 [内容] 配慮が必要な子どもの指導について [授業外学習]該当テキストページ等の予習・復習			⑯	[テーマ] 定期試験 [内容] 筆記試験を行なう [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
授業への取り組み姿勢(評価割合50%) および定期試験(評価割合50%)により総合的に評価する。提出されたレポートやテスト等は必要に応じて解説をしながら返却する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない。 ・遅刻は減点とする。 ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
定期試験	○	○		評価対象外	
授業内レポート	○	○		評価対象外	
授業外レポート	○	○		50%	
演習・実技	○	○	○	50%	
授業態度		○		減点あり	
出席				欠格条件	
関連科目					
教科書	新刊のため後日、掲示予定			参考書	
連絡先	F棟206研究室				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	子どもの生活 I Children's life I			担当教員	針生 弘
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	単独・講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数	2	
授業の概要					
<p>幼児教育において、幼児の生活を知ることは基本である。幼児は家庭や保育所・幼稚園での生活、日常の遊びなどの具体的な体験を通して、身近な人々や社会、自然と関わっている。本授業では、小学校の生活科の観点から、幼児の自然環境や社会環境との関わり、社会的な生活感覚について説明する。また、環境との関わりの中から生まれる幼児の気づきや行動を知り、その指導や援助の方法について理解させる。</p>					
授業の一般目標					
<p>小学校の生活科の観点から、幼児の自然環境や社会環境との関わりや社会的な生活感覚について考え、その気づきや行動、そして幼児に対する指導や援助の方法について理解する。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	幼児の環境との関わりや生活行動について理解することができる。			
■	情意的領域	幼児の環境との関わりや生活行動に対して関心を持ち、授業内容を踏まえながら、援助の在り方を主体的に考えることができる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
授業テーマに合わせ、参考文献やパワーポイントの講義を中心とし、必要に応じ資料を配付する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]「オリエンテーション」 [内容] 授業全体、授業の進め方、評価方法について説明する。 [授業外学習] シラバスをよく読んでおく。			⑨	[テーマ]「リズム運動と幼児の発達(2)」 [内容]② 多くの保育所や幼稚園で取り組んでいるリズム運動について解説する。 [授業外学習] リズム運動の下調べをしておく。
②	[テーマ]「育ちのきほん(1)」 [内容] 0歳～3歳の乳幼児の発達と生活・育ち(かきこさ・自我)について解説する。 [授業外学習] 0～3歳児の乳幼児の生活について調べておく。			⑩	[テーマ]「幼児と健康」 [内容] 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す、心身の健康について解説する。 [授業外学習]「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」をよく読んでおく。
③	[テーマ]「育ちのきほん(2)」 [内容] 3歳～5歳の乳幼児の発達と生活・育ち(かきこさ・自我・友だち)について解説する。 [授業外学習] 3～5歳児の幼児の生活について調べておく。			⑪	[テーマ]「幼児と人間関係」 [内容] 他の人々と親しみ、支え合って生活するための、自立心、人と関わる力について解説する。 [授業外学習]「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」をよく読んでおく。
④	[テーマ]「育ちのきほん(3)①」 [内容] 小学校低学年から高学年の児童の生活と育ちについて解説する。 [授業外学習] 小学校児童の生活について調べておく。			⑫	[テーマ]「幼児と環境」 [内容] 周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力について解説する。 [授業外学習]「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」をよく読んでおく。
⑤	[テーマ]「育ちのきほん(3)②」 [内容] 小学校低学年から高学年の児童の生活と育ちについて解説する。 [授業外学習] 小学校児童の生活について調べておく。			⑬	[テーマ]「幼児と言葉」 [内容] 自分なりの言葉で表現し、相手の言葉を聞こうとする意欲や態度、言葉に対する感覚や表現力について解説する。 [授業外学習]「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」をよく読んでおく。
⑥	[テーマ]「幼児と生活リズム(1)」 [内容] 現代の子どもが抱えている発達上の問題点について解説する。 [授業外学習] 生活リズムの問題点について調べておく。			⑭	[テーマ]「幼児と表現」 [内容] 感じたことや考えたことの表現を通して、幼児の感性や表現力、創造性について解説する。 [授業外学習]「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」をよく読んでおく。
⑦	[テーマ]「幼児と生活リズム(2)」 [内容] 現代の子どもが抱えている発達上の問題点に対する取り組み方を解説する。 [授業外学習] 生活リズム上の課題解決について調べておく。			⑮	[テーマ]「まとめ」 [授業外学習] 次回の試験に備えて復習をしておく。
⑧	[テーマ]「リズム運動と幼児の発達(1)」 [内容]① 多くの保育所や幼稚園で取り組んでいるリズム運動について解説する。 [授業外学習] リズム運動の下調べをしておく。			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
ミニテスト・レポート(40%)と授業外レポート(20%)、期末試験(40%)に基づき、総合的に評価する。その結果については、提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	◎		40%
授業内レポート			◎		40%
授業外レポート					20%
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
関連科目	子どもの生活 II				
教科書	「幼稚園教育要領 保育所保育指針 小学校指導要領解説生活編」			参考書	小学校学習指導要領
連絡先	針生研究室 A棟306				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	子どもの生活Ⅱ Children's life Ⅱ			担当教員	針生 弘
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	単独・講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数	2	
授業の概要					
本授業では、小学校の生活科の観点から、子どもの生活と幼稚園や保育所、学校、家庭、地域、自然環境等との関わりについて説明する。また、人々と環境との関わりの中から生まれる子どもの気づきや行動を知り、その指導や援助の方法について理解させる。					
授業の一般目標					
子どもの社会環境や自然環境との関わりについて考え、子どもに対する指導の方法や援助の方法について理解する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	子どもの環境との関わりについて考え、指導や援助の方法について理解することができる。			
■	情意的領域	子どもと環境との関わりについて関心を持ち、授業内容を踏まえながら、指導や援助の方法を主体的に考えることができる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
授業テーマに合わせ、参考文献やパワーポイントの講義を中心とし、必要に応じ資料を配付する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体、授業の進め方、評価方法について解説する。 [授業外学習] シラバスをよく読んでおく。			⑨	[テーマ] 子どもと季節(冬) [内容] 子どもと生活と冬の関わりについて解説する。 [授業外学習] 子どもと生活と冬の関わりについて調べておく。
②	[テーマ] 子どもと環境 [内容] 子どもと社会環境や自然環境との関わりについて解説する。 [授業外学習] 子どもを取り巻く環境について調べておく。			⑩	[テーマ] 子どもと一日 [内容] 子どもと一日の生活を知り、社会環境や自然環境との関わりについて解説する。 [授業外学習] 子どもと一日の生活で配慮すべき事について調べておく。
③	[テーマ] 子どもの健康及び安全 [内容] 子どもの生命の保持と健やかな生活の基本である健康及び安全について解説する。 [授業外学習] 子どもと健康や安全について調べておく。			⑪	[テーマ] 子どもと地域① [内容] 子どもと地域という社会環境との繋がりについて解説する。 [授業外学習] 地域の一員である子どもと地域との関わりについて調べておく。
④	[テーマ] 子どもと植物 [内容] 子どもが身近な植物に関心を持ち、世話をし、継続的に育てる栽培活動の意義について解説する。 [授業外学習] 子どもが行う栽培活動について調べておく。			⑫	[テーマ] 子どもと地域② [内容] 子どもと地域という社会環境との繋がりについて解説する。 [授業外学習] 地域の一員である子どもと地域との関わりについて調べておく。
⑤	[テーマ] 子どもと生物 [内容] 子どもが身近な生物に関心を持ち、世話をし、継続的に育てる飼育活動の意義について解説する。 [授業外学習] 子どもが行う飼育活動について調べておく。			⑬	[テーマ] 子どもと公共施設 [内容] 子どもと地域の中にある公共施設との繋がりについて解説する。 [授業外学習] 子どもと周囲にある公共施設について調べておく。
⑥	[テーマ] 子どもと季節(春) [内容] 子どもと生活と春の関わりについて解説する。 [授業外学習] 子どもと生活と春との関わりについて調べておく。			⑭	[テーマ] 子どもと創作活動 [内容] 子どもと創作活動との関連について解説する。 [授業外学習] 子どもと年齢に応じた物作りとの関連について調べておく。
⑦	[テーマ] 子どもと季節(夏) [内容] 子どもと生活と夏の関わりについて解説する。 [授業外学習] 子どもと生活と夏の関わりについて調べておく。			⑮	[テーマ] 「まとめ」 これまでの学習内容の復習をする。 [授業外学習] 試験に備え復習をしておく。
⑧	[テーマ] 子どもと季節(秋) [内容] 子どもと生活と秋の関わりについて解説する。 [授業外学習] 子どもと生活と秋との関わりについて調べておく。			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
ミニテスト・レポート(40%)と授業外レポート(20%)、期末試験(40%)に基づき、総合的に評価する。その結果については、提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	◎		40%
授業内レポート					40%
授業外レポート					20%
演習・実技					
授業態度					
出席					欠格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。					
関連科目	子どもの生活Ⅰ				
教科書	「幼稚園教育要領 保育所保育指針 小学校指導要領解説生活科編」			参考書	小学校学習指導要領
連絡先	針生研究室 A棟306				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	体育講義			担当教員	郡山 孝幸
	Physical education lecture				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義・実技	関連資格
	履修の方法	必修	単位数	1	
授業の概要					
本授業では、発達段階に応じた幼児に対しての運動遊びの導入から、小学校低学年にかけての体育指導の在り方を、体育の科学的指導法を基盤としながら説明する。					
授業の一般目標					
運動遊びと小学校低学年体育を指導できるスキルを身に付ける。併せて健康と運動・心身の関係について理解を深め、幼児児童の体や心の育て方について学ぶ。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	運動遊びの展開の方法の基礎を身に付ける。				
■ 情意的領域	幼児に体を動かすことの楽しさを伝えることができるように、自らも運動遊びの楽しさを体感することができる。				
■ 技能表現的領域	運動遊びを考案し、他学生と共にグループ内で体育の教え合いができる。				
授業計画(全体)					
各授業のテーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるために実技を行う。運動遊びの展開における協力や工夫について評価・確認する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介 授業の目標と進め方 成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを熟読し内容を理解する。			⑨	
②	[テーマ] 幼児期運動指針について① [内容] 幼児期における身体活動の現状と問題点を知る。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑩	
③	[テーマ] 幼児期運動指針について② [内容] 幼児期における運動の意義「体力・運動能力の基礎を培うための取り組み」について理解を深める。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑪	
④	[テーマ] 器械・器具を使つての運動遊びの指導について [内容] 器械・器具を使つての運動遊びについて知り、幼児に対し指導できるようにする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑫	
⑤	[テーマ] 走・跳の運動遊びの指導について [内容] 走・跳の運動遊びについて知り、幼児に対し指導できるようにする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑬	
⑥	[テーマ] 水遊びの指導について [内容] 水遊びの方法について知り、幼児に対し指導できるようにする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑭	
⑦	[テーマ] 発達段階に応じた運動遊びの指導例 [内容] 多様な運動遊びの具体例について知る。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑮	
⑧	[テーマ] 運動遊びの環境づくりについて及び振り返りテスト [内容] 学習の理解度、到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習] テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。			⑯	
成績評価方法(方針)					
試験は期末試験を1回実施する(評価割合40%)。また、授業内レポート(評価割合60%)及び授業態度を特に重視する。その結果については提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			40%
授業内レポート			◎		60%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度			○		評価対象外
出席					欠格条件
<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと ・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。 ・授業中は携帯電話をかばんの中に入れないこと。 ・授業中の私語は慎み授業に集中すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は授業の進み方により多少前後することがある。 					
関連科目					
教科書	特に指定しない			参考書	小学校学習指導要領、幼児期運動指針
連絡先	郡山研究室(LC棟2階)				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	幼児体育論 Physical education for young children			担当教員	金 賢植
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
<p>本授業は、幼児体育指導員が保育所、幼稚園、幼児体育現場などで必要な幼児体育に関する基礎知識、幼児体育のあり方や基本理念を解説する。また、現在の社会環境を踏まえながら、身体を使うことの意味を幅広く考えて、心身の発達を保障する身体活動の意味と必要性について講義する。</p>					
授業の一般目標					
<p>幼児の体育を、幼児のための身体活動を通じた教育としてとらえ、運動あそびに視点をおいて、保育の内容を理解し、幼児の発達特性をふまえながら幼児のあそびを豊かに展開するために必要な知識を習得する。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	幼児体育の必要性を理解し、幼児体育指導員に必要な知識を身につけることができる			
■	情意的領域	幼児体育に興味を持ち、積極的に幼児体育指導に参加できるようになる			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
<p>授業の前半は、幼児体育の意義および重要性など基礎的な知識を学ぶ。後半は、幼児体育指導上の留意事項、体力・運動能力の測定評価、安全管理など現場に必要な実践的な知識を学ぶ。授業方法は、パワーポイントを用いた知識伝達型と積極的な授業への参加ができる小グループ型を適切に導入して講義を行う。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介 [授業外学習] 幼児体育の意義と役割について考えておく			⑨	[テーマ] 幼児期の体力・運動能力、運動スキルの発達 [内容] 体力・運動能力、運動スキル、身体認識と空間認知能力 [授業外学習] 幼児期運動指針について調べる
②	[テーマ] 幼児体育とは [内容] 幼児体育の意義と役割、幼児体育のねらい [授業外学習] 近年、子どもたちの体力・運動能力について考えておく			⑩	[テーマ] 幼児期運動指針とは [内容] 幼児期運動指針の背景、幼児期運動指針が策定された意図 [授業外学習] 幼児体育指導上の留意事項について考えておく
③	[テーマ] 近年の子どもの体の異変とその対策 [内容] 生活リズムに乱れ、増える体温異常、乳幼児からの脳機能のかく乱 [授業外学習] 近年、子どもたちの抱える問題について考えておく			⑪	[テーマ] 幼児体育指導上の配慮 [内容] 幼児体育指導上の留意事項、用具の理解 [授業外学習] 障がい児指導の留意事項について考えておく
④	[テーマ] 幼児期、運動あそびの重要性 [内容] 子どもを抱える問題とその原因 [授業外学習] 子どもたちの身体活動量について調べる			⑫	[テーマ] 障がい児の体育① [内容] 視覚障がい児、聴覚障がい児、言語障がい児、知的障がい児 [授業外学習] 障がい児指導の留意事項について考えておく
⑤	[テーマ] 子どもの生活と運動 [内容] 運動量の確保、子どもの生活リズムと外あそびの関係 [授業外学習] 子どもたちの発育発達段階について調べる			⑬	[テーマ] 障がい児の体育② [内容] 肢体不自由児、発達障がい児 [授業外学習] 体力・運動能力の測定評価について調べる
⑥	[テーマ] 子どもの発達と運動 [内容] 乳児期の発育・発達と運動、幼児期の発育・発達と運動 [授業外学習] 頭脳の構造と役目について調べる			⑭	[テーマ] 体力・運動能力の測定評価 [内容] 測定・評価の目的、測定・評価方法 [授業外学習] 子どもたちの応急処置について調べる
⑦	[テーマ] 運動と頭脳発達 [内容] 頭脳の構造と役目、年齢別頭脳発達と運動 [授業外学習] 子どもたちの運動あそびについて考えておく			⑮	[テーマ] 運動と安全管理 [内容] 運動時におこりやすいけが、病気、応急処置の基本 [授業外学習] 最終回のテストに備えて復習をする
⑧	[テーマ] 運動発現メカニズム [内容] 意識的運動、運動技術の上達のプロセス [授業外学習] 近年、子どもたちの体力・運動能力について調べる			⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学習] テストの準備をしておく
成績評価方法(方針)					
<p>試験は、期末試験(評価割合80%)、授業内課題を評価する(評価割合20%)。→提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象になる。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。</p>					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	◎		80%
授業内レポート				○	20%
授業外レポート					無し
演習・実技					評価対象外
授業態度					減点アリ
出席					欠格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)	私語・スマートフォン(タブレット)使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。 * 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。				
関連科目	幼児体育指導論(2年)				
教科書	『コンパス幼児の体育』:前橋 明、建昌社			参考書	『幼児体育(理論と実践)』:日本幼児体育学会
連絡先	hs-kim@sendai-u.ac.jp (オフィスアワー:水曜日14:20~16:00)				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	子どもと発育			担当教員	金 賢植
	Child development				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
<p>子どもの成長に伴う、からだの発育と機能の発達過程を理解することは、幼児教育者のみならず幼児体育指導員にとって必要な要素である。本授業では、発達に関わる幼児教育者・幼児体育指導員に必要な発育発達論についても学習し、主体がめざす発達の方向性や時代が要求するに発育・発達への科学的アプローチについて教育の視点から理解を深める。</p>					
授業の一般目標					
<p>子どもの成長における発育・発達の特徴についての知識を身につけるとともに、それぞれの年齢における発育・発達特性を考慮した運動遊びの指導の重要性を認識し、発育・発達への科学的アプローチを理解する。</p>					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	子どもの形態の発育、機能の発達を理解し、幼児体育指導員に必要な発育・発達への科学的知識を身につけることができる。				
■ 情意的領域	子どもの発育特性に関する基礎知識、データ分析方法について関心を持つことができる。				
□ 技能表現的領域					
授業計画(全体)					
<p>授業の前半は、子どもの発育に関する基礎的な知識を学ぶ。後半は、子どもの発育に影響を及ぼす要因、発育速度の分析、体力の将来予測など現場に必要な実践的な知識を学ぶ。授業方法は、パワーポイントを用いた知識伝達型と積極的な授業への参加ができる小グループ型を適切に導入して講義を行う。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介 [授業外学習] 近年、幼児の発育・発達状況について考えておく</p>			⑨	<p>[テーマ] 機能の発達 [内容] 器官や組織の発育・発達の变化、筋力・神経系の機能の発達 [授業外学習] 子どもたちの運動能力構造・変化について考えておく</p>
②	<p>[テーマ] 発育・発達の基礎 [内容] 発育・発達の概念、身体発達に関する課題 [授業外学習] 子どもたちの体格、体力、運動能力の発達について調べる</p>			⑩	<p>[テーマ] 運動能力構造の変化 [内容] 運動技能の分化と統合の実際、子どもの運動能力構造・変化の実際 [授業外学習] 子どもの生活と健康上の問題について調べる</p>
③	<p>[テーマ] 子どもの運動能力の発達 [内容] 神経の発達と運動の発現、投・走・跳運動の発達 [授業外学習] 子どもたちの体格、体力、運動能力の発達について調べる</p>			⑪	<p>[テーマ] 身体発達に影響する要因と問題 [内容] 身体発達に影響する要因、子どもの生活と健康上の問題 [授業外学習] 子どもの年齢特性について調べる</p>
④	<p>[テーマ] 子どもの運動能力 [内容] 基礎運動技能の発達、身体運動発現の順序性 [授業外学習] 子どもたちの体格、体力、運動能力測定について調べる</p>			⑫	<p>[テーマ] 形態発育から見た年齢特性 [内容] 発育現量値からみた年齢特性(0～5歳、6～17歳) [授業外学習] 子どもの発育速度について調べる</p>
⑤	<p>[テーマ] 子どもの運動能力測定 [内容] 投・走・跳技能の測定、複合動作技能(調整力)の測定 [授業外学習] 発育・発達現量値の分析について調べる</p>			⑬	<p>[テーマ] 子どもの発育速度の分析(0～5歳) [内容] 発育速度の変化の一般的傾向、発育速度の系年齢的变化 [授業外学習] 子どもの体力・運動能力の加齢的变化について調べる</p>
⑥	<p>[テーマ] 発育・発達現量値の分析 [内容] 発育・発達基準値と評価尺度の構成、発育・発達パターンの個人内変動 [授業外学習] 近年、子どもたちの運動遊びや体力の低下について考えておく</p>			⑭	<p>[テーマ] 体力・運動能力の発達 [内容] 横断データ、コーホートデータの比較、子どもの体力・運動能力の加齢的变化 [授業外学習] 年次変化の予測方法について調べる</p>
⑦	<p>[テーマ] 子どもの体力の構造と測定 [内容] 体力の構造と定義、運動遊びの不足と体力の低下 [授業外学習] 子どもたちの形態発育の経過や変化について調べる</p>			⑮	<p>[テーマ] 体力の将来予測 [内容] 年次変化の予測方法、予測に用いるデータ数の決定 [授業外学習] 最終回のテストに備えて復習をする</p>
⑧	<p>[テーマ] 形態の発育 [内容] 形態発育の経過、身体組成の変化 [授業外学習] 身体機能の発達について調べる</p>			⑯	<p>[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学習] テストの準備をしておく</p>
成績評価方法(方針)					
<p>試験は、期末試験(評価割合80%)、授業内課題を評価する(評価割合20%)。→提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象になる。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。</p>					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	成績評価方法(詳細)			履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>私語・スマートフォン(タブレット)使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。 * 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。</p>
定期試験	◎	◎		80%	
授業内レポート			○	20%	
授業外レポート				無し	
演習・実技				評価対象外	
授業態度				減点アリ	
出席				欠格条件	
関連科目	幼児体育指導論(2年)				
教科書	子どもの発育発達と健康、青柳 領、ナカニシヤ出版			参考書	統計的発育発達学、松浦 義行、不昧堂出版
連絡先	hs-kim@sendai-u.ac.jp (オフィスアワー:水曜日14:20～16:00)				

《実技》

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	子どもとあそび			担当教員	郡山 孝幸
	Child and play				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義・実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
運動遊びについて、対象となる幼児の発達に適した指導案を作成、作成した指導案に基づき学生を幼児と見立て運動遊びの模擬指導を行う。その上で、実際に幼稚園または保育所の幼児とともに運動あそびを実践する。実践後にディスカッションを行い、保育者がどのように準備し見守る必要があるかについて検討する。					
授業の一般目標					
本授業で設定した運動あそびテーマについて、自分の課題を認識し、幼児に運動遊びをさせていく際の基本的な考え方、準備、見守り等について理解を深めることができるようにする。さらに幼児に運動あそびの楽しさを伝えることができるように、自らもその楽しさを体感することができる。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	幼児に楽しく運動遊びに取り組みさせるための指導計画案を練り、実践に結び付けることができる。				
■ 情意的領域	幼児に運動遊びの楽しさを伝えることができるように、自らも一緒に楽しさを体感することができる。				
■ 技能表現的領域	幼児に運動遊びの楽しさを伝え、意欲を持たせることができる。				
授業計画(全体)					
各授業のテーマに沿った実技を身につけることが中心であるが、より理解を深めるために幼稚園や保育園において実習を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介 授業の目標と進め方 成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを熟読し内容を理解する。			⑨	[テーマ] 運動遊びの実際① [内容] 学生を幼児と見立てて運動遊び模擬指導を実践する。 [授業外学習] 実習の評価を行い次時への改善を図る。
②	[テーマ] 幼児の運動遊びについて [内容] いろいろな運動遊びの種類や場の作り方について学び、幼児に対して指導できるようにする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておく。			⑩	[テーマ] 運動遊びの実際② [内容] 学生を幼児と見立てて運動遊び模擬指導を実践する。 [授業外学習] 実習の評価を行い次時への改善を図る。
③	[テーマ] ホイジンガとカイヨワの遊びの概念を学ぶ① [内容] ホイジンガとカイヨワの遊び概念の定義について論文を要約する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておく。			⑪	[テーマ] 運動遊びの実際③ [内容] 学生を幼児と見立てて運動遊び模擬指導を実践する。 [授業外学習] 実習の評価を行い次時への改善を図る。
④	[テーマ] ホイジンガとカイヨワの遊びの概念を学ぶ② [内容] ホイジンガとカイヨワの遊び概念について整理し、幼児にとっての遊びの重要性について解説する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておく。			⑫	[テーマ] 運動遊びの実際④ [内容] 学生を幼児と見立てて運動遊び模擬指導を実践する。 [授業外学習] 実習の評価を行い次時への改善を図る。
⑤	[テーマ] 幼稚園教育要領と指導計画の作成について① [内容] 幼児が意欲をもって継続的に運動遊びに取り組みするようなパターン、バリエーションについて学ぶ。 [授業外学習] 授業の復習をして保育指導案の構想を練る。			⑬	[テーマ] 運動遊びの実際⑤(幼稚園または保育園にて実践演習) [内容] 幼稚園または保育所にて運動遊び指導を実習する。 [授業外学習] 実習の評価を行い次時への改善を図る。
⑥	[テーマ] 幼稚園教育要領と指導計画の作成について② [内容] 幼児が意欲をもって継続的に運動遊びに取り組みするようなパターン、バリエーションについて学ぶ。 [授業外学習] 授業の復習をして指導案作成を進める。			⑭	[テーマ] 運動遊びの実際⑥(幼稚園または保育園にて実践演習) [内容] 幼稚園または保育所にて運動遊び指導を実習する。 [授業外学習] 実習の評価を行い次時への改善を図る。
⑦	[テーマ] 保育指導案の作成① [内容] 幼児が目の前にいることを想定しながら、運動遊びに関する指導案を作成する。 [授業外学習] 保育指導案を完成させる。			⑮	[テーマ] 実習後の振り返り① [内容] 実習の体験を持ち寄り運動遊びの行わせ方を共有する。 [授業外学習] 自分なりの指導の方法についてまとめる
⑧	[テーマ] 保育指導案の作成① [内容] 幼児が目の前にいることを想定しながら、運動遊びに関する指導案を作成する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておく。			⑯	[テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、到達度確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習] テストに備えて授業内容全体について復習しておくこと。
成績評価方法(方針)					
試験は期末試験を1回実施する(評価割合35%)。また、演習実技(評価割合50%)や授業態度(評価割合15%)を特に重視する。その結果については提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			35%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技				◎	50%
授業態度			◎		15%
出席					欠格条件
<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学習を行うこと。 ・授業中は携帯電話をかばんの中に入らないこと。 ・授業中の私語は慎み授業に集中すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は授業の進み方により多少前後することがある。 					
関連科目					
教科書	特に指定しない			参考書	小学校学習指導要領、幼児期運動指針
連絡先	郡山研究室(LC棟2階)				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	トレーニングの基礎 Fundamentals of Training			担当教員	門野・河野・柴山・宮崎
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	必修	単位数	1	
授業の概要					
<p>競技スポーツにおいて、体力は競技成績(パフォーマンス)を決定づける要因の一つである。 本授業では、効果的に体力を向上させるためのトレーニングに関する基礎理論および方法について、実技と講義を交えて説明する。 また、体力の測定方法、評価方法についても説明する。</p>					
授業の一般目標					
<p>①体力を向上させるためのトレーニングに関する基礎理論と方法を理解する。 ②体力の測定方法と評価方法を理解する。</p>					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	体力を向上させるためのトレーニングに関する基礎理論と方法が説明できる。 体力の測定・評価方法が説明できる。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	体力を向上させるためのトレーニングが実践できる。 体力の測定・評価ができる。			
授業計画(全体)					
体力要素を、①筋力、②スピード・敏捷性、③パワー、④持久力、⑤柔軟性、⑥調整力のカテゴリに分け、それぞれのカテゴリごとにその体力要素を向上させるためのトレーニングの理論と方法、体力の測定・評価方法について、実技と講義を交えて授業を行なう。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス(門野) [内容] 授業計画について説明する。			⑨	[テーマ] パワーを向上させるためのトレーニング理論と方法(柴山) [内容] ハイパワーを向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。
②	[テーマ] 形態計測とその評価(門野) [内容] 身長、体重、体組成を測定し、評価する。 測定方法と評価方法について学ぶ。			⑩	[テーマ] 持久力の測定と評価(門野) [内容] 持久力を測定し、評価する。 持久力の測定方法と評価方法について学ぶ。
③	[テーマ] 新体力テストの実施とその評価(門野) [内容] 新体力テストを実施し、自分の体力を評価するとともにその評価方法について学ぶ。			⑪	[テーマ] 持久力を向上させるためのトレーニング理論と方法(門野) [内容] 持久力を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。
④	[テーマ] 筋力の測定と評価(宮崎) [内容] 筋力を測定し、評価する。 筋力の測定方法と評価方法について学ぶ。			⑫	[テーマ] 柔軟性の測定と評価(河野) [内容] 柔軟性を測定し、評価する。 柔軟性の測定方法と評価方法について学ぶ。
⑤	[テーマ] 筋力を向上させるためのトレーニング理論と方法(宮崎) [内容] 筋力を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。			⑬	[テーマ] 柔軟性を向上させるためのトレーニング理論と方法(河野) [内容] 柔軟性を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。
⑥	[テーマ] スピード、敏捷性の測定と評価(柴山) [内容] スピードと敏捷性を測定し、評価する。 スピードと敏捷性の測定方法と評価方法について学ぶ。			⑭	[テーマ] 調整力の測定と評価(河野) [内容] 調整力を測定し、評価する。 調整力の測定方法と評価方法について学ぶ。
⑦	[テーマ] スピードを向上させるためのトレーニング理論と方法(柴山) [内容] スピードと敏捷性を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。			⑮	[テーマ] 調整力を向上させるためのトレーニング理論と方法(河野) [内容] 調整力を向上させるためのトレーニング理論と方法について学ぶ。
⑧	[テーマ] パワーの測定と評価(柴山) [内容] ハイパワーを測定し、評価する。 ハイパワーの測定方法と評価方法について学ぶ。			⑯	[テーマ] まとめ(門野) [内容] 授業のまとめを行なう。
成績評価方法(方針)					
<ul style="list-style-type: none"> ①出席、②授業外レポートによって評価を行なう。 テーマによっては授業内レポートを課す場合もある。提出されたレポートはコメントして返却する。 授業態度も評価に含む。 					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート	◎			50%	
演習・実技			◎	50%	
授業態度		◎		減点対象	
出席		◎		欠格条件	
関連科目					
教科書	ガイダンスにて配布するテキストを使用する。			参考書	
連絡先	門野洋介(A408、hr-kadono@sendai-u.ac.jp) オフィスアワー月曜10:00-11:00				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	陸上競技 Track and Field			担当教員	門野洋介、柴山一仁、宮崎利勝、名取英二	
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択必修	単位数	1		
授業の概要						
陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性や基本的技能を、実技を通して学ぶ。						
授業の一般目標						
陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性を理解し、基本的技能を身につける。 自らの記録を向上させたり、相手と競い合うことの楽しさや魅力を味わうことができる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	陸上競技の走・跳・投各種目の競技特性や基本的技能がわかる。				
■	情意的領域	自らの記録を向上させたり、相手と競い合うことの楽しさや魅力を味わうことができる。				
■	技能表現的領域	陸上競技の走・跳・投各種目の基本的技能が身につく。				
授業計画(全体)						
グループに分かれ、競走種目(短距離走、リレー、ハードル走)、跳躍種目(走高跳、走幅跳)、投てき種目(砲丸投)を複数回に分けて実施していく。 最後に実技試験を行ない、技能と記録を評価する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] ガイダンス(門野) [内容] 授業計画について説明する。			⑨	[テーマ] 走高跳②(門野) [内容] 走高跳の助走局面～踏切局面～空中局面の技能について学習する。 競技会形式で記録を測る。	
②	[テーマ] 短距離走①(名取) [内容] 短距離走のスタート～加速局面における疾走技能について学習する。			⑩	[テーマ] 走幅跳①(柴山) [内容] 走幅跳の踏切局面～空中局面の技能について学習する。	
③	[テーマ] 短距離走②(名取) [内容] 短距離走の中間疾走局面における疾走技能について学習する。 レースを行ない、記録を計測する。			⑪	[テーマ] 走幅跳②(柴山) [内容] 走幅跳の助走局面～踏切局面～空中局面の技能について学習する。 競技会形式で記録を測る。	
④	[テーマ] リレー①(名取) [内容] リレーのルールに基づいた、スムーズなバトンの渡し方について学習する。			⑫	[テーマ] 砲丸投①(宮崎) [内容] 砲丸投の立ち投げの技能について学習する。	
⑤	[テーマ] リレー②(名取) [内容] スムーズなバトンパスができるように練習する。 レースを行ない、記録を計測する。			⑬	[テーマ] 砲丸投②(宮崎) [内容] 砲丸投のグライド投法の技能について学習する。 競技会形式で記録を測る。	
⑥	[テーマ] ハードル走①(柴山) [内容] ハードリングの技能について学習する。			⑭	[テーマ] 実技試験①(柴山) [内容] 走(短距離走、ハードル)の記録を測定する。	
⑦	[テーマ] ハードル走②(柴山) [内容] インターバルの走り方について学習する。 レースを行ない、記録を計測する。			⑮	[テーマ] 実技試験②(門野) [内容] 跳(走高跳、走幅跳)の記録を測定する。	
⑧	[テーマ] 走高跳①(門野) [内容] 走高跳の踏切局面～空中局面の技能について学習する。			⑯	[テーマ] 実技試験③(宮崎) [内容] 投(砲丸投)の記録を測定する。	
成績評価方法(方針)						
・①出席、②各種目の記録、③実技試験で評価する。 ・授業態度も評価に含む。						
成績評価方法(詳細)						
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)	
定期試験			◎		大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと	
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技	◎	◎	◎	100%		
授業態度		◎				
出席		◎		欠格条件		
関連科目						
教科書				参考書		
連絡先	門野洋介(A408, hr-kadono@sendai-u.ac.jp) オフィスアワー月曜10:00-11:00					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	器械運動(男子) Apparatus Gymnastics (Men)			担当教員	鈴木 良太
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
本実技は、マット運動、鉄棒、とび箱等を教材として器械運動の技能習得を目的とすると共に指導法・補助法についても学習し、指導者としても資質を高めるものである。					
授業の一般目標					
オリエンテーションにおいて本実技での授業概要及び授業での取り組みを理解する。また、授業においては積極的に取り組み、仲間との協調を図る。技の習得を通して器械運動の面白さを学習し、指導者としても資質を高めることを目標とする。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	器械運動の技能を習得する過程を理解し、その説明ができる。				
■ 情意的領域	授業に積極的に参加し、仲間と協力できる。				
■ 技能表現的領域	教育実習及び教員採用試験に対応できる技能を身につける。				
授業計画(全体)					
テーマごとに基本技能から応用技能へと難易度を高めていき「できそうだ」という意識を持たせながら授業展開する。マット運動、鉄棒、とび箱を教材として使用し、それぞれ5コマずつ行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、マット運動の基本技能 [内容] 器械運動に必要な動きと練習方法の理解			⑨	[テーマ] 鉄棒③ [内容] 前振り及びおりの基本知識と基本技能の習得
②	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)① [内容] 前転、後転、倒立の基本知識と基礎技術の習得			⑩	[テーマ] 鉄棒④ [内容] け上がり、前回り、後回り、前振り及びおりを連結させ連続技に発展させる
③	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)② [内容] 前転、後転の変形技の習得及び倒立の静止技術・歩行技能習得			⑪	[テーマ] 鉄棒⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト
④	[テーマ] マット運動(発展技)③ [内容] 倒立前転、後転倒立の技術習得及び伸膝前転・伸膝後転の技能習得			⑫	[テーマ] とび箱① [内容] 開脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑤	[テーマ] マット運動(倒立回転系・倒立回転とび)④ [内容] 側方倒立回転習得のための基礎知識・基礎技能の習得及びハンドスプリング習得のための基礎知識・基礎技能の習得			⑬	[テーマ] とび箱② [内容] 閉脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑥	[テーマ] マット運動(連続課題)⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト			⑭	[テーマ] とび箱③ [内容] 台上前転の基本知識と基本技能の習得
⑦	[テーマ] 鉄棒① [内容] 逆上がり、前回り、後回りの基本知識・基本技能の習得			⑮	[テーマ] とび箱④ [内容] 前転跳びの基本知識と基本技能の習得
⑧	[テーマ] 鉄棒② [内容] け上がりの基礎知識と基礎技能の習得			⑯	[テーマ] とび箱⑤ [内容] 習得した技の課題によるテスト
成績評価方法(方針)					
実技試験により評価するが、授業への出席状況や態度及び服装(指定ユニホーム着用)も評価の対象とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					評価対象外
授業内レポート					評価対象外
授業外レポート					評価対象外
演習・実技				◎	100%
授業態度					減点あり
出席					欠格条件
<ul style="list-style-type: none"> ○2/3以上出席がない受講生は単位を修得することができない。 ○服装は指定のユニホームとシューズ(服装違反は減点の対象とする)とする。また、時計・指輪・ネックレス・ピアス等は怪我の危険性があるためはずす。 ○遅刻は原則認めない。 ○大学設置基準で求められている時間の授業外学習を行うこと。 					
関連科目					
教科書	特に指定しない			参考書	「教師のための器械運動指導法シリーズ:マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友(大修館書店)
連絡先	研究室:A棟4階412 オフィスアワー:火曜日10:20~11:50				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	器械運動(女子) Apparatus Gymnastics (Women)			担当教員	鈴木 良太
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
本実技は、マット運動、平均台、とび箱等を教材として器械運動の技能習得を目的とすると共に指導法・幫助法についても学習し、指導者としても資質を高めるものである。					
授業の一般目標					
オリエンテーションにおいて本実技での授業概要及び授業での取り組みを理解する。また、授業においては積極的に取り組み、仲間との協調を図る。技の習得を通して器械運動の面白さを学習し、指導者としても資質を高めることを目標とする。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	器械運動の技能を習得する過程を理解し、その説明ができる。				
■ 情意的領域	授業に積極的に参加し、仲間と協力できる。				
■ 技能表現的領域	教育実習及び教員採用試験に対応できる技能を身につける。				
授業計画(全体)					
テーマごとに基本技術から応用技術へと難易度を高めていき「できそうだ」という意識を持たせながら授業展開する。マット運動、平均台、とび箱を教材として使用し、それぞれ5コマずつ行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、マット運動の基本技能 [内容] 器械運動に必要な動きと練習方法の理解			⑨	[テーマ] 平均台③ [内容] 開始技・終末儀の基本知識と基本技能の習得
②	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)① [内容] 前転、後転、倒立の基礎知識と基礎技能の習得			⑩	[テーマ] 平均台④ [内容] 習得した技を連結させ連続技に発展させる
③	[テーマ] マット運動(接転系・倒立)② [内容] 前転、後転の変形技の習得及び倒立の静止技術・歩行技術習得			⑪	[テーマ] 平均台⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト
④	[テーマ] マット運動(発展技)③ [内容] 倒立前転・後転倒立の技能習得及び伸膝前転・伸膝後転の技能習得			⑫	[テーマ] とび箱① [内容] 開脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑤	[テーマ] マット運動(倒立回転系・倒立回転とび)④ [内容] 側方倒立回転習得のための基礎知識・基礎技能の習得及びハンドスプリング習得のための基礎知識・基礎技能の習得			⑬	[テーマ] とび箱② [内容] 閉脚跳びの基本知識と基本技能の習得
⑥	[テーマ] マット運動(連続課題)⑤ [内容] 習得した技を組合わせた連続課題によるテスト			⑭	[テーマ] とび箱③ [内容] 台上前転の基本知識と基本技能の習得
⑦	[テーマ] 平均台① [内容] 歩行系・ターン系の基本知識・基本技能の習得			⑮	[テーマ] とび箱④ [内容] 前転跳びの基本知識と基本技能の習得
⑧	[テーマ] 平均台② [内容] 平均台上での前転・前後開脚ジャンプの基礎技能の習得			⑯	[テーマ] とび箱⑤ [内容] 習得した技の課題によるテスト
成績評価方法(方針)					
実技試験により評価するが、授業への出席状況や態度及び服装(指定ユニホーム着用)も評価の対象とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					評価対象外
授業内レポート					評価対象外
授業外レポート					評価対象外
演習・実技				◎	100%
授業態度					減点あり
出席					欠格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
○2/3以上出席がない受講生は単位を修得することができない。 ○服装は指定のユニホームとシューズ(服装違反は減点の対象とする)とする。また、時計・指輪・ネックレス・ピアス等は怪我の危険性があるためはずす。 ○遅刻は原則認めない。 ○大学設置基準で求められている時間の授業外学習を行うこと。					
関連科目					
教科書	特に指定しない			参考書	「教師のための器械運動指導法シリーズ:マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友(大修館書店)
連絡先	研究室:A棟4階412 オフィスアワー:火曜日10:20~11:50				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	水 泳 Swimming (P. A.)			担当教員	渡邊 泰典
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
水泳は老若男女問わず、生涯にわたって親しむことができる代表的運動である。本授業では、水の物理的・生理的特性について講義すると共に、実際に水が身体に及ぼす影響を紹介して、その活用方法を提示する。また、水泳技能習得のための指導に加えて、水泳不得意者を対象とした指導上のコツや留意点(安全管理に関する内容を含む)について説明し、理論と実践を通して水泳の基礎能力を養成する。					
授業の一般目標					
体温、心拍数、代謝、姿勢などの観点から、水が身体に及ぼす影響を理解する。水中事故防止に関する安全管理の基礎理論を理解する。水中での身体の使い方と呼吸の仕方を理解し、状況に応じて使い分けができるようになる。水泳動作のメカニズムと指導法を理解する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	水泳・水中運動の基本的技能とそのメカニズムを理解し、説明することができる。水中事故を未然に防ぐための方法を理解し、安全に配慮して運動することができる。				
■ 情意的領域	水中特有の浮遊感の中で、運動することの楽しさを知る。水泳技能の習得と向上、泳タイムの短縮を通して、水泳・水中運動に興味を持てるようになる。				
■ 技能表現的領域	泳げない者は泳げるようになる。泳げる者は自らの技能の向上と泳タイムの短縮はもとより、水泳不得意者に対する指導体験を通して、泳法指導の基礎を身につける。				
授業計画(全体)					
最初に教室にて水中事故防止に関する安全管理の基礎理論を講義する。続いてプールにて実技に入り、浮き身及びその応用として立泳ぎを教示した後、クロール・平泳ぎの2種目について、そのメカニズムと指導法を紹介する。ここでいったん泳法検定を実施し、水泳技能を見極める。その後の授業では、高技能者は指導体験を、低技能者と初心者には泳法習得のためのトレーニングを重ねる。本授業では、水泳の基本技能の習得と、泳げるようにするためのプロセスについて学ぶ。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の趣旨・内容・展開方法等について説明する。			⑨	[テーマ] 第1次泳法実技検定【実技】 [内容] 事前能力調査によりA評価を受けた者に対し、100m個人メドレー(50Br+50Fr)の泳法検定を行う。合格者は指導体験に移行される。B評価以下と判定された者はノルマ練習を行う。
②	[テーマ] 水泳指導法【講義】 [内容] 「水泳指導者とはどうあるべきか」を主たるテーマに、必要条件、資質、取り組み方、泳法理論等を指導者の立場から理解させる。			⑩	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング①【実技】 [内容] これより、第2次泳法検定合格を目指し、トレーニング期間と成る。第1次検定合格者は、不合格者を対象に初心者指導体験を行う。不合格者は指導員に従い練習を行う。クロール系と平泳ぎ系練習を隔週ごとに分けて実施する。
③	[テーマ] 水中安全管理と安全対策【講義】 [内容] 指導上のマナー、事故と責任、環境整備、用具の取り扱いと管理の方法、水泳の衛生管理、事故とその判例等について解説する。			⑪	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング②【実技】 [内容] クロール・平泳ぎ泳法を対象に前回同様のシステムで各自、自主的に実施する。
④	[テーマ] 水慣れ、およびクロール・平泳ぎ能力調査【実技】 [内容] プールでの誓約、利用上の規則周知、入水時のマナー、水慣れの方法を説明する。加えて、クロール及び平泳ぎの泳能力調査を実施する。			⑫	[テーマ] クロール・平泳ぎ習得指導法体験およびトレーニング③【実技】 [内容] クロール・平泳ぎ泳法を対象に前回同様のシステムで各自、自主的に実施する。
⑤	[テーマ] 浮き身・立泳ぎ(巻足)泳法の原理紹介、体験【実技】 [内容] 指導員による模範演技を基に、初心者指導にも繋がる浮き身・立泳ぎの原理、習得方法を解説、実技体験をしながら習得する。			⑬	[テーマ] 水泳・水中運動①【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際 ・水中ウォーキング等
⑥	[テーマ] クロール・背泳ぎ泳法の原理紹介【実技】 [内容] 指導員による模範演技を基に、クロール泳法を主体に両泳法の原理、泳げない原因を解説、さらにその原因を改善するための矯正法、すなわち、指導法を紹介する。			⑭	[テーマ] 水泳・水中運動②【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際 ・アクアビクス等
⑦	[テーマ] 平泳ぎ・バタフライ泳法の原理紹介【実技】 [内容] 指導員による模範演技を基に、平泳ぎ泳法を主体に両泳法の原理、泳げない原因を解説する。			⑮	[テーマ] 水泳・水中運動③【講義】 [内容] 教室にて水中における運動指導にかかわる知識(健康運動指導士、健康運動実践指導者資格取得にも関わる)水の原理、水泳の特性、効果等について講義・紹介する。
⑧	[テーマ] クロール・平泳ぎの初心者指導法紹介【実技】 [内容] クロール・平泳ぎを対象に、泳げない原因を改善するための矯正法、すなわち、初心者指導法を紹介する。			⑯	[テーマ] 水泳・水中運動④、第2次泳法実技検定【実技】 [内容] 水中における運動指導法と実際の実技トレーニング、及び、水泳不合格者を対象に、100m個人メドレー(50Br+50Fr)の泳法検定を行う。
成績評価方法(方針)					
実技は、100m(50m平泳ぎ+50mクロール)完泳が最低合格ラインで(可)評価、これに立泳ぎ(1分間)完泳が背泳ぎ・バタフライ25m完泳で(良)評価となる。さらに指導体験を2回以上実施した者が(優)評価となる。(秀)評価は前述の全種目で高得点者に与えられる。理論に関わる講義は必ず出席。欠席の場合、レポート等の課題が課せられ、怠った場合は(不可)評価となる。提出されたレポートは授業内で解説しながら返却する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
定期試験					①教職志望者は受講が望ましいが、必修ではない。 ②泳げるようになりたいと真剣に希望する者であれば、泳ぎが苦手であっても歓迎する。 ③海浜実習の受講希望者が望ましい。 ④本学指定の水着でしか受講できない。指定の水泳帽も必要となる。
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技	◎		◎	80%	
授業態度		○		20%	
出席					
関連科目	海浜実習、水上安全法(含実習)、種目別コーチング演習Ⅰ(水泳)、種目別コーチング演習Ⅱ(水泳)、スポーツコーチング実習(渡邊泰典クラス)				
教科書	なし			参考書	なし
連絡先	LC棟2階207研究室 渡邊泰典(ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp) オフィシアワー:火曜日12:00~13:00				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	バレーボール Volleyball (P.A.)			担当教員	石丸出穂・荒牧亜衣
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格 ジュニアスポーツ指導員、教員免許状(中高保体) JPSUスポーツトレーナー
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
本授業は、6人制バレーボールの、基本的な運動技能(特にゲーム展開を広げるパス、サーブ、スパイク)の向上に重点を置き、前半は、バレーボールの練習法、指導法を紹介する。後半では、グループでの活動で生み出される、チームプレーの重要性を認識させ、仲間とのつながりを促し、ゲームを通して、バレーボールの戦術紹介、ルール・審判法を説明する。					
授業の一般目標					
バレーボールの基本的な運動技術、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、および、スパイク(少なくともジャンプなしでの打球の仕方)を身につけ、将来、指導する立場になった場合に、デモンストレーションを行えるようになる事が、本授業の大きな目標である。さらに、それらの技術を駆使して、仲間と協力しながら、戦術を理解し、ゲームを楽しむ方法を修得する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	基本的な運動技術のポイントや、ルール、戦術を、知識として理解する。				
■ 情意的領域	仲間との‘繋がり’が、プレーの‘繋がり’になる事を通して、ゲームを楽しめるようになり、バレーボールの戦術にも興味を持てるようになる。				
■ 技能表現的領域	バレーボールの授業を行うことが出来るようになる、基本的な運動技術を身につける。				
授業計画(全体)					
前半は、バレーボールの基本的な運動技術(オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク・サーブの打球)の向上に重点を置くため、2〜3人組での個人技術のトレーニング中心の授業を行う。後半は、ゲームを中心とした授業の中で、バレーボールの戦術やルール・審判法の紹介、グループ活動での仲間との‘繋がり’作り、を行っていく。前半終了時と後半終了時に、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイクの打球、のチェックテストを行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法			⑨	[テーマ] ゲームへの展開②および、スパイク打球チェック [内容] W型のレセプションフォーメーションを理解したゲームを行い、同時進行で、スパイク打球のチェックを行う
②	[テーマ] オーバーハンドパス、スパイク打球の基本技術 [内容] オーバーハンドパス、スパイク打球のポイント、練習法を紹介し、2人組のトレーニングを行う			⑩	[テーマ] ゲームへの展開③および、ブロックの基本技術 [内容] セッターを固定し、正確なトスから強力なスパイクが打てる可能性が高まるゲームを行い、ブロックの基本技術を紹介する
③	[テーマ] アンダーハンドパス、サーブ打球の基本技術 [内容] アンダーハンドパス、サーブ打球のポイント、練習法を紹介し、2人組のトレーニングを行う			⑪	[テーマ] ゲームへの展開④ [内容] スパイクディフェンスフォーメーションを理解したゲームを行う
④	[テーマ] オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの応用技術 [内容] オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの、3人組のトレーニングを行う			⑫	[テーマ] ゲームへの展開⑤ [内容] ポジション別の役割を理解したゲームを行う
⑤	[テーマ] スパイクの基本技術 [内容] スパイクの基本、助走→踏切→打球→着地を説明し、トレーニングを行う			⑬	[テーマ] ゲームへの展開⑥ [内容] ポジション別の役割を理解し、ポジションにおける反則(アウトオブ・ポジション)を意識したゲームを行う
⑥	[テーマ] スパイクの応用技術 [内容] ゲームの流れに近いトレーニングを、段階的に行う			⑭	[テーマ] オーバーハンドパスのチェックテスト [内容] ゲームを行いながら、オーバーハンドパスのチェックテストを行う
⑦	[テーマ] バレーボールの歴史とルール [内容] バレーボールの誕生から現在に至るまでの歴史や、ゲームを行うためのルールや審判法などの講義を行う			⑮	[テーマ] アンダーハンドパスのチェックテスト [内容] ゲームを行いながら、アンダーハンドパスのチェックテストを行う
⑧	[テーマ] ゲームへの展開① [内容] スパイクを生かすゲームを目標に行う			⑯	[テーマ] [内容] 期末テストは行わない
成績評価方法(方針)					
授業態度【グループでの積極的かつ協力的な行動、授業のルールやマナーを守る】(30%)、チェックテスト【オーバーハンド、アンダーハンドパス、スパイク打球】(40%)、技術向上度(30%)、を総合的に評価する。ただし、欠席は3回までは認めるが、それ以上の場合、成績評価対象外とする。チェックテストについては授業内でフィードバックを行う。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験				評価対象外	大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと 最初のガイダンスには必ず出席する事。欠席者は履修出来ないこともある。服装は仙台大学指定のジャージ及びTシャツ。体育館用シューズを用意すること。ただしでシューズをはくのは不可。時計・指輪・ピアス・ネックレスははずす。着替えは更衣室で行う。バッグ等の貴重品は各自で管理し、更衣室には絶対に置かないこと。試合で休む等は直接口頭で伝える事。それ以外は認めない。不幸があった際はあとから直接伝えにくること。遅刻は原則的に認めない。授業中は、分別ある行動を心がけること。授業の妨げになる行動を取る学生は、退出してもら場合もある。
授業内レポート			◎	40%	
授業外レポート				評価対象外	
演習・実技	◎		○	30%	
授業態度		◎		30%	
出席					
関連科目	種目別コーチング演習Ⅰ・Ⅱ(バレーボール)				
教科書	特に指定しない			参考書	Volleypedia バレーボール百科事典 (日本バレーボール学会・編)
連絡先	石丸研究室(E棟2階) オフィスアワー:水曜日 10:30-11:30、荒牧研究室(A棟5階)				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	バスケットボール Basketball (P.A.)			担当教員	児玉善廣 ・ 菅野恵子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	1	
授業の概要					
本授業は競技形態、競技特性などを踏まえ、バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く。特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ、パス、ドリブルなどの操作能力を磨く。ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術、戦術を説明しながら審判法なども紹介する。					
授業の一般目標					
本授業は競技形態、競技特性などを踏まえ、バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く。特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ、パス、ドリブルなどの操作能力を磨く。ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術、戦術を学び、審判法なども経験する。競技の基本戦術を理解し、ボールゲームの楽しさを知る。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	バスケットボール競技に関する基礎知識と基本的技術を理論的に理解し、説明できる。				
■ 情意的領域	ゲームや諸々の身体運動によって、仲間との連携や協力ができ、ゲームに楽しく参加できる。				
■ 技能表現的領域	スキルの向上を確認しながら、基本プレーの技術的操作ができる。				
授業計画(全体)					
本授業は競技形態、競技特性などを踏まえ、バスケットボールにおける基本技術の体得に重点を置く。特にオフェンス技術の中でも最も重要なシューティングに力を入れ、パス、ドリブルなどの操作能力を磨く。ゲーム形式を多く取り入れて諸々の技術、戦術を学び、審判法なども経験する。競技の基本戦術を理解し、ボールゲームの楽しさを体感することを目標とする。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法			⑨	[テーマ] ゲームへの展開 I (スクリーミング) [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (1) 実践的シュート感覚とリバウンドの体感
②	[テーマ] バスケットボールの競技特性 [内容] バスケットボールの歴史の変遷と基本技術とルールの説明			⑩	[テーマ] ゲームへの展開 II (スクリーミング) [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (2) 攻防のバランス
③	[テーマ] 基礎技術 I [内容] 1) ボールコントロール 2) ボールハンドリング 3) パッシングの紹介			⑪	[テーマ] ゲーム I [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (1) マンツーマン・ディフェンスとゾーン・ディフェンスについて
④	[テーマ] 基礎技術 II [内容] シューティング 1) ドリブルとレイアップシュート			⑫	[テーマ] ゲーム II [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (2) 3ポイント・シュートの影響
⑤	[テーマ] 基礎技術 III [内容] シューティング 2) ジャンプシュートとリバウンド			⑬	[テーマ] ゲーム III [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (3) シュート率とリバウンドの影響
⑥	[テーマ] 基礎技術 IV [内容] 1) パッシングとドリブル 2) シューティングとの組み合わせ			⑭	[テーマ] ゲーム IV [内容] 5-on-5によるオールコートの攻防の実践 (4) シュート率とリバウンドの影響
⑦	[テーマ] ゲームの試み [内容] ゲームによる競技感覚の体感			⑮	[テーマ] オフェンス技術のまとめ [内容] オフェンスプレイに必要な基本的技術の総合練習 (ドリブルチェンジ、クロスオーバーシュート、ゴールシュートのコンビネーション技術)
⑧	[テーマ] 基礎技術の総合練習 [内容] 1) ドリブル 2) ドリブルターン 3) レイアップシュート 4) ジャンプシュートの連続した組み合わせを体得する。			⑯	[テーマ] オフェンス技術の評価 [内容] ドリブルチェンジ、クロスオーバーシュート、ゴールシュートまでのコンビネーションプレイ
成績評価方法(方針)					
1・実技試験は期末に実施する。 2・出欠に関しては授業に対する意欲の1つと捉える。 3・授業態度も学科行動の評価として大切に扱う。以上を総合的に評価を行う。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験				35%	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席のない学生は単位を修得することは出来ない。 ・授業態度の悪い者や、著しく授業を妨げる行動と判断した者は、受講資格を失う。 ・授業用の専用ジャージを用意しているので、そのジャージを着用し参加すること。 ・授業計画は授業の進み方(技術体得状況)で若干変更する場合があります。 ・尚、大学設置基準に求められている時間の授業時間外の学習を行う。
授業内レポート				評価対象外	
授業外レポート				評価対象外	
演習・実技				30%	
授業態度				35%	
出席				欠格条件	
関連科目	種目別 コーチング演習 I・II (3年)、スポーツ・コーチング実習(3年)				
教科書	特になし			参考書	特になし
連絡先	研究室32 : 第5体育館3階 オフィスアワー : 前期/後期 木曜日 10:20 ~12:00				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	バスケットボール Basketball			担当教員	佐藤久夫・菅野恵子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
本授業はバスケットボールの競技特性を瞬時の攻防の切り替え(トランディション)と捉えた上で、攻防のシステムを段階的な実技を通して体得しながら、チームスポーツにおける役割と責任を学び専門分野への応用と人間的成長の礎とする。また、試合を運営する方法についても実践をもって指導する。					
授業の一般目標					
バスケットボールの基本技術や特性を活かした戦術とは何かを知り、指導者としてのレベルでチームスポーツを考えられるようになる。さらに、正確なルールを知り試合を運営する側の審判法や記録を経験することで、授業や課外活動での指導者としての能力を身に付ける。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	指導者のレベルでチームスポーツを考えられるようになる。				
■ 情意的領域	役割と責任を果たそうと努力することで、人間的成長の礎となる。				
■ 技能表現的領域	基本的なスキルを習得することで、教員採用実技試験等に対応できる。				
授業計画(全体)					
各授業テーマに沿って段階的に実技指導を行うが、動きとシステム攻防の理解度を深めるために視聴覚教材も用いる。受講生の個性を活かせるような役割を与え、各ポジションの連係プレイを確立して試合を戦術を用いて行うようにする。よって、グループ編成し役割をローテーションしながら総合的な理解を深める。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 1、競技の歴史説明 2、競技特性と攻防の概略説明			⑨	[テーマ] トランディション1(攻防一体) [内容] zone defenseからの速攻方法とその役割分担
②	[テーマ] 攻撃の個人スキル [内容] 1、制限区域内のシュート 2、制限区域外のシュート 3、3点シュート 4、ピボットとドライブの方法 5、パスの方法			⑩	[テーマ] トランディション2(攻防一体) [内容] man to man defenseからの速攻方法とその役割分担
③	[テーマ] 防御の個人スキル [内容] 1、制限区域内の防御 2、制限区域外の防御 3、ピボットやドライブに対する防御			⑪	[テーマ] 試合形式による展開1 [内容] 1、zone defenseでのトランディションを中心とした試合 2、man to man defenseでのトランディションを中心とした試合
④	[テーマ] 集団スキルの攻防(1) [内容] 1、1on1の攻防 2、2on1の攻防 3、3on2の攻防 4、3on3の攻防			⑫	[テーマ] 試合形式による展開2 [内容] 1、審判法と記録方法 2、戦術を含む展開方法 3、戦術的総合試合
⑤	[テーマ] 集団スキルの攻防(2) [内容] 1、4on3の攻防 2、4on4の攻防			⑬	[テーマ] 試合形式による展開3 [内容] 1、コーチの立場からの戦術(タイムアウト) 2、残時間と点差による戦術の展開 3、5分試合を題材にした逆転方法と勝ち試合の制し方法
⑥	[テーマ] ポジション毎の攻防 [内容] 1、ガードポジションの攻防 2、フォワードポジションの攻防 3、センターポジションの攻防			⑭	[テーマ] 試合形式による展開4 [内容] 1、10分試合による総合的な展開とベンチワーク 2、規範的な展開の映像による学習
⑦	[テーマ] 集団スキルの攻防(3) [内容] 1、3on3(G,F,Cポジションから)の攻防 2、4on4(2G,F,Cから)の攻防			⑮	[テーマ] 試合形式による展開5 [内容] 10分×2回の試合による総合的な展開と運営
⑧	[テーマ] 集団スキルの攻防(4) [内容] 1、5on4(zone defense) 2、5on5(man to man defense) 3、5on5(zone defense)			⑯	[テーマ] テスト [内容] 1、基本技術(ドリブル、シュート)のスキルテスト 2、競技特性の理解度と習熟度
成績評価方法(方針)					
授業内での協力的な貢献度や授業態度について、成績評価の判断の材料とする。また、個人のスキルテストの結果と、試合を行った際のチームの勝敗、バスケットボールのルールの理解度も含め、総合して成績評価を行う。個人のスキルテストについては、評価の基準を授業内で説明する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					70%
授業内レポート					30%(減点アリ)
授業外レポート					欠格条件
演習・実技	◎	○	◎		
授業態度	○	◎			
出席	◎	○			
関連科目					
教科書				参考書	
連絡先					
佐藤研究室:A棟4階410室 オフィスアワー:木曜10:20-12:00 菅野研究室:第5体育館 2階 オフィスアワー:木曜日 10:20-12:00					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	ハンドボール Handball(P.A.)			担当教員	桑原 康平
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格 教員免許状(中・高 保健体育) JPSUスポーツトレーナー
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
本授業は、ハンドボールの基本的な技術・戦術の実技を身に付けることを中心に展開する。また、ハンドボールの特性や歴史、ルールや国際的なトレンドについて講義する。					
授業の一般目標					
ハンドボールにおける基本的な技術・戦術を習得する。 実際の試合において適切な状況判断ができるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	ハンドボールの基本的な技術・戦術について説明できる。			
■	情意的領域	ハンドボールの構造的特性を理解し、仲間と協力してゲームに参加することができる。			
■	技能表現的領域	ハンドボールの個人技術(主にシュートとフェイント)と個人戦術(主にシュートとフェイント)を習得する。			
授業計画(全体)					
ハンドボールの個人技術・戦術を習得することから始め、次第にそれらの技術・戦術をグループやチームの中で応用できるよう展開する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員紹介、授業概要説明、ハンドボールの概要説明、グループ分け			⑨	[テーマ] 数的優位の攻め方① [内容] 数的優位の際の攻撃理論(パラレル・クロス) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム
②	[テーマ] ボールに慣れる [内容] 集団行動(整列の仕方)、ボールハンドリング、各種シュートの説明・実践、パスの説明・実践、基本的なルールの説明			⑩	[テーマ] 数的優位の攻め方② [内容] 数的優位の際の攻撃理論(パラレル・クロス・スクリーン) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム
③	[テーマ] シュート [内容] ジャンプシュート、ステップシュート、ランニングシュート 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】			⑪	[テーマ] 数的優位の攻め方③ [内容] 数的優位の際の攻撃(パラレル・クロス・スクリーン・スライド) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム
④	[テーマ] ハンドボールの映像を視聴する [内容] 各年代別カテゴリーの試合映像を視聴、戦術・技術・その他についての説明			⑫	[テーマ] ゲーム① [内容] リーグ戦を行う
⑤	[テーマ] ポジション別シュート [内容] サイドシュート、ポストシュートの説明、実践 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム			⑬	[テーマ] ゲーム② [内容] リーグ戦を行う
⑥	[テーマ] フェイント① [内容] フェイントのステップ(片脚着地) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム			⑭	[テーマ] スキルテスト [内容] 個人技術の実技テストを行う
⑦	[テーマ] フェイント② [内容] フェイントのステップ(両脚着地) 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム			⑮	[テーマ] ハンドボール全般に関する筆記テスト [内容] ハンドボールの理論、ルール、歴史について筆記テストを行う
⑧	[テーマ] 1対1の攻め方と守り方 [内容] スペースの攻め方と身体接触の仕方 【基本内容(ボールハンドリング、コーディネーションドリルを用いたウォーミングアップ、パス・キャッチ、バックコートからのシュート練習)含む】、ゲーム			⑯	[テーマ] まとめ [内容] まとめ
成績評価方法(方針)					
授業に対する関心・意欲・態度等(50%)。スキルテスト(30%)、筆記テスト(20%)を行い、これらの結果を総合して評価を行う。出席は欠格条件とする。試験結果については、口頭または掲示にて公表する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験				評価対象外	原則、欠席が4回以上になると評価の対象から外れます。 公式試合、大会参加(練習試合や合宿は不可)による出席回数不足については、別途課題を提示することがあります。ただし、いかなる理由においても授業の2/3以上の出席を満たしていない場合は、評価の対象から外れます。なお、実技技術習得の観点から、授業に長期間参加できない(ケガ、病気等による)ことが予想される者は履修を控えてください。(治療後に履修するようにしてください。) その他、諸注意は初回のオリエンテーションの中で行います。 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと
授業内レポート	○			20%	
授業外レポート				評価対象外	
演習・実技			◎	30%	
授業態度		◎		50%	
出席				欠格条件	
関連科目					
教科書				参考書	基本が身につくハンドボール練習メニュー200
連絡先	第5体育館2階 桑原研究室 オフィスアワー:前期後期ともに 木曜日11:30~12:30				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	サッカー Soccer(P.A.)			担当教員	黒澤 尚・中屋敷 眞	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数			
授業の概要						
本授業はサッカーの正しい基本技術の獲得を中心に行う。授業テーマに沿い、その基本技術の構造を具体的に解説しながらドリル形式のトレーニングで基本技術を獲得した後、その基本技術をスキルとして発揮できるように、スモールサイドゲームを多く取り入れた授業とする。また、授業内容の充実と指導の徹底のためT&Tにて授業実施する。						
授業の一般目標						
サッカーを構成する各種の基本技術の構造を分解し、逆算の発想から、その技術構造を再構築して、その技術獲得につなげる一連の流れが理解出来るようになる。これにより技術獲得に要する時間が短くなり、スキルとして失敗した場合でもその原因と理由が自己分析できる改善能力が身につく。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	基本技術の構造と、その分解・組み立ての説明ができる。					
■ 情意的領域	より効率的、効果的な指導を知ることで、さらにモチベーションを高めることができる。					
■ 技能表現的領域	一般体育や初心者レベル指導で示範ができる。					
授業計画(全体)						
日本サッカー協会のコーチング法をベースに、基本技術の獲得をより効率的、効果的に行う。各授業テーマ毎に、その基本技術の構造を解説し、分解と組み立てをしながら示範と言語を中心に説明、理解させ、ドリル形式で獲得する。その後ゲーム形式でスキルとして発揮出来るようにオーガナイズする。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意			⑨	[テーマ] ヘディング [内容] ヘディングの技術構造の説明。ドリル練習、パスゲーム、ヘディングシュート、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	
②	[テーマ] 集団行動と最初の技能評価 [内容] 集団の扱い方の説明。ボールリフティングとスモールサイドゲームで受講者の既存の技能評価			⑩	[テーマ] トラッピング その2(空中にあるボール) [内容] 空中にあるボールのトラッピングの技術構造と使用部位の説明。ドリル練習、トラップ&パス、スモールサイドゲームを通じた技能獲得	
③	[テーマ] インサイドキック [内容] インサイドキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑪	[テーマ] インステップキック その1(空中にあるボール) [内容] インステップキックの技術構造と使用局面の説明。ボールミートとロングキックのドリル練習、サッカーテニスを通じた技能獲得	
④	[テーマ] アウトサイドキック [内容] アウトサイドキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑫	[テーマ] インステップキック その2(プレースキック) [内容] 地面上にあるボールのインステップキックの技術構造の説明。ドリル練習、シュートスキル、そして1/4ピッチでのスモールサイドゲームを通じた技能獲得	
⑤	[テーマ] トラッピング その1(グランダーボール) [内容] グランダーボールのトラッピングの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑬	[テーマ] ドリブルとシュート・パス [内容] 良いドリブルの解説と練習。ゲームスキルとしてパスやシュートとの組み合わせたパターン練習とスモールサイドゲーム	
⑥	[テーマ] トゥキック、ヒールキック、ソールキック [内容] 3種類のキックの技術構造の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑭	[テーマ] ゲーム [内容] ハーフコートでの8:8のゲーム。ほぼ正規のルールを適用	
⑦	[テーマ] インサイドでのスワープキック(インフロントキック) [内容] インサイドでのスワープキックの技術構造と使用局面の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑮	[テーマ] ゲーム [内容] フルコートでの11:11のゲーム。正規ルールで行う。	
⑧	[テーマ] アウトサイドでのスワープキック(アウトフロントキック) [内容] アウトサイドでのスワープキックの技術構造と使用局面の説明。ドリル練習、ボールポジションゲーム、スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑯	[テーマ] [内容]	
成績評価方法(方針)						
出席3分の2以上、ボールリフティング20回以上、およびサッカーのルールに関する2つのレポート提出を達成できなかった場合、欠格とする。ボールリフティングについては、毎週授業時の最初の15分間をウォームアップも兼ねてリフティングタイムとして設け、小テスト的に確認するので、出来る限り早い段階での達成努力をすること。評価割合の高い技能については、経験者を有利とするのではなく、向上度を評価基準とする。提出されたレポートは(授業内で)解説をしながら返却する。						
成績評価方法(詳細)						
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)	
定期試験					・大学指定ウェア着用 ・各自サッカーシューズ(スパイク、トレーニングシューズ)用意 ・公的理由もしくは病気、ケガ等で欠席(見学)する場合、根拠文書を添えて欠席届を提出すること。※病気・ケガの場合は診断書。	
授業内レポート				20%	・悪天候で実技が出来ない場合、教室で座学を行うので掲示板を見ること。	
授業外レポート	○	○	◎	80%	・授業態度については減点対象であり、改善しない場合は欠格とする場合もある。	
演習・実技	◎	○	◎	80%	・「大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと」	
授業態度				失格条件		
出席				欠格条件		
関連科目						
教科書	特に指定なし			参考書	特に指定なし	
連絡先	研究室:A棟409 オフィスアワー:火曜日12:30~14:00					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	サッカー Soccer(P.A.)			担当教員	吉井 秀邦
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
本授業はサッカーの基本技術の獲得を中心に行う。授業テーマに沿い、その基本技術の構造を具体的に解説しながらドリル形式のトレーニングで基本を獲得した後、その基本技術をスキルとして発揮できるように、スモールサイドゲームを多く取り入れた授業とする。					
授業の一般目標					
サッカーを構成する各種の基本技術の構造を分解し、逆算の発想から、その技術構造を再構築して、その技術獲得につなげる一連の流れが理解出来るようになる。これにより技術獲得に要する時間が短くなり、スキルとして失敗した場合でもその原因と理由が自己分析できる改善能力が身につく。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	基本技術の構造と、その分解・組み立ての説明ができる。				
■ 情意的領域	より効率的、効果的な指導を知ることで、さらにモチベーションを高めることができる。				
■ 技能表現的領域	一般体育や初心者レベル指導で示範ができる。				
授業計画(全体)					
日本サッカー協会のコーチング法をベースに、基本技術の獲得をより効率的、効果的に行う。各授業テーマ毎に、その基本技術の構造を解説し、分解と組み立てをししながら示範を中心に説明、理解させ、ドリル形式で獲得する。その後ゲーム形式でスキルとして発揮出来るようにオーガナイズする。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法と履修上の諸注意			⑨	[テーマ] ペネトレーション(突破)①個人 [内容] ドリブルやラン・ウィズ・ザ・ボールによる突破を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
②	[テーマ] サッカー競技の特色と最初の技能評価 [内容] サッカー競技の特色を説明。M-T-Mの原則に従いスモールサイドゲームで受講者の既存の技能評価			⑩	[テーマ] ペネトレーション(突破)②グループ [内容] 3人目の動きやサポート、グループでの突破、オフense戦術を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
③	[テーマ] ボールフィーリング① [内容] ボールを運ぶ技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑪	[テーマ] ボールを奪う①個人 [内容] 個人でのボール奪取技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
④	[テーマ] ボールフィーリング② [内容] ボールをコントロール(止める)技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑫	[テーマ] ボールを奪う②グループ [内容] グループでのボール奪取、ディフェンス戦術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得
⑤	[テーマ] パス&コントロール① [内容] 動きながらのパス&コントロールの技術獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑬	[テーマ] スモールサイドゲーム [内容] コートのサイズを変えながら、ミニゲームを行い、
⑥	[テーマ] パス&コントロール② [内容] サポート・ポジショニングについて学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑭	[テーマ] 審判法 [内容] サッカーの審判法を学ぶ。
⑦	[テーマ] ボールを失わない [内容] ボールキープの為の手や体の使い方を学ぶ。スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑮	[テーマ] ゲーム [内容] 8;8のゲーム。正規ルールで行う。
⑧	[テーマ] シュート・ヘディング [内容] シュート技術・ヘディング技術の獲得。スモールサイドゲームを通じた技能獲得			⑯	[テーマ] ゲーム [内容] フルコートでの11:11のゲーム。正規ルールで行う。
成績評価方法(方針)					
出席3分の2以上、およびサッカーのルールに関するレポートを達成できなかった場合、欠格とする。評価割合の高い技能については、経験者を有利とするのではなく、向上度を評価基準とする。また、提出されたレポートは解説をしながら返却をする。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> 各自サッカーができるシューズ(スパイク、トレーニングシューズ)を用意する。 公的理由もしくは病気、ケガ等で欠席(見学)する場合、根拠文書を添えて欠席届を提出すること。 悪天候で実技が出来ない場合、教室で座学を行うので掲示板を見ること。 大学設置基準で定められている時間の授業時間外学習を行なうこと。
定期試験				実施せず	
授業内レポート					
授業外レポート	◎			20%	
演習・実技	◎	○	◎	60%	
授業態度	○	○	○	20%	
出席	◎	◎	◎	欠格条件	
関連科目					
教科書	特に指定なし			参考書	特に指定なし
連絡先	研究室:A棟4F414 オフィスアワー:木曜日12:40~14:10				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	ラグビー Rugby(P.A.)			担当教員	武石 健哉	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員・PSUスポーツトレーナー
	履修の方法	選択必修	単位数			
授業の概要						
ラグビーの基本理念・スキルを身につける為に、毎回テーマを与えながら実技形式で講義する。また受講者相互にコミュニケーションをとり、ラグビー特有のプレーができるよう関係を構築することを説明する。						
授業の一般目標						
ラグビー独自の基本的なスキルを身につけ、基本理念とされているノーサイド、ワンフォアオール・オールフォアワンの精神を理解する。また、ラグビー憲章にある自由、責任、フェア、多様性といった特徴をゲームから知る。さらに戦術・戦略面について考察する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	フットボールからサッカーとラグビーに分かれた歴史的背景を説明できる。ボールの形、ラグビーのスローフォワード、ノックオン、オフサイドが成立した理由、レフリーの役割、キャプテンシーとは何かを説明できる。				
■	情意的領域	フットボールからサッカーとラグビーに分かれた歴史的背景を説明できる。ボールの形、ラグビーのスローフォワード、ノックオン、オフサイドが成立した理由、レフリーの役割、キャプテンシーとは何かを説明できる。				
■	技能表現的領域	ラグビーの競技特性を理解しつつ、個人、チームスキルを発揮できる。				
授業計画(全体)						
主にグループにより活動を進め、多様なゲーム形式にてラグビーに必要な要素を理解する。基本的なスキルトレーニングにて、ゲームに必要なスキル習得を目指す。ミニゲーム、基本スキル習得ドリルを並行して行い、実戦で活用できるレベルに基本スキルを高めると共に、ゲームを構成しているプレーについて知識を深める。最終的に、15人制のルールでゲームを行い、ルール・ゲーム特性を理解し、チーム力の向上を目指すことでラグビーを学ぶ。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] ガイダンス ラグビーというスポーツ [内容] 担当教員の紹介、授業の目的と進め方、成績評価の方法、ラグビーの歴史、国内外のラグビーについて説明する。			⑨	[テーマ] アタック方法の理解と実践① [内容] アタック方法を提示し実践する。デコイ、クロス、ループといった複数でアタックする方法を練習する。ミニゲームにて達成度を確認する。	
②	[テーマ] ラグビーのルーツ、フットボールを体験する [内容] サッカーとラグビーのルーツであるフットボールについての説明を行い、実体験する。ラグビーにおけるレフリー、キャプテンの役割、ローの意味等についての説明を行う。			⑩	[テーマ] アタック方法の理解と実践② [内容] ラン・パス・密集(モール)を駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。	
③	[テーマ] 走る・投げる・捕る① [内容] パススキル・キャッチングスキルの習得。ボールを持つランニングスキル、ランニングパススキル、ランニングキャッチスキルの習得。			⑪	[テーマ] アタック方法の理解と実践③ [内容] ラン・パス・密集(モール)・キックを駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。	
④	[テーマ] 走る・投げる・捕る② [内容] 3on3のゲーム形式の中でランニング・パス・キャッチングの各スキルを習得する。			⑫	[テーマ] アタック方法の理解と実践④ [内容] ラン・パス・密集(モール)・キックを駆使し、防御を崩す。グラウンドの形状、大きさを考え、ゲームを組み立てる。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。	
⑤	[テーマ] 走る・投げる・捕る③+ユニットプレー(BK) [内容] ゲームで使うBKサインプレーの動きを習得する。6on6のゲーム形式でランニング・パス・キャッチングの各スキルを習得する。			⑬	[テーマ] アタック方法の理解と実践⑤ [内容] セットプレーからの攻撃、ラン・パス・密集(モール)・キックを駆使し、防御を崩す。攻防の駆け引きを学び、ミニゲームにて達成度を確認する。	
⑥	[テーマ] 密集を作る [内容] 5対5の攻防を行う。モールの形成方法、サイド攻撃プレーを習得する。			⑭	[テーマ] ディフェンス方法の理解と実践、攻撃課題を練習する [内容] ディフェンスの基本的な原則を提示し練習する。アタック方法にて抽出された課題に対しての練習を行う。	
⑦	[テーマ] ユニットプレー(FW) [内容] スクラム、ラインアウトのユニットプレーを実施する。ユニットプレーの構成を理解する。			⑮	[テーマ] 15人制ラグビーのルールによる試合 [内容] ラグビーのスキル、基本的な考えを理解してゲームが出来るか確認する。ゲーム終了後、チーム内で振り返り、発表し、全員で成果を共有する。	
⑧	[テーマ] キックスキル [内容] 様々なキックスキル、キックボールのキャッチングスキルを習得する。キックゲームを行い、実戦に活用できるスキルへ高める。			⑯	[テーマ] スキルテスト [内容] スキルテストを行う。実際のゲーム場面を抜き出し、その中でスキルを発揮する、ラグビー精神が反映されたプレーができるか確認する。	
成績評価方法(方針)						
授業態度(評価割合30%)、実技実施状況(評価割合40%)、定期試験スキル到達度チェック(評価割合30%)。これらの結果を総合して成績評価を行う。ただし出席回数2/3以下の場合は成績評価対象外とする。また、特別な理由がない限り、初回から3回連続の欠席者においては、その後の履修を許可しないこととする。試験は事前にポイントを示す。また終了後に総括しながら、評価状況を口頭にてフィードバックする。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	最初のガイダンスには必ず出席すること。参加・体験型の学習を中心とする本授業では、自ら考え行動する意欲が必要とされる。身体接触が伴う競技であるため、授業に出席する際の靴や服装をよく考えることが必要。ピアスや貴金属、実技に適さない靴の着用は認めない。大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
定期試験		○		○	30%	
授業内レポート				○	評価対象外	
授業外レポート				○	評価対象外	
演習・実技		○		◎	40%	
授業態度			○	◎	30%	
出席					欠格条件	
関連科目	特になし					
教科書	特になし			参考書	特になし	
連絡先	研究室:第4体育館 武石研究室 オフィスアワー:火曜10:20~11:50					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	柔道 Judo (P.A.)			担当教員	川戸湧也・南條充寿
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
本授業は、柔道に必要な基本動作(礼法、姿勢、進退動作、組み方、受身)と対人運動の技能(投技、固技)を実技を通じて解説する。					
授業の一般目標					
基本動作(礼法、姿勢、進退動作、組み方、受身)を習得した後に、投技技能、固技技能の習得に取り組む。 技能の習得を通じて柔道の本質である「精力善用」「自他共栄」の精神を理解する。 手技・腰技・足技の中から1つずつ習得する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	日本傳講道館柔道の概要(創始の歴史、目的など)について説明できる。国際柔道連盟試合審判規定に基づいて柔道の試合の勝敗が理解できる。				
■ 情意的領域	伝統的な行動の仕方に留意して、お互いを尊重することができる。				
■ 技能表現的領域	中学校、高等学校において柔道の授業を行うことができる技能を身につける。				
授業計画(全体)					
本授業は基本動作の解説のあと、投技の習得においては「五教の技」に基づき、その理合(相手を投げるための要素→崩し・作り・掛け)を解説しながら段階を踏んで展開していく。それぞれの技術は、かかり練習、約束練習をもって正確さを追求し、受身においては試験を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業全体の流れ、評価のめやす、柔道の概要、道場内でのルールなどの説明を行う。			⑨	[テーマ] 投技技能の習得③～乱取練習 [内容] 大腰の紹介。体捌きの中の前回り捌きについて解説していく。かかり練習、約束練習における留意点を通じて技の正確さを追求する。
②	[テーマ] 受身の習得 [内容] 柔道の受身を紹介し、後受身、横受身、前回受身について解説していく。			⑩	[テーマ] 投技技能の習得④～乱取練習 [内容] 体落の紹介。かかり練習、約束練習における留意点を通じて技の正確さを追求する。これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を行う。
③	[テーマ] 柔道衣の着衣～基本動作 [内容] 柔道衣の各部位の名称や実際の着方について説明する。礼法(立礼、座礼)、基本姿勢、進退動作、組み方を解説する。			⑪	[テーマ] 投技技能の習得⑤～乱取練習 [内容] 大外刈と大内刈の紹介。かかり練習、約束練習における留意点を通じて技の正確さを追求する。これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を行う。
④	[テーマ] 固技技能の習得① [内容] 抑込技の基本的な技能を紹介し、乱取練習における攻撃、防御の方法及び留意点について解説していく。			⑫	[テーマ] 投技技能の習得⑥～乱取練習 [内容] 背負投の紹介。かかり練習、約束練習における留意点を通じて技の正確さを追求する。これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を行う。
⑤	[テーマ] 固技技能の習得② [内容] 関節技基本的な技能を紹介し、乱取練習における攻撃、防御の方法及び留意点について解説していく。			⑬	[テーマ] 投技技能の習得⑦～乱取練習 [内容] 巴投の紹介。捨身技の理論を解説していく。約束練習における留意点を通じて技の正確さを追求する。
⑥	[テーマ] 固技技能の習得③ [内容] 絞技の基本的な技能を紹介し、乱取練習における攻撃、防御の方法及び留意点について解説していく。			⑭	[テーマ] 乱取練習 [内容] これまでに習得した技能を用いて立技の乱取練習を数多く行う。
⑦	[テーマ] 投技技能の習得① [内容] 投技の理論を解説し、習得の方法について説明する。出足払の紹介。			⑮	[テーマ] 柔道の審判法 [内容] オリンピックや世界選手権大会などで用いられている国際柔道連盟試合審判規定のうち、技の評価や罰則など基本的な部分を解説していく。
⑧	[テーマ] 投技技能の習得② [内容] 膝車の紹介。投技における体捌きの重要性について解説する。			⑯	[テーマ] 実技試験 [内容] 前回受身(左右)のテストを行う。
成績評価方法(方針)					
実技試験を用いて評価する。ただし、出席回数が2/3以下の場合は成績評価対象外とする。試験に関し、合格しなかった者に対して一人一人に改善点を記した表を提示し、授業内でも徹底して指導する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験			◎	100%	武道の特性を理解し、授業中は道場内でのルール(礼法、服装、注意事項)などを厳守してください。著しく実践できない学生については受講を遠慮していただく可能性があります。 柔道衣は各自で準備してください。 ※第1回目の授業で申し込みが可能です。 柔道衣を着用する場合に金属類や余計な物は身につけないこと。 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席			◎		
関連科目	柔道Ⅰ・Ⅱ				
教科書				参考書	
連絡先	川戸研究室				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	剣道 Kendo(P.A.)			担当教員	齋藤浩二
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
剣道の基本動作と一本打ちの技の修得に重点をおいて行う。「技」の修得は、代表的な技のみに留めて、互格稽古および簡易試合ができるまで展開する。					
授業の一般目標					
剣道の基礎的な動作を身に付け、基本となる打ち方を理解して、面・小手・胴を打突できるようにする。また、日本の伝統的な行動様式や剣道具の着装・外し方の作法などが理解でき、身に付けることができるようにする。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	剣道の試合の仕方、技の種類、竹刀・剣道具の名称を説明できる。			
■	情意的領域	竹刀を持ち、相手と打ち合うことの楽しさを味わうことができる。			
■	技能表現的領域	伝統的な行動や礼儀作法が理解でき、基本動作が身に付けることができる。			
授業計画(全体)					
基本動作と打突の仕方・打たせ方を身に付けてから、徐々に剣道具を着装する。その上で、一本打ちの技を重点的に取り組み、いくつかの技を修得して稽古へと展開していく。互格稽古ができるようになったら、簡易な試合、さらに団体形式の試合を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、礼法 [内容] 授業の内容の説明と剣道についての概要、礼法(正座・座礼)の指導			⑨	[テーマ] 切り返しの完成、払い技の修得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)、切り返し(完成)、一本打ちの技、払い面、約束練習、互格稽古
②	[テーマ] 基本動作の修得 [内容] 竹刀の名称、組み立て方の説明、基本動作としての礼法(正座、座礼、立礼)、構え方の指導			⑩	[テーマ] 連続技(二段技)の修得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)、切り返し、一本打ちの技、払い技の復習、小手一面、小手一胴、約束練習、互格稽古
③	[テーマ] 基本動作から打突動作への展開 [内容] 足さばき、振り方(上下・正面)、稽古時の礼法の指導			⑪	[テーマ] 引き技の修得、互格稽古 [内容] 復習(素振り、切り返し)切り返し、一本打ちの技、二段技の復習、つばぜり合い、引き面、引き胴、約束練習、互格稽古
④	[テーマ] 剣道具(垂・胴)の着装、打突の仕方・打たせ方の導入 [内容] 前回の復習(足さばき・振り方)、剣道具(垂・胴)の着装、打ってみる			⑫	[テーマ] 技の練習、試合への導入 [内容] 試合規則の説明、復習(素振り)、切り返し、一本打ちの技「攻め→反応する→打突」のパターンによる練習、約束練習(これまで練習した技を組み合わせる)、互格稽古(試合のように実施する)
⑤	[テーマ] 打突の仕方、打たせ方の修得 [内容] 復習(素振り)、打ってみる、踏み込む足の練習、打突の仕方(面)の指導			⑬	[テーマ] 試合への導入 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、試合の体験
⑥	[テーマ] 剣道具(面・小手)の着装、打突の仕方・打たせ方(面)の導入 [内容] 復習(素振り、踏み込み足による面打ち)、剣道具(面・小手)の着装、部位(面・胴・小手)を打ってみる、送り足による面打ち、踏み込みによる面打ち			⑭	[テーマ] 簡易試合 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、団体形式の試合を体験
⑦	[テーマ] 打突の仕方(面・胴・小手)の修得 [内容] 復習(素振り、踏み込む足による面打ち、送り足による(面・胴・小手)、踏み込み足による(面・胴・小手)、約束練習			⑮	[テーマ] 簡易試合 [内容] 素振り、切り返し、基本打突、約束練習、団体形式の試合
⑧	[テーマ] 一本打ちの技の練習、切り返しの導入、稽古への導入 [内容] 復習(素振り、踏み込む足による面打ち)、切り返し一回、一本打ちの技(面・胴・小手)の練習、約束練習、稽古			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 素振り、切り返し、面打ち、胴打ち、小手一面打ち
成績評価方法(方針)					
実技試験(70%)、授業時の実技評価(30%)の結果に基づき、総合的に評価する。また、授業への積極的な態度については加点する。実技試験については(授業内で)解説をし伝える。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				◎	70%
授業内レポート					評価対象外
授業外レポート					評価対象外
演習・実技			○		30%
授業態度					加点
出席					欠格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。また、剣道は伝統的な行動を重視するため、礼儀作法や行動の仕方については厳しく指導します。必要な用具として、竹刀と手拭いを準備してください。					
関連科目					
教科書	特に指定しない。			参考書	全日本剣道連盟編『剣道指導要領』
連絡先	齋藤研究室:第三体育館3階剣道場 オフィシアワー:木曜日 11:00~12:30				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	ダンス I Dance I (P.A.)			担当教員	山梨 雅枝
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
毎回、バーを使いクラシックバレエの基本的な動きを行う。また、バーの動きでは、柔軟性やバランス能力、細かいステップなどを習得していく。その後、フロアの動きでは、ジャンプや回転を中心に実施する。これらの動きは、全て音楽に合わせて行い、動きの技だけでなく、音感を育むことも重視する。					
授業の一般目標					
クラシックバレエのバーを使った動きは、約350年の歴史の中で体系化されたトレーニング方法であり、体幹や柔軟性を育むのに大変有効である。そのため、様々なスポーツの基礎的なトレーニングにも成り得る。クラシックバレエの基本的な動きを繰り返し実践することで、自己の身体と向き合いながら、体幹や柔軟性、調整力を高めることが目標である。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	自己の身体に気づくことができる。				
■ 情意的領域	合理的な身体の動かし方について理解することができる。				
■ 技能表現的領域	質の異なる様々な動きに対応することができる。				
授業計画(全体)					
毎時間、クラシックバレエの基本的な動きを実施し、授業を重ねる毎にレベルを上げていく。その際、4拍子や3拍子の動きにも対応できるよう、音感も鍛えながら実施する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法についての説明。ダンス作品DVD鑑賞。			⑨	[テーマ] ステップ① [内容] フロアで4種類以上のステップで構成された動きを行う。
②	[テーマ] 足の動きと手の動き [内容] 5つの足のポジションと4つの手の動きを理解する。			⑩	[テーマ] ステップ② [内容] フロアで5種類以上のステップで構成された動きを行う。
③	[テーマ] 両手でバーにつかまて行う動き [内容] バーを両手で握り、床を踏む動きとバランスの動きを行う。			⑪	[テーマ] バランスとターン① [内容] フロアでバランスからターンを行う動きを行う。
④	[テーマ] 片手でバーにつかまる動き [内容] バランスをとりながら、床を踏む動きを行う。			⑫	[テーマ] ジャンプとターン① [内容] フロアでジャンプとターンの動きを行う。
⑤	[テーマ] バーを用いたジャンプの動き [内容] 床を踏んでからジャンプをするステップを行う。			⑬	[テーマ] ジャンプとターン② [内容] フロアでジャンプとターンの動きを行う。
⑥	[テーマ] バーを用いてバランスとジャンプの動き [内容] バーを用いて、バランスやジャンプを行う。			⑭	[テーマ] ステップ、ジャンプ、バランス、ターンの動き① [内容] 13回目までに学んできた動きを、音楽に合わせて踊る。
⑦	[テーマ] バーを用いたターンの動き [内容] バーを用いて、ジャンプやバランス、ターンを行う。			⑮	[テーマ] ステップ、ジャンプ、バランス、ターンの動き② [内容] 13回目までに学んできた動きを、音楽に合わせて踊る。
⑧	[テーマ] ジャンプとバランスとターンを組み合わせた動き [内容] フロアで、ジャンプとバランスとターンを組み合わせた動きを行う。			⑯	[テーマ] 試験 [内容] ステップとジャンプ、バランス、ターンの動きが組み込まれた作品を1人ずつ試験する。
成績評価方法(方針)					
実技試験で、授業内容の理解度を観る。また、受講態度、出席状況を総合的に評価する。しかし、出席回数が単位取得条件を満たしていても、授業内容が理解できていないと判断した場合、単位取得は認められない。また、他の受講者に悪影響と思われる行動や発言をしたと授業担当者が判断した場合、単位取得は認めない。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				◎	30%
授業内レポート		○	○		5%
授業外レポート					
演習・実技				◎	30%
授業態度			◎	◎	15%
出席			◎		20%
関連科目	保健体育科教育論 III、ダンス II				
教科書	適宜資料を配布する。			参考書	・片岡康子『舞踊学講義』大修館,1991
連絡先	山梨研究室(第4体育館1F)				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	海浜実習 Activity & Swim Camp			担当教員	渡邊 泰典
	開講内容	学年・学期	1年・集中		
	履修の方法	選択	単位数	1	関連資格
授業の概要					
海浜実習はプール実技の応用として、海浜を利用した水泳訓練及びマリンスポーツの体験等を主とした学外集中実技授業である。6月と7月にそれぞれ事前オリエンテーションを実施し、学外集中授業として現地にて7月中旬に3泊4日間の日程で開講する。					
授業の一般目標					
事前オリエンテーション、プール実技及び3泊4日の学外授業全日程に参加すること。実技ノルマである大遠泳(約3km・2時間)完泳を目指すこと。民宿・旅館での集団生活に必要なマナーを厳守すること。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	海浜活動に関わる基本的知識・技能と、活動上の留意点について説明することができる。			
■	情意的領域	自然の驚異にふれ、海で活動することの楽しさを知る。人間個人の能力の限界に挑戦し、達成感を得られる。参加実習生同士や上級生との親睦を深めることができる。			
■	技能表現的領域	連続2時間以上の泳力を身につけることができる。水泳以外のアクティビティを実践することができる。			
授業計画(全体)					
事前オリエンテーション、事前実技講習有り。実習日程は7月中旬(海の日を含む)に3泊4日の日程で実施予定である。宿泊施設は地元民宿と旅館を貸し切り。交通手段については貸し切りバス利用予定。事前申込み手続き有り。参加費用については約35,000円銀行振り込み(事前に掲示にて告知)。					
授業テーマとその内容					
1、事前作業 [テーマ] 海浜実習指導内容・知識事前確認 [内容] ①泳力チェック;同時開講の水泳授業により、事前に泳力を確認する。 ②海浜実習オリエンテーション(6月初旬から中旬ごろ);指定会場にて実習に関する説明会を実施する(実施場所については別途掲示する)。 ③事前実技講習(7月初旬ごろ);遠泳に必要な基本的知識と技能に関する説明会を実施する(実施場所については別途掲示する)。					
2、現地本番作業 [テーマ] 実地海浜訓練実技体験 [内容] <第1日目> 午前;大学出発、現地到着、 午後;開講式、入退水方法、点呼法、集団行動等の実技学習、 海浜での泳能力チェック、遠泳マナー習得 <第2日目> 全日;遠泳に向けた隊列泳練習(状況に応じてマリンスポーツ等を含む) <第3日目> 全日;遠泳に向けた隊列泳練習(①小遠泳、②中遠泳 等) <第4日目> 午前;大遠泳、 午後;撤収作業、閉講式、 現地出発、本学到着、全行程終了・解散					
成績評価方法(方針)					
本実習に関わる全ての日程(オリエンテーション、学内事前指導を含む)に参加し、大遠泳を完泳することが単位修得の条件となる。実習中の取り組みかた、レポート等の課題を総合的に判断して評価する。提出されたレポートは、コメントを付したうえで返却する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。 ①受講可能条件として、水泳実技履修者のうちで、6月末に実施される第1次水泳実技試験を受験していなければならない(合否は問わない)。 ②水泳実技授業において、第1次水泳実技試験までの出席率が100%でなければ参加できない。 ③海浜という自然環境の中での授業なので、危機的場面に遭遇することもあり、また、体育授業を想定した集団行動訓練も充分行うので、忍耐強く且つ積極的の受講が要求される。さらに、民宿での集団生活が有る訳であり、規律正しい態度も要求される。
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技	◎	◎	◎	80%	
授業態度	◎	◎	◎	20%	
出席					
関連科目	水泳、水上安全法(含実習)				
教科書	なし			参考書	なし
連絡先	LC棟2階207研究室 渡邊泰典(ysn-watanabe@sendai-u.ac.jp) オフィスアワー:火曜日12:00~13:00				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	スキー I			担当教員	高橋 弘彦 岡田 成弘
	Ski I (P.A.)				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	1	
授業の概要					
<p>各自のレベルにおけるスキーの基礎的理論、基礎技術及び指導法を修得させる。また、学外集中授業の運営形態を学ばせると共に集団生活を通して共同・協調の精神を養わせる。</p> <p>実習は2月下旬から3月上旬にかけて、3泊4日の日程で山形県蔵王温泉スキー場にて実施する。</p>					
授業の一般目標					
<p>修得技能は、初めてスキーを行う者でも全日本スキー連盟バッヂテスト3級を目標とする。スキー経験のある者については、より難易度の高い斜面の滑走が可能になるよう自己技能の向上に努める。</p>					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	各自のレベルにおける技術について説明できる。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	実習開始時よりも技能向上が認識できる。			
授業計画(全体)					
<p>技能レベル毎の班別講習を実施する。技能習得の効率を高めるため、原則として1班10名以内の班編成とする。</p> <p>ナイタースキーも実施する。</p> <p>※受講希望者数がホテルの収容人数を超えた場合は、抽選となる場合がある。また受講の優先は4月における履修登録者となる。</p>					
授業テーマとその内容					
<p>1. オリエンテーション 授業計画、指導内容、指導方法、日程、費用に関する説明を行う(11月中旬を予定)。 各自の技能評価用紙を提出させる。</p> <p>2. 実習</p> <p>①全体ミーティング 開講式に先立ち、蔵王温泉スキー場の紹介、ホテルにおける生活、リフト券の取り扱い等に関する留意点を説明する。</p> <p>②開講式 各班の指導担当教員及び補助学生の紹介を行う。 ゲレンデにおけるマナーと傷害防止に関する説明を行う。</p> <p>③実技 技能レベルの近い数班が合同にて班分けを行い、正式の講習班を編成する。 講習班の決定後は、各班毎に実技講習を実施する。</p> <p>1) ブルーク: 押し開き、リズムカルな連続押し開き 2) ブルークボーゲン: 交互押し出し、浅まわりと深まわり 3) シュテムターン: 山開き、谷開き 4) パラレルターン(大回り): スキップディング、カービング 5) パラレルターン(小回り): スキップディング、カービング 6) 総合滑降: 雪質、斜度等の条件に適合した滑り 7) 制限滑降: ボールセットにより制限されたコース 8) 班別デモンストレーション</p> <p>④閉講式</p>					
成績評価方法(方針)					
<p>修得技能、授業参加態度および実習における生活全体を総合して評価する。</p>					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>1. 必ずオリエンテーションに出席すること。オリエンテーションに出席しない場合には、履修登録を行っていても授業への参加は認められない。また、指定期日までに参加費の入金がない場合も参加は認められない。 2. オリエンテーションは11月を予定。 3. 実習期間中は、禁酒、禁煙となる。これに違反した場合は、履修放棄扱いとなる。 4. 実習費は、39000円程度の予定(宿泊、全食事、交通、保険、リフト)。レンタルスキーを借りる場合は、別途5500円程度(現地支払い)が必要となる。レンタルウェアの取り扱いはない。 5. 参加希望者が受入れ可能人数を超過した場合は、抽選になることもある。 6. 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。</p>
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技			◎	100%	
授業態度				欠格条件	
出席				欠格条件	
関連科目	スキー II (3年)				
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない
連絡先	研究室: C棟3階 55-3002(研究室直通) hr-takahashi@sendai-u.ac.jp				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	スケート			担当教員	川口鉄二 他	
	Skating(P.A.)					
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	演習	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要						
スケートに関する理論(歴史・滑走原理)及び基本技術(直進系・曲進系・転向系・停止系)を学習する。更に選択種目(フィギュアスケート、スピードスケート、アイスホッケー、インラインホッケー等)の基礎技能を身につけ、種目特性に応じた動く楽しさを体験する。						
授業の一般目標						
体育大学ならではのスケートの基本技術の学習を通して安全への配慮、マナー・エチケット及び用具の管理方法などを理解する。種目特有のできる楽しさを自らの身体知を通して学ぶことにより、体育授業及び競技、生涯スポーツの指導力へと結びつけることを狙いとする。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	スケートの滑走原理、技術特性を理解し、説明できる。					
■ 情意的領域	グループ学習を通して相互理解を深め、協力する態度を身につける。					
■ 技能表現的領域	日本スケート連盟公認プレンテストC級以上の技能を習得する。スピードスケート、アイスホッケーの競技会とその計画・運営、審判ができる。					
授業計画(全体)						
領域は希望と経験を考慮し、基礎、フィギュア、スピード、アイスホッケーの各コースに分かれて実習を行う。実習場所は、盛岡及び仙台のスケート場。基礎技能の確認の後、各コース毎の技能を習得し、最終的にC級、B級の相当の技能テストを行い、ゲームや発表会、競技会などでも楽しめる技能を身につけていく。						
授業テーマとその内容						
[テーマ] オリエンテーション [内容] 実習の概要、方法、達成課題及び評価等について						
[テーマ] スケートの基礎知識 [内容] 生涯スポーツとしての今日的課題。スケート種目とその基礎技能の構造、競技法、基本ルール、技の体系について。 [内容] 滑走技術の種類と位相構造を知る。 [内容] スケーティングの基礎、自然滑走と惰力滑走、自力滑走の練習。						
[テーマ] 曲進系、停止系 転向系滑走技術の習得 [内容] 両脚カーブ、フォアクロス、フォアスネークの練習。 [内容] イの字、ハの字ストップの練習。 [内容] フォアバック、バックフォア、モフォークターン、ジャンプターン						
[テーマ] コース別上位技術の習得 [内容] フィギュア、スピード、アイスホッケー独自の基本技術及び戦術を習得することにより、競技の基礎技能を身に付ける。ルールに基づく競技を実際に体験することにより、各競技特性の理解を深める。						
[テーマ] 技能テストによる達成度の確認・練習。 [内容] 各コースごとのテスト種目についての説明及び達成課題を目標とした練習。 [内容] 各コースごとのテスト種目に基づいた技能テスト。						
[テーマ] 学習技能に基づく競技、ゲーム、発表などの応用滑走。 [内容] 実習で身に付けた技能をもとに、ゲームや競技、発表、競技、及びレクリエーションを行い、運営を含めた楽しみ方を学ぶ。						
[テーマ] まとめ [内容] 実習全体の総括と内容の記録(日誌)、動感達成内容の記録・公開。						
成績評価方法(方針)						
実習時間の30%以上の欠席は不可とする。技能習得と授業態度を総合して評価する。 レポートはコメントを付して返却する						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと ①履修希望者は必ずオリエンテーションに参加し、実習参加登録が必要です。②宿泊を伴う場合は相応の経費がかかります。③防寒具(スキー系ウェア、帽子、手袋)を身につけ、けがの防止に留意すること。④地方(盛岡)と仙台市内、夏期と冬期の選択が可能です(アイスホッケーのみ)。⑤技能習得を優先目標に置くので、当たり外れの無いマイシューズでの参加を勧めます。
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技			○	◎	70%	
授業態度		○			30%	
出席						
関連科目						
教科書					参考書	アイススケーティングの基礎(DSK)
連絡先 A403川口						

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	キャンプ Camp (P.A.)			担当教員	岡田 成弘
	開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習
	履修の方法	選択必修	単位数	1	関連資格
	(公社)日本キャンプ協会「キャンプインストラクター」				
授業の概要					
組織キャンプの体験を通して、指導者に必要な資質を育成する。3泊4日間のキャンプを通して、一般的な野外活動に必要とされるスキルや、プログラムの運営方法等を、体験を通して学んでもらう。さらに、指導者からは、指導法やキャンプ指導の魅力伝える。また、自然環境における集団生活の中で、自立心、協調性、リーダーシップなどを養い、仲間との交流を促進する。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・組織キャンプを通じて、プログラム、マネジメント、指導法について理解を深める。 ・野外活動に必要な知識、技術を身につける。 ・自然に親しみ、学生・教員との交流を深める。 					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	野外活動に必要な知識・技術を身につける。				
■ 情意的領域	自然体験活動への興味を持ち、積極的に関わるようになる。自然に興味を持ち、自然環境を配慮する精神を育む。				
■ 技能表現的領域	集団生活の中でコミュニケーション力を高める。課題に対して自分なりの意見を持ち、他者とディスカッションし、グループとしての意思決定を行えるようになる。				
授業計画(全体)					
8月下旬～9月初旬に、学外のキャンプ場で宿泊型の実習を行う。 実習前に複数回のオリエンテーション及び準備を行う。 キャンプインストラクターの資格取得希望者は、別途教科書を購入し、キャンプ後に筆記試験を行う(詳細はオリエンテーション等で説明)。					
授業テーマとその内容					
日程： 第一団 2018年8月29日～9月1日(3泊4日) 第二団 2018年9月3日～6日(3泊4日) ※日程は変更する可能性があります。					
対象： 仙台大学1年生及び過年度生 200名 (第一団100名 第二団100名)					
指導者： 仙台大学教員(岡田、弓田、仲野、他)、ティーチングアシスタント(大学院生)、補助学生(学部生3～4年生)					
実習施設： 南蔵王野営場(国立花山青少年自然の家保有の施設)					
費用： 10,500円程度(施設使用料、食費、バス代、保険代、教材費) ※実習に必要な持ち物にかかる費用は自己負担とする(雨具など)					
プログラム： 1日目 野外レクリエーション、テントサイト設営、野外炊事 2日目 沢歩きハイク、登山準備、野外炊事 3日目 南蔵王縦走登山、キャンプファイヤー 4日目 撤収、ふりかえり ※天候などの諸事情によって変更となる場合あり					
実習までの流れ： 5月中旬 ガイダンス(日時・場所は掲示板で告知します) キャンプ実習の目的、日程、プログラム、費用、持ち物 キャンプインストラクターの資格について説明 6月中旬 オリエンテーション① キャンプ実習の持ち物、参加費振込について、個人調査票記入 7月下旬 オリエンテーション② 実施要項作成、最終確認 8月下旬 キャンプ実習本番(第一団、第二団) 10月中旬 まとめの会 ふりかえり、レポート提出					
詳細は、5月のガイダンスで説明するので、必ず参加すること。キャンプ前に2回行われるオリエンテーションとキャンプ後に行われるまとめの会にも必ず参加すること。これらの集まりに無断で遅刻・欠席した者は、キャンプ実習に参加することはできない。掲示板をよく見ておくこと。					
成績評価方法(方針)					
実習中の態度及び実習後のレポートによって総合的に評価する。 その他、オリエンテーション時の態度や事前提出物の状況なども考慮する。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート			○	○	50%
演習・実技		○	○	○	50%
授業態度					減点あり
出席					欠格条件
関連科目	レクリエーション実技Ⅰ(1年)、レクリエーション実技Ⅱ(2年前期)、スポーツマネジメント実習(2年)、野外教育活動論(3年前期)、野外・レクリエーション・マネジメント論(3年前期)、野外・レクリエーション・マネジメント実習(3年)				
教科書	特になし			参考書	(公社)日本キャンプ協会「キャンプ指導者入門」
連絡先	岡田研究室(A棟509、オフィスアワー:木曜4限)				

3. 発展科目

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	幼児体育指導論				担当教員	金 賢植
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	幼稚園教諭一種、保育士資格、幼児体育指導員
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						
<p>幼児体育指導者として、運動環境、及び運動あそびに関する知識、方法、技術について知り、子ども(乳幼児)たちにより多くの体験や、能力向上につながる刺激を与えられる環境づくりについて考えていく。本授業では、幼児教育者および幼児体育指導者にとって必要な運動に関する知識や、子どもたちが自ら運動発生させられる環境について理解し、実践できるよう学習する。</p>						
授業の一般目標						
<p>子ども(乳幼児)たちに求められる運動のあり方を学び、発達段階に適した運動指導の考え方や指導者の役割を学習する。運動指導方法および運動指導案の立て方を通して、指導者としての必要な知識の向上を図る。</p>						
授業の到達目標						
■	認知的領域	幼児体育指導者として、必要な知識、方法、技術を理解し、幼児体育の指導計画と指導案を身につけることができる。				
■	情意的領域	幼児の発達段階に適した運動指導の考え方をもち、幼児体育指導ができるようになる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
<p>授業の前半は、子どもの発育に関する基礎的な知識を学ぶ。後半は、子どもの発育に影響を及ぼす要因、発育速度の分析、体力の将来予測など現場に必要な実践的な知識を学ぶ。授業方法は、パワーポイントを用いた知識伝達型と積極的な授業への参加ができる小グループ型を適切に導入して講義を行う。</p>						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介 [授業外学習] 近年、幼児の生活習慣について考えておく</p>				⑨	<p>[テーマ] 用具を使った運動遊びの指導法 [内容] ボール運動、フープ運動、ティールール遊び [授業外学習] 移動遊具を使った運動遊びについて調べる</p>
②	<p>[テーマ] 子どもの健康生活 [内容] 基本的な生活習慣、子どもの生活と運動 [授業外学習] 近年、子どものあそびの変化について調べる</p>				⑩	<p>[テーマ] 移動遊具を使った運動遊びの指導法 [内容] マット運動、平均台運動 [授業外学習] 固定遊具を使った運動遊びについて調べる</p>
③	<p>[テーマ] 子どもの遊びの変化 [内容] 遊びに関わる変化、メディアの影響 [授業外学習] 子どもの発育・発達の変化について調べる</p>				⑪	<p>[テーマ] 固定遊具を使った運動遊びの指導法 [内容] 鉄棒、すべり台、ジャングルジム、遊具の安全管理、安全指導 [授業外学習] 障害物遊びについて調べる</p>
④	<p>[テーマ] 子どもの発育・発達 [内容] 身体発達の特徴、身体発達に関する課題 [授業外学習] 近年、子どもの体力・運動能力について調べる</p>				⑫	<p>[テーマ] 障害物遊びとサーキット遊び [内容] コーナー遊び、障害物遊び、サーキット遊びの実際 [授業外学習] リズム運動遊びについて調べる</p>
⑤	<p>[テーマ] 子どもの体力・運動能力の実態と技能の発達 [内容] 体力・運動能力の実態と技能の発達 [授業外学習] 幼児体育の留意事項について調べる</p>				⑬	<p>[テーマ] 表現力を育てるリズム運動遊び [内容] リズム体操、身体表現 [授業外学習] 幼児の安全管理について調べる</p>
⑥	<p>[テーマ] 幼児体育の指導目標と指導法 [内容] 発育・発達段階に応じた指導法、指導内容および留意事項 [授業外学習] 幼児体育の指導案について調べる</p>				⑭	<p>[テーマ] 幼児の運動と安全管理 [内容] 運動時における体調の観察、子どもの事故から考える安全 [授業外学習] 靴選びについて調べる</p>
⑦	<p>[テーマ] 幼児体育の指導目標と指導法 [内容] 指導計画の立て方、指導案作成上のポイント [授業外学習] 用具を使った運動遊びについて調べる</p>				⑮	<p>[テーマ] 運動時の安全を考慮した靴選び [内容] 幼児に適した運動靴選び、正しい運動靴の履き方 [授業外学習] 最終回のテストに備えて復習をする</p>
⑧	<p>[テーマ] 体を使った運動遊びの指導法 [内容] 運動遊びの指導と援助 [授業外学習] 用具を使った運動遊びについて調べる</p>				⑯	<p>[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学習] テストの準備をしておく</p>
成績評価方法(方針)						
<p>試験は、期末試験(評価割合80%)、授業内課題を評価する(評価割合20%)。→提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象になる。16回授業で4回以上欠席する場合、単位不可(欠格条件)。</p>						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>履修上の注意(受講学生に望むこと)</p> <p>私語・スマートフォン(タブレット)使用・時刻等の授業進行に妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為を厳禁とする。積極的に授業に参加することを求める。 * 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。</p>
定期試験		◎	◎		80%	
授業内レポート				○	20%	
授業外レポート					無し	
演習・実技					評価対象外	
授業態度					減点アリ	
出席					欠格条件	
関連科目	幼児体育論(1年)					
教科書	元気な子どもを育てる幼児体育、前橋 明、保育出版社				参考書	幼児体育(理論と実践)、日本幼児体育学会、大学教育出版
連絡先	hs-kim@sendai-u.ac.jp (オフィスアワー: 水曜日 14:20~16:00)					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		教育の基礎理論B Fundamental Theory of Education B (L.)			担当教員	三谷高史
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	幼稚園教諭第1種免許状・保育士資格
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						
本講義では、教育にかかる基本的概念、理念、歴史や思想の学習を主たるテーマとする。具体的には、近代以降の教育学、教育制度と、その確立に尽力した思想家たちの哲学や思想が学習の対象となる。						
授業の一般目標						
学習を通して、教育者・保育者として必要な知識、語彙、考え方などを理解し、習得することを目標とする。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	講義で扱われた教育の概念や歴史に関する知識を正確に理解している。				
■	情意的領域	世の中で起きている教育「問題」に関心を持ち、その「問題」に対して批判的な思考ができる。				
■	技能表現的領域	講義の内容、自分の経験や他者の意見を踏まえて、教育に対する自分の意見を論じることができる。				
授業計画(全体)						
前半は近代教育(学・制度)の確立に貢献した教育(思想)家たちの哲学、思想を解説する。その後、受講者には映像資料を視聴、集団で議論をしてもらい、それらをもとに中間レポートを作成してもらう。後半は教育(社会教育含む)と保育の制度の歴史と変遷、教育の現代的課題について解説する。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]幼稚園教諭・保育士になるためになぜ教育の基礎理論を学ぶのか [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などを説明する。 [授業外学習]新聞・雑誌記事を探し、読み、まとめる				⑨	[テーマ] 映像資料を見る:「よい教育」とは何か [内容] 学校や教育を素材にした映画またはドキュメンタリー映像を視聴し、「よい教育」について考える。 [授業外学習]ディスカッションにむけて情報収集し、学習する
②	[テーマ]〈子ども〉の誕生:西洋における子ども期の発見 [内容] 人生における固有の一時期としての〈子ども〉期について、歴史的な視点から解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする				⑩	[テーマ] グループディスカッション(中間レポート作成) [内容] 前回の映像資料や事前学習を踏まえて、『よい教育』とはなにかというテーマについてグループで議論する。 [授業外学習]中間レポートを作成する
③	[テーマ] 近代以降の人づくり:学校・社会・家庭 [内容] 近代以降、人間形成の大部分を学校が担うようになったこと、それにとともに社会や家庭の役割がどのように変化してきたかを解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする				⑪	[テーマ] 学校教育の制度 [内容] 学校教育の制度が持つ機能について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする
④	[テーマ] 教育概念とその類似概念について [内容] 教育の概念と、類似概念である形成や教化、ケアといった概念について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする				⑫	[テーマ] 保育の制度:幼稚園・保育所・子ども園 [内容] 保育に関する諸制度を解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする
⑤	[テーマ] 公教育の原理 [内容] 現代日本の公教育制度・原理の解説と、その原型がフランス革命期にあることを解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする				⑬	[テーマ] 学校外の教育:社会教育・生涯学習 [内容] 学校外における教育として、社会教育・生涯教育の歴史、制度について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする
⑥	[テーマ] 近代教育学の登場 [内容] 近代以降に登場した、教育を科学的に研究しようとする立場について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする				⑭	[テーマ] 社会問題と教育(1):貧困問題・ジェンダー [内容] 教育における貧困問題、ジェンダーという現代的課題について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする
⑦	[テーマ] 保育の思想:幼児教育と児童福祉 [内容] 幼児教育、児童福祉の実践・制度化に尽力した思想家について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする				⑮	[テーマ] 社会問題と教育(2):待機児童問題と夜間保育所 [内容] 待機児童問題と夜間保育所の問題について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする
⑧	[テーマ] 近代教育の問い直し:旧教育と新教育 [内容] 近代教育における旧教育と新教育の差異や対立点について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする				⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業内容の理解度を問う選択式、記述式の試験を実施する [授業外学習]講義内容を復習し、試験に備える
成績評価方法(方針)						
講義内で課す小レポート(10%)と中間レポート(40%)、期末試験(50%)で総合的に評価する。小・中間レポートにかんしては、提出前の相談、提出後のコメントや返却を希望する学生に対しては個別に対応する。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。特別な事情(部活の試合、忌引き、電車の遅延等)があった場合は、事後報告で構わないので、後日必ず報告すること。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	大学設置基準で定められている時間の授業時間外修学を行なうこと。 2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、カンニング同様の不正行為とみなし、本講義の成績は「不可」とする。 熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為(私語など)は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。	
定期試験	○	○		50%		
授業内レポート	○	○	○	10%		
授業外レポート	○	○	○	40%		
演習・実技						
授業態度				欠格条件		
出席				欠格条件		
関連科目	教育と社会					
教科書	特に指定しない。毎回の講義ではレジュメを配布し、参考文献はその都度提示する。				参考書	内閣府・他(2017)『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、チャイルド本社
連絡先	tk-mitani@sendai-u.ac.jp					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	子どもの心理学 I			担当教員	足立智昭
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
保育を行う上で必要な心理学の基礎を学びます。発達心理学と教育心理学の基礎と重複する内容もありますが、それらの心理学と大きく異なる点は、常に、保育という視点から乳幼児の発達と支援を考察することです。そのために、授業では、保育現場で出会うトピックをもとに、そのトピックの背景にある課題を最新の心理学の知見をもとに解説します。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> 発達心理学の基礎理論を説明できる。 乳幼児期の発達の特性を説明することができる。 それらの理解を保育の現場に活かすことの意義を理解する。 学童期以降の教育への連続性について理解する。 					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	乳幼児の心身の発達や保育者としてのかかわりについて理解する。				
■ 情意的領域	子どもを理解するための様々な学びに意欲的に取り組む。				
■ 技能表現的領域	乳幼児とのかかわりについて具体的な事例を通して理解を深め、技術を身につける。				
授業計画(全体)					
保育を行う上で、子どもの心の発達とその発達に影響を与える要因について理解することは必須条件となります。保育の心理学 I では、発達心理学の基礎理論について理解を深めるとともに、特に乳幼児期の発達のさまざまな特徴について、具体的なトピックを交えながら学びます。加えて、学童期以降の教育への連続性を理解するために、学童期以降の発達にもふれ、発達生涯心理学的視点から乳幼児期の重要性について学びます。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 保育の心理学とは [内容] 保育現場で必要とされる心理学とは何か、子どもの発達を理解する意義について学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑨	[テーマ] 感情の発達 [内容] 人間は感情の動物とも言われますが、他者の感情を理解し、自分の感情を表現することは容易なことではありません。乳幼児期の感情の発達を丁寧にたどります。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
②	[テーマ] 胎児期・新生児期の特徴 [内容] 生涯発達の始まりとしての胎児期・新生児期の重要性について学びます。特にこの時期は、環境の影響が大きいこと、またその影響が乳幼児期以降の発達にも及ぶことを学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑩	[テーマ] 性格の発達 [内容] 子どもが生まれつき持っている気質的特徴が、その後の環境との相互作用を通して、その子どもらしい性格としてどのように発達していくのかを学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
③	[テーマ] 乳幼児期の特徴 [内容] 乳幼児期の発達については第5回目以降の授業で詳しく解説しますが、この回は、この時期の特徴について発達の基礎的理論に基づき学習します。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑪	[テーマ] 育児期の親の課題(1) [内容] 親にとって育児はストレスです。その結果として、現在急増している虐待の現状とその発生メカニズムについて学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
④	[テーマ] 児童期の特徴 [内容] 前回の発達の基礎的理論に基づき、幼児期と連続する児童期の特徴について、認知、社会、対人関係を中心に学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑫	[テーマ] 育児期の親の課題(2) [内容] 子ども子育て支援新制度の紹介を通して、育児支援の心理学的効果について学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
⑤	[テーマ] 身体・運動発達 [内容] 乳幼児期の身体・運動発達が、比較的規則的な順序に基づいて発達していくことを理解し、指先などの微細運動、歩行などの粗大運動の発達について学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑬	[テーマ] 発達障害の基礎(1) [内容] 発達障害の多くは、乳幼児期にアセスメントされることが殆どです。この回では、それぞれの発達障害とアセスメントのポイントについて学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
⑥	[テーマ] 認知の発達 [内容] Piagetの認知の発達理論を中心に、乳幼児期の認知の発達の特徴について学びます。 [授業外学習]			⑭	[テーマ] 発達障害の基礎(2) [内容] 発達障害児の保護者は、その育児に大きな戸惑いを感じる事が少なくありません。それらの保護者の心理的特徴について学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
⑦	[テーマ] 言語の発達 [内容] 乳幼児期は言語発達において極めて重要な時期であり、この時期にどのようなメカニズムで言語が獲得されていくか映像などを通して学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑮	[テーマ] まとめ [内容] 本講義のまとめを行い、それぞれの受講者の本講義の到達目標が達成されているか確認します。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
⑧	[テーマ] 社会性の発達 [内容] 集団で保育を行う上で、最も重要なのが社会性の発達です。仲間や保護者・保育者との関わりを通して、乳幼児が社会性を発達させていく過程について学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
3週おきに実施する小テスト、およびレポートにより評価する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験					保育者を目指すものとして、常に課題意識を持ち、自発的に受講することを望む。 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
授業内レポート	○	○		50%	
授業外レポート	○	○		50%	
演習・実技			—		
授業態度					
出席					
関連科目					
教科書	本郷一夫編「シードブック 保育の心理学 I・II」建帛社(2015年)			参考書	秦野・山崎編「保育の中の臨床発達支援」ミネルヴァ書房(2011年)
連絡先	非常勤講師のため、教育企画室を通して行うこと。				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	子どもの心理学Ⅱ			担当教員	足立智昭
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
保育を行う上で必要な実践的、応用的心理学について学びます。特に、実習などを通して、保育現場で体験することが多いトピックを取り上げ、その課題をどのように理解し、どのように解決するか、受講者も主体的に授業に参加し学びます。「気になる子ども」の保育、育児支援の実際、アウトドア環境保育についても、受講者が子ども役、親役、保育者役をロールプレイしながら、体験的に具体的に学びます。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の発達と環境要因との関連について説明することが出来る。 ・「気になる子ども」の保育について、心理学的視点から説明ができる。 ・育児支援の必要性について、心理学的視点から説明ができる。 ・現在、保育の主流となりつつあるアウトドア環境保育について説明ができる。 					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	乳幼児の心身の発達や保育者としてのかわりについて理解する。				
■ 情意的領域	子どもを理解するための様々な学びに意欲的に取り組む。				
■ 技能表現的領域	乳幼児とのかわりについて具体的な事例を通して理解を深め、技術を身につける。				
授業計画(全体)					
保育の心理学Ⅱでは、保育の心理学Ⅰでの学びと保育所・幼稚園での実習での学びに基づき、より実践的に保育に必要な心理学的知見について学びます。また、対応が困難な「気になる子ども」の保育や育児支援のあり方についても学びます。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 子どもの発達理解の方法 [内容] アセスメント、発達検査・知能検査の進め方などについて具体的に学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑨	[テーマ] 遊びの発達と支援の実際(2) [内容] 「気になる子ども」の支援において最も重要なことは、彼らの特性に応じた遊びを支援することです。具体的な保育場面の映像を通して、遊びにおける支援の実際について学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
②	[テーマ] 子どもの発達理解の方法 [内容] 保育における記録の取り方(エピソード記録など)や、観察法の基本(参加観察法、実験的観察法、事象見本法など)について、具体的な事例を通して学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑩	[テーマ] 自己の発達と支援の実際 [内容] 乳幼児期の心の健康には、適切な自己の発達と支援が必要となります。しかし、乳幼児期の自己主張は、保護者にとって困った行動と評価されるかも知れません。それらの困った行動の意味を理解し、そのような支援を行うべきか事例を通して学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
③	[テーマ] 子どもの精神的健康と障害 [内容] 「気になる子ども」の中には、家庭における虐待などによりトラウマ反応を生じている子どもも少なくありません。また、発達障害児もそれらの反応と似た行動を示すことがあります。典型的な事例を通して、乳幼児期の心の健康について学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑪	[テーマ] 認知の発達と支援の実際 [内容] 発達障害児によく見られるように、彼らの認知には特別なスタイルがあり、それをよく理解することが支援の鍵となります。典型的な事例を通して支援の実際について学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
④	[テーマ] 園内研修を通じた発達理解 [内容] 子どもの発達理解は、個別の検査だけでなく、事例検討などを通して多角的視点で行い、保育者間で理解を共有する必要があります。この授業では、機能的に数人のグループで事例検討を体験します。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑫	[テーマ] 言語・コミュニケーションの発達と支援の実際 [内容] 乳幼児期、さまざまな背景要因により、言葉やコミュニケーション能力の発達が遅れたり、偏ったりすることは少なくありません。これらの発達の背景要因をアセスメントして、その結果を支援に繋げる方法について学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
⑤	[テーマ] 他機関との連携を通じた子どもへの支援 [内容] 現在、さまざまな背景をもつ子どもが保育を受けており、保育機関単独では問題解決が出来ないケースが増えています。この授業では、どのような外部機関と連携すべきか、連携する際の留意点は何かについて学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑬	[テーマ] アウトドア環境保育 [内容] 北欧から世界に広がりつつあるアウトドアの環境を活かした保育について学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
⑥	[テーマ] 親子関係の発達と支援の実際 [内容] 保育の心理学Ⅰでも学んだように、乳幼児の発達に与える保護者の影響は非常に大きいものがあります。したがって、乳幼児の発達を保障するためには、保護者支援は欠かせない事業です。この授業では保護者支援の実際と課題について学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑭	[テーマ] 「気になる子ども」と環境構成 [内容] 「気になる子どもの保育」を実施していく上で重要なことは、それぞれの子どもに特性に応じた環境を提供することです。指示的、管理的にならず、子どもの主体性を尊重しながら、これらの対応が難しい子どもの保育をどのように行うか解説します。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
⑦	[テーマ] 仲間関係の発達と支援の実際 [内容] 乳幼児期の仲間関係の発達は児童期以降の仲間関係の発達の雛形となるもので、その発達を支援することは保育者の大きな役割です。発達とともに変化する仲間関係について理解し、支援の方法についても学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑮	[テーマ] まとめ [内容] 本講義のまとめを行い、それぞれの受講者の本講義の到達目標が達成されているか確認します。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
⑧	[テーマ] 遊びの発達と支援の実際(1) [内容] 保育は遊びを通して総合的に行うものです。この授業では、乳幼児期の遊びの特性やその治療的意義について学びます。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
3週おきに実施する小テスト、およびレポートにより評価する。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート	○	○	○		50%
授業外レポート	○	○	○		50%
演習・実技				—	
授業態度					
出席					
履修上の注意(受講学生に望むこと)					
保育者を目指すものとして、常に課題意識を持ち、自発的に受講することを望む。 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学習を行うこと。					
関連科目					
教科書	本郷一夫編「シードブック 保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」建帛社(2015年)			参考書	西浦・足立訳「北欧スウェーデンの森の教室」北大路書房(2015年)
連絡先	非常勤講師のため、教育企画室を通して行うこと。				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	社会福祉			担当教員	関矢・高橋
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要 本講義は、社会福祉の様々な分野について各領域の意義や関連性を学ぶと共に、社会福祉専門職の役割について学ぶ。また、保育・教育・療育・保健・医療等との連携や、各制度と社会福祉制度との関連を学び、現状と課題を考察する。					
授業の一般目標 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する ・社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する ・社会福祉の制度や実施体系等について理解する ・社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する ・社会福祉の動向と課題について理解する					
授業の到達目標 ■ 認知的領域 社会福祉の基礎的な概念、制度、方法について説明できる ■ 情意的領域 ボランティア活動など社会福祉の活動に対し、主体的な取り組みを行えるようになる □ 技能表現的領域					
授業計画(全体) シラバスに基づいて講義を実施するが、学生は事前準備をして講義を受けることが授業全体の受講条件である。また、この講義の時期に自らの具体的な目標を明確にして各々の受験の準備に備えることも本講義の受講条件とする。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス [内容] 本授業のねらいと全体の流れの説明を聞き理解する [授業外学習] 初回のためとくになし。			⑨	[テーマ] 社会福祉における相談援助 [内容] 相談援助の意義と原則について学ぶ [授業外学習] 相談援助についての新しい発見を分かち合うための予習
②	[テーマ] 現代社会における社会福祉の意義 [内容] 社会福祉の理念と概念を理解する [授業外学習] 社会福祉についての発見を分かち合うための予習			⑩	[テーマ] 社会福祉における相談援助 [内容] 相談援助の方法と技術を学ぶ [授業外学習] 相談援助の方法についての新しい発見を分かち合うための予習
③	[テーマ] 現代社会における社会福祉の歴史の変遷 [内容] 社会福祉の歴史の変遷を理解する [授業外学習] 社会福祉史についての発見を分かち合うための予習			⑪	[テーマ] 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み [内容] 情報提供と第三者評価の方法と実際を学ぶ [授業外学習] 情報提供と第三者評価についての新しい発見を分かち合うための予習
④	[テーマ] 社会福祉と児童家庭福祉 [内容] 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉を理解する [授業外学習] 児童家庭福祉についての発見を分かち合うための予習			⑫	[テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 少子高齢化社会への対応の実際と課題を考察する [授業外学習] 少子高齢化についての新しい発見を分かち合うための予習
⑤	[テーマ] 社会福祉と児童家庭福祉 [内容] 児童の人権擁護と社会福祉のかかわりを理解する [授業外学習] 人権擁護についての新しい発見を分かち合うための予習			⑬	[テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 在宅福祉・地域福祉の推進の現状と課題を考察する [授業外学習]
⑥	[テーマ] 社会福祉の制度と実施体系 [内容] 社会福祉の制度と法体系を学ぶ [授業外学習] 福祉制度についての新しい発見を分かち合うための予習			⑭	[テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワークを学ぶ [授業外学習] 地域ネットワークについての新しい発見を分かち合うための予習
⑦	[テーマ] 社会福祉の実施体系 [内容] 社会福祉行財政と実施機関とのかかわりを理解する [授業外学習] 福祉行財政についての新しい発見を分かち合うための予習			⑮	[テーマ] 社会福祉の動向と課題 [内容] 諸外国の動向を資料を基に考察する [授業外学習] 諸外国の福祉についての新しい発見を分かち合うための予習
⑧	[テーマ] 社会福祉の実施体系 [内容] 社会福祉の専門職・実施者の現状を学ぶ [授業外学習] 福祉専門職についての新しい発見を分かち合うための予習			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針) 授業内レポート25%・授業態度25%・評価テスト50%					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			50%
授業内レポート			◎		10%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度				◎	40%
出席				◎	欠格条件
関連科目	社会福祉概論I,社会福祉概論II,社会保障論,公的扶助論,老人福祉論,社会福祉援助技術論I,社会福祉援助技術論II,障害者福祉論,児童福祉論,福祉行財政と福祉計画,更生保護制度論,就労支援論,保健医療論,社会福祉施設経営論				
教科書	オリエンテーション時に指示する			参考書	オリエンテーション時に指示する
連絡先	高橋 亮研究室E棟2階 オフィスアワー金12:40-14:10 関矢 貴秋研究室F棟2階				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		児童家庭福祉 Child and Family Welfare		担当教員	千葉喜久也
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	関連資格	保育士資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
現代社会における子ども家庭福祉の意義と役割について体系的に学ぶ。子ども家庭福祉の理念・制度の体系を理解し子どもが育つ環境として、家庭や家族の現状や課題を学び、子どもや家族を包括的に支援する方法について学びを深める。					
授業の一般目標					
現代社会における子どもと家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。子どもの人権擁護について理解する。子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 子ども家庭福祉について理解した内容を、自らの言葉でレポートに表現することができる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	子ども家庭福祉の意義と歴史についての学び、現状と課題を理解する。			
■	情意的領域	子ども家庭福祉の実際を理解し、子ども家庭福祉の現状や課題に更なる関心を持つ。			
■	技能表現的領域	子ども家庭福祉への現状と課題を自らの言葉で表現することができる。			
授業計画(全体)					
保育者として、子ども家庭福祉の意義や目的について理解を深め、子どもや家族への支援者なることが出来るよう丁寧に教授する。保育における子ども家庭福祉の制度や実施体系についても理解を深める学習を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション。子ども家庭福祉の意義について。 [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明。子ども家庭福祉の意義や歴史の変遷について学ぶ。 [授業外学習] 子どもを取り巻く環境について調べる			⑨	[テーマ] 子ども家庭福祉の法体系 [内容] 子ども家庭福祉の法体系について [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
②	[テーマ] 少子高齢社会とは [内容] 少子化の影響、要因、背景の理解 [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく			⑩	[テーマ] 児童福祉法以外の関連法律 [内容] 児童手当法と児童扶養手当法について [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
③	[テーマ] 子ども家庭福祉とは [内容] 子どもを取り巻く環境の変化、子ども家庭福祉の理念について解説する [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく			⑪	[テーマ] 児童福祉法の実施体制 [内容] 児童相談所の機能と役割。市町村の役割について学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
④	[テーマ] 家族を取り巻く社会的状況について [内容] 大人の貧困と子どもの貧困問題、子ども家庭福祉のあり方について学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく			⑫	[テーマ] 子ども家庭福祉の財源と費用負担について [内容] 子ども子育て費用負担について学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
⑤	[テーマ] 子どもの権利擁護について [内容] 子どもの権利擁護と成長・発達権について学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく			⑬	[テーマ] 母子保健、医療サービスについて [内容] 母子保健、医療の歩み。健やか親子21について理解する [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
⑥	[テーマ] 子ども虐待と子どもの権利擁護 [内容] 子ども虐待の定義としつけと虐待の違いについて学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく			⑭	[テーマ] 子育て支援と子どもの健全育成について [内容] 子育て、子育てをめぐる問題とその背景について学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
⑦	[テーマ] 子ども家庭福祉の歴史① [内容] 日本の子ども家庭福祉の歴史について学ぶ(明治、大正) [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく			⑮	[テーマ] 保育サービスの意義 [内容] 保育の現状と新子育て支援の展望 [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
⑧	[テーマ] 子ども家庭福祉の歴史② [内容] 日本の子ども家庭福祉の歴史について学ぶ(戦前、戦後、現代) [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく			⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学習] テストの準備をしておく
成績評価方法(方針)					
16回授業で4回以上欠席する場合は、単位不可、定期試験50%、レポート40%、演習10%					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	◎	○		50%	・大学設置基準において90分の授業に対し、予習・復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。 ・20分以上の遅刻は、欠席とする。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。 ・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後する可能性があるが、子ども家庭福祉の意義と実際を理解したうえで、子ども子育て支援のあり方についての理解を深めていただきたい。 身近な子ども家庭福祉に関心をもって、主体的に学んでいただきたい。
授業内レポート					
授業外レポート	◎			40%	
演習・実技		○	◎	10%	
授業態度				減点アリ	
出席				欠格条件	
関連科目					
教科書	『児童・家庭福祉論[第3版]』 みらい 千葉喜久也著			参考書	
連絡先	千葉喜久也 研究室				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		家庭支援論 Theory and Practice of Family Support			担当教員	千葉喜久也
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	保育士資格
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
子どもが育つ環境として、家庭や家族の現状や課題を学び、子どもや家族を包括的に支援する方法について学びを深める。						
授業の一般目標						
1.子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	家庭への支援についての学びを、総合的、総論的に捉える。				
■	情意的領域	家庭支援の実際に触れ、現代の家族の現状や課題に更なる関心を持つ。				
■	技能表現的領域	家庭への支援と保育の相互的な関係性を自らの言葉で表現することができる。				
授業計画(全体)						
保育者として家庭を支援する知識や実践力が身に付くように、家庭支援の理論と実際を基礎から丁寧に教授する。保育における家庭支援の方法の学びを深めるための基礎的な知識を身につける。学んだことを保育実践の場で活かすことができるように、演習やプレゼンテーションを取り入れ、実践力を養う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の目標と進め方、シラバス説明など授業紹介、家庭支援とは [授業外学習] 家庭支援とは何か、調べる				⑨	[テーマ] 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 [内容] 児童福祉の施策体系と社会福祉資源について学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
②	[テーマ] 家庭の意義と機能 [内容] 家庭、家族の変化について理解する [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく				⑩	[テーマ] 子育て支援施策・次世代育成支援施策について [内容] 子育て支援施策の経過と新制度について解説する [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
③	[テーマ]家庭支援の必要性 [内容] 家庭における生活課題について解説する [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく				⑪	[テーマ] 多様な子育て支援サービスの概要 [内容]妊娠からの子育て支援サービスについて理解を深める [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
④	[テーマ] 保育士等が行う家庭支援の原理 [内容] 保育士等が行う家庭支援制度と家庭支援の目標を学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく				⑫	[テーマ] 保育所入所児童の家庭への支援 [内容] 保育所の役割と支援の実際について学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
⑤	[テーマ] 家庭生活を取り巻く社会的状況の変化 [内容] 子育て家庭の貧困問題について学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく				⑬	[テーマ] 地域の子育て家庭への支援 [内容] 地域の子育て家庭への支援と役割について理解する [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
⑥	[テーマ] 地域社会の変化と家庭支援 [内容] 家庭支援の必要性について学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく				⑭	[テーマ] 要保護児童及びその家庭に対する支援 [内容] 要保護児童とその家庭に対する支援のあり方について学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
⑦	[テーマ] 現代家庭における人間関係 [内容] 家庭支援における家族関係について学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく				⑮	[テーマ] 子育て支援サービスの課題 [内容]子育て支援のあり方と保育を取り巻く課題について学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
⑧	[テーマ] 男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランス [内容] 子育てをめぐる男女共同参画社会の実態について学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく				⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学習] テストの準備をしておく
成績評価方法(方針)						
16回授業で4回以上欠席する場合は、単位不可、定期試験50%、演習・実技50%						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準において90分の授業に対し、予習・復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。 ・20分以上の遅刻は、欠席とする。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。 ・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後するが、家庭支援の意義と実際を理解し、保育との関連性の理解を深めていただきたい。また、身近な家庭支援に関心をもって、主体的に学んでいただきたい。 	
定期試験	◎	○		50%		
授業内レポート				無し		
授業外レポート				無し		
演習・実技		○	◎	50%		
授業態度				減点アリ		
出席				欠格条件		
関連科目						
教科書	『家庭支援論[13]基本保育シリーズ』中央法規 新保幸雄・小林理 編集				参考書	児童虐待を防ぐために 本の森 千葉喜久也著
連絡先	千葉喜久也 研究室					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	体育原理			担当教員	高橋 徹
	Philosophy of Physical Education				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
<p>本授業では、体育・スポーツ哲学をベースにした講義を行います。特に、体育とスポーツの本質やありかたについて体系的に解説しながら、体育教師やスポーツ指導者として理解しておくべき体育やスポーツに対する基本的な考え方を紹介します。</p>					
授業の一般目標					
<p>体育教師の専門である体育ないしは教科体育の本質や基盤、そして教育としての可能性等、あるいはそれに関連する諸知識について知り、学校という教育機関において教科体育を担当する教育専門職者としての基本的な考え方を理解する。また、スポーツを指導する人間に求められる倫理観や教養を身に付ける。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	体育・スポーツの理想的なありかたを、自分の力で考えることができる。			
■	情意的領域	よい体育・よいスポーツ指導を追求しようとする意識をもつことができる。			
■	技能表現的領域	体育を人文主義の方向で考えることができるようになる。			
授業計画(全体)					
<p>一貫して「よい体育の追求」および「よいスポーツ指導の追求」という問題意識に寄り添いながら講義を進めていきます。また、この授業では各回ごとに異なるテーマを設定し、毎回完結する形式で講義を進めていきます。主なテーマは次の通りです。「体育とスポーツ」「身体教育」「運動指導」「身体文化教育」「指導者」「スポーツ指導の問題」「競技者」「オリンピック」「ルール」「スポーツと美しさ」「スポーツとコミュニティ」「スポーツとの良好な関係」</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ] 「体育原理」についてのオリエンテーション [内容] 「体育原理」の輪郭について解説し、受講学生との合意形成を図る。 [授業外学習] 教科書「はじめに」を読んでください。</p>			⑨	<p>[テーマ] スポーツ指導の問題性 [内容] 体罰・暴力のメカニズムを解説した上でスポーツ指導の在り方について解説する。 [授業外学習] 教科書「第6章」を読んでください。</p>
②	<p>[テーマ] スポーツとは何か？ [内容] スポーツという言葉の語源、およびスポーツの定義について解説する。 [授業外学習] 教科書「第1章第1節」を読んでください。</p>			⑩	<p>[テーマ] 競技者の世界と理想の姿 [内容] 競技者とスポーツ愛好者の違い、競技者が競技に惹きつけられる理由、競技者の理想の姿について解説する。 [授業外学習] 教科書「第7章」を読んでください。</p>
③	<p>[テーマ] 体育とは何か？ [内容] 体育という言葉の語源、体育の定義、体育の構成要素について解説する。 [授業外学習] 教科書「第1章第2節」を読んでください。</p>			⑪	<p>[テーマ] オリンピックと世界平和 [内容] オリンピズムの本質、オリンピックの問題点、世界平和とオリンピックとの関係について解説する。 [授業外学習] 教科書「第8章」を読んでください。</p>
④	<p>[テーマ] 教科としての体育の成り立ち [内容] 体育という教科名称の変遷、学習指導要領の変遷、体育理念の変遷について解説する。 [授業外学習] 教科書「第1章第3節」を読んでください。</p>			⑫	<p>[テーマ] スポーツのルールを考える [内容] スポーツにおけるルールの機能、およびルールと選手との関係について解説する。 [授業外学習] 教科書「第9章」を読んでください。</p>
⑤	<p>[テーマ] 身体教育という考え方 [内容] 身体教育が対象とする身体の捉え方、および身体教育としてのスポーツの可能性について解説する。 [授業外学習] 教科書「第2章」を読んでください。</p>			⑬	<p>[テーマ] スポーツにおける美しさを考える [内容] スポーツと美しさとの関係、およびスポーツと芸術との関係について解説する。 [授業外学習] 教科書「第10章」を読んでください。</p>
⑥	<p>[テーマ] 運動を指導するための考え方 [内容] 運動実践と運動習得、および運動実践と運動指導について解説する。 [授業外学習] 教科書「第3章」を読んでください。</p>			⑭	<p>[テーマ] コミュニティとスポーツをめぐる諸問題 [内容] コミュニティとスポーツの現状と課題、およびコミュニティづくりにおけるスポーツの可能性について解説する。 [授業外学習] 教科書「第11章」を読んでください。</p>
⑦	<p>[テーマ] 身体文化教育という考え方 [内容] 身体文化と教育の関係、芸道と身体、身体の模倣と学びについて解説する。 [授業外学習] 教科書「第4章」を読んでください。</p>			⑮	<p>[テーマ] スポーツと人間との良好な関係を考える [内容] スポーツがもつ功罪、スポーツとの良好な関係が崩れてしまう要因、良好な関係づくりに向けて求められるものについて解説する。 [授業外学習] 教科書「第12章」を読んでください。</p>
⑧	<p>[テーマ] 体育・スポーツ指導者 [内容] 体育教師の専門性、運動部活動の指導者、体育・スポーツ指導者の身体について解説する。 [授業外学習] 教科書「第5章」を読んでください。</p>			⑯	<p>[試験] 論述形式での試験を実施 [内容] 講義内容を踏まえつつも、できるだけ自分の「言葉」で論述してください。 [授業外学習] 試験勉強</p>
成績評価方法(方針)					
<p>基本的には、試験(70%)、課題(30%)とします。試験は学期末に実施し、課題は全て授業内レポートとして行います。レポートの評価については内容はもちろんのこと、適切な表現が用いられているかどうかでも評価の対象とします。レポートの返却については申し出に応じて対応し、評価の高いレポートについては授業内で内容を紹介します。</p>					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	○	○	70%
授業内レポート		◎	○		30%
授業外レポート					評価対象外
演習・実技					評価対象外
授業態度		○	◎		加点対象
出席					欠格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学習を行うこと。 2. 受講は、指定教科書の持参を条件とします。教科書を持たない学生は受講できません。 3. 講義中は静寂を保ち、静寂を維持できない方は受講をやめてください。 4. 本講義においては、諸知識の記憶も大切ですが、それを用いて考えることが重要です。受け身の姿勢ではない積極的な受講態度を求めます。 5. 詳細については第一回目の講義で説明します。 				
関連科目	教員免許状(保健体育)取得関連諸科目				
教科書	高橋徹編(2018)『はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学』株式会社みらい、2,000円(税別)	参考書	特に指定なし。必要に応じて授業内で提示。		
連絡先	G棟2階208研究室(高橋徹研究室) アドレス:tr-takahashi@sendai-u.ac.jp オフィシアワー:前後期とも水曜2時限目(予定)				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	スポーツ医学概論			担当教員	橋本 実
	Introduction to Sports Medicine (L .)				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要 スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する。					
授業の一般目標 スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する。			
■	情意的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を、活用するように努力する。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体) 授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める。 授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明 [授業外学習] 当日配布するプリントを参照すること			⑨	[テーマ] 体液 [内容] スポーツに関連する体液の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
②	[テーマ] スポーツ医学の基礎 [内容] スポーツ医学の基本的なことについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑩	[テーマ] 細胞 [内容] スポーツに関連する細胞の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
③	[テーマ] ドーピング① [内容] ドーピングに関連する知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑪	[テーマ] 免疫 [内容] スポーツに関連する免疫の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
④	[テーマ] ドーピング② [内容] ドーピングに関連する防止策や実態について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑫	[テーマ] 赤血球 [内容] スポーツに関連する赤血球の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
⑤	[テーマ] 呼吸器 [内容] スポーツに関連する呼吸器の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑬	[テーマ] 高地トレーニングと貧血 [内容] 高地トレーニングと貧血に関連する知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
⑥	[テーマ] 循環器 [内容] スポーツに関連する循環器の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑭	[テーマ] 骨格筋 [内容] スポーツに関連する骨格筋の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること
⑦	[テーマ] 遺伝 [内容] スポーツに関連する遺伝の知識について説明する [授業外学習] 授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること			⑮	[テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
⑧	[テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学習] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
成績評価方法(方針) 公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席に)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで欠欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。欠欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。試験結果は受験番号で発表し、レポートはICTツールで相互閲覧・評価できるようにしている					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと) 講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
定期試験	◎			95%	
授業内レポート				評価対象外	
授業外レポート	○			5%	
演習・実技				評価対象外	
授業態度				評価対象外	
出席				欠格条件	
関連科目					
教科書	スポーツ医学概論 講義ノート			参考書	特になし
連絡先	研究室:F棟2階 オフィスアワー:月曜日 14:20~15:50				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	運動障害救急法(含実習) Emergency Care for Sports Injury (L.)			担当教員	小澤・橋本
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(含実習)	関連資格 教員免許状(全免許)、介護福祉士、健康運動指導士、健康運動実践指導者、レクリエーション・コーディネーター、福祉レクリエーション・ワーカー、アスレティックトレーナー、障害者スポーツ指導員、スポーツプログラマー、NSCA-CPT、CSCS、JPSU
	履修の方法	必修	単位数	2	
授業の概要					
スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害の知識と対処方法について解説する。 スポーツドクターの立場から固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDの使用方法を解説し、実習もおこなう。					
授業の一般目標					
スポーツ現場でおこる、外傷、障害にたいし正しい対処ができるようになる。 固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDを適切におこなえるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する。			
■	情意的領域	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める。 授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明する [授業外学習] プリントを配布するので参考にすること			⑨	[テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
②	[テーマ] 外傷 [内容] 外傷の分類、重症度などについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること			⑩	[テーマ] 熱中症 [内容] 熱中症の分類、重症度などについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
③	[テーマ] 外傷の新しい治療 [内容] 外傷の新しい治療について説明する [授業外学習] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること			⑪	[テーマ] 熱中症 [内容] 熱中症の対処方法、予防法などについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること
④	[テーマ] 固定法 [内容] 様々な方法による上肢の固定法について説明する [授業外学習] 授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること			⑫	[テーマ] 心肺蘇生法 [内容] 心肺蘇生法について説明する [授業外学習] 授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること
⑤	[テーマ] 止血法 [内容] 様々な方法による止血法について説明する [授業外学習] 授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること			⑬	[テーマ] AEDを使った心肺蘇生法 [内容] AEDを使った心肺蘇生法について説明する [授業外学習] 授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること
⑥	[テーマ] 脳震盪 [内容] 脳震盪の分類、重症度などについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること			⑭	[テーマ] 救急処置(実習) [内容] AED、AED実習器具を使って実習する [授業外学習] 1回の実習では身につかないので、繰り返し練習することが望まれる
⑦	[テーマ] 頭部外傷 [内容] 頭部外傷の分類、重症度などについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で救急処置関連の本で復習すること			⑮	[テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
⑧	[テーマ] 救急処置(実習) [内容] 包帯、三角巾の使用法、RICE、傷の治療を実習する [授業外学習] 1回の実習では身につかないので、繰り返し練習することが望まれる			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学習] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
成績評価方法(方針)					
基本的には公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	◎			95%	講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
授業内レポート					
授業外レポート	○			5%	
演習・実技					
授業態度					
出席				欠格条件	
関連科目					
教科書	運動障害救急法 講義ノート			参考書	特になし
連絡先	研究室:F棟2階 オフィスアワー:月曜日 14:20~15:50				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	運動学(含運動方法学) Movement Theory of Sports			担当教員	川口鉄二
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
<p>体育教師やスポーツ指導者の中核になる科目です。巧みな動きがはじめて「できるようになり」、練習によって自在に動けるようになるまでには様々な身体知がかわります。教える側と教わる側を不可分の関係としてその志向内容を明らかにしていきます。実際の運動学習の際に直面する様々な問題を主体側の地平で捉え、具体例を示しながら解説していきます。</p>					
授業の一般目標					
保健体育科教員、スポーツ指導者として、動き方を伝えるために不可欠となる運動観察能力が理解できるようにする。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	スポーツ運動の諸概念と正しい運動認識を理解できる。				
■ 情意的領域	学習者の動く感覚を読み取ることができる。				
■ 技能表現的領域	指導に結びつく運動の観察ができる。				
授業計画(全体)					
最新の理論を具体的な運動例を取り入れながら平易に解説していく。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	<p>[テーマ] オリエンテーション [内容] シラバスに基づき、本講義のオリエンテーション(授業概要、目標、評価方法他の説明)を行う。 [授業外学習]講義の受講方法を理解する</p>			⑨	<p>[テーマ] 「できる」と「教えられる」の関係 [内容] 運動の「説明」「支援」「サポート」と「発生」指導の区別。「発生指導」ないし「自得」により獲得された技能の持つ意味と価値について。 [授業外学習]指導という用語の多義性を復習する</p>
②	<p>[テーマ] 体育・スポーツ指導者まつわる今日の諸問題 [内容] 運動指導を目的とする実践現場において隠れ蓑を持つ体育教師やコーチの諸問題を専門性という立場で再考し、以降の講義の狙いを明らかにする。 [授業外学習]スポーツにどのような問題があるのかを復習する</p>			⑩	<p>[テーマ] 学習目標としての「体力」とは [内容] 学校体育における「体力づくり」の問題点。「体力」という用語の認識実態及び「運動技能」との関係について。 [授業外学習]体力概念が曖昧なことを復習する</p>
③	<p>[テーマ] スポーツ科学とはどのような科学か [内容] スポーツ科学とは何か。体育・スポーツの理論体系及び統合のための理論のパラダイムについて。理論と実践の恒常的断層問題について。 [授業外学習]スポーツ科学の現状について復習する</p>			⑪	<p>[テーマ] 指導対象としての「コツ」と「カン」1 [内容] 「できた」と「コツ」「技術」との関係。「カン」が働くための前提、「コツ」との関係について。 [授業外学習]身近なコツとカンの例を復習する</p>
④	<p>[テーマ] 人間への眼差しと精密科学の発展 [内容] 技を伝えるための人間の運動はどのように把握されるのか。諸外国における運動理論の台頭(マイネル)と日本のモルフォロジー運動学(金子)の発展を概観する。 [授業外学習]自然科学と運動の理論の違いを復習する</p>			⑫	<p>[テーマ] 指導対象としての「コツ」と「カン」2 [内容] 「カン」と「コツ」の公共性、時代性とは 学習目標としての技術力と戦術力について。 [授業外学習]コツとカンの特性と相互の関係を復習する</p>
⑤	<p>[テーマ] 指導法に潜む運動認識とは [内容] 体育指導で常に問題にされる類型化、モザイク化、構築化あるいは暴力問題などにおいて運動認識がどのようにかわってくるのか、身近な例を用いて解説する。 [授業外学習]現在のスポーツ指導の問題点を復習する</p>			⑬	<p>[テーマ] 指導者の運動観察能力 [内容] 技能獲得と指導力獲得の基本的認識 「できる」につながる指導者の観察、交信、代行能力と管理・支援指導の区別について。 [授業外学習]観察能力の重要性を復習する</p>
⑥	<p>[テーマ] 運動現象は何故因果的思考と矛盾するのか [内容] 主観と客観、因果思考、データ化と統計的思考の問題、実践的感覚と判断の根拠などについて。 [授業外学習]運動現象が何故複雑なのかを復習する</p>			⑭	<p>[テーマ] 「できる気がする」までの学習段階 [内容] 運動アナログ、運動の形成位相、めあて、道しるべについての基本的理解。 [授業外学習]段階的学習の特性について復習する</p>
⑦	<p>[テーマ] 未熟な専門用語がもたらす実践問題 [内容] 専門用語の曖昧さがもたらす混乱。意味内容が理解されていないまま進められる学習やトレーニング活動などの問題について。 [授業外学習]専門用語が曖昧な現象を把握する</p>			⑮	<p>[テーマ] まとめ [内容] これまでの内容をスポーツ運動学の体系から概観し、理論的探求への手がかりとする 試験問題の解説。 [授業外学習]講義全体の内容を復習する</p>
⑧	<p>[テーマ] 「できさせる」ための発生理論 [内容] 教員免許法、学習指導要領における運動発生理論の位置づけ。教える一覚える関係性に必要とされる観察能力について。 [授業外学習]教師の専門性について復習する</p>			⑯	<p>[テーマ] 試験 [内容] 実践例とのかかわりを重視した記述問題が中心 [授業外学習]参考書、配布プリント、各自ノートを十分復習し試験に万全を期す。</p>
成績評価方法(方針)					
<p>テスト前の暗記勉強では対応できません。各回の授業内容がどの程度理解できたかを確かめます。自己の運動経験を踏まえて分析内容を記述できているかを評価します。レポートは解説した上で返却する。</p>					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			90%
授業内レポート					10%
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度				○	減点対象
出席		○			減点・欠格条件
関連科目	スポーツ技術観察論、スポーツコーチング指導法実習、ジュニアスポーツ指導論				
教科書	スポーツ運動学(明和出版)			参考書	1. 運動学講義(大修館)
連絡先	A棟403(川口)				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	スポーツ栄養学 Sport Nutrition(L.)			担当教員	真野芳彦・平良拓也
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
運動と栄養について基礎的な理論の解説、および競技力向上や健康の保持増進のためのトレーニング(運動)・栄養(食事)・休養の組み合わせ方と食べ方について講義する。					
授業の一般目標					
競技力向上や健康の保持増進のためのトレーニング(運動)・栄養(食事)・休養の組み合わせ方やその食べ方について理解できる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツ・運動と栄養についての係りに関する知識を習得することができる。			
■	情意的領域	「運動・栄養・休養」を基本とした競技力向上や健康増進のプログラムの運営に役立つこと意識して取り組むことができる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
教科書およびPower Pointを使い授業を進め、必要に応じて資料を配布する。毎回の授業は、原則として授業課題についての基礎知識、応用知識、実践(演習)の形式で進める。また、導入時に授業課題にとらわれず、将来の栄養等の指導に役立つように、スポーツ、健康、食事・栄養に関する最近の話題をニュース等からピックアップして紹介することがある。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、スポーツと栄養について [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明、スポーツ・運動時の栄養学とは何かを理解する。 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと			⑨	[テーマ] スポーツ選手の栄養管理の実践① [内容] 運動中のエネルギー基質を理解する [授業外学習] 模擬問題を復習すること
②	[テーマ] トレーニングにおける栄養素の役割①(トレーニングと糖質) [内容] スポーツ・運動時の糖代謝について理解する [授業外学習] 授業で気づいたことをまとめておくこと。			⑩	[テーマ] スポーツ選手の栄養管理の実践② [内容] 糖質の特徴と利用方法 [授業外学習] 模擬問題を復習すること
③	[テーマ] トレーニングにおける栄養素の役割②(トレーニングと脂質) [内容] スポーツ・運動時の脂質代謝について理解する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと。			⑪	[テーマ] スポーツ選手の栄養管理の実践③ [内容] 身体作り:筋増強の栄養摂取法 [授業外学習] 模擬問題を復習すること
④	[テーマ] トレーニングにおける栄養素の役割③(トレーニングとタンパク質) [内容] スポーツ・運動時のタンパク質代謝について理解する [授業外学習] 授業で気づいたことをまとめておくこと。			⑫	[テーマ] スポーツ選手の栄養管理の実践④ [内容] 身体作り:骨強度とアスリートの骨強度の現状 [授業外学習] 模擬問題を復習すること
⑤	[テーマ] トレーニングにおける栄養素の役割④(トレーニングとビタミン・ミネラル) [内容] スポーツ・運動時のビタミン・ミネラル代謝について理解する [授業外学習] 授業で気づいたことをまとめておくこと。			⑬	[テーマ] スポーツ選手の栄養管理の実践⑤ [内容] 減量方法 [授業外学習] 模擬問題を復習すること
⑥	[テーマ] 基礎体力を高める食事① [内容] 基礎体力を高めるために必要な食事を理解する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと。			⑭	[テーマ] スポーツ選手の栄養管理の実践⑥ [内容] アスリートの酸化ストレスと抗酸化能を学ぶ [授業外学習] 模擬問題を復習すること
⑦	[テーマ] 基礎体力を高める食事② [内容] 基礎体力を高めるために必要な栄養バランスについて理解する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと。			⑮	[テーマ] まとめ(スポーツと栄養について) [内容] スポーツと栄養の関係についてまとめる [授業外学習] 模擬問題を復習すること
⑧	[テーマ] 基礎体力を高める食事③ [内容] 基礎体力を高めるために重要な食事摂取タイミングについて理解する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと。			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う [授業外学習] テストに備えて復習をすること
成績評価方法(方針)					
出席、筆記試験ならびに指定課題による総合評価					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	◎			100%	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行なうこと。 ・学則に示された出席数に満たない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。 ・授業進行の妨げとなるので、遅刻は厳禁とする。 ・原則として運動生理学、運動生化学は履修済みのこと。
授業内レポート				評価対象外	
授業外レポート				評価対象外	
演習・実技				評価対象外	
授業態度		○		減点あり	
出席		○		欠格条件	
関連科目	健康と栄養・食事				
教科書	適宜資料配布			参考書	「スポーツ栄養学」-トレーニング効果を高める食事 編著者:藤井久雄(株)アイ・ケイコーポレーション
連絡先	研究室:平良(25記念館2階) 0224-55-1593 tk-taira@sendai-u.ac.jp				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	スポーツ史 Sport History(L.)			担当教員	藪 耕太郎
開講内容	学年・学期	3・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
<p>広義のスポーツについて、歴史学的観点から講述する。とりわけ本講義では、①現代に繋がる“modern”としての近代、②スポーツのイデオロギー的性格、に主眼を置くことで、単なる知識としてのスポーツの歴史ではなく、歴史を通じてスポーツの今日的な課題をクリティカルに問う力を養うことを目的とする。</p>					
授業の一般目標					
<p>①スポーツの歴史的な変遷について、人類の歴史的展開過程と関連づけて理解することができる。 ②近代スポーツが誕生した理由および歴史的意味について説明することができる。 ③スポーツの歴史的意味や役割を批判的に検討することができる。</p>					
授業の到達目標					
■	認知的領域	各時代の体育・スポーツの特徴や、基本知識について説明することができる。			
■	情意的領域	歴史について関心をもつ。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
<p>本講義は、身体運動文化の歴史の変遷過程を時系列的に辿りながら、その文化の基底を成す歴史と社会のあり方を問う。つまり、各時代の特徴的な身体運動文化を基点に、その文化を定位する特定の様式、および文化を取り巻く諸要素から、各時代・社会のありようを探りたい。なお授業では映像や画像資料も多用するが、基本はレジュメに従うので、毎回持参するのを忘れないようにすること。また授業時間確保の観点から、レジュメは原則として②・⑤・⑨・⑫回のみ配布する。</p>					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] スポーツの歴史を学ぶ意味 [内容] なぜ現代社会に生きる私たちがスポーツの歴史を知る必要があるのかを考える。 [授業外学習] 図書館でスポーツ史関連の書籍を探して読む			⑨	[テーマ] 国民と体育 [内容] 国民国家の誕生と公教育としての体育 [授業外学習] フリードリヒ・ヤーンという人物を調べる
②	[テーマ] 古代ギリシャのスポーツ [内容] 古代オリンピックの成立と展開 [授業外学習] 古代オリンピックについて調べてみる			⑩	[テーマ] スポーツと市民 [内容] 労働者階級とスポーツクラブ [授業外学習] プロスポーツ選手の誕生について調べてみる
③	[テーマ] 古代ギリシャの体育 [内容] プラトンの体育思想 [授業外学習] 体育の歴史を調べてみる			⑪	[テーマ] 帝国主義とスポーツ [内容] クーベルタンと近代オリンピック [授業外学習] ピエール・ド・クーベルタンという人物を調べてみる
④	[テーマ] 古代ローマの余暇と政治 [内容] バンとサーカス [授業外学習] 映画「ベン・ハー」を鑑賞する			⑫	[テーマ] 近代日本におけるスポーツ受容① [内容] 日本における体育・スポーツの展開 [授業外学習] 明治・大正時代について簡単な予習をしておく
⑤	[テーマ] 中近世の民衆娯楽① [内容] マス・フットボールとは何か？ [授業外学習] マス・フットボールについて調べてみる			⑬	[テーマ] 近代日本におけるスポーツ受容② [内容] スポーツと思想善導 [授業外学習] 戦争とスポーツの関係について調べてみる
⑥	[テーマ] 中近世の民衆娯楽② [内容] マス・フットボールの衰退要因と近代化 [授業外学習] 近代化ということばについて調べてみる			⑭	[テーマ] 近代日本と武道 [内容] 「創られた伝統」としての武道 [授業外学習] 武道と武術の違いを調べてみる
⑦	[テーマ] 福音主義と合理的娯楽 [内容] パブリックハウスとブラッディスポーツ [授業外学習] 動物愛護の歴史について調べてみる			⑮	[テーマ] テスト① [内容] 所期の到達目標を達成したかどうかを試験する [授業外学習]
⑧	[テーマ] スポーツと教育 [内容] パブリックスクールにおけるスポーツ [授業外学習] 「ラグビー校」について調べてみる			⑯	[テーマ] テスト② [内容] 所期の到達目標を達成したかどうかを試験する [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
<p>定期試験を重視する(90点満点)。その他、自学自習も評価する(10点)。自学自習は自発的な学習意欲に基づくレポートであり、テーマはスポーツと歴史・社会に関するものなら何でも良い。従って提出は任意であり、書式その他も全て自由とする。但し、活用した情報源の提示は必須とし、また盗用は一切認めない。提出されたレポートは可能な限り授業時に解説を交えて返却する。</p>					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	授業の進行を妨げる行為、特に私語は厳禁とし、場合によってはペナルティを課す。また高等教育である以上、講義内容は相当に高度であり、真剣な態度での受講と、積極的なノートテイクは必須である。ただし、質問などには必ず真摯に対応する。教員からの教えを待つのではなく、教員と学生とが相互に高めあう関係を期待したい。なお、プリント配布時(講義時間)に取り損ねた場合は、アップローダー(http://ux.getuploader.com/yabu_sendai_u/)から各自でダウンロード&プリントアウトすること(教員を頼らない)。パスワードはsportshistory。なお、大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
定期試験	◎	○	—	90%	
授業内レポート	—	—	—	評価対象外	
授業外レポート	○	○	○	10%	
演習・実技	—	—	—	評価対象外	
授業態度	○	○	—	減点対象	
出席	△	◎	—	減点対象	
関連科目	人文社会系科目全般				
教科書	使用しない			参考書	使用しない(授業時間内に適宜紹介する)
連絡先	kt-yabu@sendai-u.ac.jp				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		衛生・公衆衛生学 Public Health(L.)			担当教員	高橋弘彦・小松正子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格	保体科教諭、健康運動指導士・実践指導者、社会福祉主事任用資格
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
人々の健康を守るために疾病予防、環境衛生、保健統計等について、現代のトピック、理論と実際等を講義する。						
授業の一般目標						
衛生・公衆衛生学の目的である人々の健康を守ることに必要な知識の習得をめざす。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	衛生・公衆衛生学の基礎的事項・重要事項について説明できる。				
■	情意的領域	知識を身近な事柄で振り返り応用する態度を身につける。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
テキスト、配布資料、パワーポイントをもとに講義を中心に行う。学習効果を高めるための小問も随時課し、提出させる。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 衛生・公衆衛生学とは(小松) [内容] 衛生・公衆衛生学の定義とその内容について説明する。 [授業外学習] 社会における役割について復習しておくこと			⑨	[テーマ] 環境の把握とその評価(1)(高橋) [内容] 地球環境問題について説明する(温暖化、砂漠化、食物連鎖等)。 [授業外学習] 地球環境問題とその影響について復習しておくこと	
②	[テーマ] 健康の概念、医事法規(小松) [内容] 健康と健康増進(WHO憲章、オタワ憲章等)、病気の経過およびその各段階における予防手段を知り、医事法規についても学ぶ。 [授業外学習] 他者に説明できるよう復習する。			⑩	[テーマ] 環境の把握とその評価(2)(高橋) [内容] 生活環境問題について説明する(アルコール、騒音、廃棄物等)。 [授業外学習] 生活環境問題とその人体影響について復習しておくこと	
③	[テーマ] 生活習慣病概論(小松) [内容] 生活習慣病の定義、各生活習慣と疾患の関連を知り、生活習慣変容の重要性を理解する。 [授業外学習] 各自の生活習慣を見直して、考察する。			⑪	[テーマ] 環境の把握とその評価(3)(高橋) [内容] 化学的環境問題について説明する(環境汚染物質、喫煙等)。 [授業外学習] 化学的環境問題とその人体影響について復習しておくこと	
④	[テーマ] 健康づくり施策(小松) [内容] 第1次健康づくり対策から健康日本21まで健康づくり対策の変遷 [授業外学習] 他者にも説明できるように復習する。			⑫	[テーマ] 環境の把握とその評価(4)(高橋) [内容] 生物的環境問題について(ウイルス感染症、HIV、AIDS他) [授業外学習] 生物的環境問題とその人体影響について復習しておくこと	
⑤	[テーマ] 生活習慣病と運動疫学(小松) [内容] 運動と生活習慣病予防の関連について疫学等を通じて理解する。 [授業外学習] 他者にも説明できるように復習する。			⑬	[テーマ] 物理的環境要因(1)(高橋) [内容] 気温、気湿(湿度)、熱輻射、気流(風速)の人体影響について説明する。 [授業外学習] 生活を取り巻く物理的環境の影響について復習しておくこと	
⑥	[テーマ] 運動基準・運動指針(小松) [内容] 運動基準・運動指針(エクササイズガイド)2006について理解する。 [授業外学習] 各自の運動習慣を見直して、考察する。			⑭	[テーマ] 物理的環境要因(2)(高橋) [内容] 熱中症の現状とその予防法について説明する。 [授業外学習] 学校現場における熱中症の発生状況とその予防法について復習しておくこと	
⑦	[テーマ] 介護予防概論(小松) [内容] 細菌性・ウイルス性、感染型・毒素型等の食中毒の分類・特徴について理解する。有機溶剤、一酸化炭素中毒などについて学ぶ。 [授業外学習] 他者にも説明できるように復習する。			⑮	[テーマ] まとめ(高橋) [内容] 全体を振り返る。 [授業外学習] 各自、理解不足の箇所を補習すること	
⑧	[テーマ] 食中毒、有機溶剤等中毒について [内容] 細菌性・ウイルス性、感染型・毒素型等の食中毒の分類・特徴について理解する。有機溶剤、一酸化炭素中毒などについて学ぶ。 [授業外学習] 身近な食物・曝露(喫煙等)と関連づけて考えられるように復習する。			⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 全15回の内容について知識の確認をする。 [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
期末試験をもって評価する。6割以上の得点を合格とする。そのほか、理解度確認のための小問を時折行い、その回答をまとめたものの配布・解説などとする。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	試験を欠席した場合(所定時間を経過し遅刻した場合も含む)、放棄となる。授業・掲示等をよく確認のこと。受講態度に著しい問題が認められた学生に対しては成績評価から減点する。大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
定期試験		◎			100%	
授業内レポート			○			
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度					注意参照	
出席						
関連科目	学校保健学					
教科書	衛生・公衆衛生学(アイ・ケーコーポレーション)			参考書	特になし	
連絡先	研究室:小松正子(F棟2階)、高橋弘彦(C棟3階)					

4. 応用科目

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	日本国憲法 Constitution of Japan			担当教員	加藤英俊
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	関連資格	教員免許状(全免許)
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
テキストを用いる。日本国憲法の総論と基本的人権の保障の基本的事項を対象にする。					
授業の一般目標					
憲法の法的意味を理解し、関連する用語を適切に使用できるようになり、日本国憲法について自己学習ができるとともに、憲法に係わる社会的事件について意見を述べるができるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	憲法・憲法学上の用語の意味と使用法を理解し、適切に使用できるようになる。			
■	情意的領域	特に、基本的人権に係わる問題事項を自ら考え、意見を組み立てて議論できるようになる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
シラバスに挙げた事項につきテキストの関係箇所を指摘し、その理解を図り、講義を進める。テキストにない事例は別途配布する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス・導入授業 [内容] 授業の進め方と、単位評価に関する注意事項の説明。 「日本国民」とは誰か [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘			⑨	[テーマ] 生存権の特徴 [内容] 朝日訴訟上告審(最大判昭42・5・24) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
②	[テーマ] 「憲法」とはどんな法的ルールなのか(1) [内容] 憲法の諸ルールと、国家権力の構成、国家権力行使の拘束 [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘			⑩	[テーマ] 信教の自由と政教分離(1) [内容] 神戸高専剣道実技履修拒否事件(最判平8・3・8) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
③	[テーマ] 「憲法」とはどんな法的ルールなのか(2) [内容] 国法体系における憲法の地位:最高法規性の意味 [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘			⑪	[テーマ] 信教の自由と政教分離(2) [内容] 神戸高専剣道実技履修拒否事件(最判平8・3・8)、 津地鎮祭事件(最大判昭52・7・13) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
④	[テーマ] 法の下での平等保障は何を意味しているか(1) [内容] 平等保障の概説、国籍法違憲判決(最大判平20・6・4) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘			⑫	[テーマ] 人権保障と公共の福祉(1) [内容] 「公共の福祉」の概説、職業選択の自由が問題になった事件からの理解(公衆浴場法合憲判決と薬事法違憲判決) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
⑤	[テーマ] 法の下での平等保障は何を意味しているか(2) [内容] 国籍法違憲判決(最大判平20・6・4) 尊属殺重罰違憲判決(最大判昭48・4・4) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘			⑬	[テーマ] 人権保障と公共の福祉(2) [内容] 職業選択の自由が問題になった事件からの理解(公衆浴場法合憲判決と薬事法違憲判決) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
⑥	[テーマ] 私人間の法律関係における差別問題(1) [内容] 私的自治の原則の概説、日産自動車事件(最判昭56・3・24) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘			⑭	[テーマ] 司法裁判所の裁判 [内容] 「法律上の争訟」の意味、板まんだら事件(最判昭56・4・7) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘
⑦	[テーマ] 私人間の法律関係における差別問題(2) [内容] 日産自動車事件(最判昭56・3・24) 三菱樹脂事件(最大判昭48・12・12) [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘			⑮	[テーマ] 日本国憲法の違憲審査制 [内容] 日本国憲法の違憲審査権の性質、警察予備隊違憲訴訟 [授業外学習]
⑧	[テーマ] 基本的人権の分類 [内容] 基本的人権保障条項の分類項目と、それぞれの特徴 [授業外学習] 次回テキスト箇所の指摘			⑯	[テーマ] 筆記試験 [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
成績の評価は、基本的に、筆記試験による。欠席日数は学生便覧「試験細則」による。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			100%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度					
出席					
関連科目					
教科書	ワンステップ憲法(嵯峨野書院)			参考書	
連絡先	非常勤講師なので連絡は教育企画室を通して行うこと。				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	教育の制度B System of Education (L.)			担当教員	金井里弥
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
近年の教育問題と教育制度の歴史的変遷を踏まえながら、教育制度や行政のあり方について講義する。					
授業の一般目標					
①学校教育制度の成り立ちと、現状を理解する。 ②実際の教育問題との関連において、教育制度の観点から望ましい教育のあり方を考える。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	日本における学校教育制度の成り立ちと現状を説明できる。			
■	情意的領域	現在の教育問題について、教育制度の観点から自分の意見を述べることができる。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
教育法規の基礎を紹介したうえで、教育の様々な側面から具体的な制度の在り様を見ていく。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 講義の目標と進め方、シラバスの内容、成績評価の方法を知る。 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと。			⑨	[テーマ] 日本の教育制度史 [内容] 現在の教育制度がいかんして成立してきたのか、近代以降を中心に理解する。 [授業外学習] 講義内容を復習。
②	[テーマ] 教育法規の基礎知識 [内容] 教育制度の基盤となる法規の種類と体系を踏まえた上で、憲法上の教育に関する条文について理解する。 [授業外学習] 教育法規について復習する。			⑩	[テーマ] 教育職員制度 [内容] 教員の身分や服務、処分等の教員に関する制度を理解する。 [授業外学習] 関連法規を確認する。
③	[テーマ] 教育基本法 [内容] 教育基本法の史的展開を踏まえた上で、その内容と現在の学校教育との関連性を理解する。 [授業外学習] 教育基本法について復習する。			⑪	[テーマ] 教育課程と教科書制度 [内容] 教育課程の編成、近年の改革動向、教科書の使用、検定、採択について理解する。 [授業外学習] 関連法規を確認する。
④	[テーマ] 学校の種類と義務教育 [内容] 学校の種類とそれらの種類に応じた制度的特徴、義務教育のあり方について理解する。 [授業外学習] 学校教育法における学校の種類と義務教育制度を復習する。			⑫	[テーマ] 日本における学力問題と学力政策 [内容] 学力低下論争と国際学力競争の問題を紐解きながら、日本の学力政策の展開と学力の在り方を考える。 [授業外学習] OECDのPISAが教育に与えた影響について調べる。
⑤	[テーマ] 中央教育行政の理解 [内容] 中央教育行政の仕組みと、その働きを理解する。 [授業外学習] 文部科学省および内閣府の教育政策について調べる。			⑬	[テーマ] 教員の資質向上と教員政策 [内容] 日本における教員養成制度の展開を知るとともに、教師教育の仕組みと政策動向を理解する。 [授業外学習] 近年の教員政策について調べる。
⑥	[テーマ] 地方教育行政の理解 [内容] 地方教育行政の仕組みと、その働きを理解する。 [授業外学習] 地方教育行政の仕組みについて復習する。			⑭	[テーマ] 教育問題をどう見るか～「教育問題」は作られる～ [内容] 学校教育における事象が教育問題として、解消の対象とされるプロセスを理解し、教育問題の捉え方について考える。 [授業外学習] 近年の教育問題について調べる。
⑦	[テーマ] 学校の設置と管理運営 [内容] 学校の設置主体、学校法人、学校の設置義務および基準、管理に関する法令を理解する。 [授業外学習] 関連法規を確認する。			⑮	[テーマ] まとめ [内容] 本講義の要点を確認し、全体の総括を行う。 [授業外学習] 本講義の要点の確認とその復習を行う。
⑧	[テーマ] 学校・学級内の制度 [内容] 出席停止、懲戒、学校の設備を中心に、学校・学級内の制度を理解する。 [授業外学習] 関連法規を確認する。			⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 本講義での理解度、学習到達度を確認する。 [授業外学習] 本講義の要点の確認とその復習を行う。
成績評価方法(方針)					
(1) 期末試験(80%)、(2) 授業内レポート(20%) なお、受講態度が著しく不良である者、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。 試験およびレポートの採点結果は、期末試験後に開示する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	◎			80%	5回以上の欠席で期末試験の受験不可とする。毎回の予習を必須とし、大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。 教員免許取得に必須の科目であることから、教職を志す者として、学生相互の学習権を尊重し合う受講態度を求める。遅刻や講義中の私語、携帯いじり、睡眠等、学習環境を損なう行為については厳格に対処する。 第1回のオリエンテーションには必ず出席するものとし、欠席する場合には事前にオリエンテーション資料をもらいに来ること。
授業内レポート	◎	○		20%	
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度				加減点あり	
出席				欠格条件	
関連科目	教職論C、教育課程論、生徒指導論				
教科書	『必修教職六法』(2018年度版もしくは2017年度版)			参考書	授業時に紹介する。
連絡先	研究室 A棟3階 304 オフィスアワー:木曜日12:40～14:10				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		教育と社会 Education and Society (L.)			担当教員	三谷高史
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	幼稚園教諭第1種免許状・保育士資格
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要						
子どもは社会的な存在であり、その子どもに働きかける教育という営為もまた社会的なものである。本講義では教育に関わる誰もが知っているような事柄(学力、不登校など)を取り上げ、主に教育社会学の知見を用いてそれらを解説する。						
授業の一般目標						
教育社会学の知識、考え方を理解・習得し、さらには学校と地域との連携、学校及び保育施設の安全への対応に関する知識の理解・習得する。それらを通して、教育を社会的営みとして捉えることができるようになることを到達目標とする。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	講義で開設された知識を正確に理解している。				
■	情意的領域	世の中で起きている教育「問題」に関心を持ち、その「問題」に対して批判的な思考ができる。				
■	技能表現的領域	講義の内容、自分の経験や他者の意見を踏まえて、教育に対する自分の意見を論じることができる。				
授業計画(全体)						
毎回、具体的な教育事象や、教育「問題」を取り上げ、主に教育社会学の知見からそれらを解説する。基本的には講義形式となるが、適宜グループディスカッションの機会を設け、受講者同士での意見交換もしてもらう。また、特定のテーマについての小レポートにも取り組んでもらう。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ]教育をめぐる常識を問いなおすことがなぜ必要なのか [内容] 授業の目標と進め方、成績評価方法、最終試験課題の概要などを説明する。 [授業外学習]新聞・雑誌記事を探し、読み、まとめる				⑨	[テーマ] 学校制度の社会学(3): 秩序性 [内容] 学校知識や学校生活が持つ秩序性について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする
②	[テーマ] 教育問題の社会学(1): 不登校「問題」 [内容] 不登校「問題」を歴史的に解説し、多様な教育機会の確保の重要性と現状について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする				⑩	[テーマ] 学校制度の社会学(4): 文化性 [内容] 学校文化(制度文化・教員文化・生徒文化)について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習し、小レポートに取り組む
③	[テーマ] 教育問題の社会学(2): 教師の多忙化「問題」 [内容] 日本の教師の多忙化「問題」について、海外との比較をまじえながら解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする				⑪	[テーマ] 教育の中のジェンダー [内容] 教育現場・保育現場におけるジェンダーの「問題」について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする
④	[テーマ] 教育問題の社会学(3): 学力「問題」 [内容] 国内外における学力と階層の問題について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする				⑫	[テーマ] 教育と経済学: 幼児教育無償化 [内容] 幼児教育無償化を素材に、日本における教育経済学の展開とその知見について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする
⑤	[テーマ] 学歴社会(1): メリトクラシーと学歴社会 [内容] 日本の学歴社会の成立と、中心概念であるメリトクラシーについて解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする				⑬	[テーマ] 戦後日本の「地域と教育」論 [内容] 戦後日本において実践と研究が積みかさねられてきた「地域と教育」論について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする
⑥	[テーマ] 学歴社会(2): 国際学力調査 [内容] OECDによるPISAの概要と、その影響力について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする				⑭	[テーマ] 学校・幼稚園・保育施設と安全管理 [内容] 部活動事故や「ヒヤリ・ハット」実践などを取り上げ、学校や幼稚園、保育施設での安全管理について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする
⑦	[テーマ] 学校制度の社会学(1): 国内外の教育改革 [内容] 2000年以降の、国内外の教育改革の流れを解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする				⑮	[テーマ] まとめ: (教育と社会)という問題 [内容] 講義内容を振り返り、教育が社会的営みであることを確認し、教育と社会の相互規定性について解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする
⑧	[テーマ] 学校制度の社会学(2): 集中性 [内容] 近代学校が多くの資源を必要としてきた/している事を解説する。 [授業外学習]本日の講義について復習をする				⑯	[テーマ] 期末試験 [内容] 授業内容の理解度を問う選択式、記述式、論述式の試験を実施する。 [授業外学習]講義内容を復習し、試験に備える
成績評価方法(方針)						
授業外で取り組む小レポート(20%)と期末試験(80%)で総合的に評価する。小レポートにかんしては、提出前の相談、提出後のコメントや返却を希望する学生に対しては個別に対応する。2/3以上出席しなかった学生は、評価対象外となる。特別な事情(部活の試合、忌引き、電車の遅延等)があった場合は、事後報告で構わないので、後日必ず報告すること。						
成績評価方法(詳細)						
到達目標				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	大学設置基準で定められている時間の授業時間外修学を行なうこと。2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となる。また友人に学生証を預けて代返している行為が発覚した場合には、カンニング同様の不正行為とみなし、本講義の成績は「不可」とする。熱心に学ぼうとしている学生の邪魔をする行為(私語など)は禁止する。注意を与えても改善されない場合は、減点などの措置をとる。	
定期試験	○	○	○	80%		
授業内レポート						
授業外レポート	○	○	○	20%		
演習・実技						
授業態度					欠格条件	
出席					欠格条件	
関連科目	教育の基礎理論B					
教科書	特に指定しない。毎回の講義ではレジュメを配布し、参考文献はその都度提示する。				参考書	内閣府・他(2017)『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、チャイルド本社
連絡先	tk-mitani@sendai-u.ac.jp					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	幼児理解の理論と方法(教育相談、カウンセリング基礎を含む)			担当教員	氏家靖浩
	Counseling approach for Infant				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	関連資格	幼稚園教諭一種免許状
	履修の方法	選択必修	単位数		
授業の概要					
教育相談(カウンセリング)の理論を参照しながら幼児を理解する方法論について講義する。同時に特別支援教育の基礎知識とカンファレンスの技法についても説明し、保育・教育現場に還元できる内容にする。					
授業の一般目標					
幼児を理解する姿勢は、実は保育者が自分自身と向き合っていく過程であるということを体験的に理解する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	幼児理解で必要とされる教育相談の理論について説明できる。			
■	情意的領域	幼児と向き合うために、自らの感性を磨く必要性があることを体感する。			
■	技能表現的領域	幼児理解で必要とされる行動観察とカンファレンスの技法を身につける。			
授業計画(全体)					
幼児を理解しようとする際に求められる教育相談の理論と技法については講義を通して学ぶ。感性を磨くためには、自ら意見を述べる教室内のアクティブラーニングから学ぶ。行動観察については、実際にレポートを作成し、相互の批評を通して学ぶ。履修ガイダンスを1回目と中盤で行い、学習のスタイルについても敏感になってもらいたい。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス・幼児理解を学ぶ意義 [内容] ガイダンスによって本授業の学び方を知る。幼児理解の基本的な枠組みを講義する。 [授業外学習]何をどう学ぶかについて整理する。			⑨	[テーマ]気がかりな子どもの特性 [内容] 特別支援教育の初歩的な知識を解説する。 [授業外学習]学んだ内容を再確認しておくこと。
②	[テーマ]生涯発達から見た幼児期 [内容] 幼児期の特性について検討する。 [授業外学習]この授業以外で使用している発達系の教科書を熟読すること。			⑩	[テーマ]気がかりな子どもへの対応 [内容] インクルーシブ教育システムの初歩的な知識を解説する。 [授業外学習]学んだ内容を再確認しておくこと。
③	[テーマ] 自らの幼児期を振り返る [内容] 教室内アクティブラーニングとして学んだことを教室内で相互に指導し合う体験を行う。 [授業外学習]体験した内容を再確認しておくこと。			⑪	[テーマ] 同僚とのチームアプローチ [内容] 幼児理解を促進させる同僚とのチームの組み方を考える。たとえばチーム学校の概念について解説する。 [授業外学習]学んだ内容を再確認しておくこと。
④	[テーマ] 幼児を理解するための教育相談におけるカウンセリングのアプローチ [内容] 幼児理解に活かす教育相談のカウンセリング理論について解説する。 [授業外学習]学んだ内容を再確認しておくこと。			⑫	[テーマ] 関係機関とのチームアプローチ [内容] 幼児理解を促進させる関係機関とのチームの組み方を考える。 [授業外学習]学んだ内容を再確認しておくこと。
⑤	[テーマ] 心が救われた体験を分かち合う [内容] 教室内アクティブラーニングとして学んだことを教室内で相互に指導し合う体験を行う。 [授業外学習]体験した内容を再確認しておくこと。			⑬	[テーマ] 保護者理解 [内容] 現代の子育ての課題と保護者の苦悩、親理解について解説する。 [授業外学習]学んだ内容を再確認しておくこと。
⑥	[テーマ] 行動観察の方法 [内容] 行動観察の基礎的な知識を解説する。 [授業外学習]学んだ内容を再確認しておくこと。			⑭	[テーマ] いわゆるモンスターペアレントを考える [内容] 近年話題になるモンスターペアレントについて解説する。 [授業外学習]学んだ内容を再確認しておくこと。
⑦	[テーマ] 行動観察の実践 [内容] ビデオエスノグラフィーの手法を体験する。 [授業外学習]体験した内容を再確認しておくこと。			⑮	[テーマ] まとめ [内容] 質問に応じたレポートを教室内で作成し復習する。 [授業外学習]学んだ内容を再確認しておくこと。
⑧	[テーマ]行動観察の考察 [内容] 教室内アクティブラーニングとして行動観察で気づいたことを教室内で相互に指導し合う体験を行う。 [授業外学習]体験した内容を再確認しておくこと。			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
授業内・外レポートを総合的に評価する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験					たんに授業で学ぶだけではなく、教員と対話することによって体験的に学ぶことに気づいて欲しい。 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
授業内レポート	◎			40%	
授業外レポート	○	○	○	60%	
演習・実技					
授業態度					
出席					
関連科目					
教科書	「スクールカウンセリングと発達支援」ナカニシヤ出版			参考書	
連絡先	非常勤講師のため、教育企画室を通して行うこと。				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	乳児保育 Infant Care and Education			担当教員	柴田千賀子
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義・演習	関連資格
	履修の方法	選択必修	単位数	2	
授業の概要					
乳児保育の理論と実際について、学びを深める。人間形成の基礎時期である乳児保育の理論と知識を具体的事例を通して学び、乳児の理解を深める。					
授業の一般目標					
子どもの豊かな育ちを願い、子ども理解の探究を続ける保育士を目指す。乳幼児の発育発達について理解する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	乳幼児の心身の発達や保育者としてのかかわりについて理解する。			
■	情意的領域	子どもを理解するための様々な学び(子どもを対象とした演習を含む)に意欲的に取り組む。			
■	技能表現的領域	乳幼児とのかかわりについて具体的な演習を通して理解を深め、技術を身につける。			
授業計画(全体)					
乳幼児の心身の発達の全体像や、保育者としてのかかわり方などについて講義と演習を通して具体的に学ぶ。各年齢の発達およびかかわりについて、講義で学んだ内容について理解を深めるために、観察保育やロールプレイで実践する。履修ガイダンスは第1回目の授業において行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス・乳幼児保育の基本 [内容] ガイダンスを実施する。乳幼児保育の基本について講義する。 [授業外学習]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑨	[テーマ] 手作り玩具の製作 [内容] 手作り玩具について、自身の考えのもとに実際に製作する。 [授業外学習]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
②	[テーマ] 乳児の発達と保育 [内容] 乳児の発達と保育について解説する。 [授業外学習]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑩	[テーマ] 手作り玩具の発表① [内容] 作製した玩具について発表する。 [授業外学習]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
③	[テーマ] 乳児保育の必要性(社会的背景) [内容] 乳児保育の必要性について、具体的な社会的背景をもとに解説する。 [授業外学習]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑪	[テーマ] 手作り玩具の発表③ [内容] 手作りした玩具を用いて、1, 2歳児と共に遊び、玩具の自己評価を実施する。 [授業外学習]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
④	[テーマ] 乳児保育の実際(さまざまな保育サービス) [内容] 乳児保育の実際について、さまざまな保育サービスがあることを自ら調べ、要点を発表する。 [授業外学習]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑫	[テーマ] 人的環境としての保育者のありかた [内容] 人的環境としての保育者のありかたについて解説する。 [授業外学習]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
⑤	[テーマ] 乳児の食事 [内容] 乳児の食事について解説し、ミルクや離乳食の実食を通して理解を深める。 [授業外学習]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑬	[テーマ] 乳児保育における物的環境のありかた [内容] 乳児保育における物的環境のありかたについて解説する。 [授業外学習]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
⑥	[テーマ] 乳児の睡眠・排泄 [内容] 乳児の睡眠・排泄について解説し、乳児人形を用いた演習を通して技術を身につける。 [授業外学習]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑭	[テーマ] 乳児期の指導計画・デイリープログラム [内容] 乳児期の指導計画・デイリープログラムについて学び、立案する。 [授業外学習]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
⑦	[テーマ] 乳児の着脱・沐浴 [内容] 乳児の着脱・沐浴について解説し、乳児人形を用いた演習を通して技術を身につける。 [授業外学習]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑮	[テーマ] まとめ [内容] これまでの学修のまとめと評価をする。 [授業外学習]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
⑧	[テーマ] 乳児の発達に即した玩具 [内容] 乳児の発達に即した玩具について解説し、実際に遊具で遊ぶことにより理解を深める。 [授業外学習]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]テーマについて、自身の考えをまとめておくこと
成績評価方法(方針)					
授業内・外レポートおよび演習実技の点数を総合して評価する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと) 保育者を目指すものとして、常に課題意識を持ち、自発的に受講することを望む。 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
定期試験					
授業内レポート	◎	○		40%	
授業外レポート	○	○		40%	
演習・実技			◎	20%	
授業態度					
出席					
関連科目					
教科書	「子どもと共に育ちあうエピソード保育者論」(みらい)			参考書	「学習指導要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
連絡先	柴田研究室(LC棟2F) オフィスアワー 火曜日 11:50~12:30				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	社会的養護内容 Aspects of Alternative Care in Childhood			担当教員	千葉喜久也
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
本授業は、子どもを社会的に養護していくための知識や技術について学修する。具体的には個々の子どもに応じた支援計画の作成、日常生活の支援・自立支援等の方法と技術を理解するとともに、保育者としての支援力を習得する。					
授業の一般目標					
1 社会的養護における子どもの権利擁護について理解する。2 施設養護および家庭養護の役割や機能について理解する。3 個々の子どもに応じた自立支援計画、児童発達支援計画書等の作成の意味と留意点を理解する。4 児童福祉施設での保育士の役割を学び、支援者としての援助実践力を身に付ける。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	現代社会における社会的養護の意義と役割について体系的に学ぶ。				
■ 情意的領域	社会的養護を必要とする子どもや施設養護の実際に触れ、社会的養護の現状や課題に更なる関心を持つ。				
■ 技能表現的領域	社会的養護に関わる相談援助の知識・支援について自らの言葉で表現することができる。				
授業計画(全体)					
社会的に養護を必要とする子どもを支援するには、社会的養護の意義と役割について体系的に理解することが必要である。本授業では、こうした知識や実践力が身に付くよう社会的養護について基礎から丁寧に教授する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、子どもの権利擁護 [内容] 授業の目標と進め方、シラバスの説明。子どもの権利擁護について [授業外学習] 子どもの権利擁護について調べる			⑨	[テーマ] 心理的支援に関する事例分析 [内容] 事例を基に、心理的支援のあり方を学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
②	[テーマ] 社会的養護における保育士等の倫理及び責務 [内容] 社会的養護における保育士等の倫理及び責務の理解 [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく			⑩	[テーマ] 子自立支援に関する事例分析 [内容] 社会的養護の子どもの退後の進路、自立について学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
③	[テーマ]施設養護の特性及び実際① [内容] 乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設について具体例を挙げながら解説する [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく			⑪	[テーマ] 記録及び自己評価(ケースカンファレンス)について [内容]記録の意義と役割、自己評価について理解を深める [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
④	[テーマ] 施設養護の特性及び実際② [内容] 児童心理治療施設、児童自立支援施設、障がい児施設について具体的を挙げながら解説 [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく			⑫	[テーマ] 社会的養護における保育士の専門性 [内容] 社会的養護における保育士の専門性について学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
⑤	[テーマ] 家族養護の特性及び実際 [内容] 里親制度、ファミリーホーム事業、養子縁組制度について具体的例を挙げながら解説 [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく			⑬	[テーマ] 社会的養護におけるソーシャルワークについて [内容] ソーシャルワークの意味と実践について理解する [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
⑥	[テーマ] 社会的養護におけるケアマネジメント [内容] ケアマネジメントの意味と実際を学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく			⑭	[テーマ] 施設の小規模化と地域のかかわりについて、今後の課題と展望 [内容] 施設の小規模化の方向、課題と展望について学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
⑦	[テーマ] 自立支援計画の作成 [内容] 自立支援計画とは何か、自立支援計画の実際を学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく			⑮	[テーマ] 今後の社会的養護の課題と展望 [内容] 社会的養護の大転換の背景と取り組みについて学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく
⑧	[テーマ] 日常生活支援に関する事例分析 [内容] 日常生活支援とは、支援方法について学ぶ [授業外学習] テキスト該当箇所を読んでおく			⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 授業の理解度を確認するための試験を実施する [授業外学習] テストの準備をしておく
成績評価方法(方針)					
16回授業で4回以上欠席する場合は、単位不可、定期試験50%、演習・実技50%					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	◎	○		50%	・大学設置基準において90分の授業に対し、予習・復習を90分行うことが義務付けられている。この大学評価基準に沿って予習・復習を行うこと。 ・20分以上の遅刻は、欠席とする。 ・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない。 ・「授業計画」における毎回のテーマや内容は講義の進展に応じ多少前後する。社会的養護の意義と実際を理解したうえで、保育士のかかわり、専門性について理解を深めていただきたい。 社会的養護に関心をもって、主体的に学んでいただきたい。
授業内レポート				無し	
授業外レポート				無し	
演習・実技		○	◎	50%	
授業態度				減点アリ	
出席				欠格条件	
関連科目					
教科書	『社会的養護内容(基本保育シリーズ)』中央法規 相澤仁編集			参考書	『保育士の家族援助の実際』シーライズ 千葉喜久也著
連絡先	千葉喜久也 研究室				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	相談援助				担当教員	青沼 一民
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	幼稚園教諭
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
相談援助は幼児指導、遊び指導と同様に重要な機能概念である。本授業は幼児教育相談として、その理論と内容・方法・指導体制・心理査定・関係心理学等を体系的に講義するものである。さらに、「幼児教育相談」として発達障害、虐待、育児放棄といった現場で直面する問題の現状課題を問題行動調査等に基づいて把握して、どのような支援・対応が望ましいのかについて解説する。						
授業の一般目標						
幼稚園における相談援助活動の意義や原理、目的、方法、内容、技法、背景となる心理学的基礎、指導体制、幼児理解や心理アセスメントを理解する。さらに、幼稚園における発達障害、虐待、育児放棄等の様々な相談援助上の現状と課題を把握・理解し、相談援助の基礎的技法を知り、現場での活用に繋げられるように考察する。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	相談援助の歴史、意義、原理、目的、方法、内容、技法、背景、関係心理学、指導体制等について理解し、説明できるようにする。また、相談援助の現状と課題を把握・指摘し、より望ましい相談援助のあり方を説明できる。					
■ 情意的領域	幼児のより良い人格の発達や有意義で、興味深く、充実した幼稚園生活が送れるような相談援助に寄与し、具体的な課題解決に向けて思考・判断し、他の職員と協働しながら相談援助活動に参加する意思・意欲を持つことができる。					
■ 技能表現的領域	実際の教育活動や具体的な支援の仕方について学び、さらに様々な支援活動を通しながら教員としての幼児教育相談の活用力を身に付けることができるようにする。さらに、相談援助上の諸問題について様々な情報網を使いながら、実践力を高めることができる。					
授業計画(全体)						
各授業やのテーマに沿った講義が中心となる。より深い理解と実践力の向上に向け、授業外学習への自主的取り組みや教育ボランティア等を勧める。さらに、実践的事例の紹介や視聴覚教材の視聴を通して実践場面への応用を工夫する。相談援助の周辺領域に係る科目(学校保健・臨床心理学・精神保健学・心理学概論・教育心理学)等を並行受講することを勧める。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員紹介、教員免許取得における位置づけ、授業計画、授業の進め方、成績評価の方法、その他留意事項について説明する。 [授業外学習] シラバス・印刷プリントを準備しておく。			⑨	[テーマ] 相談援助のプロセスと技法、基礎理論と心理療法(2) [内容] 相談援助を支える様々なカウンセリング理論や心理療法等について、視聴覚教材を活用しながらその手法をまとめながら深化を図る。 [授業外学習] 図書館、Web 等で復習し、学習を深める。	
②	[テーマ] 相談援助の歴史と概念(沿革と発展) [内容] 我が国の相談援助の歩み、アメリカにおけるスクールカウンセリングの発展、日本とアメリカのカウンセラー制度について概説する。 [授業外学習] 学習プリントで復習する。			⑩	[テーマ] 相談援助の課題(1)ー① [内容] 幼稚園現場で発生している様々な課題などを理解と支援のあり方並びに現状と対策について解説する。 [授業外学習] 学習プリントをもとに復習する。	
③	[テーマ] 相談援助の意義・目的・役割・機能など [内容] 相談援助の意義、目的、役割、機能等について説明する。 [授業外学習] 学習プリントをもとに復習する。			⑪	[テーマ] 相談援助の課題(1)ー② [内容] 幼児を取り巻く養育環境の理解と支援のあり方について、幼稚園教諭を招きながら解説と議論を行うことで相談の取り組みをまとめ深化を図る。 [授業外学習] 図書館学習、新聞、Web 等で課題の記事を読み考察する。	
④	[テーマ] 相談援助と幼児指導、相談援助の資質・方法・形態など [内容] 相談援助と幼児指導との関係、相談援助の特質、方法、形態、領域等について解説する。 [授業外学習] 学習プリントをもとに復習する。			⑫	[テーマ] 相談援助の課題(1)ー③ [内容] 幼児の養育環境などの構造・態様・変容などの理解と支援のあり方と現状と対策について解説する。 [授業外学習] 学習プリントをもとに復習する。	
⑤	[テーマ] 幼稚園内外の相談体制と各教員の役割、相談の基本 [内容] 幼稚園内外における相談の体制づくりと教員をはじめとする様々な教員による相談のあり方の基本を解説する。 [授業外学習] 学習プリントをもとに復習する。			⑬	[テーマ] 相談援助の課題(2)ー① [内容] 幼児の養育環境などの理解と支援について、実際に関わっている幼稚園教員から課題を取り上げて学生と討論しながら事象を深める。 [授業外学習] 新聞、Web 等で養育環境の記事を読み考察する。	
⑥	[テーマ] 相談援助と幼児指導、相談援助の資質・方法・形態など幼児理解(心理アセスメント含)の方法 [内容] 効果的な相談援助を支える幼児理解の意義・方法・技術や心理アセスメントの考え方について解説する。 [授業外学習] 幼児理解の方法を図書館学習・学習プリントを復習する。			⑭	[テーマ] 相談援助の課題(2)ー② [内容] 「発達障害」「虐待」「育児放棄」の理解と支援のあり方並びに現状と対策について解説する。 学習プリントをもとに復習する。	
⑦	[テーマ] 相談援助を支える関係心理学の基礎的知見 [内容] 相談援助を支える幼児期の心理と発達、欲求と行動や葛藤並びに適応(防衛)機能の特徴等について解説する。 [授業外学習] 関連授業等での復習で心理学的知見をさらに深める。			⑮	[テーマ] 相談援助の課題(2)ー③ [内容] 「発達障害」の理解と支援について、視聴覚教材を活用しながら特別支援教育の取り組みをまとめながら解説する。 [授業外学習] 新聞、Web 等で発達障害関連の記事を読み考察する。	
⑧	[テーマ] 相談援助のプロセスと技法、基礎理論と心理療法(1) [内容] 相談援助の進め方や相談を深めるカウンセリング理論や心理療法等を解説する。 [授業外学習] 関連授業、Web 等で復習し、学習を深める。			⑯	[テーマ] テスト [内容] 授業の理解度、到達度を確かめるために期末テスト(ペーパーテスト)を行う。 [授業外学習] これまでの学習の復習をしっかりと行い対策を図る。	
成績評価方法(方針)						
定期の筆記試験の結果(40%)に、出席状況を含む授業内受講態度や授業内レポート・意欲(60%)を加味して評価する。尚、「理由の認められない欠席(自己に責めを帰す理由)」を総授業回数のうち6回以上の者は評価対象外(放棄:定期試験の受験資格が無いものと取り扱う)とする。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験		◎		△	40%	①幼稚園教諭になろうという強い意欲の学生の受講が基本 ②私語、遅刻、意欲、睡眠、携帯操作等の行為は厳禁であり、授業態度の悪い者とし減点もしくは退扱いとす。また、20分以上の遅刻は欠席とする。 ③資格関連実習や各種公認大会、慶甲等の理由による欠席届は配慮される場合がある。自己都合の欠席や資格関連を伴わない授業演習等は届出を提出しても欠席となる。 ④授業は座席指定とし、初回授業時決定するので必ず出席のこと。初回授業の無断欠席者それ以降の受講は認めないので、欠席する場合は事前相談を必ず行うこと。 ⑤授業の進度については、内容の前後や変更の可能性もあり得ること。
授業内レポート		○	◎	○	授業態度含	
授業外レポート					実施せず	
演習・実技					評価対象外	
授業態度		△	◎	△	減点(欠席)あり	
出席			◎		60%欠格条件	
関連科目	生徒指導論、教育心理学、臨床心理学、精神保健学、その他教職関係科目					
教科書					参考書	学習指導要領(含解説)
連絡先	青沼 一民 A313 TEL 55-1374(直通)					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	教職論C			担当教員	柴田千賀子／高橋 亮
	Introduction to Teaching Profession C				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	必修	単位数		
授業の概要					
本授業は、保育者・幼稚園教諭に求められる役割、資質、使命について理解を深める学習を展開する。前半は、保育者・幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割や倫理について認識を深める。後半は、保育者・幼稚園教諭としての基本的な資質、責任、知識、技能、考え方を実践的模擬学習を実施する。					
授業の一般目標					
本科目のねらいは、教職とはどんな仕事か、その基本的な性格や社会的使命などについて実践活動を通して理解を深めることである。授業形態は、アクティブラーニング(学生主体型授業)で実施する。また、ディスカッションなどを通して教職に関する理解を深め、教職への意欲を明確なものにすることが本科の目的である。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質・力量などについて理解する。			
■	情意的領域	教職への希望を実現するための様々な学習に意欲的に取り組む。			
■	技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につける。			
授業計画(全体)					
教職に就くために基盤となる教職の全体像や学習計画の立て方などについての学習、教職にかかる様々な制度を学び、教員としての資質・力量などについて、それぞれの担当者が、講義する。履修ガイダンスは第1回目の授業において行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション幼稚園教育・保育とは、教職を目指す動機は(柴田) [内容] 幼稚園教育・保育とは何か、教職を目指す動機を問うことを中心にオリエンテーションを進める。 [授業外学習] テーマについて、自身の考えをまとめておくこと			⑨	[テーマ] 教師に求められるもの・好奇心や想像力、表現力を高める方法(高橋) [内容] 自分の本当の夢を語り、どのようにすればそれを達成できるかについて具現化する方法を探索する。 [授業外学習] 本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること
②	[テーマ] 幼稚園教諭・保育士になるまでのステップ(柴田) [内容] 幼稚園教諭・保育士になるまでのステップを具体的に解説する。 [授業外学習] 本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること			⑩	[テーマ] 求められる理想の教師像(高橋) [内容] 求められる教師像について探求し、伝記から読み解き自分にあてはめる活動を考える。 [授業外学習] 本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること
③	[テーマ] 幼稚園教諭・保育士採用試験の実際(柴田) [内容] 幼稚園教諭・保育士採用試験の実際について解説する。 [授業外学習] 本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること			⑪	[テーマ] 教員の教育力と研究力:事例・実践研究(高橋) [内容] 教育力と研究力について自ら調べ紹介する。 [授業外学習] 本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること
④	[テーマ] 服務と身分保障(勤務時間、休憩と休息、休日と休暇等)(柴田) [内容] 幼稚園教諭の勤務時間、休憩と休息、休日と休暇等について具体的に解説する。 [授業外学習] 本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること			⑫	[テーマ] 教育力の実践と評価(高橋) [内容] 教育の実践を評価する方法を検討し、実際に自らを評価してみる。 [授業外学習] 本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること
⑤	[テーマ] 服務と身分保障(職務命令の要件と違反、分限と懲戒等)(柴田) [内容] 教職における職務命令の要件と違反、分限と懲戒等について解説する。 [授業外学習] 本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること			⑬	[テーマ] 探求力の実践と評価(高橋) [内容] 探求力をつけるために必要な事を考えて、その事を評価する手段を検討する。 [授業外学習] 本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること
⑥	[テーマ] 仕事の内容と実際(柴田) [内容] 教職の仕事の内容と実際について具体的に解説する。 [授業外学習] 本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること			⑭	[テーマ] 創造力と即興力の実践と評価(高橋) [内容] 想像力と即興力について自らその場で考えた事柄を表現し、相共に感動するツボについて確認し評価する。 [授業外学習] 本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること
⑦	[テーマ] 幼稚園教諭・保育士の職務と役割・教える者としての資質(柴田) [内容] 幼稚園教諭・保育士の職務と役割・教える者としての資質について解説する。 [授業外学習] 本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること			⑮	[テーマ] まとめと評価(高橋) [内容] これまでの学修のまとめと評価をする。 [授業外学習] これまでの学修をまとめておくこと
⑧	[テーマ] 教師に求められるもの・教師力を伸ばし人間力を磨く方法(柴田) [内容] 自分の理想の教師像を探求し、具体的にどのようにすればそうなるか考え意見を交換する。 [授業外学習] 本授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習すること			⑯	[テーマ] 筆記試験(柴田)(高橋) [内容] 筆記試験を実施する。 [授業外学習] これまでの学修をまとめておくこと
成績評価方法(方針)					
筆記試験の結果(100%)に授業態度を勘案して評価する。授業時数の2/3以上の出席を必要とする。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎		◎	95%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度			○		5%
出席					欠格事項
関連科目	他の教職関連科目				
教科書	「必修教職六法」(協同出版)			参考書	「学習指導要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
連絡先	柴田研究室、高橋研究室				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	音楽表現 I			担当教員	岩淵 摂子
	Music Expression I				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
保育や教育の場における音楽表現は、遊びを豊かに発展させたり、子どもの内面を表出したり、活動の様々な場面で展開されています。子どもとともに豊かな音楽表現を行うためには、保育者・教育者自身が感性豊かであり、音楽の基礎知識や技能を身につけていることが求められます。そのため、基本的な楽典を理解し、手遊びやわらべうた、挨拶のうたや季節の歌を歌い、ピアノ伴奏による弾き歌いの力を身につけます。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・楽典の基礎的知識を理解し、歌うことによって読譜力を高める。 ・基本的なピアノ奏法を習得し、子どもの歌の弾き歌いができるようにする。コードについて理解し、コード譜を見て伴奏ができるようにする。 ・手遊び、わらべうた、挨拶のうたや季節の歌を歌い、歌の引き出しを増やす。 					
授業の到達目標					
<input type="checkbox"/>	認知的領域				
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	ピアノ伴奏による弾き歌いの能力を高める。手遊び、わらべうた、季節の歌を数多く歌えるようにする。			
授業計画(全体)					
手遊びやわらべうたを毎回一つ覚える。楽典の基礎知識を段階的に身につける。歌唱力、ピアノ演奏力を高め、子どもの歌の弾き歌いができるようにする。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、楽典の基礎(1) [内容] 音楽経験についてのアンケート。階名、拍と拍子、音符と休符。 [授業外学習] 授業内容の復習			⑨	[テーマ] 楽典の基礎(9) [内容] 省略記号。コード奏。「かわはよんでいる」弾き歌い。 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。
②	[テーマ] 楽典の基礎(2)、5指の練習 [内容] 拍と拍子、五線と加線、バルトーク『マイクロコスモス』を弾く。 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。			⑩	[テーマ] 楽典の基礎(10) [内容] 強弱記号、速度標語。「こぎつね」の弾き歌い。 [授業外学習] 次回の小テストに向けた楽典の復習。弾き歌い練習。
③	[テーマ] 楽典の基礎(3)、弾き歌い [内容] 音部記号と譜表、音名、「ちょうちょう」の弾き歌い。 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。			⑪	[テーマ] 楽典の基礎の確認 [内容] 楽典の基礎についての試験。「たきび」 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。
④	[テーマ] 楽典の基礎(4)、弾き歌い [内容] 変化記号、楽典の小テスト。「メリーさんの羊」弾き歌い。 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。			⑫	[テーマ] 弾き歌いの力を高める(1) [内容] 「朝のうた」「おかえりのうた」 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。
⑤	[テーマ] 楽典の基礎(5)、弾き歌い [内容] 音程。「ぶんぶんぶん」弾き歌い。 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。			⑬	[テーマ] 弾き歌いの力を高める(2) [内容] 「山の音楽家」「大きな古時計」 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。
⑥	[テーマ] 楽典の基礎(6)、弾き歌い [内容] 長3度と短3度。「きらきらぼし」弾き歌い。 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。			⑭	[テーマ] 弾き歌いの力を高める(3) [内容] 「お正月」「めだかの学校」 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。
⑦	[テーマ] 楽典の基礎(7)、弾き歌い [内容] 長音階の音の並び。「むすんでひらいて」弾き歌い。 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。			⑮	[テーマ] 弾き歌い試験 [内容] 弾き歌い実技試験。 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。
⑧	[テーマ] 楽典の基礎(7)、弾き歌い [内容] 短音階の音の並び。コード・ネーム。学習した今日を移調して弾く。 [授業外学習] ピアノ弾き歌いの練習。楽典の復習。			⑯	[テーマ] 手遊びのまとめ [内容] 手遊びの試験。 [授業外学習] ピアノ弾き歌い練習。手遊びの練習。
成績評価方法(方針)					
定期試験の評価を50%、演習・実技30%、授業態度20%として評価する。なお、出席回数が2/3以下の場合には成績評価の対象外とする。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験				◎	50%
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技				◎	30%
授業態度				◎	20%
出席					
関連科目					
教科書	小林義実監修『こどものうた100』チャイルド本社 「保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のための ピアノテキスト」カワイ出版 全国大学音楽教育学会九州地区学会編			参考書	
連絡先	連絡は教育企画室を通して行うこと。				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		音楽表現Ⅱ Music Expression Ⅱ			担当教員	岩淵 棋子
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	演習	関連資格	幼稚園教諭1種免許、保育士資格
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
保育や教育の場において、音楽表現活動をより豊かに展開するために必要と考えられる基本的な知識と技術の習得を目指します。楽典の基礎を確認し、コード奏による子どもの歌の弾き歌い及び簡易楽器を用いた合奏を行い、保育及び教育現場での活用法を考えます。最後に弾き歌い実技試験を行います。						
授業の一般目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育の現場で必要な伴奏法の知識や技能としてコードネームを学習し、コード奏による弾き歌いができるようにする。 ・手遊びやわらべうたを歌い、保育現場で用いることができるようにする。 ・弾き歌いや簡易楽器の合奏の発表を通して、人前で表現する経験を積み、表現する楽しさを体験する。 						
授業の到達目標						
<input type="checkbox"/>	認知的領域					
<input type="checkbox"/>	情意的領域					
<input checked="" type="checkbox"/>	技能表現的領域	子どもの歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。簡易楽器の奏法を身につける。				
授業計画(全体)						
全ての回を通じて、ピアノ弾き歌いのレッスンをを行い、よく使われるコード伴奏による弾き歌いの力を高める。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション、楽典の基礎、わらべうた [内容] 授業の説明。わらべうた、手遊び。楽典の基礎知識を確認する。発声の基本を習得する。挨拶の歌を歌う [授業外学習] 授業で行ったわらべうたを覚えてくる。				⑨	[テーマ] 合唱の発表 [内容] グループごとに合唱の発表を行う。 [授業外学習] グループごとに合唱の練習、弾き歌い練習。
②	[テーマ] コードネーム奏(1) へ長調C、Gコード [内容] コードネーム奏の基本。C、Gコードによる伴奏。「かえるの合唱」「かたつむり」 [授業外学習] 弾き歌い練習。				⑩	[テーマ] ボディ・パーカッション [内容] ボディ・パーカッションを行う。グループごとに発表する。 [授業外学習] 弾き歌い練習。
③	[テーマ] コードネーム奏(2) C、G、Fコード [内容] C、G、Fコードによる伴奏。「きらきらぼし」「やきいもグーチーパー」 [授業外学習] 弾き歌い練習。				⑪	[テーマ] 弾き歌い実技試験に向けて(1) [内容] 弾き歌い実技試験の課題曲を選曲する。 [授業外学習] 弾き歌い練習。
④	[テーマ] コードネーム奏(3) セヴンス・コード [内容] セヴンス・コードの理解。「うちゅうせんのうた」「大きなりの木の下で」 [授業外学習] 弾き歌い練習。				⑫	[テーマ] 弾き歌い実技試験に向けて(2) [内容] 弾き歌いの個人レッスン。「ゆき」「1ねんせいになったら」 [授業外学習] 弾き歌い練習。
⑤	[テーマ] コードネーム奏(4) へ長調 [内容] へ長調のコードネーム奏。「チューリップ」「はたけのポルカ」 [授業外学習] 弾き歌い練習。				⑬	[テーマ] 弾き歌い実技試験に向けて(3) [内容] 弾き歌いの個人レッスン。「おぼけなんてないさ」「きのこ」 [授業外学習] 弾き歌い練習。
⑥	[テーマ] コードネーム奏(5) トラ長調、ニ長調 [内容] トラ長調及びニ長調のコードネーム奏。「うみ」「こいのぼり」 [授業外学習] 弾き歌い練習。				⑭	[テーマ] 弾き歌い実技試験に向けて(4) [内容] 弾き歌いの個人レッスン。「さんぽ」 [授業外学習] 弾き歌い練習。
⑦	[テーマ] コードネーム奏試験、楽典の基礎知識の確認。 [内容] これまで学習した楽曲によるコードネーム奏の試験を行う。 [授業外学習] 弾き歌い練習。				⑮	[テーマ] 弾き歌い実技試験リハーサル [内容] 弾き歌い実技試験のリハーサルを行う。 [授業外学習] 弾き歌い練習。
⑧	[テーマ] 楽典の小テスト。合唱。 [内容] 楽典の理解度の確認のための小テスト。合唱曲「ショショローザ」を歌う。 [授業外学習] 弾き歌い練習。				⑯	[テーマ] 弾き歌い実技試験 [内容] 弾き歌い実技試験を行う。 [授業外学習]
成績評価方法(方針)						
定期試験の評価を50%、演習・実技30%、授業態度20%として評価する。なお、出席回数が2/3以下の場合には成績評価の対象外とする。						
成績評価方法(詳細)						
到達目標				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	たくさんの子どもの歌を知っていること、歌えること、伴奏ができることが保育や教育の場においては大切です。コードネーム奏による伴奏法を習得し、できるだけレパートリーを増やすように心がけましょう。出席を重視します。大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。	
定期試験			◎	50%		
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技			◎	30%		
授業態度			◎	20%		
出席						
関連科目						
教科書	『こどものうた100』、『保育士・幼稚園教諭・小学校教諭のためのピアノテキスト』				参考書	
連絡先	連絡は教育企画室を通して行うこと。					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	絵画・造形表現 I			担当教員	志賀 圭子
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義・演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	2	
授業の概要					
児童は造形活動を通して様々な体験をし、豊かな感性を育て、自己表現力を養っていく。この授業では、現場のエピソードや作品等から、児童の造形活動の実態を知り、自らも様々な材料や教材の特徴、表現の方法や技術を習得していく。そして、児童の造形的な創造活動の基礎能力を育て、色や形を通して社会との豊かなコミュニケーション力が育めるよう、絵画・造形活動における発達段階を学ぶものとする。					
授業の一般目標					
小学校学習指導要領に基づいた図画工作全般の指導法の基礎を身に付けると共に、幼児教育に携わる学生自身が、造形する事に興味関心を持ち、積極的に製作に挑む事。そして、自らが五感を通して体験し、その必要性を実感する。さらにその上で、理論を通してより幼児造形表現の理解を深める。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	図画工作の学習指導要領を学ぶとともに、画材・材料・絵本画集などの理解を深める				
■ 情意的領域	表現することの楽しさ、工夫することのおもしろさを自らの活動の中で体感することができる				
■ 技能表現的領域	絵画(平面)的技術、工作(立体)的技術を習得し、色彩感覚・構成能力等を磨く				
授業計画(全体)					
各授業のテーマに沿った資料(直感教材・絵本等)を使用し、講義と実技を行う。前半は様々な素材体験が中心となるが、後半はその体験を活かして自分らしい表現(作品)を目指す。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] 造形あそび「色彩・クレヨン・クレパス」 用具の特徴を知り「自分の色」をつくる(小学校低学年の指導内容) [授業外学習]本日の講義について復習すること			⑨	立体あそび「新聞紙アート」 新聞紙を自由自在に変化させて遊ぶ(小学校低学年の指導内容) 本日の講義について復習すること
	[テーマ] 造形あそび「切る・つなげる」 用具・道具の特長を活かして行為を楽しむ(小学校低学年の指導内容) [授業外学習]本日の講義について復習すること			⑩	立体あそび「塊財と出会う」 土粘土の感触を全身で体感する(小学校低学年の指導内容) 本日の講義について復習すること
③	[テーマ] 造形あそび「曲げる・のぼす」 線材を使って遊ぶ楽しさを体感する(小学校低学年の指導内容) [授業外学習]本日の講義について復習すること			⑪	「自分」をつくる 自分の好きな物・自分を表す物で作品を作る(小学校低学年の指導内容) 本日の講義について復習すること
④	[テーマ] 造形あそび「場を感じる① 春・夏編」 自然の中で作品を生かしながら遊ぶ(小学校低学年の指導内容) [授業外学習]本日の講義について復習すること			⑫	「発表」と「鑑賞」と 第11回の作品をめぐるディスカッションとしての鑑賞(小学校低学年の指導内容) 本日の講義について復習すること
⑤	[テーマ] 絵画の魅力「イメージする」 お話を聞いて情景を想像する(小学校低学年の指導内容) [授業外学習]本日の講義について復習すること			⑬	幼児造形表現の意義 幼児の造形表現の意味と意義 本日の講義について復習すること
⑥	[テーマ] 絵画の魅力「絵の具と出会う」 絵の具の特徴を知り、お話を描く(小学校低学年の指導内容) [授業外学習]本日の講義について復習すること			⑭	幼児造形表現の目標と内容 「感性」と「表現」 本日の講義について復習すること
⑦	[テーマ] 工作あそび「封筒人形」 身近にある材料「封筒」で人形を作る(小学校低学年の指導内容) [授業外学習]本日の講義について復習すること			⑮	幼児造形教育の方法① 指導の実際「描画」について 本日の講義について復習すること
⑧	[テーマ] 工作あそび「演じる」 作った人形で演じることを楽しむ(小学校低学年の指導内容) [授業外学習]本日の講義について復習すること			⑯	
成績評価方法(方針)					
実技授業での製作・作品は必ず提出する事。提出された作品がテーマにおける目標に達しているかで評価(評価割合70%)。作品が無い場合は、授業に対するレポートの提出に代える。授業態度、参加意欲がそのまま作品に反映される事の評価(評価割合30%)。欠席は原則として3分の1以上は評価対象外とする。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験					実技・ワークショップ中心の活動なので、動きやすい服装で参加のこと。 各自の準備物もその都度必要となるので、忘れずに持参すること。 受け身で無い積極的な参加姿勢が必要。授業計画は、授業の進み方により多少前後することがある。 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技	○	○	◎	70%	
授業態度	○	◎	○	30%	
出席					
関連科目					
教科書	アトリエ自遊楽校 工作レシピ「封筒人形」			参考書	図画工作指導要領 絵本・画集・児童の作品・児童の活動写真等
連絡先	非常勤講師のため教育企画室を通して行うこと。				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		絵画・造形表現Ⅱ			担当教員	志賀 圭子
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	教員免許状
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
この授業では、実際に子ども達が取り組んだ際のエピソードの紹介や作品紹介はもちろん、内外のアーティストの作品やワークショップと出会い、自らも新たな技術を習得し、より幅広く自分の表現を深める。そして、造形活動を通して「道具や材料を活用・応用していく能力」や「演じる・発表する・鑑賞する事等で育まれる人間関係を築く能力」などのコンピテンシーの必要性について学ぶものとする。						
授業の一般目標						
小学校学習指導要領に基づいた図画工作全般の指導法の基礎を身に付けると共に、幼児教育に携わる学生自身が、造形する事に興味関心を持ち、積極的に製作に挑む事。そして、自らが五感を通して体験し、その必要性を実感する。さらにその上で、理論を通してより幼児造形表現の理解を深める。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	図画工作の学習指導要領を学ぶとともに、画材・材料・絵本画集などの理解を深める				
■	情意的領域	表現することの楽しさ、工夫することのおもしろさを自らの活動の中で体験することができる				
■	技能表現的領域	絵画(平面)的技術、工作(立体)的技術を習得し、色彩感覚・構成能力等を磨く				
授業計画(全体)						
各授業のテーマに沿った資料(直感教材・絵本等)を使用し、講義と実技を行う。前半は様々な素材体験が中心となるが、後半はその体験を活かして自分らしい表現(作品)を目指す。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] 造形あそび「色彩・絵の具」 用具の特徴を知り、ダイナミックに遊ぶ(小学校低学年の指導内容) [授業外学習]本日の講義について復習すること			⑨	立体あそび「ダンボールアート」 箱の中にイメージの世界を広げる(小学校低学年の指導内容) 本日の講義について復習すること	
②	[テーマ] 造形あそび「形態・コラーージュ」 形を組み合わせる遊ぶ(小学校低学年の指導内容) [授業外学習]本日の講義について復習すること			⑩	立体あそび「塊材と出会う」 小麦粉粘土・紙粘土の楽しみを知る(小学校低学年の指導内容) 本日の講義について復習すること	
③	[テーマ] 造形あそび「立てる・積み上げる」 紙材を使って遊ぶ楽しさを体感する(小学校低学年の指導内容) [授業外学習]本日の講義について復習すること			⑪	「美術作品」になってみる 「美術作品になる」事による作品理解と解釈(小学校低学年の指導内容) 本日の講義について復習すること	
④	[テーマ] 造形あそび「場を感じる②秋・冬編」 自然の中で作品を生かしながら遊ぶ(小学校低学年の指導内容) [授業外学習]本日の講義について復習すること			⑫	「美術作品」と「鑑賞」と 思いを話す事による鑑賞の楽しさを味わう(小学校低学年の指導内容) 本日の講義について復習すること	
⑤	[テーマ] 絵画の魅力「イメージする」 音楽を聴いて、イメージをふくらませる(小学校低学年の指導内容) [授業外学習]本日の講義について復習すること			⑬	幼児造形表現の発達 幼児から児童までの描画の発達 本日の講義について復習すること	
⑥	[テーマ] 絵画の魅力「墨と出会う」 墨と和紙の特徴を知り音楽を描く(小学校低学年の指導内容) [授業外学習]本日の講義について復習すること			⑭	幼児造形教育の目標と内容 図画工作 本日の講義について復習すること	
⑦	[テーマ] 工作あそび「紙コップ人形」 身近にある材料「紙コップ」で人形を作る(小学校低学年の指導内容) [授業外学習]本日の講義について復習すること			⑮	幼児造形教育の方法② 指導の実際「立体・工作」について 本日の講義について復習すること	
⑧	[テーマ] 工作あそび「演じる」 作った人形で演じることを楽しむ(小学校低学年の指導内容) [授業外学習]本日の講義について復習すること			⑯		
成績評価方法(方針)						
実技授業での製作・作品は必ず提出する事。提出された作品がテーマにおける目標に達しているかで評価(評価割合70%)。作品が無い場合は、授業に対するレポートの提出に代える。授業態度、参加意欲がそのまま作品に反映される事の評価(評価割合30%)。欠席は原則として3分の1以上は評価対象外とする。						
成績評価方法(詳細)						
到達目標				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	実技・ワークショップ中心の活動なので、動きやすい服装で参加のこと。各自の準備物もその都度必要となるので、忘れずに持参すること。受け身で無い積極的な参加姿勢が必要。授業計画は、授業の進み方により多少前後することがある。大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。	
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技	○	○	◎	70%		
授業態度	○	◎	○	30%		
出席						
関連科目						
教科書	アトリエ自遊楽校 工作レシピ「紙コップ人形」			参考書	図画工作指導要領 絵本・画集・児童の作品・児童の活動写真等	
連絡先	非常勤講師のため教育企画室を通して行うこと。					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		運動・身体表現 I Exercise, physical expression			担当教員	原田 健次
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格	幼稚園教諭一種免許、保育士資格
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
<p>保育所保育指針、幼稚園教育要領の保育内容領域「表現」には「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」観点から、具体的なねらいと内容が記されている。この内容を理解し、様々な幼児の表現を支える保育内容や保育者の役割について学ぶ。また、実際の遊びを体験し、遊びの保育的意義についてまとめる。</p>						
授業の一般目標						
<p>人やものに興味や関心を持ち、豊かな感性や表現する力を養う探求心や創造性を育む乳幼児期の表現にかかわる保育を展開するために、まずは自分自身が表現することを楽しみ、PDCAサイクルの実践を通して、保育実践力を身に付けることをねらいとする。そのために、グループで表現演技を作成し、発表をする。</p>						
授業の到達目標						
■	認知的領域	楽しく運動遊びに取り組みせるための方法を身に付けるために、指導案を立案し、遊びの実践を行うことができるようにする。				
■	情意的領域	幼児に身体表現の楽しさを伝えることができるように、自らが表現の楽しさを体感することができる。				
■	技能表現的領域	からだを使った表現あそびを通してその遊びの意義・指導法を身に付けることができるようにする。				
授業計画(全体)						
<p>各授業のテーマに沿った資料を用いた講義と実技を行い、理論と実践の融合を図る。前半期は子ども役になり遊びを体験、後半期は指導(保育)者としての視点を持ち、リズムダンスの創作等ができるようになる。</p>						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	<p>[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介 授業の目標と進め方 成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを熟読し内容を理解する。</p>			⑨	<p>[テーマ] ボールを使って②(ボールを使ってゲームをしよう) [内容] ゲームの指導方法を実践し、指導できるようにする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。</p>	
②	<p>[テーマ] 仲間づくり運動① [内容] 力合わせと力比べのふれあいあそびを体験。幼児教育の課題を探り仲間づくりあそびの俳句的意義について考察する。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。</p>			⑩	<p>[テーマ] 表現遊び①(リズムにのって踊ってみよう) [内容] いろいろなリズムに対応した動きを体験し、幼児に対し指導できるようにする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。</p>	
③	<p>[テーマ] 仲間づくり運動② [内容] 器械・器具を使つての運動遊びについて知り、幼児に対し指導できるようにする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。</p>			⑪	<p>[テーマ] 表現遊び②(ものとかかわりで動いてみよう) [内容] 身の回りのものの動きに対応した動きを体験し、幼児に対し指導できるようにする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。</p>	
④	<p>[テーマ] 器械・器具を使つての運動遊び(鉄棒や遊具を使つて) [内容] 器械・器具を使つての運動遊びについて知り、幼児に対し指導できるようにする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。</p>			⑫	<p>[テーマ] 表現遊び③(曲に合わせて踊ってみよう) [内容] 表現遊び③子どものための曲に合わせてリズム表現を即興でできるようにする。 [授業外学習] オリジナルのリズム遊びをいくつかつくること。</p>	
⑤	<p>[テーマ] 走・跳の運動遊び(いろいろなどころをいろいろな走り方で走ろう) [内容] 走・跳の運動遊びについて知り、幼児に対し指導できるようにする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。</p>			⑬	<p>[テーマ] 表現遊び④(創作したダンスを発表しよう) [内容] 創作したダンスを作成・発表し、評価し合い、振り返る。 [授業外学習] 自分なりの動きの質、豊かさを充実させること。</p>	
⑥	<p>[テーマ] 水遊びの第1歩①(水と友達になろう) [内容] 水遊びの方法について知り、幼児に対し指導できるようにする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。</p>			⑭	<p>[テーマ] 表現遊び⑤(運動会表現演技) [内容] バラバルーンを楽しみ、表現演技について、遊びから演技までの保育のプロセスを学ぶ。 [授業外学習] 自分なりの動きの質、豊かさを充実させること。</p>	
⑦	<p>[テーマ] 水遊びの第1歩②(みんなと一緒にもぐって浮いて) [内容] 水遊びの指導方法を実践し、指導できるようにする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。</p>			⑮	<p>[テーマ] 表現遊び⑥(運動会表現演技) [内容] 組体操あそびを楽しみ、表現演技について、遊びから演技までの保育のプロセスを学ぶ。 [授業外学習] 自分なりの動きの質、豊かさを充実させること。</p>	
⑧	<p>[テーマ] ボールを使って①(ボールと友達になろう) [内容] ゲームの内容について知り、幼児に対し指導できるようにする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。</p>			⑯	<p>[テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、到達度を確認するために期末テストを行う。 [授業外学習] テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。</p>	
成績評価方法(方針)						
<p>期末試験(評価割合50%)、授業態度(評価割合20%)、授業内レポート(評価割合30%)。</p>						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。 授業中は携帯電話をかばんの中にしなすこと。 授業中の私語は慎み授業に集中すること。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 授業計画は授業の進み方により多少前後することがある。 	
定期試験	◎			50%		
授業内レポート				30%		
授業外レポート						
演習・実技			◎			
授業態度		◎		20%		
出席		—				
関連科目						
教科書	特に指定しない			参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領	
連絡先	原田健次 研究室					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	運動・身体表現Ⅱ			担当教員	原田 健次
	Exercise, physical expression				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	演習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要 保育所保育指針、幼稚園教育要領の保育内容領域「表現」には「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」観点から、具体的なねらいと内容が記されている。この内容を理解し、様々な幼児の表現を支える保育内容や保育者の役割について学ぶ。具体的には、実際のあそびや表現演技を体験し、保育的意義を深めるとともに、表現演技を創作し発表する。					
授業の一般目標 運動・身体表現Ⅰの学びを通して、より豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。具体的には、実際の保育現場で行われている表現演技について、あそびから演技に向けた保育のプロセスを学び、保育的意義を深めるとともに、表現演技を創作し発表し、模擬保育を行い保育者としての姿勢と技術を身に付ける。					
授業の到達目標 楽しく運動遊びに取り組みせるための方法を身に付けるために、指導案を立案し、遊びの実践を行うことができるようにする。					
■	認知的領域	楽しく運動遊びに取り組みせるための方法を身に付けるために、指導案を立案し、遊びの実践を行うことができるようにする。			
■	情意的領域	幼児に身体表現の楽しさを伝えることができるように、自らが表現の楽しさを体感することができる。			
■	技能表現的領域	からだを使った表現あそびを通してその遊びの意義・指導法を身に付けることができるようにする。			
授業計画(全体) 各授業のテーマに沿った資料を用いた講義と実技を行い、理論と実践の融合を図る。前半期は指導(保育)者としての視点を持ち、パラバルーン・組立体操の創作を行い。後半は模擬保育を実践し、保育者としての振り返りができるようになる。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介 授業の目標と進め方 成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを熟読し内容を理解する。			⑨	[テーマ] 表現あそび⑧(組立体操演技発表と振り返り) [内容] グループでの発表を行う。また、評価・振り返りを行う。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。
②	[テーマ] 表現あそび①(パラバルーンあそびの保育的意義) [内容] パラバルーンあそびを行い、保育的意義について深める。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑩	[テーマ] 模擬保育①(指導案作成、PDCAサイクルについて) [内容] 指導案について学び、実際に表現あそびの指導案を作成し、次回の実践に向けて準備を調える。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。
③	[テーマ] 表現あそび②(パラバルーン演技作成その①) グループになり、発達に合った曲の選び方、振付の付け方、構成の仕方を学び、実際につくる。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑪	[テーマ] 模擬保育②(実践授業と振り返り) [内容] 保育者役、子ども役になり模擬保育を行う。終了後は「保育者視点」「子ども視点」からの振り返りを行う。 [授業外学習] PDCAサイクルについて復習しておく。
④	[テーマ] 表現あそび③(パラバルーン演技作成その②) [内容] 実際につくったパラバルーン演技の見直しをし、次回の発表に向けた準備をする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑫	[テーマ] 模擬保育③(実践授業と振り返り) [内容] 保育者役、子ども役になり模擬保育を行う。終了後は「保育者視点」「子ども視点」からの振り返りを行う。 [授業外学習] PDCAサイクルについて復習しておく。
⑤	[テーマ] 表現あそび④(パラバルーン演技発表と振り返り) [内容] グループでの発表を行う。また、評価・振り返りを行う。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑬	[テーマ] 模擬保育④(実践授業と振り返り) [内容] 保育者役、子ども役になり模擬保育を行う。終了後は「保育者視点」「子ども視点」からの振り返りを行う。 [授業外学習] PDCAサイクルについて復習しておく。
⑥	[テーマ] 表現あそび⑤(組立体操あそびの保育的意義) [内容] 組立体操あそびを行い、保育的意義について深める。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑭	[テーマ] 模擬保育⑤(実践授業と振り返り) [内容] 保育者役、子ども役になり模擬保育を行う。終了後は「保育者視点」「子ども視点」からの振り返りを行う。 [授業外学習] PDCAサイクルについて復習しておく。
⑦	[テーマ] 表現あそび⑥(組立体操演技作成その①) [内容] グループになり、発達に合った演技構成の仕方を学び、実際につくる。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑮	[テーマ] まとめ(指導上の留意点) [内容] 模擬保育の振り返りから、指導上の留意点をまとめていく。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。
⑧	[テーマ] 表現あそび⑦(組立体操演技作成その②) [内容] 実際につくった組立体操演技の見直しをし、次回の発表に向けた準備をする。 [授業外学習] 授業の復習をして説明できるようにしておくこと。			⑯	[テーマ] テスト [内容] 学習の理解度、到達度を確かめるために期末テストを行う。 [授業外学習] テストに備えて授業内容全体について復習しておくこと。
成績評価方法(方針) 期末試験(評価割合50%) 授業態度(評価割合20%) 授業内レポート(評価割合30%)					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。 ・授業中は携帯電話をかばんの中にしなすこと。 ・授業中の私語は慎み授業に集中すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は授業の進み方により多少前後することがある。 ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。
定期試験	◎			50%	
授業内レポート			◎	30%	
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度		◎		20%	
出席		—			
関連科目					
教科書	特に指定しない			参考書	幼稚園教育要領 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領
連絡先					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		保育原理 Early Child Care and Education			担当教員	大宮勇雄
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	幼稚園教諭一種免許、保育士資格
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						
1) 日本国憲法・児童福祉法・保育所保育指針に基づいて保育の意義と目的を論じる。2) 保育実践の記録や事例をもとにして乳幼児期の理解に基づく保育の基本的原理について説明する。3) 今日の保育を作り出してきた歴史と主たる思想や典型的実践について解説する。						
授業の一般目標						
1) 保育の社会的意義とその目的を理解すること、2) 乳幼児期の発達特性と保育の基本原理を実践的に理解すること、3) 歴史と思想の一端を学ぶことで保育を広い視野からとらえることができるようになる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	保育所・幼稚園で保育を行うために必要な基本的事項について理解することを目標とする				
■	情意的領域	保育者としての使命感や倫理観を高め、人間性を育むことを目標とする。				
■	技能表現的領域	保育の原理に関する専門的知識や判断力を習得する				
授業計画(全体)						
講義内容の概要を理解し、課題とされるレポートを作成し提出する。受講に際し、テキストや資料・参考図書を精読することによって、予習や復習(基礎理論の習得)に励むこと。また、他の授業科目と関連させながら、保育者に求められる責務や倫理観、実践力を養っていただきたい。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 「保育を必要とする子どもを保育する」とはどのようなことか、解説する。 [授業外学習] テキストを読んでおく			⑨	[テーマ] 1・2歳児の発達の特徴と保育実践 [内容] 1・2歳児の発達を身体・認識・言語・表現の面から取り上げ、その時期にふさわしい保育実践のあり方を考える。 [授業外学習] テキストを読んでおく	
②	[テーマ] 「子どもの最善の利益」とは何か？ [内容] 「子どもの最善の利益」という視点から、今日の子育て・家庭のあり方を見つめ直しながら、子どもの声に基づく保育とは何かを考える [授業外学習] テキストを読んでおく			⑩	[テーマ] 3・4・5歳児の発達の特徴と保育実践(1) [内容] 幼児期の発達の特徴と、多様で創造的な実践の数々を紹介し議論する。 [授業外学習] テキストを読んでおく	
③	[テーマ] 保育の基本原則(1) 養護と教育の一体性について [内容] : 保育という言葉が幼・保を問わず長年使われ続けている理由と歴史を遡りながら、養護と教育との関係についての諸説を提示し自分なりの考えを深める [授業外学習] テキストを読んでおく			⑪	[テーマ] 3・4・5歳児の発達の特徴と保育実践(2) [内容] 幼児期の保育の、計画・記録・評価について概説する。 [授業外学習] テキストを読んでおく	
④	[テーマ] 保育の基本原則(2) 信頼関係と子ども理解 [内容] 子どもの発達にとって身近な大人との親密で安定した関係が重要である理由を説明し、信頼関係を築く過程、子ども理解の方法について提示する。 [授業外学習] テキストを読んでおく			⑫	[テーマ] 保育の思想と歴史(1) [内容] 日本における託児施設や保育所の誕生と発展、およびそれを担った先人の思想や即席を紹介する。 [授業外学習] テキストを読んでおく	
⑤	[テーマ] 保育の基本原則(3) 子どもの自発性と環境を通じた発達 [内容] 子どもの発達は、環境へのその能動的な働きかけ(相互作用)によって促される事実を示しつつ、保育環境の豊かさとは何かについて検討する。 [授業外学習] テキストを読んでおく			⑬	[テーマ] 保育の思想と歴史(2) [内容] 戦後の児童福祉法の成立、保育所作り運動、待機児童問題の発生、保育者処遇をめぐる歴史など、法制面での展開を解説する。 [授業外学習] テキストを読んでおく	
⑥	[テーマ] 保育の基本原則(4) 保育の共同性と労働環境の質 [内容] 保育は、「協働的性格」をもっており、それゆえ大人同士の「関係の質」と職場の「労働環境の質」が重要であること示す。 [授業外学習] テキストを読んでおく			⑭	[テーマ] 保育の思想と歴史(3) [内容] 世界の保育の歴史を、主たる思想家や研究を取り上げ、ごく大まかに概説する。 [授業外学習] テキストを読んでおく	
⑦	[テーマ] 乳児期の発達の特徴と保育実践(1) [内容] おおよそ6か月までの発達と、それに応じた保育実践を紹介し学ぶ。 [授業外学習] テキストを読んでおく			⑮	[テーマ] 保育の思想と歴史(4) [内容] 今日为先駆的保育実践と理論を紹介し、自分なりの保育理論を形作ることの重要性を語る。 [授業外学習] テキストを読んでおく	
⑧	[テーマ] 乳児期の発達の特徴と保育実践(2) [内容] おおよそ1歳3か月程度までの発達と、それに応じた保育実践のあり方を学ぶ。 [授業外学習] テキストを読んでおく			⑯	[テーマ] 期末テスト [内容] 授業で取り上げた実践や思想家などを取り上げ、テーマを決めて、自分なりの保育理論を作り上げ、その説明をレポートして提出する。 [授業外学習] テストの準備をしておく	
成績評価方法(方針)						
学習態度40%・期末試験60%をもとにして、以下の観点から総合的に評価する。						
1) 保育の社会的意義とその目的を理解すること、2) 乳幼児期の発達特性と保育の基本原理を実践的に理解すること、3) 歴史と思想の一端を学ぶことで保育を広い視野からとらえることができるようになる						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	免許、資格取得のための必修科目であるため、評価は厳正に行います。2/3以上の講義に出席しない場合には、出席日数不足として成績は「放棄」となります。また、受講態度及び学習意欲についても考慮し、総合的に単位を認定します。大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。	
定期試験	◎	○	○	60%		
授業内レポート			—			
授業外レポート						
演習・実技				評価対象外		
授業態度	○	◎		40%		
出席				欠格条件		
関連科目						
教科書	『学びの物語の保育実践』(ひとなる書房)			参考書	マーガレット・カー著『保育の場で子どもの学びをアセスメントする』(ひとなる書房)	
連絡先	大宮研究室					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	スポーツコーチング概論			担当教員	武石/阿部肇/森本/石丸/吉井/桑原/門野/柴山/溝口/黒澤/佐藤(周)/名取/宮崎/渡邊(泰)/河野/川戸
	Introduction to Coaching				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	コース必修	単位数		
授業の概要					
スポーツコーチングコースでは、トップアスリートと専門的指導者を育成することを目的としている。この授業では個人運動、球技運動、武道のコーチングについて講義する。					
授業の一般目標					
個人運動、球技運動、武道のコーチングを理解し、スポーツコーチングのポイント、各種目共通の解決が迫られている課題を考察する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツコーチング全般についての理解を深める。個人運動、球技運動、武道におけるコーチングについて説明できる。			
■	情意的領域	スポーツコーチングのポイント、各種目共通の解決が迫られている課題を意識して授業に参加できる。			
■	技能表現的領域	各種目のコーチングポイントをスポーツ現場にて使うことができる。			
授業計画(全体)					
個人運動・陸上競技・漕艇・水泳・体操・新体操、球技運動・ラグビー・ハンドボール・バレーボール・男子サッカー・女子サッカー・バレーボール・テニス・野球、武道の順に講義していく。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション (武石) [内容] 担当教員の紹介 評価方法 [授業外学習]スポーツコーチングについて調べる			⑨	[テーマ] 球技運動Ⅰ 攻守入り乱れ系種目 (ハンドボール 桑原) [内容] 球技運動、攻守が入り乱れる種目であるハンドボールのコーチング方法 [授業外学習]ハンドボールの競技特性とコーチングの方法を調べる
②	[テーマ]個人運動Ⅰ 計測系種目(陸上競技 門野・柴山) [内容] 個人運動、計測系種目である陸上競技のコーチング方法 [授業外学習]陸上競技の特性とコーチングの方法を調べる			⑩	[テーマ] 球技運動Ⅰ 攻守入り乱れ系種目 (男子サッカー 吉井) [内容] 球技運動、攻守が入り乱れる種目であるサッカーのコーチング方法 [授業外学習]サッカーの競技特性とコーチングの方法を調べる
③	[テーマ]個人運動Ⅰ 計測系種目(陸上競技 宮崎・名取) [内容] 個人運動、計測系種目である陸上競技のコーチング方法 [授業外学習]陸上競技の特性とコーチングの方法を調べる			⑪	[テーマ] 球技運動Ⅰ 攻守入り乱れ系種目 (女子サッカー 黒澤) [内容] 球技運動、攻守が入り乱れる種目であるサッカーのコーチング方法 [授業外学習]サッカーの競技特性とコーチングの方法を調べる
④	[テーマ]個人運動Ⅰ 計測系種目(漕艇 阿部肇) [内容]個人運動、計測系種目である漕艇競技のコーチング方法 [授業外学習]漕艇競技の特性とコーチングの方法を調べる			⑫	[テーマ]球技運動Ⅱ 攻守分類系種目(バレーボール 石丸) [内容] 球技運動、攻守分類系種目であるバレーボールのコーチング方法 [授業外学習]バレーボール競技の特性とコーチングの方法を調べる
⑤	[テーマ]個人運動Ⅰ 計測系種目(水泳 渡邊) [内容]個人運動、計測系種目である水泳競技のコーチング方法 [授業外学習]水泳競技の特性とコーチングの方法を調べる			⑬	[テーマ] 球技運動Ⅱ 攻守分類系種目(テニス 佐藤周) [内容] 球技運動、攻守分類系種目であるテニスのコーチング方法 [授業外学習]テニス競技の特性とコーチングの方法を調べる
⑥	[テーマ]個人運動Ⅱ 採点系種目(体操 溝口) [内容]個人運動Ⅱ 採点系種目(体操)のコーチング方法 [授業外学習]体操競技の特性とコーチングの方法を調べる			⑭	[テーマ] 球技運動Ⅲ 攻守交代系種目(野球 森本) [内容] 球技運動、攻守交代系種目である野球のコーチング方法 [授業外学習]野球の競技特性とコーチング方法を調べる
⑦	[テーマ] 個人運動Ⅱ 採点系種目(新体操 河野) [内容]個人運動、採点系種目である新体操競技のコーチング方法 [授業外学習]新体操競技の特性とコーチングの方法を調べる			⑮	[テーマ] 武道 (柔道 川戸) [内容]伝統文化としての武道について解説する [授業外学習]武道の種目について調べてくること
⑧	[テーマ] 球技運動Ⅰ 攻守入り乱れ系種目 (ラグビー 武石) [内容] 球技運動、攻守が入り乱れる種目であるラグビーのコーチング方法 [授業外学習]ラグビー競技の特性とコーチングの方法を調べる			⑯	[テーマ] 試験 (武石) [内容] 各種目のコーチング方法を振り返る [授業外学習]これまでの講義内容を確認すること
成績評価方法(方針)					
試験レポート(評価割合80%)、授業内レポート(評価割合20%)、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。試験レポート課題について1回目のガイダンスにてポイントを説明する。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			80%
授業内レポート		◎			20%
授業外レポート					
演習・実技					評価対象外
授業態度					
出席					欠格条件
履修上の注意(受講学生に望むこと)	2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)。授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業中は携帯電話の電源を切り、かばんの中に入れておくこと。授業計画は多少前後することがある。大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。				
関連科目	スポーツコーチング演習・スポーツコーチング実習				
教科書	指定しない			参考書	指定しない
連絡先	研究室:第4体育館 武石研究室 オフィスアワー:火曜10:20~11:50				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		スポーツトレーナー概論 Introduction to Sports Trainer			担当教員	山口貴久/竹村英和
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	NSCA-CSCS
	履修の方法	必修	単位数	2		
授業の概要						
スポーツトレーナーには、子どもから高齢者の健康・体力づくりやトップアスリートの傷害予防と競技力向上をサポートする能力が求められる。本講義では、スポーツトレーナーとして必要な基礎的知識を身につけるために、主要な運動プログラムやスポーツ傷害を例にあげ、最近の研究結果や具体例を基に解説する。						
授業の一般目標						
スポーツトレーナーに必要な「トレーニング・栄養・休養」を基本とした運動プログラムの立案、分析、評価やスポーツ傷害の予防、受傷後のケアと管理法について研究するための専門的基礎を身につける。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	トレーナー活動を実施するための基礎的事項について説明できる。				
■	情意的領域	科学的手法を用いたトレーナー環境の構築に取り組むことができるようになる。				
■	技能表現的領域	基本的なサポート活動を選手のニーズに応じて構築することができる。				
授業計画(全体)						
授業テーマに沿った資料を用いての講義が中心となる。授業では主に基本的な理論と実践を取りあげて行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明 [授業外学習] シラバスを熟読しておくこと			⑨	[テーマ] アスレティックトレーナー(以下AT)とは(山口) [内容] ATの役割、歴史的背景、活動と資質、および必要な専門領域について解説する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	
②	[テーマ] 運動と健康・体力増進の関係(竹村) [内容] 運動が健康・体力増進に及ぼす影響について説明する。また、パーソナルトレーナーなどの関連資格との関係を併せて説明する。 [授業外学習] 資料を基にした内容の要約および次回テーマに関連した予習			⑩	[テーマ] 検査・測定と評価(山口) [内容] ATの主要業務のひとつである検査・測定と評価について解説する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	
③	[テーマ] 運動プログラムを作成する際の留意点(竹村) [内容] 目的に応じた運動プログラムを作成するための留意点等について説明する [授業外学習] 資料を基にした内容の要約および次回テーマに関連した予習			⑪	[テーマ] スポーツ傷害の予防(山口) [内容] ATの主要業務のひとつであるスポーツ傷害の予防について解説する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	
④	[テーマ] 運動・栄養・休養とコンディショニング(竹村) [内容] 超回復とコンディショニングの関係について説明する [授業外学習] 資料を基にした内容の要約および次回テーマに関連した予習			⑫	[テーマ] スポーツ現場における応急処置(山口) [内容] ATの主要業務のひとつであるスポーツ現場での応急処置について解説する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	
⑤	[テーマ] 持久力とスポーツパフォーマンス(竹村) [内容] 持久力がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について説明する [授業外学習] 資料を基にした内容の要約および次回テーマに関連した予習			⑬	[テーマ] アスレティックリハビリテーション(山口) [内容] ATの主要業務のひとつであるアスレティックリハビリテーションについて解説する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	
⑥	[テーマ] 筋力・筋パワーとスポーツパフォーマンス(竹村) [内容] 筋力・筋パワーがスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について説明する [授業外学習] 資料を基にした内容の要約および次回テーマに関連した予習			⑭	[テーマ] コンディショニング(山口) [内容] ATの主要業務のひとつであるコンディショニングについて解説する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	
⑦	[テーマ] 調整力・柔軟性とスポーツパフォーマンス(竹村) [内容] 調整力(敏捷性・巧緻性・平衡性)や柔軟性がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について説明する [授業外学習] 資料を基にした内容の要約および次回テーマに関連した予習			⑮	[テーマ] 健康管理と組織運営・ATの倫理と関係法規(山口) [内容] ATが担う健康管理および組織運営とATに必要な倫理および関係法規について解説する [授業外学習] 授業資料を基に復習すること	
⑧	[テーマ] 発育・発達・老化とスポーツパフォーマンス(竹村) [内容] 発育・発達・老化がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について説明する [授業外学習] 資料を基にした内容の要約および次回テーマに関連した予習			⑯	[テーマ] テスト [内容] 筆記試験 [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
評価は筆記試験により行う。試験の解説は問合せがあった場合に個別に対応する。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行なうこと。 ・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。 ・20分以上の遅刻は、欠席とみなす。 ・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある。 ・専門的な内容が含まれるので、関連科目の予習および授業後の復習を行うこと。 	
定期試験	◎			100%		
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技						
出席				欠格条件		
関連科目	運動生理学(1年)、スポーツトレーナー実習(2年)、スポーツトレーナー演習(2年)、体力相談と運動処方(3年)、ストレングス&コンディショニング演習(3年)、フィットネストレーナー・インターンシップ実習(4年)					
教科書	特に指定しない。			参考書	特に指定しない。	
連絡先	山口貴久 第4体育館1階 tk-yamaguchi@sendai-u.ac.jp					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	スポーツマネジメント概論			担当教員	永田/岡田/弓田/馬
	Introduction to Sports Management(L)				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	コース必修	単位数		
授業の概要					
スポーツマネジメントの基本的な考え方や理論について、概説する。わが国の生涯スポーツの現状や課題を説明し、野外教育・レクリエーション、スポーツクラブ系マネジメント、スポーツ事業論といった様々な視点から理解を深める。					
授業の一般目標					
スポーツマネジメントの基本的な考え方や理論について理解する。わが国の生涯スポーツの現状や課題を理解し、野外教育・レクリエーション、スポーツクラブ系マネジメント、スポーツ事業論といった様々な視点から考察できるようになる。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	スポーツマネジメントを構成する諸領域を知り、それぞれの現状や課題について説明できる。			
<input type="checkbox"/>	情意的領域				
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
本授業は、スポーツマネジメント・コース教員によるオムニバス形式で開講する。担当者がそれぞれ授業を担当する。スポーツマネジメントの基礎となる理論について学習することを主とし、具体的には生涯スポーツ、野外教育・レクリエーション、スポーツクラブ系マネジメント、スポーツ事業論といった領域について取り上げる。基本的な内容を幅広く理解することを念頭に置き、各教員が授業を展開していく。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション(馬) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法について説明する。生涯スポーツの意義について概説する。 [授業外学習]シラバスを熟読すること			⑨	[テーマ] スポーツクラブのマネジメント(弓田) [内容] クラブビジネス、組織のマネジメントについて解説し、現状や課題について考える [授業外学習]学習内容を復習すること
②	[テーマ] ヘルスプロモーション(馬) [内容] ヘルスプロモーションの考え方や、それを基本戦略とした健康増進施策について学ぶ。現場における健康づくりの実践例を紹介する。 [授業外学習]学習内容を復習すること			⑩	[テーマ] スポーツファンのマネジメント(弓田) [内容] 地域密着の必要性やマーケティングとの関連性について理解し、日本におけるファンマネジメントの課題について考える [授業外学習]学習内容を復習すること
③	[テーマ]身体活動・運動(馬) [内容] 身体活動・運動の身体的、心理的、社会的および環境的効果を解説する。健康支援について考える。 [授業外学習]学習内容を復習すること			⑪	[テーマ] スポーツリーグのマネジメント(弓田) [内容] リーグの類型や役割について概説し、ガバナンスの重要性と課題について考える [授業外学習]学習内容を復習すること
④	[テーマ]野外教育・レクリエーションの重要性(岡田) [内容] 野外教育やレクリエーションなどの言葉の定義について解説する。野外教育・自然体験活動の事例紹介も行う。 [授業外学習]学習内容を復習すること			⑫	[テーマ] スポーツマネジメントの概説(永田) [内容] スポーツマネジメントについて、学問や立場によって捉え方が一様でないことを前11回の講義も含め理解する。 [授業外学習]学習内容を復習すること
⑤	[テーマ] 野外教育・レクリエーションの実際①プログラム編(岡田) [内容] 野外・レク事業のプログラムについて学ぶ。事業の評価の視点や企画の際に必要なプログラムデザインについて解説する。 [授業外学習]学習内容を復習すること			⑬	[テーマ] スポーツ事業論①(永田) [内容] スポーツ経営の仕組みとスポーツ事業論(A.S. P.S. C.S.)について解説する [授業外学習]スポーツ事業とは何か、調べておく
⑥	[テーマ] 野外教育・レクリエーションの実際②マネジメント編(岡田) [内容]野外・レク事業のマネジメントについて学ぶ。事業の事前準備に必要なマネジメントをあげ、それぞれの必要性を解説する。 [授業外学習]学習内容を復習すること			⑭	[テーマ] スポーツ事業論②(永田) [内容] スポーツ事業論(A.S. P.S. C.S.)を用い、事例により運動生活の現状を理解する [授業外学習]自身の児童・生徒時代のスポーツとの関わりを考えておく
⑦	[テーマ] 野外教育・レクリエーションの実際③まとめ(岡田) [内容] 野外・レク事業の運営方法について学ぶ。事前、事中、事後のマネジメントについて整理し、事業運営に必要な知識を身につける。 [授業外学習]学習内容を復習すること			⑮	[テーマ] スポーツ事業論③及びまとめ(永田) [内容] 前2回で学んだスポーツ事業論(学校を基盤とした理解)が、学校以外の領域においてどのように応用できるか考える。 [授業外学習]学校以外の領域でのスポーツ経営の仕組みについて考えておく
⑧	[テーマ] クラブ系のマネジメント 導入(弓田) [内容]スポーツマネジメントの発展経緯、スポーツ現場で求められるマネジメントを3つのレベルに分けて紹介する。 [授業外学習]学習内容を復習すること			⑯	[テーマ]レポート [内容]レポートの振り返り [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
馬(授業内レポート25%)、岡田(授業内レポート25%)、弓田(授業内レポート25%)、永田(授業内レポート25%) 授業内レポートは、原則教員が目を通しコメントを付す等した上で学生に返却する。					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					評価対象外
授業内レポート		◎			100%
授業外レポート					評価対象外
演習・実技					評価対象外
授業態度					減点アリ
出席					欠格条件
関連科目	スポーツ経営学(1年)、スポーツ社会学(1年)、スポーツマネジメント実習(2年)、地域スポーツ戦略論(2年)、スポーツマーケティング論(2年)、スポーツマネジメント演習(3年)等				
教科書				参考書	授業時に紹介する
連絡先	馬(5体2階)、岡田(A509)、弓田(A504)、永田(A312)				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	テーピング Taping (P.A.)			担当教員	高橋陽介・小田桂吾・山口貴之・村上憲治
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
テーピングの理論・目的・効果・有効性について正しい知識を学習し、実技を通じてテーピングの実施技術を習得する。					
授業の一般目標					
スポーツ活動において使用されているテーピングを各身体部位に外傷予防、応急処置、再発予防のそれぞれの目的に応じた技術、技法を実践できる能力を身につける。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	テーピングの目的を的確に説明できる。			
■	情意的領域	テーピングの効果を選手に指導できる。			
■	技能表現的領域	目的に応じたテーピングが巻ける。			
授業計画(全体)					
運動器の解剖学を理解し、テーピングの理論と実技を繰り返しおこなう。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員の紹介、テーピングの購入方法、授業の進め方、成績・評価の説明			⑨	[テーマ] 足関節テーピング⑥ [内容] スピードを重視した足関節テーピングの実技
②	[テーマ] テーピング総論 [内容] 身体の解剖学的構造と傷害発生メカニズムとテーピング理論の解説と、テーピングの種類・目的・効果・有効性について説明			⑩	[テーマ] 足関節テーピング⑦ [内容] スピードを重視した足関節テーピングの実技
③	[テーマ] テーピングとアンダーラップ [内容] テーピングの切り方や貼り方、アンダーラップの巻き方を説明			⑪	[テーマ] アーチテーピング [内容] 足部の構造について解説し、アーチテーピングの実技
④	[テーマ] 足関節テーピング① [内容] 足関節テーピングのテクニックであるアンカーとスターアップの実技			⑫	[テーマ] 膝関節テーピング [内容] 膝関節保護のテーピングの実技
⑤	[テーマ] 足関節テーピング② [内容] 足関節テーピングのテクニックであるアンカーとスターアップの実技			⑬	[テーマ] 肘関節テーピング [内容] 肘関節保護のテーピング実技
⑥	[テーマ] 足関節テーピング③ [内容] 足関節テーピングのテクニックであるホースシューとサーキュラーの実技			⑭	[テーマ] 指関節テーピング [内容] 指関節保護のテーピング実技
⑦	[テーマ] 足関節テーピング④ [内容] 足関節テーピングのテクニックであるヒールロックとフィギュアエイトの実技			⑮	[テーマ] 実技試験① [内容] 学んだテーピングの実技評価
⑧	[テーマ] 足関節テーピング⑤ [内容] 足関節テーピング一連の流れの実技			⑯	[テーマ] 実技試験② [内容] 学んだテーピングの実技評価
成績評価方法(方針)					
実技テスト90%、授業態度10%で評価する。実技テストについては、授業内で個別に解説し評価する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	履修上の注意(受講学生に望むこと) ・実技であるので、技能の習得ができない場合の単位認定は認めない ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと
定期試験				評価対象外	
授業内レポート				評価対象外	
授業外レポート	○			有	
演習・実技	◎		◎	90%	
授業態度		◎		10%	
出席		◎		欠格条件	
関連科目	コンディショニング論				
教科書	なし			参考書	日本体育協会公認アスレティックトレーナーテキスト⑥
連絡先	高橋陽介研究室 第4体育館1階研究室(3) ; Email address: ys-takahashi@sendai-u.ac.jp; オフィスアワー:水曜日12:40~14:10				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	レクリエーション実技 I			担当教員	小池・高崎	
	Practical Skill on Recreation I (P.A.)					
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実技	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数			1
授業の概要 レクリエーション指導・支援者は、単にレクリエーション種目(レクリエーション財)を伝達するだけではない。そのことによって人間同士のふれあいを促進し、新しい集団づくりをすすめて、価値ある人生と社会への一步を築く方向性めざす人達に対して支援を行う。ここでは、レクリエーション指導・支援者として必要な基礎実技を体験学習し、その基礎を習得する。学校の授業や事業、地域レクリエーションなどでの支援能力を養成する。						
授業の一般目標 実際の体験を通して、様々な領域のレクリエーション種目(レクリエーション財)や活動の楽しさや面白さが分かる。						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	レクリエーションについて説明できる。特に、レクリエーション種目(レクリエーション財)について説明できる。					
■ 情意的領域	様々な領域のレクリエーション種目(レクリエーション財)や活動の楽しさや面白さが分かる					
■ 技能表現的領域	ゲームやニュースポーツ種目などを楽しむ技術を身につける。					
授業計画(全体) 基本的に2名の教員が7回の授業(2ラウンド)を担当する。学生全体を各々10名前後にグループ分けし、全体を大きく2つに分ける。前半、教員Aの授業を1体で7回受講したら、後半の授業は教員Bの授業を2体で7回受講する。もう一方のグループは、その逆とする。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション (小池) (高崎) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法、グループ分け			⑨	[テーマ] 体力づくりゲーム(高崎) [内容] 学校体育で展開されている体力づくりの内容をゲーム化して紹介する	
②	[テーマ] 室内ゲーム1(小池) [内容] 室内で行うレクリエーションゲーム・ソング。			⑩	[テーマ] 体解しゲーム(高崎) [内容] 学校体育で展開されている体解しの内容をゲーム化して紹介する	
③	[テーマ] 室内ゲーム2(小池) [内容] 室内で行うレクリエーションゲーム・ソング。			⑪	[テーマ] 生涯スポーツ1(高崎) [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:インディアカ)	
④	[テーマ] 福祉レクリエーションを意識したレクリエーション活動 [内容] 高齢者や障害者などの対象に合わせたレクリエーション活動。			⑫	[テーマ] 生涯スポーツ2(高崎) [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:ベタンク)※インドア、アウトドア両方	
⑤	[テーマ] コミュニケーション・ワーク(小池) [内容] 遊び環境を通して多様なコミュニケーションスキルの体験			⑬	[テーマ] 生涯スポーツ3(高崎) [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:フライングディスク)※ゴルフ、アキュラシー	
⑥	[テーマ] レクリエーションダンス(小池) [内容] 子どもの発育・発達を目的としたレクリエーションダンスやシンギングゲーム。			⑭	[テーマ] 生涯スポーツ4(高崎) [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:ユニバーサルホッケー)	
⑦	[テーマ] 室外ゲーム1(小池) [内容] 鬼ごっこなど身体活動系のレクリエーション活動。			⑮	[テーマ] 生涯スポーツ5(高崎) [内容] 種目・活動の理論と実際(種目:チャレンジ・ザ・ゲーム)※4種目	
⑧	[テーマ] 室外ゲーム2(小池) [内容] 鬼ごっこなど身体活動系のレクリエーション活動			⑯	[テーマ] 総括(小池) (高崎) [内容] 体験学習したレクリエーション種目(レクリエーション財)を各自がレクリエーション実技ノートにまとめて指定された期日までに提出する	
成績評価方法(方針) 授業参加及び実技ノートにて評価する。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件) ・授業態度が悪い(私語等)学生は、成績評価から減点する。 ・授業内容は毎回指定されたレクリエーション実技ノートにまとめて、授業終了後提出する。
定期試験						
授業内レポート						
授業外レポート		◎	○		50%	
演習・実技		○	○	◎	50%	
授業態度					減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目						
教科書	特になし			参考書		
連絡先	各教員の研究室					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	体操(含体づくり運動) Gymnastic(P.A.)			担当教員	溝口 絵里加	
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要						
運動を通して、自分や仲間の身体や心の状態に気づき、体の調子を整えたり、友達と触れ合い楽しく体を動かす実技を行う。体ほぐし運動、運動あそび、柔軟性を高める為の運動、ストレッチング、リズム体操などを紹介する。						
授業の一般目標						
実技を通して、様々な運動を身につけるとともに、運動の基本的な実技指導や手本ができる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	様々な基本動作の内容が説明できる。				
■	情意的領域	体を動かすことによって、仲間と協力し表現することができる。				
■	技能表現的領域	指導者としてふさわしい手本をすることができる。対象者に応じた体操を創ることができる。				
授業計画(全体)						
体操とはなにかを理解し、基本的な運動を身に付けていく。リズム体操の個人技能試験や、対象者に応じた創作体操の発表により、体操の仕方や手本の仕方を学んでいく。また個人学習ノート(リフレクティブジャーナル)の記入(評価割合30%)を毎回の授業で行う。実技試験や授業に取り組む態度等を総合して成績評価を行う。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法			⑨	[テーマ] 組み合わせ課題 [内容] サーキットトレーニング。自重トレーニング。	
②	[テーマ] ストレッチングと柔軟体操 [内容] 正しい行い方でストレッチを行う。体ほぐしを行いながら仲間と交流を深める。柔軟体操。			⑩	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムづくり 導入 [内容] 対象者を設定する。動きの種類を出し合う。運動強度の設定をし運動内容を調整する。	
③	[テーマ] ストレッチングと柔軟体操の応用 [内容] スタティックストレッチングとバリスティックストレッチングについて。様々なストレッチを実施する。			⑪	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムづくり 運動強度 [内容] 運動強度の設定をし運動内容を調整する。	
④	[テーマ] リズム体操(基礎) [内容] 徒手でのリズム体操。基礎的な動きを修得する。			⑫	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムづくり 師範について [内容] 運動を指導者らしく見えるよう工夫する。師範について	
⑤	[テーマ] リズム体操(応用) [内容] 徒手でのリズム体操。基礎的な動きを修得する。			⑬	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラムづくり まとめ [内容] 運動プログラムを仕上げ、出来栄が良くなるように工夫する。フォーメーションの変化も取り入れる。	
⑥	[テーマ] 用具体操 [内容] 用具を使った運動あそび。指導方法について			⑭	[テーマ] 対象者に合わせた運動プログラム評価テスト [内容] 各グループで創作した運動プログラムを相互に発表。評価する。	
⑦	[テーマ] 用具体操 [内容] 用具を使った運動あそび。指導方法について			⑮	[テーマ] 授業全体を振り返る [内容] 授業の理解度、技能の習得度のまとめをする。	
⑧	[テーマ] リズム体操個人テストと前回までの振り返り [内容] 動きの質を高める。他者の評価方法について			⑯	[テーマ] 授業全体を振り返る [内容] 授業の理解度、技能の習得度のまとめをする。	
成績評価方法(方針)						
個人技能の出来栄とグループ活動における課題達成度(評価割合70%)また個人学習ノートの記入(評価割合30%)そして、これらを基に総合して成績評価を行う。出席は評価割合に加え、さらに欠格条件とする。						
成績評価方法(詳細)						
到達目標				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・4回以上欠席をした学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・10分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・服装や身だしなみを整えて(体育指導者としてふさわしい恰好で)受講すること。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。 ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学習を行うこと。 	
定期試験				30%		
授業内レポート	○	○				
授業外レポート						
演習・実技			◎	70%		
授業態度				減点対象		
出席				欠格条件		
関連科目						
教科書	特になし			参考書	体づくり運動―授業の考え方と進め方―文部科学省	
連絡先	溝口研究室(第3体育館5階)					

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		新体操 Rhythmic Gymnastic (P.A.)			担当教員	河野未来
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格	ジュニアスポーツ指導員
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要						
新体操における基本動作について学ぶ。また、徒手や手具を用いた演技についても触れ、新体操における動作やリズムの取り方、表現的な動きについて学ぶ。						
授業の一般目標						
学生のレベルに応じて動作能力を成長させるとともに、新体操に関する知識を習得するとともに意識を高める。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	様々な基本動作の内容が説明できる。				
■	情意的領域	体を動かすことによって、仲間と協力し表現することが出来る。				
■	技能表現的領域	新体操の演技をフレーズで創ることができる。				
授業計画(全体)						
新体操の各基本動作を習得してから、演技創作・発表会へと展開していく。技能習得のレベルに応じて、グループ分けを行う場合もある。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員の紹介、授業の目標と進め方			⑨	[テーマ] フープ② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のフープの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。	
②	[テーマ] ロープ① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・ロープの基本動作と様々な操作方法を覚える。			⑩	[テーマ] フープ③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのフープの操作と連係をもとに演技を創作する。	
③	[テーマ] ロープ② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のロープの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。			⑪	[テーマ] リボン① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・リボンの基本動作と様々な操作方法を覚える。	
④	[テーマ] ロープ③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのロープの操作と連係をもとに演技を創作する。			⑫	[テーマ] リボン② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のリボンの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。	
⑤	[テーマ] ボール① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・ボールの基本動作と様々な操作方法を覚える。			⑬	[テーマ] リボン③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのリボンの操作と連係をもとに演技を創作する。	
⑥	[テーマ] ボール② [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回のボールの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える。			⑭	[テーマ] クラブ① [内容] ・徒手の動作を完璧なものにし、連係を考えてみる。 ・クラブの基本動作と様々な操作方法を覚える。	
⑦	[テーマ] ボール③ [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・前回までのボールの操作と連係をもとに演技を創作する。			⑮	[テーマ] クラブ② [内容] ・徒手の動作を完璧なものにし、連係を考えてみる。 ・前回のクラブの基本動作の復習と新たな操作方法・連係を覚える	
⑧	[テーマ] フープ① [内容] ・徒手の動作について覚える。 ・フープの基本動作と様々な操作方法を覚える。			⑯	[テーマ] 演技発表会 (DanDanDance&Sports) [内容] ・創作した演技を発表する。	
成績評価方法(方針)						
習得技能と授業参加態度を総合して評価する。 試験(演技発表)については、評価基準についての解説を事前に行い、すすめることとする。						
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)		
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)。 ・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。 ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。	
定期試験			◎	70%		
授業内レポート						
授業外レポート						
演習・実技			○	20%		
授業態度		○		10%		
出席						
関連科目						
教科書				参考書		
連絡先						
研究室:第4体育館1階 オフィスアワー: 水曜日 14:20~15:50						

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	ボランティア活動実践A			担当教員	高崎 義輝
	Voluntary Activity Practice A				
開講内容	学年・学期	1・通年	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。					
授業の一般目標					
社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。			
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。			
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。			
授業計画(全体)					
ボランティア活動を実践するためボランティア事前研修を実施し、年間を通じたボランティア活動に参加してもらう。終了後に、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」により報告してもらい、活動ポイントを付与する。活動ポイントを計10ポイント取得し、単位認定試験(レポート提出)に合格することで単位を「認定」する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
<p>1. ボランティア事前研修の受講</p> <p>a. ボランティア活動を実践するための手続きについて</p> <p>① ボランティア登録(ボランティアセンターに申し込む)</p> <p>② ボランティア保険への加入</p> <p>b. ボランティアを始める前に知っておきたい基礎知識</p> <p>※「ボランティアの価値や魅力とは」「活動上の留意事項」「ボランティアセンターの役割」「ボランティアコーディネーターの役割」「緊急時の対応」「活動紹介」</p> <p>2. ボランティア活動の実際</p> <p>a. 下記①～④の活動中から、学生自身が希望する活動に参加する。</p> <p>① 学内における障害を持つ学生の支援(聴覚障害者のノートテーカーなど)</p> <p>② 地域における高齢者、障害児・者の支援(社会福祉施設で行われている年中行事やレクリエーションの支援)</p> <p>③ 学校教育現場での部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等</p> <p>④ 留学生の学習の支援</p> <p>b. 参加したボランティア活動について、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」にて、ボランティアセンターに報告する。</p> <p>c. ボランティアセンターでは、学生の報告する活動内容、時間を基に、活動ポイントを付与する。</p> <p>※活動時間は、90分を1ポイントとし、準備時間等を加味し活動ポイントを算出する。</p> <p>d. 年間10ポイントを取得すると単位認定試験(レポート提出)を受験することができる。</p> <p>3. 単位認定試験(レポート提出)の受験</p> <p>単位認定試験に合格すると単位が付与される。尚、本科目は「認定」の科目である。</p>					
成績評価方法(方針)					
本科目は、1.ボランティア事前研修、2.ボランティア活動の実際、3.単位認定試験の受験の一連の実践活動を完遂することで評価「認定」を認める。尚、ボランティア活動の実際を記録した「ボランティア活動ノート」については、単位認定終了後に返却する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標					履修上の注意(受講学生に望むこと)
成績評価方法	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初から計画的な実践を目指すこと。 ・ボランティア登録、保険(¥300/年)の加入、ボランティア事前研修の受講は必須事項である。 ・ボランティア活動実践A・B・C・Dの中から、複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。 ・一年を通じた活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。 ・ボランティア実施上のルールを守ること。 ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学習を行なうこと。
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート	◎	◎	◎	50%	
演習・実技					
授業態度	◎	◎	◎	50%	
出席				欠格要件	
関連科目	ボランティア活動実践A・B・C・D				
教科書	ボランティア活動ノート(仙台大学ボランティアセンター発行)			参考書	
連絡先	担当教員:高崎義輝(F棟2階216) ※オフィスアワー:水曜日4時限目				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	ボランティア活動実践B			担当教員	高崎 義輝
	Voluntary Activity Practice B				
開講内容	学年・学期	2・通年	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
ボランティア活動を行うにあたり、ボランティアに必要なルールや心構えを講義し、地域の中での社会活動・健康増進・介護支援等や学校現場における部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等の活動に、教育委員会やその他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。					
授業の一般目標					
社会人に移行する時期において、地域や社会の一構成員としての自覚を、実体験を通して確認するとともに、社会性等の「人間力の育成・向上」を図る。また、ボランティア活動という実体験を通して、座学では得られない学習内容に対する学習意欲の喚起・向上をめざし、就業・就職等の近い将来の人生設計に役立てることができるようにする。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	ボランティア活動に必要な知識や技術、心構えを理解し、ボランティアとは何か説明できる。			
■	情意的領域	自発的、積極的にボランティア活動に参加し、他者との関わりに意欲的に取り組むことができる。			
■	技能表現的領域	ボランティア活動を通して、支援に必要な技術や態度が習得できる。			
授業計画(全体)					
ボランティア活動を実践するためボランティア事前研修を実施し、年間を通したボランティア活動に参加してもらう。終了後に、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」により報告してもらい、活動ポイントを付与する。活動ポイントを計10ポイント取得し、単位認定試験(レポート提出)に合格することで単位を「認定」する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
<p>1. ボランティア事前研修の受講</p> <p>a. ボランティア活動を実践するための手続きについて</p> <p>① ボランティア登録(ボランティアセンターに申し込む)</p> <p>② ボランティア保険への加入</p> <p>b. ボランティアを始める前に知っておきたい基礎知識</p> <p>※「ボランティアの価値や魅力とは」「活動上の留意事項」「ボランティアセンターの役割」「ボランティアコーディネーターの役割」「緊急時の対応」「活動紹介」</p> <p>2. ボランティア活動の実際</p> <p>a. 下記①～④の活動中から、学生自身が希望する活動に参加する。</p> <p>① 学内における障害を持つ学生の支援(聴覚障害者のノートテーカーなど)</p> <p>② 地域における高齢者、障害児・者の支援(社会福祉施設で行われている年中行事やレクリエーションの支援)</p> <p>③ 学校教育現場での部活動支援・学習支援・遊び相手・障害者支援・健康相談等</p> <p>④ 留学生の学習の支援</p> <p>b. 参加したボランティア活動について、本学オリジナルの「ボランティア活動ノート」にて、ボランティアセンターに報告する。</p> <p>c. ボランティアセンターでは、学生の報告する活動内容、時間を基に、活動ポイントを付与する。</p> <p>※活動時間は、90分を1ポイントとし、準備時間等を加味し活動ポイントを算出する。</p> <p>d. 年間10ポイントを取得すると単位認定試験(レポート提出)を受験することができる。</p> <p>3. 単位認定試験(レポート提出)の受験</p> <p>単位認定試験に合格すると単位が付与される。尚、本科目は「認定」の科目である。</p>					
成績評価方法(方針)					
本科目は、1.ボランティア事前研修、2.ボランティア活動の実際、3.単位認定試験の受験の一連の実践活動を完遂することで評価「認定」を認める。尚、ボランティア活動の実際を記録した「ボランティア活動ノート」については、単位認定終了後に返却する。					
成績評価方法(詳細)					
				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート	◎	◎	◎	50%	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初から計画的な実践を目指すこと。 ・ボランティア登録、保険(¥300/年)の加入、ボランティア事前研修の受講は必須事項である。 ・ボランティア活動実践A・B・C・Dの中から、複数の受講登録は認めない。対象学年の学生のみとする。 ・一年を通した活動なので、活動のバランスなど計画的に行うこと。 ・ボランティア実施上のルールを守ること。 ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学習を行なうこと。
演習・実技					
授業態度	◎	◎	◎	50%	
出席				欠格要件	
関連科目	ボランティア活動実践A・B・C・D				
教科書	ボランティア活動ノート(仙台大学ボランティアセンター発行)			参考書	
連絡先	担当教員:高崎義輝(F棟2階216) ※オフィスアワー:水曜日4時限目				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	海外短期研修A			担当教員	国際交流センター長
	Brief Seminar Abroad A				
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	選択	単位数	1	
授業の概要					
<p>本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。 なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。</p>					
授業の一般目標					
<p>本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。</p>					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。				
■ 情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。				
■ 技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。				
授業計画(全体)					
<p>研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。</p>					
授業テーマとその内容					
<p>目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。 各研修は日程にあわせ適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修(参加)希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。</p> <p>アメリカ合衆国 ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 ビギナーコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 アドバンスコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 プレミアムコース ハワイ大学 短期英語研修プログラム カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 日米スポーツ事情比較セミナー デンマーク リンベルト大学他 デンマーク国における健康教育プログラム フィンランド カヤニ応用科学大学 スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム 台湾 台東大学 国際交流協定校短期交換留学 タイ シーナカリンウィロート大学 スポーツ・異文化交流プログラム ベトナム ハノイ大学 運動・栄養・食品衛生留学研修 中国 瀋陽師範大学 中国武術・文化研修派遣プログラム 韓国 龍仁大学 韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム ニューージーランド カンタベリー大学CCECL 被災地復興・スポーツ文化交流プログラム</p> <p>なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。</p> <p>単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。 単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。 学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修(4科目4単位)までとする。 この科目の登録は参加学生が行う必要はない。</p>					
成績評価方法(方針)					
<p>参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。</p>					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 ・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと ・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること ・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。 ・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修(4科目4単位)までとする。 ・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。
定期試験					
授業内レポート	○		○	10%	
授業外レポート	○		○	10%	
演習・実技		○	○	30%	
授業態度		○		50%	
出席				欠格条件	
関連科目	海外短期研修B・C・D				
教科書	各研修の担当者が指示する			参考書	各研修の担当者が指示する
連絡先	事業戦略室 (A棟1F) または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	海外短期研修B Brief Seminar Abroad B			担当教員	国際交流センター長	
開講内容	学年・学期	1・半期	授業方法	実習	関連資格	
	履修の方法	選択	単位数	1		
授業の概要						
<p>本科目は本学で実施している海外短期研修に参加し、各研修の課題に取り組んだ学生に単位を認定するための科目である。本科目で言う「海外短期研修」とは、90日未満の期間に、海外の大学で実施するプログラムを通して学習することを意味する。 なお、この科目の登録は担当教員が行うので、学生本人が登録する必要はない。</p>						
授業の一般目標						
<p>本学で実施している海外短期研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。 海外での研修を通して国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。 報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。</p>						
授業の到達目標						
■ 認知的領域	本学で実施している海外研修について、各研修の課題に取り組み、成果をあげる。					
■ 情意的領域	海外での研修を通じ、国際感覚を養い、外国語で専門科目を学習する重要性を認識する。					
■ 技能表現的領域	報告会での発表等を通じ、プレゼンテーションの方法を磨く。					
授業計画(全体)						
<p>研修ごとに募集を行い、参加者には事前・事後指導が行われる。事前指導においては、研修内容に応じた準備が求められる。事後指導では報告会を行うなど、研修全体の振り返りを行う。双方ともレポート提出を求める場合がある。</p>						
授業テーマとその内容						
<p>目的、渡航先、内容は研修ごとに異なる。過去に実施された、あるいは計画されている短期研修は以下のとおりである。 各研修は日程にあわせ適宜学内説明会を実施するので、本科目の履修(参加)希望者は説明会に関する学内掲示を注意のこと。</p> <p>アメリカ合衆国 ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 ビギナーコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 アドバンスコース ハワイ大学 アスレティックトレーニング研修 プレミアムコース ハワイ大学 短期英語研修プログラム カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 日米スポーツ科学事情比較セミナー デンマーク リンベルト大学他 デンマーク国における健康教育プログラム フィンランド カヤニ応用科学大学 スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム 台湾 台東大学 国際交流協定校短期交換留学 タイ シーナカリンウィロート大学 スポーツ・異文化交流プログラム ベトナム ハノイ大学 運動・栄養・食品衛生留学研修 中国 瀋陽師範大学 中国武術・文化研修派遣プログラム 韓国 龍仁大学 韓国伝統武道・警護・文化研修プログラム ニューージーランド カンタベリー大学CCELC 被災地復興・スポーツ文化交流プログラム</p> <p>なお、上記研修の内容や名称が変更されたり、新たに追加される場合がある。</p> <p>単位認定の条件として、参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。 単位認定の際、評価は、単位認定を意味する「認」の種類とする。単位認定者は国際交流センター長とする。 学生が4年間で複数の研修に参加する可能性を考え、「海外短期研修A・B・C・D」の4科目を開設している。単位認定は4研修(4科目4単位)までとする。 この科目の登録は参加学生が行う必要はない。</p>						
成績評価方法(方針)						
<p>参加者への事前・事後指導が行われる。これらの際に課されるレポートや、研修中の学習態度、研修後の報告会での発表等を総合的に判定し、単位を認定する。</p>						
成績評価方法(詳細)						
	成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと ・研修先の言語、文化、地理等の理解の機会を逃さぬこと ・研修中の日本・仙台大学の紹介をする機会に備えること ・本学が実施するさまざまな海外研修への参加を通じ、国際的視野を身につけ、国際感覚を醸成してほしい。また、外国語で専門科目を学習する重要性を認識してほしい。 ・4年間で複数の研修に参加する場合を考慮し、本科目「海外短期研修」はA～Dの4科目が開設されている。単位の認定は4研修(4科目4単位)までとする。 ・日程、内容等各研修の詳細は事業戦略室まで問い合わせること。 	
定期試験						
授業内レポート	○		○	10%		
授業外レポート	○		○	10%		
演習・実技		○	○	30%		
授業態度		○		50%		
出席				欠格条件		
関連科目	海外短期研修A・C・D					
教科書	各研修の担当者が指示する			参考書	各研修の担当者が指示する	
連絡先	事業戦略室 (A棟1F) または国際交流センター長 tt-arai@sendai-u.ac.jp					

5. 資格関連科目

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名		保育実習指導 I Child care training I			担当教員	佐々木和、千葉喜久也、柴田千賀子
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義・演習	関連資格	保育士
	履修の方法	選択必修	単位数	2		
授業の概要						
3年次で実施される保育実習 I の事前指導(実習現場の理解、保育計画の基礎、保育実習へのこころ構え等)及び事後指導を行う。保育実習に参加する者は、この科目を受講しなければ、実習に参加することはできない。						
授業の一般目標						
保育実習に参加する基礎的基本的な知識・技能を習得し、併せて保育実習に臨む心構え、態度等を身に付ける。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	保育実習の意義を理解するとともに、保育実習に必要な基礎的基本的な知識を習得する。				
■	情意的領域	保育実習に参加する意欲をもつ。				
■	技能表現的領域	保育実習の基礎的基本的技能を習得する。				
授業計画(全体)						
保育実習の意義、保育実習現場の理解(保育所・施設)、保育実習の心構え、保育実習の方法・流れ、保育指導案の作成等						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容	
①	[テーマ] オリエンテーション(2年)(佐々木、千葉、柴田) [内容] 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス理解、成績評価の方法 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと。			⑨	[テーマ] 保育指導案について④(佐々木) [内容] 指導案について発表を行い、理解を深める。 [授業外学習] 授業内容の復習	
②	[テーマ] 保育実践の理解(佐々木) [内容] 保育実践の現状を理解する。 [授業外学習] 授業内容の復習			⑩	[テーマ] 保育実習と子ども理解(柴田) [内容] 保育実習の前に子どものかかわりについて理解を深める。 [授業外学習] 授業内容の復習	
③	[テーマ] 保育実習の種類と方法①(佐々木) [内容] 保育実習の種類と方法の実際について理解する。 [授業外学習] 授業内容の復習			⑪	[テーマ] 施設実習について(千葉) [内容] 施設実習の実際を学び、実習の意義を理解する。 [授業外学習] 授業内容の復習	
④	[テーマ] 保育実習の種類と方法②(佐々木) [内容] 保育実習の種類と方法の実際について理解し、具体的な目標を立てる。 [授業外学習] 授業内容の復習			⑫	[テーマ] 施設実習の種類と方法①(千葉) [内容] 施設実習の種類と方法の実際について理解する。 [授業外学習] 授業内容の復習	
⑤	[テーマ] 保育実習の種類と方法③(佐々木) [内容] 保育実習の種類と方法の実際について理解し、持参する書類や教材の確認を行う。 [授業外学習] 授業内容の復習			⑬	[テーマ] 施設実習の種類と方法②(千葉) [内容] 施設実習の種類と方法の実際について理解し、具体的な目標を立てる。 [授業外学習] 授業内容の復習	
⑥	[テーマ] 保育指導案について①(佐々木) [内容] 指導案の実際に触れ、理解を深める。 [授業外学習] 授業内容の復習			⑭	[テーマ] 施設実習指導案について(千葉) [内容] 指導案の実際に触れ、理解を深める。 [授業外学習] 授業内容の復習	
⑦	[テーマ] 保育指導案について②(佐々木) [内容] 実際に指導案を立案する。 [授業外学習] 授業内容の復習			⑮	[テーマ] まとめ(佐々木、千葉、柴田) [内容] これまでの授業を総括し、実習への理解を深める。 [授業外学習] 授業内容の復習	
⑧	[テーマ] 保育指導案について③(佐々木) [内容] 指導案の添削及び再考を行う。 [授業外学習] 授業内容の復習			⑯	[テーマ] [内容] [授業外学習]	
成績評価方法(方針)						
出席及び実習関連提出書類を中心に評価する。						
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)	
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	保育者を目指すものとして、常に課題意識を持ち、自発的に受講することを望む。 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。 開講は不定期であるため指示に従って受講すること。	
定期試験						
授業内レポート	◎	◎		50%		
授業外レポート	○	○		30%		
演習・実技						
授業態度		○	○	10%		
出席		○		10%		
関連科目	保育実習 I					
教科書	保育所保育指針			参考書	授業時に紹介する。	
連絡先	佐々木和研究室					

6. 自由科目

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	レクリエーション実技Ⅱ			担当教員	仲野・小池・高崎・岡田
	Practical Skill on Recreation II (P. A.)				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	実技	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
仲野:コミュニケーションワーク・レクダンス創作 小池:支援実習1(レク種目指導) 高崎:支援実習2(レク活動の創作) 岡田:支援実習3(スタンツ) 学校での授業や事業、地域レクリエーションなどにおける支援能力を養成する					
授業の一般目標					
様々なレクリエーションのジャンルにおいて、支援者に必要な資質をグループワークを中心に体験的に習得する					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	創作や演出の基本や留意点が理解できる				
■ 情意的領域	人前で個性を発揮する場面(意図的に設定)を通して、支援者に必要な演出・話術・支援力などが身につく				
■ 技能表現的領域	レクダンス・レクゲーム・スタンツなどを創作し発表することで、創作力や応用力が身につく				
授業計画(全体)					
<ローテーション> はじめの6回は、全体で仲野担当。7～15の9回は、3回毎にローテーションとする(担当:小池・高崎・岡田)					
①クラス(1体 → 4体 → 剣道) ②クラス(4体 → 剣道 → 1体) ③クラス(剣道 → 1体 → 4体)					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション・仲野1 [内容] 授業の全体像を理解する・アイスブレイクの技法:受講生全員並びに班分けされた班員相互の雰囲気作りをねらいとしたアイスブレイキングの進め方を実演し、その効果的な進め方を学ぶ			⑨	[テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池3 [内容] ①指導演習課題(主にアイスブレイキングのゲーム)の練習 ②グループによる指導演習(ロールプレイ) ③指導演習評価 ④レクリエーション指導のまとめ
②	[テーマ] コミュニケーションワーク・ホスピタリティトレーニング 仲野2 [内容] コミュニケーションワーク・ホスピタリティトレーニングその1:1対1(2人) → 2対2(4人) → 4対4(8人)というように、コミュニケーションワークを進めながらグループへと発展していくプロセスを体験させる			⑩	[テーマ] レク活動の創作1・高崎1 [内容] レクリエーション活動の創作について、1)その学習の必要性、2)基本的な創作の方法について、バリエーションアップシートによる演習により、体験学習する。
③	[テーマ] コミュニケーションワーク・ホスピタリティトレーニング 仲野3 [内容] コミュニケーションワーク・ホスピタリティトレーニングその2 リポートトークやローテーショントークといったコミュニケーションワークを通して、積極的傾聴の留意点やポイントを理解する			⑪	[テーマ] レク活動の創作2・高崎2 [内容] バリエーションシートの完成後、創作したレクリエーション活動をグループ別に発表するためのリハーサルや役割分担の確認を行う。
④	[テーマ] レクリエーションダンス 仲野4 [内容] レクリエーションダンスの技法:ダンスとゲームの接点に位置する様々なレクダンスを紹介し、音楽に合わせて体を動かすことの楽しさや面白さを体感する。後半に、オリジナルレクダンスのテーマ曲を発表し、創作への手順や留意点を説明する。			⑫	[テーマ] レク活動の創作3・高崎3 [内容] 創作したレクリエーション活動の発表会を実施し、その発表を振り返りながら、レクリエーション活動の創作について、ポイントを整理しまとめる。
⑤	[テーマ] レクリエーションダンス 仲野5 [内容] レクリエーションダンスの創作:設定されたテーマ曲を確認し、曲のイメージやリズムを意識した上で、各班ごとにオリジナルな振り付けをしていき、レクダンスを完成させる。			⑬	[テーマ] スタンツとは [内容] スタンツがどのようなものかを体験的に学ぶ。まずスタンツについて説明を行い、導入ゲームを行った後、お題に基づいてスタンツを作成し、発表する。
⑥	[テーマ] レクリエーションダンス 仲野6 [内容] レクリエーションダンスの発表会:最終リハーサルが終了したら、オリジナルレクダンスの発表会を実施する(ビデオで撮影する)。終了後に、振り付けをした動きを説明した説明用紙を提出する。			⑭	[テーマ] スタンツのバリエーション [内容] 楽しく面白いスタンツを作るための導入ゲームをいくつか紹介する。その後、共通テーマを設けてグループごとにストーリーを考え、スタンツの練習を行う。
⑦	[テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池1 [内容] ①指導演習の進め方のオリエンテーション ②指導演習課題(主にアイスブレイキングのゲーム)の練習 ③グループによる指導演習(ロールプレイ) ④指導演習評価			⑮	[テーマ] スタンツの発表 [内容] グループごとにスタンツを発表し、受講生同士で評価し合う。レクリエーションとしてスタンツを用いる際の留意点を説明する。
⑧	[テーマ] レクリエーションゲーム指導演習・小池2 [内容] ①指導演習課題(主にアイスブレイキングのゲーム)の練習 ②グループによる指導演習(ロールプレイ) ③指導演習評価			⑯	[テーマ] [内容]
成績評価方法(方針)					
出席、学習態度、授業ノートにより総合的に評価する					
成績評価方法(詳細)					
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート	◎	○			30%
演習・実技		◎	◎		30%
授業態度					減点あり
出席					
関連科目	レクリエーション実技Ⅰ、レジャー・レクリエーション論、レクリエーション支援論など				
教科書	特になし			参考書	『やさしいレクリエーション実践』日本レクリエーション協会編 他
連絡先	仲野・小池・高崎・岡田 各研究室				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	レジャー・レクリエーション論			担当教員	仲野 隆士
	Theory of Leisure and Recreation (L.)				
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
本講義は社会変化に伴う私達の生活におけるレジャー・レクリエーションの意義や価値を理解すると共に、レクリエーション支援者として理解すべき諸理論の基礎を講義形式で概説する。					
授業の一般目標					
社会変化に伴う私達の生活におけるレジャー・レクリエーションの意義や価値を理解する。レクリエーション支援者として理解すべき諸理論の基礎を理解する。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	時代の変遷に伴うレジャー・レクリエーションの意義や価値観の変化、ライフスタイルへ取り入れることの重要性などが具体的にわかる			
■	情意的領域	レジャー・レクリエーションが心身の調和に果たす機能や役割を理解し、積極的活用を心がけるような行動変容を習得する			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
レジャーやレクリエーションは、スポーツと同様に高齢社会や自由時間増大に伴う生涯学習社会において重要な役割を担っている。それを前提として、テキストもさることながら、補足資料配布によるデータの補強、パワーポイントのスライドによる説明、ビデオの映像により理解を深めるなど、工夫しながら授業を展開していく。何回かに1度、授業中にショートレポートを作成し提出してもらいたい。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーションとイントロダクション [内容] 授業の進め方、筆記試験、評価の説明他 [授業外学習] シラバスを読んでおくこと			⑨	[テーマ] レジャー・レクリエーション活動の動向に関する国際比較 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと
②	[テーマ] レクリエーション活動と健康の関係 [内容] 教員が作成したビデオを通して健康に果たすレクリエーション活動の機能や役割を理解する [授業外学習] 配布資料で復習しておくこと			⑩	[テーマ] 日本人のレジャー・レクリエーション活動の特徴(性・年齢などの比較を通して) [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと
③	[テーマ] 遊び・スポーツ・レジャー・レクリエーションの概念1 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと			⑪	[テーマ] 日本人のレジャー・レクリエーション活動の特徴(時代の変遷との関連) [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと
④	[テーマ] 遊び・スポーツ・レジャー・レクリエーションの概念2 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと			⑫	[テーマ] レクリエーション支援の展開と方法1 高齢社会の課題とレクリエーション [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと
⑤	[テーマ] レジャー・レクリエーションの歴史の変遷・1 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと			⑬	[テーマ] レクリエーション支援の展開と方法2 少子化の課題とレクリエーション [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと
⑥	[テーマ] レジャー・レクリエーションの歴史の変遷・2 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと			⑭	[テーマ] レクリエーション支援の展開と方法3 地域の課題とレクリエーション [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと
⑦	[テーマ] レクリエーション運動の変遷 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと			⑮	[テーマ] レクリエーション事業の計画と安全 [内容] 上記テーマについて板書しながら解説する [授業外学習] 書き写したノートを復習しておくこと
⑧	[テーマ] レジャー・レクリエーションの機能 [内容] パワーポイントのスライドを用い説明する [授業外学習] 配布された資料を復習しておくこと			⑯	[テーマ] テスト [内容] 持込可の筆記試験を実施する [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
筆記試験の他、ショートレポート、出席状況、授業態度などを基に、総合的に評価する。					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎	○		50%
授業内レポート		◎	○		50%
授業外レポート					評価対象外
演習・実技					評価対象外
授業態度					減点あり
出席					欠格条件
関連科目	レクリエーション支援論、野外・レクリエーション・マネジメント論(含演習)など				
教科書	『レクリエーション支援の基礎』(財)日本レク協会編			参考書	『やさしいレクリエーション実践』(財)日本レクリエーション協会編
連絡先	A棟508仲野研究室				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	スポーツマネジメント実習			担当教員	岡田成弘・仲野隆士・永田秀隆・弓田恵里香・馬佳濤・荒牧亜衣
	Practice at Community Physical-Education Facility(F.E.)				
開講内容	学年・学期	2・集中	授業方法	実習	関連資格
	履修の方法	コース必修	単位数		
授業の概要					
本実習は、社会教育施設における6日間の実習を通して、スポーツマネジメント関連の授業で修得した知識・技能を実学の間を通して発揮し、指導者としての資質を高めるものである。					
授業の一般目標					
オリエンテーションにおいては、実習の概要や実習の心得を理解する。実習中は、社会教育施設に適した態度で積極的に業務に専念し、仲間との協調を図る。また、実習を通して指導者としての資質を高めるとともに、さらに身につけるべき知識や技術を確認する。					
授業の到達目標					
■ 認知的領域	実習先の業務内容を理解し、説明できる。				
■ 情意的領域	実習先で積極的に取り組む。仲間と協力することができる。				
■ 技能表現的領域	実習先の日々の成果を日誌にまとめることができる。				
授業計画(全体)					
本実習のねらいや目標を理解するために、実習前のオリエンテーションを3回行う。受講生は、夏季及び冬季休業中の日程を確認し、実習先を決定する。実習施設の代表者による事前オリエンテーションを受けた上で、実習に参加する。なお、実習は、基本的に一週間であり、実習先職員の指示を中心に、施設利用者への指導・支援を行う。具体的な実習内容は、施設によってことなる。					
授業テーマとその内容					
<p>■事前指導</p> <p>6月中旬まで 第1回オリエンテーション・・・スポーツマネジメント実習について(実施概要、実習の心得、日程 調査) (日時・場所は掲示板で告知します)</p> <p>6月下旬 実習の日程、施設(班)が決定</p> <p>7月上旬 第2回オリエンテーション・・・班ごとにリーダーを決定し、連絡網を作成する。個人調査票の作成(2枚)、実習意志確認書の作成(1枚)を行う。</p> <p>7月下旬 第3回オリエンテーション・・・実習施設毎に、実習受入代表者による実習内容等の説明(正装で参加)</p> <p>8月以降 本番までに・・・班ごとに施設までの交通手段を決定し、担当教員に報告する 実習直前に、リーダーは担当教員に連絡を取り、実習について確認を行う。また施設の担当者にも電話で連絡をし、挨拶をする。 実習本番(冬季の実習もある)</p> <p>■実習先毎に実習 概ね以下のような指導実習を行う。 ・施設利用者(小・中・高・大・一般)を対象として指導実習 朝、夕の集いにおける司会、ラジオ体操・ゲーム・ソングなどの指導 ・団体毎の炊飯指導・ハイキング・キャンプファイヤー・ゲーム大会などへの指導、助言、補助活動 ・施設内外の活動エリアの環境整備・所内での生活指導(指導担当職員の指示の下、補助者として活動する) ・指導担当職員から与えられた課題での自由研究や学習 指導を受けた内容について確認記録や資料の整理 指導略案の作成や実習日誌の整理</p> <p>■実習施設 宮城県蔵王自然の家 宮城県志津川自然の家 国立花山青少年自然の家 ※どの施設で実習するかを選ぶことはできない。</p> <p>■実習費 約15,000円程度(実習先、活動内容によって少し変わる場合があります)</p> <p>大学の代表として実習先に受け入れてもらうので、相応しくない学生は、例え履修をしても実習に行かせることができません。特に、無断欠席や提出物未提出などがある場合、実習をキャンセルさせることがあります。</p>					
成績評価方法(方針)					
実習先の指導担当者による評価及び、事前・事後のオリエンテーション・作業に取り組む態度などを基に、総合的に成績評価を行う。					
成績評価方法(詳細)					履修上の注意(受講学生に望むこと)
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	<p>・事前オリエンテーションには、必ず全て出席すること。そのためにも、掲示板による連絡事項を見落とさないようにすること。本人のミスで連絡事項を見逃した場合や無断欠席した場合、実習に行かせることはできない。</p> <p>・本コース教員1名が各施設を担当するので、実習前及び実習中に問題などが発生した場合、速やかに連絡を取り対応を仰ぐこと。自分勝手な判断をしないようにしてほしい。</p> <p>・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。</p>
定期試験					
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度	◎	◎	◎	100%	
出席					
関連科目	スポーツマネジメント概論(2年)、スポーツクラブ・マネジメント実習(3年)、野外・レクリエーション・マネジメント実習(3年)				
教科書	特になし		参考書	特になし	
連絡先	岡田研究室 A棟5階 A509				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	アスレティックトレーニング論 I Athletic Training I (L)			担当教員	山口貴久/高橋陽介/小田桂吾
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
スポーツトレーナーに必要な不可欠な運動器(筋と骨格)の機能解剖について、身体の部位ごとに深く学んでいく。					
授業の一般目標					
運動器の機能解剖の基礎を身に付け、アスレティックトレーニングやストレングストレーニングなど様々な分野で応用できるようにする。					
授業の到達目標					
<input checked="" type="checkbox"/>	認知的領域	運動器の機能解剖を理解し、様々な分野に応用できる			
<input checked="" type="checkbox"/>	情意的領域	運動器の機能解剖を理解し、様々な分野に応用できる			
<input type="checkbox"/>	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
教科書に基づき、身体の部位ごとに、1)骨 2)関節と靭帯 3)筋・腱 4)その他の重要な軟部組織について、骨模型やスライドなどのVisual aidを用いて講義を行う。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 教員紹介、授業概要とスケジュール、授業ポリシー、成績評価方法、教科書についての説明を行う [授業外学習] 運動器の概論について予習・復習をする			⑨	[テーマ] 体幹の機能解剖 I (山口) [内容] 頸部の解剖と機能について説明する [授業外学習] 胸部の解剖と機能について予習する
②	[テーマ] 概論 I (小田) [内容] 運動器の機能解剖の概論について説明する [授業外学習] 骨・関節・靭帯の概論について予習・復習をする			⑩	[テーマ] 体幹の機能解剖 II (山口) [内容] 胸部の解剖と機能について説明する [授業外学習] 腰部の解剖と機能について予習する
③	[テーマ] 概論 II (小田) [内容] 運動器の機能解剖の概論について説明する [授業外学習] 骨格筋の概論について予習・復習をする			⑪	[テーマ] 体幹の機能解剖 III (山口) [内容] 腰部の解剖と機能について説明する [授業外学習] 肩関節の解剖と機能について予習する
④	[テーマ] 概論 III (小田) [内容] 運動器の機能解剖の概論について説明する [授業外学習] 股関節の解剖と機能について予習する			⑫	[テーマ] 上肢の機能解剖 I (山口) [内容] 肩関節の解剖と機能について説明する [授業外学習] 肩関節の解剖と機能について復習する
⑤	[テーマ] 下肢の機能解剖 I (高橋) [内容] 股関節の解剖と機能について説明する [授業外学習] 膝関節の解剖と機能について予習する			⑬	[テーマ] 上肢の機能解剖 II (山口) [内容] 肩関節の解剖と機能について説明する [授業外学習] 肘関節の解剖と機能について予習する
⑥	[テーマ] 下肢の機能解剖 II (高橋) [内容] 膝関節の解剖と機能について説明する [授業外学習] 下腿の解剖と機能について予習する			⑭	[テーマ] 上肢の機能解剖 III (山口) [内容] 肘関節の解剖と機能について説明する [授業外学習] 手関節と手の解剖と機能について予習する
⑦	[テーマ] 下肢の機能解剖 III (高橋) [内容] 下腿の解剖と機能について説明する [授業外学習] 足関節の解剖と機能について予習する			⑮	[テーマ] 上肢の機能解剖 IV (山口) [内容] 手関節と手の解剖と機能について説明する [授業外学習] テストに備える
⑧	[テーマ] 下肢の機能解剖 IV (高橋) [内容] 足関節の解剖と機能について説明する [授業外学習] 頸部の解剖と機能について予習する			⑯	[テーマ] テスト [内容] 筆記テスト [授業外学習]
成績評価方法(方針)					
テスト結果に基づき評価する。試験の解説は問合せに対して個別に対応する。					
成績評価方法(詳細)					
到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合 (%)	履修上の注意(受講学生に望むこと)
定期試験	◎	◎		100%	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置基準で定められている時間の授業時間外学修を行なうこと ・本授業は日本体育協会公認アスレティックトレーナー認定試験の受験資格取得に必要な授業であるため、その指導方針に沿って授業をすすめる ・本授業は教科書をもとに進めるので、必ず教科書を購入すること ・授業態度が悪い学生は成績評価から減点する。指導後も改善が見られない場合は退出させ、それ以降の講義への出席を認めない ・授業計画は授業の進行状況により前後することがある
授業内レポート					
授業外レポート					
演習・実技					
授業態度	○	○		減点あり	
出席					
関連科目	スポーツトレーナー概論・実習・演習、アスレティックリハビリテーション論・実習・演習、コンディショニング論、スポーツ傷害の予防と評価				
教科書	日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト②			参考書	
連絡先	山口貴久 第4体育館1階 tk-yamaguchi@sendai-u.ac.jp				

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	トレーニング方法論				担当教員	門野洋介・柴山一仁・森本吉謙
	Basic Theory of Sports Training					
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義	関連資格	アスレチック・トレーナー
	履修の方法	選択	単位数	2		
授業の概要						
本講義では、トレーニングの一般原則ならびに、競技力向上を狙いとした各種トレーニングの方法論を概説する。また、実際にトレーニング計画を立案する際に問題となる、個々のトレーニングをいかにして組み合わせ、配置するかについて、トレーニング構成の諸原則に基づき説明する。						
授業の一般目標						
主に競技力向上を目指した各種トレーニングの一般的理論およびそれらの具体的な方法論を理解する。また、短期、中期、長期的それぞれの観点に立ったトレーニング構成を理論的に考え、実際の計画立案が出来るようになる。						
授業の到達目標						
■	認知的領域	スポーツ・トレーニング理論に基づく各種方法論を説明できる。トレーニング計画の理論的な立案が出来るようになる。				
■	情意的領域	スポーツ・トレーニング理論に関して積極的な興味、関心を持てるようになる。				
□	技能表現的領域					
授業計画(全体)						
本講義では、競技力向上を目的とした運動(手段)すべてを「スポーツ・トレーニング」と捉え、まずは、筋力、スピード、持久力および巧緻性(巧みさ)を養成する各種トレーニングの方法論について講義を行う。その後、個々のトレーニングをいかに構成するかについて、大きく週間、月間、年間でのトレーニング周期に分けて、各々における諸原則を示す。						
授業計画(各回のテーマ等)						
回	授業テーマとその内容				回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] ガイダンス(門野) [内容] 担当教員の紹介および授業の内容、成績評価方法等について説明する [授業外学習] シラバスを熟読すること				⑨	[テーマ] 巧緻性の養成法(柴山) [内容] 巧緻性とは何か、そしてその具体的な養成法を説明する [授業外学習] 授業資料をもとに復習を行なうこと
②	[テーマ] トレーニングとは(門野) [内容] スポーツ・トレーニングの定義を説明する [授業外学習] 授業資料をもとに復習を行なうこと				⑩	[テーマ] 技術・戦術トレーニング(柴山) [内容] 技術・戦術を向上させるためのトレーニングの理論・方法論を説明する [授業外学習] 授業資料をもとに復習を行なうこと
③	[テーマ] トレーニング手段の分類と意義(門野) [内容] トレーニング手段を適切に分類する必要性を説明する [授業外学習] 授業資料をもとに復習を行なうこと				⑪	[テーマ] トレーニング構成の一般原理(柴山) [内容] トレーニング構成の一般的な諸原理を説明する [授業外学習] 授業資料をもとに復習を行なうこと
④	[テーマ] トレーニングの一般原則(門野) [内容] トレーニングを遂行する上での一般的な原則を説明する [授業外学習] 授業資料をもとに復習を行なうこと				⑫	[テーマ] 競技的状態(スポーツ・フォーム)(森本) [内容] 競技的状態とは何か、その周期的発達特性を含めて説明する [授業外学習] 授業資料をもとに復習を行なうこと
⑤	[テーマ] トレーニング負荷(門野) [内容] トレーニング負荷について量と強度の関係を説明する [授業外学習] 授業資料をもとに復習を行なうこと				⑬	[テーマ] トレーニングの期分け(森本) [内容] トレーニングの期分けについて説明する [授業外学習] 授業資料をもとに復習を行なうこと
⑥	[テーマ] 筋力の養成法(柴山) [内容] 筋力の種類とそれらの具体的な養成法を説明する [授業外学習] 授業資料をもとに復習を行なうこと				⑭	[テーマ] 週間、月間、年間のトレーニング構成(森本) [内容] 1週間、1ヶ月、1年間で基本単位としたトレーニング構成の実例を紹介する [授業外学習] 授業資料をもとに復習を行なうこと
⑦	[テーマ] スピードの養成法(柴山) [内容] スピードの種類とそれらの具体的な養成法を説明する [授業外学習] 授業資料をもとに復習を行なうこと				⑮	[テーマ] トレーニング分析と管理(森本) [内容] トレーニングの分析と管理の具体的な方法論を説明する [授業外学習] 授業資料をもとに復習を行なうこと
⑧	[テーマ] 持久力の養成法(柴山) [内容] 持久力の種類とそれらの具体的な養成法を説明する [授業外学習] 授業資料をもとに復習を行なうこと				⑯	[テーマ] テスト(森本) [内容] 授業の理解度、到達度を確かめるテストを行う [授業外学習]
成績評価方法(方針)						
試験は、期末試験を1回実施する(評価割合80%)。また、授業内レポートを課す場合がある(評価割合20%)。これらの結果を総合して評価を行う。授業中における態度は減点対象となる。出席は欠格条件とする。						
成績評価方法(詳細)						
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)	私語、遅刻等の授業進行の妨げになり、他の受講生に迷惑となる行為は厳禁とする。20分以上の遅刻は欠席とみなす。2/3以上の出席が無い学生は、試験を受けることが出来ない(欠格条件)。授業計画は授業の進み具合により変更する場合がある。 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと
	定期試験	◎			80%	
授業内レポート	◎				20%	
授業外レポート						
演習・実技						
授業態度					減点あり	
出席					欠格条件	
関連科目						
教科書					参考書	スポーツ・トレーニング理論(村木征人)
連絡先 門野洋介(A408、hr-kadono@sendai-u.ac.jp) オフィスアワー 月曜10:00-11:00						

2018年度 子ども運動教育学科

授業科目名	スポーツ医学A Sports Medicine A (L.)			担当教員	橋本 実
開講内容	学年・学期	2・半期	授業方法	講義(L)	関連資格
	履修の方法	選択	単位数		
授業の概要					
スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防、整形外科的なメディカルチェック、治療と運動療法を含めたりハビリテーションについて、スポーツドクターの立場から解説する。					
授業の一般目標					
スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識について学び、スポーツの現場でと予防方法などが活用できるようになる。					
授業の到達目標					
■	認知的領域	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防について理解する。			
■	情意的領域	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防方法を、活用するように努力する。			
□	技能表現的領域				
授業計画(全体)					
授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める。授業の終わりに、毎回小テストをおこない、知識を整理する。					
授業計画(各回のテーマ等)					
回	授業テーマとその内容			回	授業テーマとその内容
①	[テーマ] オリエンテーション [内容] 授業の進め方などについて説明 [授業外学習] 当日配布するプリントを参照すること			⑨	[テーマ] 前腕、手指の外傷・障害 [内容] 前腕、手指外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
②	[テーマ] 整形外科学の基礎 [内容] 整形外科学の基本的なことについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること			⑩	[テーマ] 下肢帯の外傷・障害 [内容] 上肢外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
③	[テーマ] 顔面頸部外傷 [内容] 顔面頸部外傷の基本的なことについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること			⑪	[テーマ] 大腿の外傷・障害 [内容] 上肢外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
④	[テーマ] 腰部外傷・障害 [内容] 腰部外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること			⑫	[テーマ] 膝の外傷・障害 [内容] 下肢外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
⑤	[テーマ] 胸部外傷・障害 [内容] 胸部外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること			⑬	[テーマ] 下腿、足趾の外傷・障害 [内容] 下腿、足趾の外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
⑥	[テーマ] 上肢帯の外傷・障害 [内容] 上肢帯外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること			⑭	[テーマ] 小児のスポーツ外傷・障害 [内容] 小児のスポーツ外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること
⑦	[テーマ] 上腕、肘の外傷・障害 [内容] 上腕、肘外傷・障害の基本的なことについて説明する [授業外学習] 授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること			⑮	[テーマ] 後半の振り返りと試験 [内容] 講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
⑧	[テーマ] 前半の振り返りと試験 [内容] 講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう [授業外学習] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること			⑯	[テーマ] 試験 [内容] 講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する [授業外学習] 講義ノートを中心に、講義内容を整理すること
成績評価方法(方針)					
公欠を認めないので、公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席に)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで欠けや受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。欠けは受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。試験結果は受験番号で発表し、レポートはICTツールで相互閲覧・評価できるようにしている					
成績評価方法(詳細)				履修上の注意(受講学生に望むこと)	
成績評価方法	到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
定期試験		◎			95%
授業内レポート					評価対象外
授業外レポート		○			5%
演習・実技					評価対象外
授業態度					評価対象外
出席					欠格条件
講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。 大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行なうこと。					
関連科目					
教科書	スポーツ医学A 講義ノート			参考書	特になし
連絡先	研究室:F棟2階 オフィスアワー:月曜日 14:20~15:50				

